ショロマ3遺跡

2014

厚真町教育委員会

# ショロマ3遺跡

－厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 11－

2014.3

厚真町教育委員会

# ショロマ3遺跡

－厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 11－

2014.3

厚真町教育委員会

カラー1

1. ショロマ3遺跡　俯瞰

2. ショロマ3遺跡出土土器

1．ⅢGP-01人骨検出　SW→

2．ⅢGP-01出土副葬品

# 序 文

厚真町は、胆振・日高地区屈指の豊かな水田地帯を有する農業の町であります。この穀倉地帯を潤す厚真川は夕張山地の南端を源として流れ、農作物への恩恵を授ける大切な河川でもあります。この豊かな厚真川と豊かな“ふるさと厚真”を更なる発展へと進めるために、近代的農業開発と治水対策を主な柱とした多目的ダム「厚幌ダム」が、平成7年度に本格着工されました。

この厚幌ダム建設事業の一つとして、沈み行く地域に残された埋蔵文化財の記録保存を目的として、平成14年より継続して発掘調査を行っています。一連の発掘調査により、この地域には今から約14,500年前にはじまり、約350年前までの連綿とした人々の生活の痕跡が見つかっています。

さて、本書は一連の発掘調査事業におけるショロマ3遺跡の発掘調査報告書であります。今年度の発掘調査は、これまでで最大規模の体制となり、本遺跡の調査整理報告は、株式会社シン技術コンサルのお力添えを頂き、ここにまとめあげたものです。

発掘調査では約4,000年前の縄文時代の竪穴式住居跡やシカ猟の落し穴とともに、同じ時代の縄文土器群が出土しています。また特筆すべきものとして厚真町内で初めての調査例となる約1,800年前の続縄文文化期の3体合葬墓や約900年前の擦文文化期後期の鎧武具の一部と思われる鋲留鉄製品がまとまって出土しました。後者は、北海道内においても数例の出土例しかなく、大変に貴重なものでもあります。時期的にもちょうど東北地方を手中に収めた奥州藤原氏の時代にもあたり、この山間部においても活発な交流交易が行われていたことが伺えます。

ショロマ3遺跡のほか、厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査は、平成29年春の完成にむけて、急ピッチに進んでいます。この様な貴重な埋蔵文化財を地域の教育的資源、文化的財産として普及活用を推し進めてまいりたいと思う所存でございます。また本書が広く、埋蔵文化財の保護並びに調査・研究の一助となれば幸いに存じます。

最後となりましたが、調査・整理・報告にあたり御指導、御支援を賜りました関係諸氏ならびに諸機関に、真に厚く、感謝申し上げる次第であります。

厚真町教育委員会
教育長　兵頭利彦

# 例　言

1. 本書は、平成 25 年度の厚幌ダム建設事業に伴い発掘調査したショロマ 3 遺跡(登載番号：J-13-121)の発掘調査報告書である。
2. 本遺跡は、北海道の委託を厚真町教育委員会（以下、町教委）が受託し、株式会社シン技術コンサル（以下、シン技術）が町教委の指導のもと発掘調査を行った。
3. 調査・整理は以下の体制で行った。

調査担当者：乾 哲也(町教委)、長谷川 徹(シン技術)

調　査　員：工藤 肇(シン技術) 、奈良智法・岩橋由久(町教委)

測量計測員：惣田 稔(シン技術)

測量技能作業員：海津孝之・大山眞由美(シン技術)　　整備技能作業員：日野 修・鈴木貴之(シン技術)

調査協力：服部一雄・宮崎美奈子・松井 昭(町教委)、宮塚義人(宮塚文化財研究所)、清水昌樹(シン技術)

4. 本書の編集は乾、清水の協力のもと、長谷川、工藤、惣田が行い、整理・執筆分担は下記の通りである。

乾　：指導・総括　動植物遺体の二次選別、Ｔピット遺構図作成、土器（二次整理)、Ｉ章の執筆

奈良：金属製品保存処理関係、Ⅱ章の一部の執筆

岩橋：編集作業の一部、Ⅲ章の一部の執筆

長谷川：土器（一次整理)、Ⅱ章・Ⅲ章・Ⅴ章の執筆

工藤：剥片石器・礫石器（一次・二次整理)、Ⅱ章・Ⅲ章・Ⅴ章の執筆

惣田：労務・作業工程管理、各種図面・写真図版作成

5. 関連諸科学の同定分析については、町教委発注のもと以下の機関及び個人に依頼し、玉稿等を賜った。

炭化種子同定：Project Seeds 考古植物研究会　椿坂恭代

金属製品保存処理：岩手県立博物館　赤沼英男

6. 調査・報告にあたり下記の方々より特段の御指導を賜った。

土器の整理・分類：大沼忠春(日本考古学協会員)

遺構図・遺物実測図作成指導：佐藤一夫(日本考古学協会員)

7. 剥片石器の実測は株式会社 シン技術コンサル が行った。
8. 出土遺物の写真撮影は有限会社 写真事務所クリーク　佐藤雅彦 が行った。
9. 本調査によって得られた資料等は、厚真町教育委員会で保管している。
10. 調査・報告にあたって下記の機関及び個人より御指導御協力を頂いた、記して感謝申し上げます。

北海道教育庁生涯学習推進局文化財･博物館課、北海道胆振総合振興局、北海道室蘭建設管理部 厚幌ダム建設事務所、公益財団法人北海道埋蔵文化財センター、苫小牧市美術博物館、千歳市埋蔵文化財センター、岩手県立博物館、(株)第四紀地質研究所、厚真町幌内自治会、(有)金野技研工業

愛場和人、赤石慎三、東 豊土、阿部義明、新家水奈、井上 厳、右代啓視、及川真紀、大島直行、大島秀俊、影浦 覚、笠原 興、川内谷修、工藤研治、越田賢一郎、越田雅司、斉藤 傑、佐川俊一、末光正卓、鈴木琢也、鈴木宏行、鈴木 信、瀬川拓郎、関根達人、田口 尚、田才雅彦、田中哲朗、千葉英一、土肥研晶、友田哲弘、豊田宏良、中田裕香、長沼 孝、長町章弘、二階堂啓也、西脇対名夫、畑 宏明、羽柴直人、広田良成、福井淳一、藤原秀樹、三浦正人、蓑島栄紀、宗像公司、村田 大、村本周三、森岡健治、八重樫忠郎、柳原敏昭、藪中 剛、山口博之

# 凡 例

1. 本書の遺構・遺物等について下記の略号を用いた。なおＴピット及び鉄器集中以外の遺構略号には層位名を付加している。

［遺構］　住居跡：H　Ｔピット：TP　土坑：P　焼土：F　杭穴：KP　土抗墓：GP　道跡：R

［遺物］　土器：P　擦文土器：SP　続縄文土器：ZP　縄文土器：JP　土製品：CP　剥片石器：FT
礫石器：ST　石斧石器群削片：SFC　ﾌﾚｲｸ・ﾁｯﾌﾟ：FC　礫：S　鉄製品：IP

［遺物等集中］　土器集中：PB　礫集中：SB　鉄器集中：IPB

2. 地層等について下記の略号を用いた。

［堆積土］　樽前ａ砂質降下火山灰：Ta-a　樽前ｂ降下軽石：Ta-b　白頭山苫小牧火山灰：B-Tm
樽前ｃ砂質降下軽石：Ta-c　樽前 d1 細礫質降下スコリア：Ta-d1　樽前 d2 中礫質降下軽石：Ta-dP
樽前 d2 風化ローム：Ta-dL　粘土質黄褐色シルト(いわゆるローム)：L　撹乱：KR

［色調］　小山・竹原編著(2000)『新版 標準土色帳』に従った。

［注記］　土層注記は下記の略号を用いて､左側より混合比率の順列をつけている｡また混入土については( )内に粒径(単位：mm)、状態を記載した。混入土の比率は以下の表記を用いた。

A ＋ B：A と B が同量比混じる　　A－B：A を主体に B が多量に混じる
A ＝ B：A を主体に B が少量　　A≡B：A を主体に B が微量
φ：粒径(単位･mm)　　↓：以下　　(状態)：斑状に混じる・均一に混じる

［層位］　標準堆積層はローマ数字を用い、遺構覆土や風倒木撹乱などの二次的に堆積したものにはアラビア数字を用いた。また各層の上･中･下位について下記の略号を用いた。

U：上位　　M：中位　　L：下位

3. 挿図は基本的に次のように縮尺を統一したが、異なるものについては図中にスケールに縮尺を明記している。

住居跡：1/40　住居跡に付属する柱穴その他の土坑：1/20　Ｔピット：1/40　土坑：1/40
焼土：1/20、1/40　集中遺物出土状態：1/10 または 1/20　土器実測図：1/3、1/4　土器拓影図：1/3
土製品実測図：1/2　剥片石器実測図：1/2　礫石器実測図：1/3、1/6　鉄器実測図：1/2

4. 遺構実測図中に以下の線種・トーンを用いた。

［線種］＿＿＿＿＿＿：オーバーハング　　— — —：トレンチ　　—·—·—：撹乱･トレンチによる遺構推定

［焼土］　被熱による土壌赤色化の度合いの表現に以下のトーンを用いた。

：焼土燃焼面範囲　　：付帯黒色部範囲

［Ｔピット］　第Ⅲ章第２節ではＴピット堆積図に以下のトーンを用いた。

：Ⅵ層　：Ⅶa 層　：Ⅶb 層　：Ⅷ層　：Ⅸ層

5. 遺物実測図中に以下の略号を用いた。

〔断面〕　∨————∨：たたき痕　　｜————｜：剥片石器 微細剥離 ／ 礫石器 擦り痕・滑沢面

〔平面〕　：滑沢面範囲　　：被熱による赤色化 / 付着物範囲

6. 一覧表中の材質については、乾・工藤が肉眼観察で分類し、下記の略号を用いた。緑泥片岩は緑色泥岩に含めている。また頁岩・泥岩の分類については、粒度による基準ではなく、破断面等の肉眼観察のによるものである。

Amp.：角閃岩　And.：安山岩　BS.：玄武岩　Cha.：チャート　Dio.：閃緑岩　Gr-Mud.：緑色泥岩　Mud.：泥岩
Obs.：黒曜石　Qu-Sch.：石英片岩　Sa.：砂岩　Sch.：片岩　Sh.：頁岩　Fe.：鉄　B.：骨

# 本 文 目 次

カラー図版
1-1　ショロマ３遺跡　俯瞰
1-2　ショロマ３遺跡出土土器
2-1　ⅢGP-01 人骨検出
2-2　ⅢGP-01 出土副葬品
序　文
例　言
凡　例

## 第Ⅰ章　調査の概要

第１節　調査要項と体制 ･････････････････ 1
１．調査要項 ･････････････････････････ 1
２．調査体制 ･････････････････････････ 1
第２節　調査に至る経緯 ･････････････････ 1
１．厚幌ダム建設事業 ･････････････････ 1
２．発掘調査までの経緯 ･･････････････ 2
第３節　調査の方法 ･････････････････････ 5
１．発掘区の設定 ･････････････････････ 5
２．グリッド設定 ･････････････････････ 5
３．包含層及び遺構調査の方法 ･････････ 5
４．整理作業 ･････････････････････････ 9
第４節　遺物の分類 ･････････････････････ 9
１．土 器 ･････････････････････････････ 9
２．剥片石器 ･････････････････････････ 10
３．礫石器 ･･････････････････････････ 11
第５節　調査の概要 ･････････････････････ 12
１．調査の経緯及び経過 ･･････････････ 12
２．Ⅲ層の調査結果 ･･････････････････ 12
３．Ⅴ層の調査結果 ･･････････････････ 13
第６節　遺跡の位置 ･････････････････････ 14
１．厚真町の概要 ･････････････････････ 14
２．遺跡の位置と周辺の環境 ･･････････ 18
３．調査区内の地形と地質 ･････････････ 19

## 第Ⅱ章　Ⅲ層の調査

第１節　集中区 ･････････････････････････ 23
１．焼土 ･････････････････････････････ 23
２．土器集中 ･････････････････････････ 28
３．礫集中 ･･････････････････････････ 28
第２節　焼 土 ･･････････････････････････ 28
第３節　礫集中 ･････････････････････････ 29
第４節　鉄器集中 ･･････････････････････ 35
第５節　土坑墓 ･････････････････････････ 43
第６節　道 跡 ･･････････････････････････ 53
第７節　包含層出土遺物 ･････････････････ 53
１．土 器 ･････････････････････････････ 53
２．剥片石器 ･････････････････････････ 57
３．礫石器 ･･････････････････････････ 57

## 第Ⅲ章　Ⅴ層の調査

第１節　住居跡 ･････････････････････････ 60
第２節　Ｔピット ･･････････････････････ 65
第３節　土 坑 ･･････････････････････････ 74
第４節　焼 土 ･･････････････････････････ 75
第５節　土器集中 ･･････････････････････ 77
第６節　礫集中 ･････････････････････････ 89
第７節　包含層出土遺物 ･････････････････ 90
１．土 器 ･････････････････････････････ 90
２．土製品 ･･････････････････････････ 93
３．剥片石器 ･････････････････････････ 93
４．礫石器 ･･････････････････････････ 95

## 第Ⅳ章　自然科学的分析

第１節　ショロマ３遺跡から検出された
植物種子 ･････････････････････････ 99
第２節　ショロマ３遺跡出土鉄器の金属
考古学的調査結果 ･･････････････ 103

## 第Ⅴ章　まとめ ･････････････ 112

引用･参考文献 ･･････････････････････ 113
報告書抄録 ･････････････････････････ 151
奥 付

# 挿 図 目 次

## 第Ⅰ章


図Ⅰ-1　厚幌ダム建設事業関連埋蔵文化財包蔵地位置図・・・・・・・・・・・・・ 3
図Ⅰ-2　遺跡周辺の地形図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
図Ⅰ-3　周辺の地形図及びグリッド設定図・・・・・ 6
図Ⅰ-4　調査範囲・試掘坑・メインセクション・旧石器トレンチ位置図・・・・・・・・・・・・・ 7
図Ⅰ-5　グリッド模式図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
図Ⅰ-6　厚真町内遺跡分布図・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
図Ⅰ-7　基本土層柱状図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
図Ⅰ-8　旧石器調査トレンチ土層柱状図・・・・・・・ 21
図Ⅰ-9　調査区土層断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22


## 第Ⅱ章


図Ⅱ-1　Ⅲ層遺構配置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
図Ⅱ-2　集中区 1 平面図及び関連遺構・・・・・・・・・ 25
図Ⅱ-3　集中区 1 関連遺構出土遺物・・・・・・・・・・・ 26
図Ⅱ-4　ⅢF-02 平面及び断面図 ・・・・・・・・・・・・・ 28
図Ⅱ-5　ⅢSB-01 平面及び断面図・出土礫石器・ 30
図Ⅱ-6　ⅢSB-02 平面及び断面図・出土遺物 ・・・ 34
図Ⅱ-7　IPB-01 平面及び断面図 ・・・・・・・・・・・・・ 37
図Ⅱ-8　IPB-01 甲冑製品分布図 ・・・・・・・・・・・・・ 38
図Ⅱ-9　IPB-01 出土甲冑製品(1) ・・・・・・・・・・・・・ 39
図Ⅱ-10　IPB-01 出土甲冑製品(2) ・・・・・・・・・・・・・ 40
図Ⅱ-11　IPB-01 出土甲冑製品他 ・・・・・・・・・・・・・ 41
図Ⅱ-12　ⅢGP-01 平面及び断面図 ・・・・・・・・・・・・・ 45
図Ⅱ-13　ⅢGP-01 出土副葬品分布拡大図 ・・・・・・・ 48
図Ⅱ-14　ⅢGP-01 出土副葬品(1) ・・・・・・・・・・・・・ 49
図Ⅱ-15　ⅢGP-01 出土副葬品(2) ・・・・・・・・・・・・・ 50
図Ⅱ-16　ⅢR-01 平面及び断面図 ・・・・・・・・・・・・・ 54
図Ⅱ-17　Ⅲ層包含層出土土器・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
図Ⅱ-18　Ⅲ層出土土器接合線図・・・・・・・・・・・・・・ 56
図Ⅱ-19　Ⅲ層包含層出土石器・・・・・・・・・・・・・・・・ 59


## 第Ⅲ章


図Ⅲ-1　Ⅴ層遺構配置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
図Ⅲ-2　ⅤH-01 平面及び断面図・・・・・・・・・・・・・・ 63
図Ⅲ-3　ⅤH-01.HF01 平面及び断面図・出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64
図Ⅲ-4　TP-01 平面及び断面図・・・・・・・・・・・・・・・ 66
図Ⅲ-5　TP-02 平面及び断面図・・・・・・・・・・・・・・・ 68
図Ⅲ-6　TP-03 平面及び断面図・出土礫石器・・・・ 69
図Ⅲ-7　TP-04・05 平面及び断面図・出土礫石器 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 70
図Ⅲ-8　TP-06 平面及び断面図・・・・・・・・・・・・・・・ 71
図Ⅲ-9　TP-07・08 平面及び断面図・出土土器・・ 72
図Ⅲ-10　ⅤP-01～03 平面及び断面図・・・・・・・・・・・ 74
図Ⅲ-11　ⅤF-01・02 平面及び断面図・・・・・・・・・・・ 76
図Ⅲ-12　ⅤPB-01 平面及び垂直分布図・出土土器 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 78
図Ⅲ-13　ⅤPB-02・03 平面及び垂直分布図・出土土器 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 80
図Ⅲ-14　ⅤPB-04～06 平面及び垂直分布図・出土土器 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 81
図Ⅲ-15　ⅤPB-07・08 平面及び垂直分布図・出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 83
図Ⅲ-16　ⅤPB-09～11 平面及び垂直分布図・出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 85
図Ⅲ-17　ⅤPB-11 出土土器・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 86
図Ⅲ-18　ⅤPB-12～14 平面及び垂直分布図・出土土器 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 87
図Ⅲ-19　ⅤSB-01 平面及び垂直分布図 ・・・・・・・・・ 89
図Ⅲ-20　Ⅴ層包含層出土土器及び土製品 ・・・・・・・ 91
図Ⅲ-21　Ⅴ層出土土器接合線図 ・・・・・・・・・・・・・・ 92
図Ⅲ-22　Ⅴ層包含層出土剥片石器 ・・・・・・・・・・・・・ 94
図Ⅲ-23　Ⅴ層包含層出土礫石器(1) ・・・・・・・・・・・・ 96
図Ⅲ-24　Ⅴ層包含層出土礫石器(2) ・・・・・・・・・・・・ 97

# 挿 表 目 次

## 第Ⅰ章


表Ⅰ-1　ショロマ３遺跡概要一覧表…… 13
表Ⅰ-2　ショロマ３遺跡出土遺物一覧表…… 13
表Ⅰ-3　厚真町内埋蔵文化財包蔵地一覧表…… 16


## 第Ⅱ章


表Ⅱ-1　Ⅲ層遺構群一覧表…… 23
表Ⅱ-2　ⅢF-01 属性表…… 25
表Ⅱ-3　ⅢPB-01 出土土器属性表…… 26
表Ⅱ-4　ⅢSB-03 出土礫石器属性表…… 27
表Ⅱ-5　ⅢSB-03 出土礫属性表…… 27
表Ⅱ-6　ⅢF-02 属性表…… 29
表Ⅱ-7　ⅢSB-01 出土礫石器属性表…… 31
表Ⅱ-8　ⅢSB-01 出土礫属性表(1)…… 31
表Ⅱ-9　ⅢSB-01 出土礫属性表(2)…… 32
表Ⅱ-10　ⅢSB-01 出土礫属性表(3)…… 33
表Ⅱ-11　ⅢSB-02 出土刀子属性表…… 33
表Ⅱ-12　ⅢSB-02 出土礫石器属性表…… 33
表Ⅱ-13　ⅢSB-02 出土礫属性表…… 33
表Ⅱ-14　IPB-01 出土甲冑製品・刀子属性表…… 42
表Ⅱ-15　IPB-01 出土礫属性表…… 43
表Ⅱ-16　ⅢGP-01 属性表…… 50
表Ⅱ-17　ⅢGP-01 柱穴属性表…… 50
表Ⅱ-18　ⅢGP-01 出土副葬品属性表(1)…… 51
表Ⅱ-19　ⅢGP-01 出土副葬品属性表(2)…… 52
表Ⅱ-20　ⅢＲ-01 属性表…… 53
表Ⅱ-21　Ⅲ層包含層出土土器属性表…… 55
表Ⅱ-22　Ⅲ層包含層出土石器属性表…… 58


## 第Ⅲ章


表Ⅲ-1　Ⅴ層遺構群一覧表…… 62
表Ⅲ-2　VH-01 属性表…… 64
表Ⅲ-3　VH-01.HF01 属性表…… 64
表Ⅲ-4　VH-01 出土土器属性表…… 64
表Ⅲ-5　VH-01 出土礫石器属性表…… 65
表Ⅲ-6　VH-01.HF01 出土炉石属性表…… 65
表Ⅲ-7　Ｔピット属性表…… 66
表Ⅲ-8　Ｔピット逆茂木跡属性表…… 67
表Ⅲ-9　Ｔピット出土土器属性表…… 73
表Ⅲ-10　Ｔピット出土礫石器属性表…… 73
表Ⅲ-11　VP 属性表…… 75
表Ⅲ-12　VF 属性表…… 76
表Ⅲ-13　VF-01 出土炉石属性表…… 77
表Ⅲ-14　VF-02 出土炉石属性表…… 77
表Ⅲ-15　VPB 出土土器属性表…… 88
表Ⅲ-16　VPB 出土石器属性表…… 89
表Ⅲ-17　Ⅴ層包含層出土土器属性表…… 93
表Ⅲ-18　Ⅴ層包含層出土土製品属性表…… 93
表Ⅲ-19　Ⅴ層包含層出土石器属性表…… 98


# 写 真 目 次


図版 1-1　Ⅲ層木根・火山灰除去…… 117
図版 1-2　Ⅲ層上面検出…… 117
図版 1-3　拡張区Ⅲ層上面…… 117
図版 1-4　Ⅴ層上面調査前…… 117
図版 1-5　Ⅴ層完掘…… 117
図版 2-1　基本土層…… 118
図版 2-2　ⅢF-01 検出…… 118
図版 2-3　ⅢPB-01 検出…… 118
図版 2-4　ⅢSB-03 検出…… 118
図版 2-5　集中区 1 検出…… 118
図版 3-1　ⅢF-02 検出…… 119
図版 3-2　ⅢSB-01 調査…… 119
図版 3-3　ⅢSB-01 検出…… 119
図版 3-4　ⅢSB-02 検出…… 119
図版 3-5　ⅢSB-02 刀子出土…… 119
図版 4-1　IPB-01 検出…… 120

図版 4-2　IPB-01 検出(拡大)・・・・・・・・・・・・・・・ 120
図版 4-3　IPB-01 検出(ブロック 1) ・・・・・・・・・ 120
図版 4-4　IPB-01 検出(ブロック 2) ・・・・・・・・・ 120
図版 4-5　IPB-01 検出(ブロック 3) ・・・・・・・・・ 120
図版 5-1　ⅢGP-01 検出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 121
図版 5-2　ⅢGP-01 断面・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 121
図版 5-3　ⅢGP-01 人骨検出・・・・・・・・・・・・・・・・ 121
図版 6-1　ⅢGP-01 副葬品検出・・・・・・・・・・・・・・ 122
図版 6-2　ⅢGP-01 完掘(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・ 122
図版 7-1　ⅢGP-01 完掘(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・ 123
図版 7-2　ⅢGP-01.KP03 断面・・・・・・・・・・・・・・・ 123
図版 7-3　ⅢGP-01.KP03 完掘・・・・・・・・・・・・・・・ 123
図版 7-4　ⅢR-01 東断面・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 123
図版 7-5　ⅢR-01 検出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 123
図版 8-1　VH-01 完掘・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 124
図版 8-2　VH-01 断面・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 124
図版 8-3　VH-01.HF01 検出・・・・・・・・・・・・・・・・ 124
図版 8-4　VH-01 調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 124
図版 9-1　TP-01 完掘・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 125
図版 9-2　TP-01 掘り上げ土断面・・・・・・・・・・・・ 125
図版 9-3　TP-01 断面・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 125
図版 9-4　TP-02 完掘・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 125
図版 9-5　TP-02 掘り上げ土断面・・・・・・・・・・・・ 125
図版 9-6　TP-02 断面・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 125
図版 9-7　TP-02.KP01 断面・・・・・・・・・・・・・・・・ 125
図版 10-1　TP-03 完掘・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 126
図版 10-2　TP-03 掘り上げ土断面・・・・・・・・・・・・ 126
図版 10-3　TP-03 断面・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 126
図版 10-4　TP-03.KP01 断面・・・・・・・・・・・・・・・・ 126
図版 10-5　TP-04 完掘・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 126
図版 10-6　TP-04 断面・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 126
図版 10-7　TP-04.KP02・03 断面・・・・・・・・・・・・・ 126
図版 11-1　TP-05 完掘・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 127
図版 11-2　TP-05 断面・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 127
図版 11-3　TP-06 完掘・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 127
図版 11-4　TP-06 断面・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 127
図版 11-5　TP-06 掘り上げ土断面・・・・・・・・・・・・ 127
図版 12-1　TP-07 完掘・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 128
図版 12-2　TP-07 断面・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 128
図版 12-3　TP-08 完掘・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 128
図版 12-4　TP-08 断面・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 128
図版 12-5　TP-08.KP02・03 断面・・・・・・・・・・・・・ 128
図版 13-1　VP-01 完掘・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 129
図版 13-2　VP-01 断面・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 129
図版 13-3　VP-02 完掘・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 129
図版 13-4　VP-02 断面・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 129
図版 13-5　VP-03 完掘・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 129
図版 13-6　VP-03 断面・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 129
図版 13-7　VF-01 検出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 129
図版 13-8　VF-01 断面・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 129
図版 14-1　VF-02 検出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 130
図版 14-2　VF-02 断面・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 130
図版 14-3　VPB-01 検出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 130
図版 14-4　VPB-02 検出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 130
図版 14-5　VPB-03 検出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 130
図版 14-6　VPB-04 検出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 130
図版 14-7　VPB-05 検出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 130
図版 14-8　VPB-06 検出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 130
図版 15-1　VPB-07 検出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 131
図版 15-2　VPB-08 検出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 131
図版 15-3　VPB-09 検出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 131
図版 15-4　VPB-10 検出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 131
図版 15-5　VPB-11 検出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 131
図版 16-1　VPB-12 検出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 132
図版 16-2　VPB-13 検出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 132
図版 16-3　VPB-14 検出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 132
図版 16-4　土器集中群検出・・・・・・・・・・・・・・・・・ 132
図版 16-5　VSB-01 検出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 132
図版 17-1　旧石器調査地層断面(TR-NO.2)・・・・・ 133
図版 17-2　旧石器調査地層断面(TR-NO.3)・・・・・ 133
図版 17-3　旧石器調査トレンチ完掘(TR-NO.1)・ 133
図版 17-4　旧石器調査トレンチ完掘(TR-NO.2)・ 133
図版 17-5　旧石器トレンチ掘開状況(TR-NO.2)・ 133
図版 18-1　集中区出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・ 134
図版 18-2　ⅢSB-01・02 出土遺物(1) ・・・・・・・・・ 134
図版 19　ⅢSB-01・02 出土遺物(2) ・・・・・・・・・ 135

図版 20-1　IPB-01 出土甲冑製品(1) ･････････ 136
図版 20-2　IPB-01 出土甲冑製品(2) ･････････ 136
図版 21　IPB-01 出土甲冑製品(3) ･････････ 137
図版 22　IPB-01 出土甲冑製品(4)他 ････････ 138
図版 23　ⅢGP-01 出土副葬品 ･･････････････ 139
図版 24-1　Ⅲ層包含層出土土器 ･････････････ 140
図版 24-2　Ⅲ層包含層出土石器 ･････････････ 140
図版 25　ⅤH-01・TP 出土遺物 ･･････････････ 141
図版 26　ⅤF-01･02 石組炉 炉石 ･････････ 142
図版 27　ⅤPB 出土遺物(1) ･･････････････ 143
図版 28　ⅤPB 出土遺物(2) ･･････････････ 144
図版 29　ⅤPB-11 出土土器 ･･････････････ 145
図版 30-1　ⅤPB-13 出土土器 ･･････････････ 146
図版 30-2　ⅤSB-01 出土礫 ･･････････････ 146
図版 31-1　Ⅴ層包含層出土土器及び土製品 ････ 147
図版 31-2　Ⅴ層包含層出土剥片石器 ･････････ 147
図版 32　Ⅴ層包含層出土礫石器(1) ･････････ 148
図版 33　Ⅴ層包含層出土礫石器(2) ･････････ 149

# 第Ⅰ章　調査の概要

## 第１節　調査要項と体制

### １. 調査要項

事 業 名：厚幌ダム建設事業　埋蔵文化財発掘調査業務　その２

委 託 者：北海道室蘭建設管理部　　受 託 者：厚真町教育委員会

遺 跡 名：ショロマ３遺跡（Ｊ-13-121）　　所 在 地：勇払郡厚真町字幌内 96-1

調査面積：1,350 ㎡

受託期間：平成 25 年４月８日 ～ 平成 26 年３月 25 日

調査期間：（発掘）　平成 25 年５月 14 日～平成 25 年６月 17 日

平成 25 年６月 18 日～平成 25 年８月 30 日

（整理）　平成 25 年 11 月１日～平成 26 年３月 14 日

### ２. 調査体制

| | | |
|---|---|---|
| 厚真町教育委員会 | 教　育　長 | 兵頭　利彦 |
| 生涯学習課 | 参　　事 | 長谷川 栄治　　主　幹　上田　敦子 |
| | 調査担当者 | 乾　　哲 也（厚真町教育委員会） |
| | | 長 谷川　徹（株式会社シン技術コンサル） |
| | 調　査　員 | 岩橋　由久・奈良　智法（厚真町教育委員会） |
| | | 工 藤　　肇（株式会社シン技術コンサル） |
| | 計　測　員 | 惣 田　　稔（株式会社シン技術コンサル） |
| | 臨 時 職 員 | 海津　孝之（㈱シン技術コンサル 測量技能作業員・写図工） |
| | | 大山眞由美（㈱シン技術コンサル 測量技能作業員） |
| | | 日野　修・鈴木貴之（㈱シン技術コンサル　整備技能作業員） |
| | | 発掘作業員 19 名　整理作業員６名（㈱シン技術コンサル） |

## 第２節　調査に至る経緯

### １. 厚幌ダム建設事業（図Ⅰ-1）

町内を縦貫する厚真川中下流域には約 3,000ha もの水田地帯が広がっている。このため、春の灌漑用水の確保は勿論のこと、融雪や豪雨による洪水への治水対策が開拓期以来の課題とされていた。

昭和 46（1971）年には、現河口より 38km 地点に農業用ダムである「厚真ダム」が完成した。しかし、このダムは洪水調整機能が不十分で、昭和 45 年には洪水と渇水、昭和 48・50・56 年にも洪水が発生した。近年においては平成 12 年春の融雪期と平成 13 年秋に、家屋や農地に被害を及ぼす洪水、平成 18・21・23 年にも一部が冠水する事態が発生している。また昭和 59・60・63 年には深刻な水不足にも見舞われており、平成 19 年は幼穂形成期の水不足により深水灌漑が行えなかったため低温障害を受け、作況指数が極端に低い年となっている。厚真町の基幹産業である農業、豊かな穀倉地帯を築くうえで、治水や農業灌漑などを目的とする新たなダム建設が陳情されてきた。また市街地への人口集中の進行による住宅街や苫小牧東港への水道用水の需要が急増し、取水可能量は限界に達していることから、新たな上水道水源確保が急務となっている。

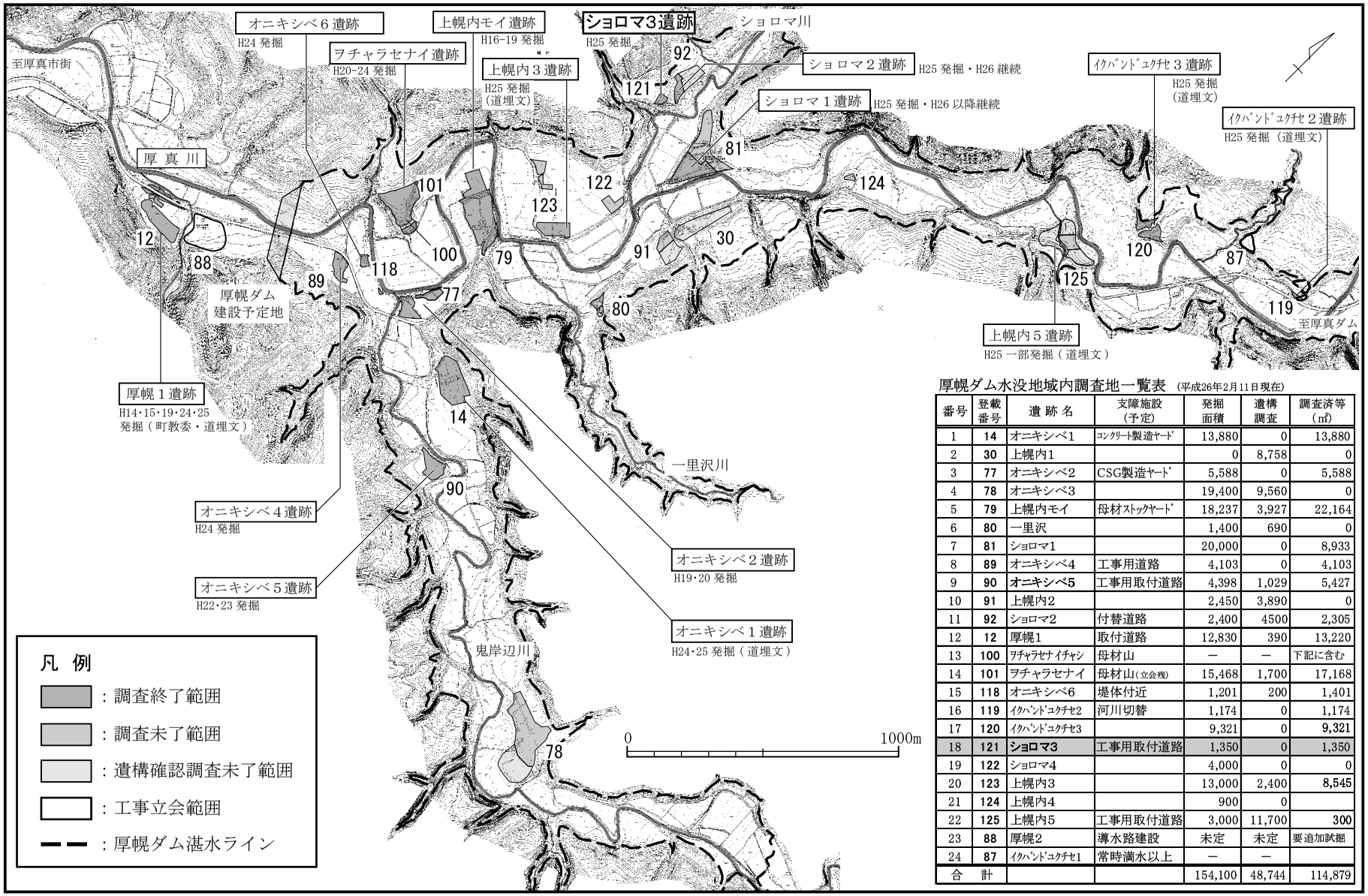
これらの状況の抜本的な治水等の改善策として、昭和 52 年に北海道室蘭土木現業所（現室蘭建設管理部）により厚幌ダム建設事業の予備調査が着手され、昭和 61 年に実施設計である「厚真川総合開発事業計画調査」の着手が決まった。平成 7（1995）年に北海道と厚真町との間で「厚真川総合開発事業厚幌ダム建設工事に関する基本協定」が結ばれ、洪水調整、灌漑用水、水道水の確保、流水の正常な機能維持の多目的ダムとして「厚幌ダム」の建設着工が決定された。また同年には地元厚真町内に厚幌ダム建設事務所（以下、ダム事務所）が開設され、その後、環境アセスメント等も実施されている。近年ではダム事業に関連して、道道切替工事や町内各地区の農業経営体育成基盤整備事業、農業用水路再編対策事業（厚幌導水路建設）が展開され、営農の効率化が促進されている。厚幌ダムの本格着工として、平成 14 年度からの湛水区域内用地買収とともに、一般道道上幌内早来停車場線の切替工事に着手し、北進平取線としてむかわ町穂別まで開通の計画である。厚幌ダムはオニキシベ 2 遺跡より約 700m 下流に堤体を建設する計画で、規模は提体長 516m、高さ 47.2m のダムである。貯水は常時湛水面標高 85.4m、最深湛水面標高 88.1m であり、総貯水量は 47,400 千㎥、現在の厚真ダムのおおよそ 4.7 倍の貯水量となり、多方面にわたって絶大な効果波及がある。平成 29 年春の供用開始にむけて各種工事が進んでいる。

**2. 発掘調査までの経緯（図Ⅰ-2）**

厚幌ダム建設事業の本格化を踏まえて、平成 12 年 7 月 6 日にダム事務所より、ダム事業全体に係わる埋蔵文化財事前協議書（室土厚幌第 158 号）が厚真町教育委員会（以下、町教委）を経て北海道教育委員会（以下、道教委）へ提出された。事前協議区域は最深湛水面標高 88.1m 以下の区域と道道切替路線や湛水区域外の残土置き場など合計約 315,700 ㎡に及ぶ。厚幌ダム関連の埋蔵文化財発掘調査について道教委と町教委で協議した結果、試掘調査までは道教委が行い、発掘調査は町教委と北海道室蘭土木現業所（現室蘭建設管理部）で委託契約を締結し、町教委が実施することとなった。調査は平成 14 年度の厚幌 1 遺跡から始まり、平成 28 年秋までの継続予定で、整理業務も含めた事業完了は平成 29 年度の予定である。

ダム湛水区域内については、平成 13 年 10 月に踏査（A調査）が行われ、周知の遺跡（オニキシベ 1 遺跡、上幌内 1 遺跡）を含め 16 ヵ所、面積 235,500 ㎡の「要試掘調査」の回答がなされた（平成 13 年 11 月 16 日付 教文第 4532 号）。追加箇所も含め現在までに 21 遺跡、約 197,840 ㎡の要発掘・要遺構確認調査地点が確認されている（図Ⅰ-1）。

ショロマ 3 遺跡は、平成 21 年 5 月に道教委によるA調査で「要試掘調査」と回答され（平成 21 年 6 月 11 日付 教文第 928 号）、平成 21 年 7 月にB調査が実施された。Ⅲ層（上層黒色土）より後北A式土器片や礫などの遺物が出土し、新たに「ショロマ 3 遺跡」として登載された。試掘調査の結果、要発掘調査面積 700 ㎡（Ⅲ層のみ）の回答がされた（平成 21 年 9 月 10 日付 教文第 1940 号）。なお発掘調査期間中に遺構・遺物が当初調査予定範囲外まで広がることが把握されたため、道教委へ口頭にて報告し、文書にて調査面積の正式報告の提出を求められた（平成 25 年 6 月 26 日付 教文博第 722 号）。調査区拡張面積を報告、最終的な発掘調査総面積は 1,350 ㎡となった（平成 25 年 8 月 14 日付 厚教社号）。また調査対象層位も当初はⅢ層のみであったが、Ⅴ層の確認トレンチから土器や礫が出土し、下層黒色土も 205 ㎡拡張した 905 ㎡の発掘調査を行った。




厚幌ダム水没地域内調査地一覧表　（平成26年2月11日現在）

| 番号 | 登載番号 | 遺 跡 名 | 支障施設（予定） | 発掘面積 | 遺構調査 | 調査済等（㎡） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 14 | オニキシベ1 | ｺﾝｸﾘｰﾄ製造ﾔｰﾄﾞ | 13,880 | 0 | 13,880 |
| 2 | 30 | 上幌内1 | | 0 | 8,758 | 0 |
| 3 | 77 | オニキシベ2 | CSG製造ﾔｰﾄﾞ | 5,588 | 0 | 5,588 |
| 4 | 78 | オニキシベ3 | | 19,400 | 9,560 | 0 |
| 5 | 79 | 上幌内モイ | 母材ｽﾄｯｸﾔｰﾄﾞ | 18,237 | 3,927 | 22,164 |
| 6 | 80 | 一里沢 | | 1,400 | 690 | 0 |
| 7 | 81 | ショロマ1 | | 20,000 | 0 | 8,933 |
| 8 | 89 | オニキシベ4 | 工事用道路 | 4,103 | 0 | 4,103 |
| 9 | 90 | オニキシベ5 | 工事用取付道路 | 4,398 | 1,029 | 5,427 |
| 10 | 91 | 上幌内2 | | 2,450 | 3,890 | 0 |
| 11 | 92 | ショロマ2 | 付替道路 | 2,400 | 4500 | 2,305 |
| 12 | 12 | 厚幌1 | 取付道路 | 12,830 | 390 | 13,220 |
| 13 | 100 | ﾖﾁｬﾗｾﾅｲﾁｬｼ | 母材山 | ― | ― | 下記に含む |
| 14 | 101 | ﾖﾁｬﾗｾﾅｲ | 母材山(立会残) | 15,468 | 1,700 | 17,168 |
| 15 | 118 | オニキシベ6 | 堤体付近 | 1,201 | 200 | 1,401 |
| 16 | 119 | ｲｸﾊﾞﾝﾄﾞｭｸﾁｾ2 | 河川切替 | 1,174 | 0 | 1,174 |
| 17 | 120 | ｲｸﾊﾞﾝﾄﾞｭｸﾁｾ3 | | 9,321 | 0 | 9,321 |
| 18 | 121 | ショロマ3 | 工事用取付道路 | 1,350 | 0 | 1,350 |
| 19 | 122 | ショロマ4 | | 4,000 | 0 | 0 |
| 20 | 123 | 上幌内3 | | 13,000 | 2,400 | 8,545 |
| 21 | 124 | 上幌内4 | | 900 | 0 | |
| 22 | 125 | 上幌内5 | 工事用取付道路 | 3,000 | 11,700 | 300 |
| 23 | 88 | 厚幌2 | 導水路建設 | 未定 | 未定 | 要追加試掘 |
| 24 | 87 | ｲｸﾊﾞﾝﾄﾞｭｸﾁｾ1 | 常時満水以上 | ― | ― | |
| 合　計 | | | | 154,100 | 48,744 | 114,879 |

図Ⅰ-1　厚幌ダム建設事業関連埋蔵文化財包蔵地位置図

図Ⅰ-2 遺跡周辺の地形図

## 第 3 節　調査の方法

### 1. 発掘区の設定（図Ⅰ-3）

ショロマ 3 遺跡の発掘調査範囲は、ダム湛水地域内であることから遺跡の全面が調査対象となっており、微地形等で若干の変更が生じるものの道教委の試掘調査によって回答された「要発掘範囲」に基づいている。調査対象となる遺物包含層は、樽前 c テフラより上層のⅢ層黒色土層であった。当初計画の発掘区 700 ㎡の調査結果（遺物分布）と調査区外の地形から、Ⅲ層において西側の調査区外への遺物の広がりが想定でき、道教委の指示のもと町教委が範囲確認のための試掘調査を実施した。試掘は当初計画の調査終了後、6 月下旬に実施し、1.5m四方のテストピットを 4 ヵ所掘開し、Ⅲ層を対象に全て人力作業で実施した。結果、試掘坑 1 ヵ所で出土遺物を確認し、地形面を考慮したうえで西側へ 445 ㎡ほど調査区を拡張した。なお、この範囲については、Ⅴ層についても、遺物包含層確認を行ったが、遺物は出土しなかったため、Ⅲ層のみを発掘調査対象としている。また当初から予定していた旧石器確認調査のトレンチを掘開するに当たり、Ⅴ層黒色土も人力調査を実施した。この結果、全ての試掘坑より礫や土器片などの遺物が出土し、調査区の北側 205 ㎡を拡張している。拡張面積を含む最終的な発掘調査面積は、合計で 1,350 ㎡となった。

### 2. グリッド設定（図Ⅰ-4）

平成 25 年度の発掘調査計画は、ショロマ 1・2・3 遺跡の 3 ヵ所の予定があったため、グリッド名称の設定を当初 3 ヵ所を網羅する予定であった。しかし、ショロマ 1 遺跡の調査地点が約 300m離れていることから、近接するショロマ 2・3 遺跡を網羅したグリッド名称に留めた。ただし、公共座標に基づく設定であるため、グリッド方眼は一致する。

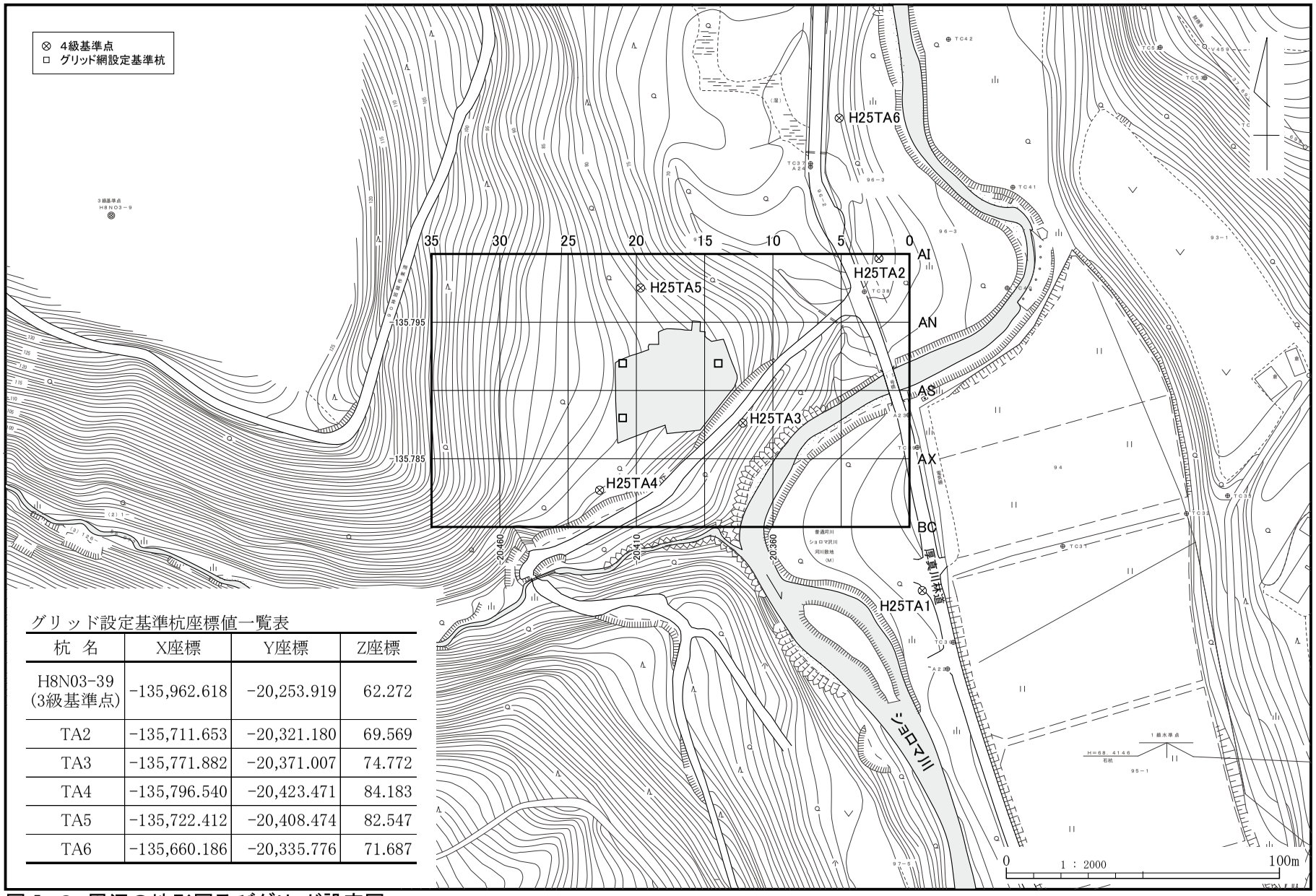
調査区内のグリッドは公共座標（世界測地系）に従い、ショロマ 3 遺跡の北側に近接するショロマ 2 遺跡を網羅する南北 270m×東西 170mの範囲に設定し、5m四方の方眼で区分した。グリッド起点は北東角を原点とし、図上の A-0 杭（日本平面直角座標系第ⅩⅡ系 X=－135,540.0　Y=－20,310.0）に設定した。

グリッド名称は、南北のⅩ軸を A・B・C…のアルファベット列で、東西のⅤ軸ラインを 1・2・3…のアラビア数字列とした。なお、5m四方のグリッドをⅤ層調査における剥片類と礫の出土位置記録の際に、2.5m四方に 4 分割した中グリッドを設定した。また報告書作成における図中の位置関係を示すため、5mグリッドを 1m四方に 25 分割した小グリッドを定義した（図Ⅰ-5）。

現地での測量は、ダム建設事業の 3 級基準点を与点とするトータルステーション 4 級基準点測量とし、発掘調査区境界杭及びグリッド杭設置をシン技術が行った。現地におけるⅤ座標もグリッド杭設定の際の基準杭や遺物取り上げ時の機械点杭に移設している。

### 3. 包含層及び遺構調査の方法

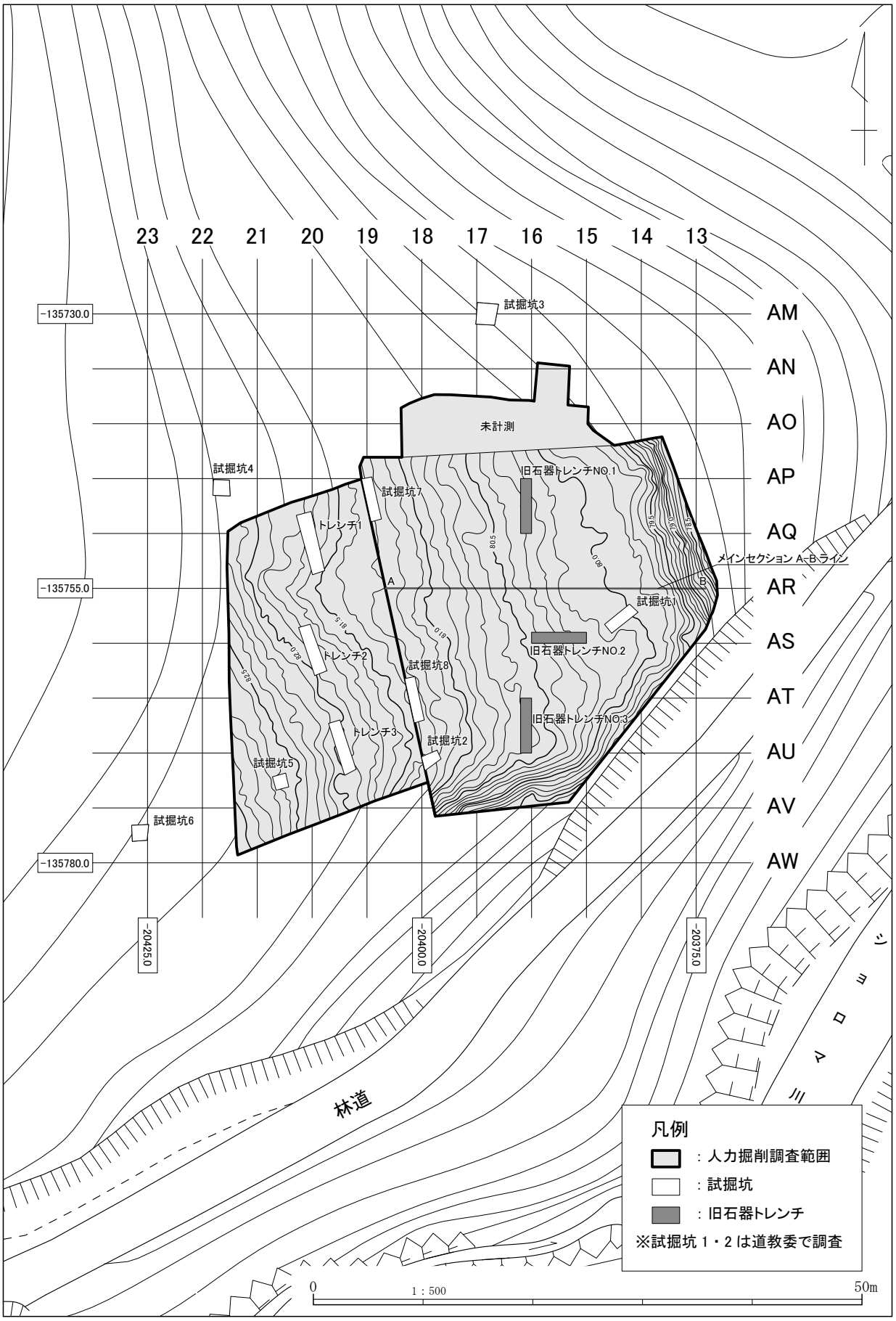
調査の準備段階として、町教委によって発掘調査前年度末に調査区及び排土置き場の伐採作業を実施している。調査当年度の 4 月下旬からシン技術の調査担当者立会のもと重機により樹根を残しながらⅡ層（Ta-b テフラ）中位より上位の除去を行った。発掘調査開始日の 5 月 14 日より作業員を投入し、残存した樹根の枝根の処理とⅢ層上面の検出作業を人力作業で実施し、発掘調査開始面に至った。なお、調査区内の地形図はこのⅢ層上面において 1mピッチでⅤ座標単点を記録し、等高線図作成ソフトで処理したものである。



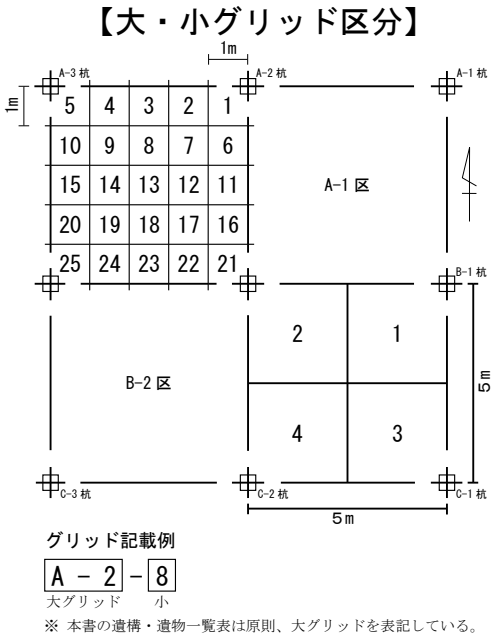

グリッド設定基準杭座標値一覧表

| 杭　名 | X座標 | Y座標 | Z座標 |
|---|---|---|---|
| H8N03-39<br>(3級基準点) | -135,962.618 | -20,253.919 | 62.272 |
| TA2 | -135,711.653 | -20,321.180 | 69.569 |
| TA3 | -135,771.882 | -20,371.007 | 74.772 |
| TA4 | -135,796.540 | -20,423.471 | 84.183 |
| TA5 | -135,722.412 | -20,408.474 | 82.547 |
| TA6 | -135,660.186 | -20,335.776 | 71.687 |

図Ⅰ-3　周辺の地形図及びグリッド設定図




図Ⅰ-4　調査範囲・試掘坑・メインセクション・旧石器トレンチ位置図




図Ⅰ-5　グリッド模式図

包含層調査にあたり、まず堆積状態を確認するため、ARラインにトレンチを掘開した。発掘調査はグリッド単位で行い、調査区の南側より開始し、北側へ調査範囲を広げていった。なお、Ⅲa 層については調査区の南側半分を終了し、Ⅲb 層とⅢc 層の調査はグリッド毎に一括して掘り下げている。

遺構調査は、Ⅲ層については包含層掘開中に土器片や礫、焼土粒、焼骨片を一定の範囲で集中的に検出確認した際に、堆積状態観察のためのベルトを設定し、範囲確定の精査を行った。遺構の可能性等を早い段階でとらえることにより、黒色土等の被覆土の層厚を記録することができ、層位からの帰属時期の推定条件としている。土坑や道跡などの掘り込みを伴う遺構については、Ⅲc 層～Ⅳ層（樽前ｃテフラ）上面を確認面とし、包含層の主体であるⅢb 層調査終了後にジョレンでの遺構検出作業を行った。

Ⅴ層については当初の計画外の調査対象層位であり、調査を委託したシン技術は引き続きショロマ２遺跡の発掘調査に着手していたことから、急遽、ショロマ１遺跡の調査体制を割いて町教委が調査することとなった。町教委からは乾の他、Ⅲ層調査を奈良、Ⅴ層調査を岩橋が主担当として調査した。なお、整理報告にあたってはシン技術に委託する予定であったことから、調査状況等についてもシン技術の長谷川、工藤も部分的に確認している。

Ⅴ層の遺構調査では包含層上面にて、VH-01 を窪地として確認でき当初よりトレンチを掘開し、床面及び壁面の立ち上がりの確認作業を行った。また窪みに隣接する低いマウンドをＴピットの掘り上げ土と想定し、範囲の確認検出、記録作業を行った。その後に隣接する窪地を含めた堆積状態のベルトを設定し、遺構確認面であるⅤc 層ないしはⅥ層上面まで掘開し、Ｔピット調査を実施している。

記録図化は、トータルステーションを用いて平面形及びエレベーションを記録し、堆積状態については調査員が分層と土層注記を行い、測量技能作業員が堆積状態の実測を行った。出土状態微細図については、土器片や礫などの輪郭をトータルステーションで記録し、1/5 縮尺でプリントした輪郭図を元に現地にて作成している。なお、Ⅴ層検出の土器集中は急遽生じた調査であることから、出土状態の微細図記録を省略し、遺物点のみの計測記録で取り上げたものもある。

各調査経過の写真記録は調査員が 35mm 一眼レフデジタルカメラで撮影した。

出土遺物は、Ⅲ層については全点に遺物番号を付した。取り上げについては調査員による層位確認のうえ、トータルステーションによる３次元座標のデータ取得を行うと同時に、手簿（日付･グリッド･層位･遺物名等）の記載も行い、データ入力ミスの補完を行った。Ⅴ層での遺物取り上げについて、礫及びフレイク・チップに関してはトータルステーションによる位置記録を行わず、層位を記録しながら４分割中グリッド若しくは遺構単位で取り上げた。

Ⅲ層及びⅤ層の礫集中や焼土については、調査時点で炭化物を確認したことから各担当者が土壌サンプルを回収し、町教委の指導のもとフローテーション作業を現場プレハブで行っている。

### 4. 整理作業

出土遺物の一次整理は、シン技術が発掘調査段階から遺物水洗、調査区遺構名や層位、種別等の台帳確認作業、注記作業を行った。11 月からの整理業務は厚真町軽舞遺跡調査整理事務所(旧軽舞小学校)で、町教委の指導のもとシン技術が行った。フローテーション処理後の選別作業は一次選別をシン技術で行い、二次選別、確認作業と分析同定の委託発注業務を町教委が行った。金属製品の現地一次処理及び保存処理委託発注業務も町教委が行っている。

二次整理の各種遺物の接合･復元･実測･拓本等の作業をシン技術が主体となって行い、遺構図等の第二原図やトレース図作成をパソコンでのデジタル編集(Os Windows Adobe IllustratorCS5)で行った。写真は㈲写真事務所クリークへ委託し、35mm 一眼レフデジタルカメラで撮影している。パソコン（Os Windows Adobe PhotshopCS）でのコントラスト補正等を行っている。報告書掲載図や写真図版、一覧表の編集・版組みも上記のソフトウェアで行い、本文の Word 文書と合わせて印刷所へのデジタル入稿をした。

遺物の保管は、報告書掲載のものは図版毎に行い、それ以外のものは分類及び調査区毎にコンテナに収納し、軽舞遺跡調査整理事務所（旧軽舞小学校）に収蔵している。

## 第 4 節　遺物の分類

### 1. 土 器

縄文時代早期から擦文文化期までの土器をローマ数字に群別し､アルファベットで時期細分した。

**第Ⅰ群土器　縄文時代早期に属する土器。**

Ａ類　貝殻文・条痕文土器群。

Ｂ類　早期後半の東釧路式土器群。

B1 類　東釧路Ⅱ式に相当するもの。

B2 類　東釧路Ⅲ式、コッタロ式に相当するもの。

B3 類　中茶路式に相当するもの。

B4 類　東釧路Ⅳ式に相当するもの。

**第Ⅱ群土器　縄文時代前期に属する土器。**

Ａ類　縄文丸底・尖底土器群。

Ｂ類　円筒下層式系土器群。

B1 類　円筒下層ａ式ないしはｂ式に相当するもの。

B2 類　円筒下層ｃ式ないしはｄ式、植苗式、大麻Ⅴ式に相当するもの。

**第Ⅲ群土器　縄文時代中期に属する土器。**

Ａ類　中期前半の円筒上層式系土器群。

Ｂ類　中期後半から末葉の土器群。

B1 類　萩ヶ岡 1・2 式、天神山式に相当するもの。

B2 類　柏木川式に相当するもの。

B3 類ａ　北筒式に相当するもの。

B3 類ｂ　煉瓦台式に相当するもの。

**第Ⅳ群土器　縄文時代後期に属する土器。**

Ａ類　後期初頭の土器群。

A1 類ａ　古手の余市式土器。円形刺突文の有無に関わらず、貼付帯や地文縄文が多段の羽状構成の土器。

A1 類ｂ　天祐寺式に相当するもの。Ⅳ群 A1 類ａ土器に併存する。非在地系。

A1 類ｃ　Ⅳ群 A1 類ａ土器に併存する沈線文系の土器。非在地系。

A2 類　新しい段階の余市式。タプコプ式の古手。階段状の器表面や斜め下方からの刺突文や縄端圧痕文が施される土器。

Ｂ類　後期前葉の土器群。

B1 類　新手のタプコプ式。縦位の棒状貼付帯、縄線文または地文縄文のみが施されているもの。

今回の調査の主体をなしている。

B2・B3 類　大津式、入江式に相当するもの。

Ｃ類　後期中葉の土器群。

C1 類　ウサクマイＣ式に相当するもの。

C2 類　手稲式に相当するもの。

C3 類　鮏澗式に相当するもの。

Ｄ類　後期後葉の土器群。堂林式、御殿山式に相当するもの。今回の調査では出土していない。

**第Ｖ群土器　縄文時代晩期に属する土器群。**

今回の調査では該当する資料は出土していない。

**第Ⅵ群土器　続縄文時代に属する土器群。**

Ａ類　砂沢式･二枚橋式に並存する在地・非在地の土器。今回の調査では出土していない。

Ｂ類　アヨロ２類ａ・b、３類土器並行の土器。

Ｃ類　後北式土器群。

C1 類　江別太 1～3 式土器及び後北 A 式土器。

C2 類　後北 B 式土器。

C3 類　後北 $C_1$ 式土器。

C4 類　後北 $C_2$-D 式土器。

Ｄ類　宇津内Ⅱａ・Ⅱｂ式土器。

Ｅ類　北大Ⅰ・Ⅱ式土器。

**第Ⅶ群土器　擦文文化期に属する土器群。**

Ａ　北大Ⅲ式相当。

Ｂ　甕形。

B1：擦文「前期」に相当するもの。

B2：擦文「中期」に相当するもの。

B3：擦文「後期」に相当するもの。

主として口縁部文様帯を形成した一群。

B3a：横走沈線を地文とするもの。

B3b：綾杉文主体のもの。

B3c：斜位、あるいは縦位の沈線で鋸歯状文、「X」字状文等を施すもの。

B3d：胴部文様帯を３段以上に区画した上でⅦB3a～c の文様要素を施したもの。

B3e：無文のもの。

B3f：口縁部文様帯に数条の沈線を廻らせたもの。

Ｃ：坏形。

Ｄ：鉢形・壷形。

Ｅ：ロクロ成形土器。

## ２. 剥片石器

**ポイント類**

長軸４㎝を境に石鏃と石槍・石銛とを区分した。

Ａ「石鏃」

１　細身で薄手のもの。　　２　無茎のもの。

３　明瞭な茎部をもつもの。

４　不明瞭な茎部をもつもの。

５　片岩製で周縁のみに調整加工を施すもの。続縄文時代に特徴的なもの。

Ｂ「石槍」・「石銛」

１　明瞭な茎部をもつもの。

ａ茎部端が平ら。　ｂ茎部端が尖る。

２　不明瞭な茎部をもつもの。

Ｃ　欠損品・未製品

**石 錐**

Ａ　剥片の一部に機能部を作出したもの。

Ｂ　柄と機能部の区別が明瞭なもの。

Ｃ　柄と機能部の区別が不明瞭で幅広なもの。

Ｄ　柄と機能部の区別が不明瞭で棒状のもの。

Ｅ　他石器からの転用品と思われるもの。

**ナイフ・スクレイパー類**

縁辺に刃部が作出されたもののうち、素材の１辺に対し半分以上の範囲で刃部が形成されているもの。

Ａ「つまみ付きナイフ」

１　素材の周縁にのみ加工を施したもの。

２　素材の片面全体に加工を施したもの。

３　素材の両面全体に加工を施したもの。

Ｂ　素材端部に刃部が形成されているもの。

１「ラウンド・スクレイパー」

２「エンド・スクレイパー」

Ｃ　素材端部に刃部が形成されていないもの。

１「サイド・スクレイパー」

ａ原石・転石面無。　ｂ原石・転石面有。

２「コンケイブ・スクレイパー」

ａ原石・転石面無。　ｂ原石・転石面有。

３「抉入石器」

D　続縄文時代に伴う「ナイフ状石器」。

E　欠損品。

a 原石・転石面無。　b 原石・転石面有。

RF･UF

縁辺部に刃部が作出されたもののうち、素材の１辺に対し半分未満の連続的剥離のあるものを RF、使用によると思われる微細剥離のあるものを UF として扱っている。

ピエス・エスキーユ

石 核

火打石

メノウ、チャート、石英（水晶）を石材とし縁辺部等に微細剥離が観察できるもの。

## ３．礫石器

石 斧

A　磨製石斧

B　未製品１　剥離･敲打により完成品に近い大きさまで整形されているもの。

C　未製品２　礫皮を残すが、擦り切り・剥離・敲打調整により素材礫形状が不明瞭なもの。

D　未製品３　剥離・敲打調整が部分的に施され、素材礫の形状を大きく残すもの。

たたき石

敲打痕が面状に形成されるもので、素材礫の形状で細分類を行った。

Ⅰ　平面形が縦長のもの。

A　扁平のもの。

1　素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。

2　素材礫の側縁稜あるいは端部に敲打痕を有するもの。

3　1･2が並存するもの。

B　棒状または角柱状のもの。

1　素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。

2　素材礫の側縁稜あるいは端部に敲打痕を有するもの。

3　1・2が並存するもの。

Ⅱ　平面形が方形～不整形で幅広のもの。

A　扁平のもの。

1　素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。

2　素材礫の側縁稜あるいは端部に敲打痕を有するもの。

3　1･2が並存するもの。

B　棒状または角柱状のもの。

1　素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。

2　素材礫の側縁稜あるいは端部に敲打痕を有するもの。

3　1・2が並存するもの。

Ⅲ　平面形が円～楕円形のもの。

A　扁平のもの。

B　球形または棒状のもの。

Ⅳ　破片のため上記に分類不可のもの。

擦 石

A　断面三角形の礫の稜に擦り面のあるもの。

B　断面楕円形の礫の側縁に擦り面のあるもの。

C　扁平礫の側縁に擦り面があるもの。

D　北海道式石冠。

砥 石

素材礫の形状が変形する研磨面を有するもの。

滑沢面のある礫

素材礫の形状を変えず、平滑な面を有するもの。線条痕はほとんど観察できない。

線条痕のある礫

肉眼観察において、明瞭な線条痕があるもの。

石皿・台石

便宜的に素材礫の重量が 900 g 以上で、素材礫の平坦面に擦痕・敲打痕があるもの。

加工痕のある礫

加工目的の剥離があるもので、剥離加圧（打点）部分に潰打面が形成されず､側面観が稜線状となるもの。

## 第５節　調査の概要

ショロマ３遺跡では、縄文時代早期後葉から擦文文化期後期に至る遺構遺物が出土している（表Ⅰ-1･2）。これら調査経過及び結果の概要について記す。

### １．調査の経緯及び経過

ショロマ３遺跡は平成21年に実施された道教委による試掘調査によって、新規登載された埋蔵文化財包蔵地である。厚真川支流であるショロマ川右岸の標高79.8～83.0ｍの河岸段丘面に立地し、時期は、出土遺物から続縄文文化期後北Ａ式期の単純遺跡とされた。面積は樽前ｃテフラより上層のⅢ層黒色土のみの700㎡であった。

厚幌ダム建設に伴う厚真川林道切替工事取付道路建設のため、平成25年度に本遺跡の発掘調査が計画された。当年度は町教委のほか、道埋文もダム事業の発掘調査に入り、調査体制の確保が困難なことから道教委、ダム事務所、町教委によって協議した結果、町教委が北海道より受託し、その指導監督のもと㈱シン技術コンサルに調査及び整理報告書刊行までを再委託することとなった。

発掘調査は５月８日から６月17日までを予定していたが、Ⅲ層の調査結果から、包蔵地範囲が調査区外へも広がることと、さらに縄文時代の遺物包含層（Ⅴ層）も存在していることが判明し、３者協議の結果、８月30日までの延長となった。最終的な調査面積はⅢ層のみを調査対象に拡張した西側の445㎡、Ⅴ層のみを調査対象とした北側の205㎡を合わせて1,350㎡である。

発掘業務のうち当初計画のⅢ層700㎡についてはシン技術が調査を実施し、拡張区については町教委が行っている。整理業務はシン技術が主体となり、厚真町軽舞遺跡調査整理事務所（旧軽舞小学校）において町教委指導監督のもとに整理業務を実施した。

### ２．Ⅲ層の調査結果（続縄文文化期後北式期・擦文文化期後期）

検出遺構は、土坑墓１基、焼土２ヵ所、土器集中１ヵ所、礫集中３ヵ所、鉄器集中１ヵ所、道跡１条である。うち、土坑墓が続縄文文化期後北式期に帰属し、道跡以外の遺構については検出層位等より擦文文化期後期の所産と思われる。

続縄文文化期後北期の土坑墓は開口部で約185cm×166cmのほぼ円形で、構築面からの深さ126cmである。坑底面には深さ30～47cmの打ち込み杭４ヵ所を伴っていた。土坑墓には仰臥屈葬の人骨３体が合葬されていたが、遺存状態が悪く、一部を除き取り上げは不可能な状態であった。副葬品は人骨検出面である坑底面付近から石器類が113点出土した。内訳は無茎石鏃105点、ナイフ４点、石斧１点である。石鏃のうち、71点が当該期に特徴的な片岩製の粗製石鏃（松田2007）である。土坑墓内からは土器が出土していないが、6m南東に後北Ａ式土器の復元個体（図Ⅱ-17-1）が出土していること、包含層からは後北Ｂ式土器（新段階）の小片が２片のみの出土であるが、帰属時期は後北Ａ式期ないし後北Ｂ式期の可能性が高い。

擦文文化期の遺構は、調査区の北西部に焼土、土器集中、礫集中各１ヵ所による集中区を検出している。土器は小型無文の甕（かめ）形土器で、器形や底部形態、器内外面の調整より擦文後期のものと思われる。他の遺構は調査区内に単独で散在しているが、礫集中ⅢSB-02と鉄器集中IPB-01よりそれぞれ同一個体の刀子切先と茎が出土しており、これらの遺構が同時期の可能性を示唆している。特筆すべき遺構として、鉄器集中IPB-01があり、倒木痕の窪地に甲冑製品の一部と思われる鋲留板物甲がまとまって出土している。厚さ1～2㎜の薄板のため、多くは細片化しているが一部に形態を推定できる大型破片が出土している。竪矧ぎで湾曲確認できることから、短甲の胴部側面か手足の防

具の可能性がある。

道跡は検出層位がⅣ層・樽前ｃテフラ上面であり帰属時期の確定には至らなかったが、これまでのこの地区における道跡の調査例を参考とすると中世アイヌ文化期以前の帰属と思われる。

出土遺物は、検出遺構周辺と南東側傾斜地に出土し、微細な剥片等を含め、1,587 点出土している。うち土器は 149 点出土し、続縄文式土器が 2 個体、擦文式土器が 2 個体の合計 4 個体のみである。石器・剥片類については、239 点出土している。集中区や礫集中周辺からはたたき石などの礫石器が出土しており、これらの遺構は、当該期の遺跡の性格を表すものと思われる。出土礫は 1,060 点が出土し、うち礫集中から 252 点出土している。そのほか鉄器が 129 点出土し、ほとんど IPB-01 からの鋲留板物甲である。本製品の類例としては千歳市祝梅川上田遺跡がある（道埋文 2013）。

**3．Ｖ層の調査結果**（縄文時代早期後葉から縄文時代後期）

Ｖ層からは、縄文時代早期後葉～後期中葉にかけての幅広い時期にわたる土器が出土している。本遺跡の縄文時代における主体的時期は縄文後期前葉でタプコプ式新段階（Ⅳ群 B1 類）である。

遺構は、住居跡 1 軒、Ｔピット 8 基、焼土（石組炉）2 ヵ所、土器集中 14 ヵ所などがあり、全体量としてはⅢ層より多くの遺構が検出された。住居跡はほぼ中央に石組炉を配し、床面からは縄文後期前葉のタプコプ式土器（新段階）が出土している。当該期の遺物包含層は隣接するショロマ 2 遺跡や同 1 遺跡でも確認されており、周囲一帯がこの時期の活動領域であったことが伺える。検出遺構で最も多いＴピットは 8 基検出され、1 基を除き全て楕円形タイプであり、多くが逆茂木跡を有する。これらの周囲にはＶb 層上位に低いマウンド状の樽前ｄテフラを混じる掘り上げ土を確認している。焼土は 2 ヵ所とも石組炉であり、この地域におけるこれまでの調査例や出土土器から縄文時代後期初頭から前葉にかけての所産と思われる。土器集中は 14 ヵ所のうち 7 ヵ所がタプコプ式土器の新段階であり、本遺跡の主体を占めている。

出土遺物は土器 2,030 点、剥片石器 35 点、礫石器 50 点、剥片類 70 点、礫 1,562 点、その他 2 点、合計 3,749 点が出土し、南部の段丘縁辺部付近に多く出土している。縄文土器では早期末葉の東釧路Ⅳ式、前期後葉の円筒土器下層式系、中期では柏木川式、北筒式、後期では余市式新段階・タプコプ式新段階、手稲式土器と多時期にわたって出土している。主体となるものは、後期前葉のタプコプ式新段階である。剥片石器では各器種が出土しているものの、茎部が不明瞭な石槍がやや多く出土しており、これらが縄文時代中期末葉から後期前葉に帰属すると思われる。

**表Ⅰ-1　ショロマ3遺跡概要一覧表**

| 項 目 | Ⅲ層 | Ⅴ層 | 合計 |
|---|---|---|---|
| | 続縄文・擦文期 | 縄文時代 | |
| 調査面積(㎡) | 1,145 | 905 | 統合1,350 |
| 住居跡 | － | 1 | 1 |
| 土坑墓 | 1 | － | 1 |
| 土 坑 | － | 3 | 3 |
| 焼 土 | 2 | 2 | 4 |
| Tピット | － | 8 | 8 |
| 道跡 | 1 | － | 1 |
| 土器集中 | 1 | 14 | 15 |
| 礫集中 | 3 | 1 | 4 |
| 鉄器集中 | 1 | － | 1 |
| 小計 | 9 | 29 | 38 |
| 遺物総点数 | 1,587 | 3,749 | 5,336 |

**表Ⅰ-2　ショロマ3遺跡出土遺物一覧表**

| | 土器 | 剥片石器 | 礫石器 | 土製品 | 剥片類 | 礫 | 鉄器 | 合 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⅲ層 | 149 | 129 | 39 | － | 71 | 1,060 | 139 | 1,587 |
| Ⅴ層 | 2,030 | 35 | 50 | 2 | 70 | 1,562 | － | 3,749 |
| 撹乱 | 4 | 1 | 1 | － | 1 | 4 | － | 11 |
| 小 計 | 2,183 | 165 | 90 | 2 | 142 | 2,626 | 139 | 5,347 |
| 試掘 | 9 | － | 3 | － | － | 7 | － | 19 |
| 表採他 | 2 | － | － | － | － | － | － | 2 |
| 合 計 | 11 | － | 3 | － | － | 7 | － | 21 |
| | | | | | | | | 5,368 |

## 第 6 節　遺跡の位置

### 1. 厚真町の概要

#### A　地理的環境

厚真町は、石狩低地帯南部の東縁、北海道胆振総合振興局管内の東部に位置し、夕張山地南部から太平洋に注ぐ二級河川厚真川流域に水田地帯が広がる、人口 4,739 人（平成 26 年 1 月末日現在）の農業の町である。町域の総面積は 404.56 千㎡で、流路 52.3km の二級河川厚真川水系と同入鹿別川右岸に広がり南北 32.5km、東西 17.3km と細長く、南部は約 6.5km にわたって太平洋に面し、勇払平野の東端に位置している。

北部は夕張市や由仁町と接し、夕張山地南端域の標高 200～600ｍの山地が続き、町域総面積の約 70％を山林が占めている。東は夕張山地から続く低い山地を挟んでむかわ町と接し、北西は標高 100ｍ前後の山地性丘陵を挟んで安平町、西は厚真町域を含む苫小牧東部工業地帯（以下、苫東）内で苫小牧市と接する。厚真の語源は 3 説ほどあるが、有力な説として「アットマム」（at-to-mam・向こうの湿地帯）で、南部に広がる湿地帯に付けられたものが転訛したという（厚真村 1956）。

町内は大きく 5 つの地区に分かれ、沿岸部の浜厚真地区、厚真川下流域の上厚真地区、中流域の厚真市街地周辺、中流から上流域の富里・幌内地区、むかわ町と接し、入鹿別川流域の鹿沼地区がある。厚真川中流域から本遺跡が所在する厚真川上流域にかけての概略を述べる。

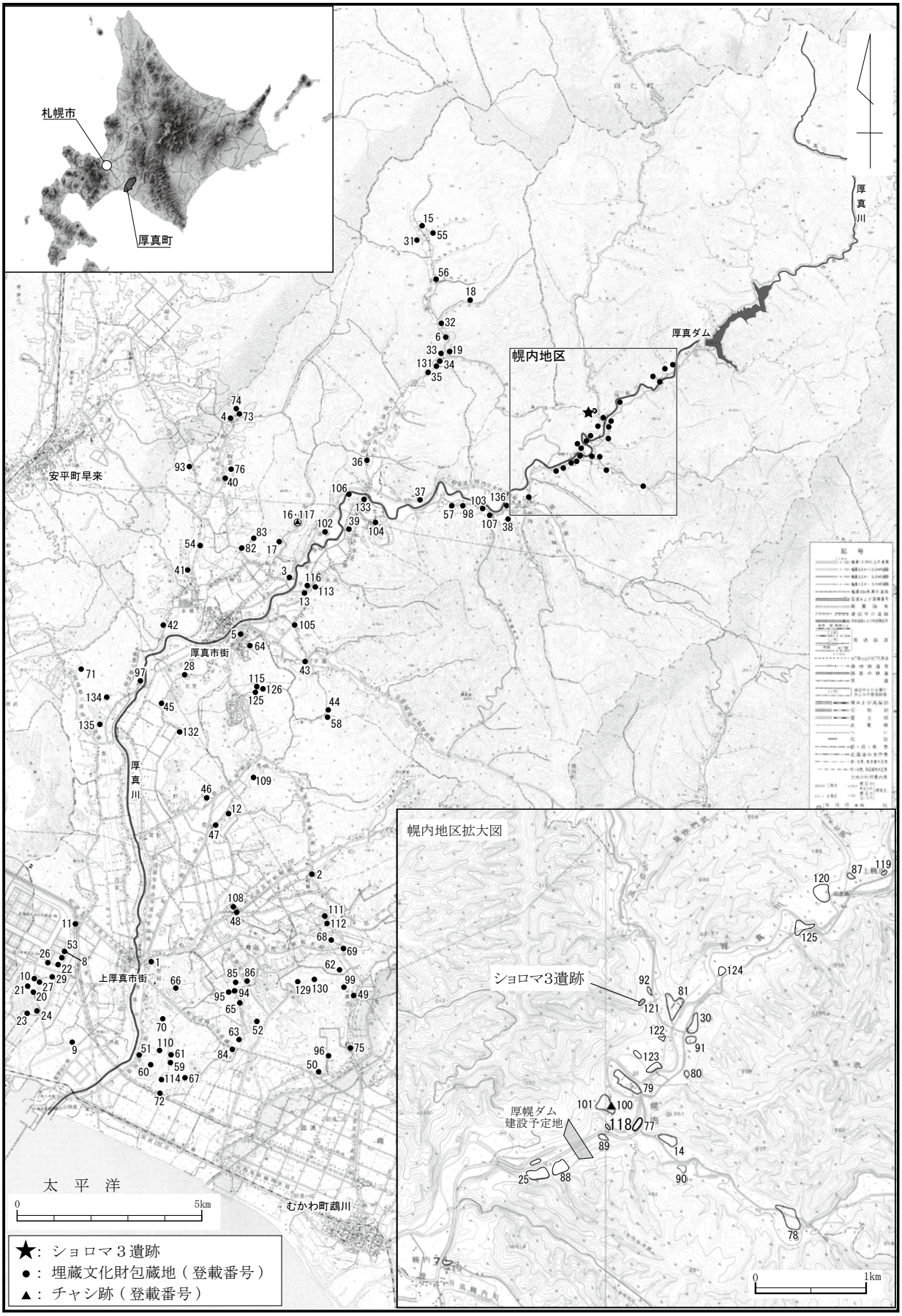
厚真町の中心市街地は厚真川中流域にあり、鵡川、平取・穂別、早来、浜厚真方面への道道交差部に官公署や住宅地が形成されている。かつては、町内の石油資源や林産資源、農産物の集散地として発展してきた。地形的には厚真川本流と比較的大きな支流である知決辺川、ウクル川などの合流点に形成された平野部に位置し、夕張山地系と馬追丘陵南端部の山地性丘陵に挟まれた地域となる。中流域から上流域にかけては、厚真川は頗美宇川との合流点付近において流路方向を変え、左岸には河岸段丘が発達する。中流域最奥部の幌内地区は、厚真川流域沿いの沖積地の最奥部でもあり、本流とシュルク川、幌内川の 3 河川の合流点である。この地区は上流域の山間部より産出される豊富な林産資源の集積地として発展し、明治 44 年から昭和 24 年まで早来駅とを結ぶ軌道が敷設されていた。これより上流域は、新第三紀の堆積岩を基盤とする山地が続く。標高 400ｍ以上の頂部は少ないが、小河川の浸食により比較的急峻な山稜を呈している。厚真川は夕張市、由仁町との 1 市 2 町の境界線付近、標高 500ｍ付近の夕張山地南域に源流部がある。

#### B　歴史的環境

##### (1) 先史時代

厚真町内には現在 136 ヵ所の埋蔵文化財包蔵地が確認されており、後期旧石器時代から近現代の軌道跡やトーチカなどの戦争遺跡までの時期幅がある（図Ⅰ-6、表Ⅰ-3）。遺跡の分布傾向は開発行為の多寡に左右されるが、南部の苫東地区と北部の高丘・幌内地区にやや密集する傾向がある。他の市町村と異なる特徴として、これらの北部地区の遺跡は安平町安平地区や夕張市紅葉山地区、むかわ町豊田・穂別・稲里地区に抜ける山越えのルート上の遺跡と思われる。

時期的には上幌内モイ遺跡で後期旧石器（札滑型細石刃核）のブロックが調査されている。縄文時代では浜厚真 3 遺跡で東釧路Ⅱ式土器がややまとまって出土している（道埋文 2003）。後続する東釧路Ⅲ式や中茶路式土器などが出土する早期後葉の遺跡は、厚真川中流域以南に分布しており、上流域の幌内地区では、散発的に少量の遺物が出土しているに過ぎない。厚真川流域において縄文時代の遺跡の拡散を考えると、海岸部から内陸部への進出が想定できる。遺跡数の増加や規模の拡大は縄文時代前期前半の静内中野式期で、ショロマ 2 遺跡（J-13-92）、厚幌 2 遺跡（88）、オコッコ 1 遺跡（107）、幌内 5 遺跡（57）ニタップナイ遺跡（104）、豊丘 1 遺跡（69）鹿沼 7 遺跡（99）などでは多量の被熱礫や哺乳網の焼骨片が出土しており、厚真町南部から北部に至るまで確認され




図Ⅰ-6　厚真町内遺跡分布図（平成 26 年 2 月 11 日現在）

## 表Ⅰ-3 厚真町内埋蔵文化財包蔵地一覧表

平成26年2月11日現在

| 登載番号 | 種　別 | 名　　称 |
|---|---|---|
| 1 | 遺物包含地 | 上厚真遺跡 |
| 2 | 遺物包含地 | 軽舞遺跡 |
| 3 | 遺物包含地 | 朝日遺跡 |
| 4 | 遺物包含地 | 幌里1遺跡 |
| 5 | 遺物包含地 | 新町遺跡 |
| 6 | 遺物包含地 | 高丘1遺跡 |
| 7 | 遺物包含地 | 幌内1遺跡 |
| 8 | 集落跡 | 共和遺跡 |
| 9 | 遺物包含地 | 浜厚真遺跡 |
| 10 | 溝穴遺構 | 厚真10遺跡 |
| 11 | 遺物包含地 | 厚真11遺跡 |
| 12 | 遺物包含地 | 豊沢1遺跡 |
| 13 | 遺物包含地 | 東和遺跡 |
| 14 | 集落跡 | オニキシベ1遺跡 |
| 15 | 遺物包含地 | 高丘3遺跡 |
| 16 | チャシ跡 | 桜丘チャシ跡 |
| 17 | 遺物包含地 | 桜丘1遺跡 |
| 18 | 遺物包含地 | 高丘2遺跡 |
| 19 | 集落跡 | 高丘10遺跡 |
| 20 | 集落跡 | 厚真1遺跡 |
| 21 | 溝穴遺構 | 厚真2遺跡 |
| 22 | 溝穴遺構 | 厚真3遺跡 |
| 23 | 集落跡 | 厚真4遺跡 |
| 24 | 遺物包含地 | 厚真5遺跡 |
| 25 | 集落跡 | 厚幌1遺跡 |
| 26 | 集落跡 | 厚真7遺跡 |
| 27 | 集落跡 | 厚真8遺跡 |
| 28 | 遺物包含地 | 美里2遺跡 |
| 29 | 墳墓 | 厚真12遺跡 |
| 30 | 遺物包含地 | 上幌内1遺跡(旧幌内3遺跡) |
| 31 | 遺物包含地 | 高丘4遺跡 |
| 32 | 遺物包含地 | 高丘5遺跡 |
| 33 | 遺物包含地 | 高丘6遺跡 |
| 34 | 遺物包含地 | 高丘7遺跡 |
| 35 | 遺物包含地 | 高丘8遺跡 |
| 36 | 遺物包含地 | 高丘9遺跡 |
| 37 | 遺物包含地 | 富里1遺跡 |
| 38 | 遺物包含地 | 幌内4遺跡 |
| 39 | 遺物包含地 | チコマナイ遺跡 |
| 40 | 遺物包含地 | 幌里2遺跡 |
| 41 | 遺物包含地 | 本郷1遺跡 |
| 42 | 遺物包含地 | 本郷2遺跡 |
| 43 | 遺物包含地 | 宇隆1遺跡 |
| 44 | 遺物包含地 | 宇隆2遺跡 |
| 45 | 遺物包含地 | 美里1遺跡 |
| 46 | 遺物包含地 | 豊沢2遺跡 |
| 47 | 遺物包含地 | 豊沢3遺跡 |
| 48 | 遺物包含地 | 鯉沼1遺跡 |
| 49 | 遺物包含地 | 鹿沼2遺跡 |
| 50 | 遺物包含地 | 鹿沼1遺跡 |
| 51 | 遺物包含地 | 厚和1遺跡 |
| 52 | 遺物包含地 | 鹿沼3遺跡 |
| 53 | 溝穴遺構 | 厚真13遺跡 |
| 54 | 遺物包含地 | 本郷3遺跡 |
| 55 | 遺物包含地 | 高丘11遺跡 |
| 56 | 遺物包含地 | 高丘12遺跡 |
| 57 | 墳墓・盛土遺構 | 幌内5遺跡 |
| 58 | 溝穴遺構 | 豊沢4遺跡 |
| 59 | 遺物包含地 | 厚和2遺跡 |
| 60 | 遺物包含地 | 厚和3遺跡 |
| 61 | 遺物包含地 | 厚和4遺跡 |
| 62 | 遺物包含地 | 鹿沼4遺跡 |
| 63 | 遺物包含地 | 厚和5遺跡 |
| 64 | 遺物包含地 | 新町2遺跡 |
| 65 | 遺物包含地 | 鹿沼5遺跡 |
| 66 | 遺物包含地 | 厚和6遺跡 |
| 67 | 遺物包含地 | 浜厚真2遺跡 |
| 68 | 溝穴遺構 | 鯉沼2遺跡 |
| 69 | 遺物包含地 | 豊丘遺跡 |
| 70 | 集落跡 | 厚和7遺跡 |
| 71 | 集落跡 | 豊川1遺跡 |
| 72 | 遺物包含地 | 浜厚真3遺跡 |
| 73 | 遺物包含地 | ニタッポロ沢遺跡 |
| 74 | 遺物包含地 | 幌里神社遺跡 |
| 75 | 溝穴遺構 | 入鹿別沼遺跡 |
| 76 | 溝穴遺構 | 幌里3遺跡 |
| 77 | 遺物包含地 | オニキシベ2遺跡 |
| 78 | 遺物包含地 | オニキシベ3遺跡 |
| 79 | 集落跡・墳墓 | 上幌内モイ遺跡 |
| 80 | 遺物包含地 | 一里沢遺跡 |
| 81 | 集落跡 | ショロマ1遺跡 |
| 82 | 遺物包含地 | 東ニタッポロ1遺跡 |
| 83 | 遺物包含地 | 東ニタッポロ2遺跡 |
| 84 | 遺物包含地 | 浜厚真4遺跡 |
| 85 | 溝穴遺構 | 鯉沼3遺跡 |
| 86 | 溝穴遺構 | 鯉沼4遺跡 |
| 87 | 遺物包含地 | イクバンドユクチセ遺跡 |
| 88 | 遺物包含地 | 厚幌2遺跡 |
| 89 | 遺物包含地 | オニキシベ4遺跡 |
| 90 | 遺物包含地 | オニキシベ5遺跡 |
| 91 | 溝穴遺構 | 上幌内2遺跡 |
| 92 | 遺物包含地 | ショロマ2遺跡 |
| 93 | 溝穴遺構 | 幌里4遺跡 |
| 94 | 集落跡 | 厚和8遺跡 |
| 95 | 遺物包含地 | 厚和9遺跡 |
| 96 | 遺物包含地 | 鹿沼6遺跡 |
| 97 | 遺物包含地 | 豊川2遺跡 |
| 98 | 遺物包含地 | 幌内6遺跡 |
| 99 | 溝穴遺構 | 鹿沼7遺跡 |
| 100 | チャシ跡 | ヲチャラセナイチャシ跡 |
| 101 | 遺物包含地 | ヲチャラセナイ遺跡 |
| 102 | 遺物包含地 | 吉野1遺跡 |
| 103 | 遺物包含地 | 幌内7遺跡 |
| 104 | 集落跡 | ニタップナイ遺跡 |
| 105 | 遺物包含地 | 宇隆3遺跡 |
| 106 | 遺物包蔵地 | 富里2遺跡 |
| 107 | 遺物包蔵地 | オコッコ1遺跡 |
| 108 | 遺物包含地 | 軽舞2遺跡 |
| 109 | 遺物包蔵地 | 豊沢5遺跡 |
| 110 | 溝穴遺構 | 厚和10遺跡 |
| 111 | 遺物包含地 | 豊丘2遺跡 |
| 112 | 遺物包蔵地 | 豊丘3遺跡 |
| 113 | 遺物包蔵地 | 東和2遺跡 |
| 114 | 遺物包含地 | 浜厚真5遺跡 |
| 115 | 遺物包蔵地 | 豊沢6遺跡 |
| 116 | 遺物包蔵地 | 東和3遺跡 |
| 117 | 遺物包含地 | 桜丘2遺跡 |
| 118 | 遺物包含地 | オニキシベ6遺跡 |
| 119 | 溝穴遺構 | イクバンドユクチセ2遺跡 |
| 120 | 遺物包含地 | イクバンドユクチセ3遺跡 |
| 121 | 遺物包含地 | ショロマ3遺跡 |
| 122 | 遺物包含地 | ショロマ4遺跡 |
| 123 | 遺物包含地 | 上幌内3遺跡 |
| 124 | 遺物包含地 | 上幌内4遺跡 |
| 125 | 溝穴遺構 | 上幌内5遺跡 |
| 126 | 遺物包含地 | 豊沢7遺跡 |
| 127 | 遺物包含地 | 豊沢8遺跡 |
| 128 | 遺物包含地 | ヲイカルマイ遺跡 |
| 129 | 遺物包含地 | 長沼1遺跡 |
| 130 | 溝穴遺構 | 長沼2遺跡 |
| 131 | 遺物包含地 | 高丘13遺跡 |
| 132 | 遺物包含地 | 上野1遺跡 |
| 133 | 遺物包含地 | 富里3遺跡 |
| 134 | 遺物包含地 | 豊川3遺跡 |
| 135 | 遺物包含地 | 三ヶ月沼遺跡 |
| 136 | 遺物包含地 | 幌内8遺跡 |

ている。この時期の遺跡は湧水地点に隣接する特徴的な立地で、鹿沼 7 遺跡や幌内 5 遺跡、ニタップナイ遺跡、オコッコ 1 遺跡では露頭や試掘調査で「盛土遺構」を伴うことが判明している。これ以降、漸移的に遺跡数が増加し、中期末葉から後期初頭の北筒・余市式期の遺跡数でピークを迎える。縄文時代後期中葉から後葉にかけての遺跡数が激減し、晩期前葉に再び増加する傾向にある。続縄文文化期から擦文文化期前期にかけての遺跡数も少ない。この様な各時期における遺跡数の偏りは隣接する苫小牧市の傾向と一致している。しかし、厚真町内では白頭山苫小牧火山灰降下（10 世紀前葉）以降の擦文中期以降に再び遺跡数が増加する点において、隣接する苫小牧市とは異なる様相を示している。

**（2）町内における埋蔵文化財調査の概要**

町内における埋蔵文化財の調査・研究・活用は、大正 5（1916）年、現在の朝日遺跡から出土した縄文土器を、教材として学校に保管する許可書が発行されたのが最初である（厚真村郷土研究会 1956）。これ以降、現在に至るまでを大きく 3 期に分けることが可能である。

**a. 厚真村郷土史研究会・埋蔵文化財の地域自主的研究（昭和 20 年代後半から 40 年代中頃）**

元厚真村長 亀井喜久太郎氏が昭和 28 年に厚真村郷土研究会を発足させ、遺物の収集や会報での遺物紹介を行い、昭和 31 年には『厚真村古代史』を発刊した（厚真村郷土研究会 1956）。また分布調査なども積極的に行い、埋蔵文化財包蔵地カードの「調査・文献」には「厚真村郷土研究会」の記載で始まるものが 32 遺跡もあり、厚真町の文化財保護・研究に大きな功績を残している。

**b. 苫小牧市埋蔵文化財調査センター・大規模な行政発掘「苫東調査」（昭和 48 年から昭和 54 年）**

昭和 48 年から苫小牧市埋蔵文化財調査センターによる苫東地区の試掘・発掘調査が開始され、59 年までの 12 年間で厚真町域では新規登載 14 遺跡、調査着手 11 遺跡があり、縄文時代早期～擦文文化期までの資料が得られている。昭和 51 年調査の厚真 1 遺跡（苫小牧市教育委員会 1986）では、この地域で初めてのＴピットが確認され、縄文時代中期中葉の「厚真 1 式土器」（赤石 1999）の標識遺跡でもある。厚真 7 遺跡では縄文時代中期末葉と後期前葉の住居跡 8 軒、石狩川中流域を中心に分布する「丸のみ形石斧」も出土した（苫小牧市教育委員会 1987）。共和遺跡では苫東地区内で唯一の擦文文化期前期の竪穴式住居跡 2 軒を調査している（苫小牧市教育委員会 1987）。

**c. 開発に伴う調査の増加と厚幌ダム・厚幌導水路事業の開始（平成 10 年以降）**

道教委による豊川 1 遺跡、鯉沼 2 遺跡などの調査が行われたほか、高規格道路日高自動車道の建設に伴う浜厚真 3 遺跡の調査では、187 基のＴピットが検出されている（道埋文 2003）。

平成 12 年にはダム事務所より厚幌ダム建設事業に係わる事前協議書が提出され道教委によってＡ・Ｂ調が開始された。発掘調査は平成 14 年から町教委により継続的に行われ、上幌内モイ遺跡、オニキシベ 2･4･5･6 遺跡、ヲチャラセナイチャシ跡など 7 遺跡の発掘調査を終えている。また平成 24 年度からは道埋文も本事業の発掘調査に入り、平成 24 年度までの 11 年間の調査終了面積は約 113,180 ㎡で全体面積の約 57％の進捗率となっている。

平成 15 年には総延長 24.5㎞に及ぶ厚幌導水路建設事業の事前協議書が北海道開発局より提出され、Ｂ調等は未了箇所があるものの、現在 11 遺跡での要発掘・工事立会調査地点が確認されている。平成 19 年度から発掘調査が開始され、厚真川中流域富里地区のニタップナイ遺跡、富里 2 遺跡、幌内地区の幌内 5・7 遺跡や厚幌 1 遺跡で発掘調査を行った。これらの大規模開発に伴う発掘調査は、平成 28 年秋まで継続し、29 年度に整理業務を終え、ダム事業に係わる一連の埋蔵文化財発掘調査業務を完了する予定となっている。

**（3）歴史時代**

厚真町に係わる最初の記述は、1692（元禄 5）年に書かれた『續々群書類從 蝦夷記』でシャクシャインの戦いにおいて「於多久見具印住處阿津摩ニテ討取ル」というものである（野澤 1692）。

その後、寛政年間(18 世紀末)に八王子千人同心ら数名の和人が浜厚真に移り住むものの定住には至らなかった。近世アツマ場所の産物としては、干鮭や椎茸、シナ縄が記されているが、詳細な記述はなく、紀行文や測量日誌に交通路であった勇払と鵡川間の厚真川河口周辺や千歳と日高間の富里地区の簡単な記述に留まっている。

内陸部まで詳述したものは、松浦武四郎による『戊午安都麻日誌』(松浦・吉田 1962、松浦・高倉 1985)で、安政 5(1857)年 6 月に勇払から厚真川河口を経てトンニカ(現富里)にて 3 泊している。この時、町内にはアツマ(厚真河口)、キムンコタン(現厚和・厚和 1 遺跡)、チケツヘ(現本郷)、トンニカ(現富里)、ニタツナイ(現富里・ニタップナイ遺跡周辺)の 6 ヵ所のコタンが記録されている。この中で比較的規模の大きいキムンコタンやトンニカコタンでは、粟、稗、隠元、蕪などの畑作が盛んで、漆器や刀剣類の宝物が多く、これまでの地域とは別格として記している。しかし直前に襲った厚真川の氾濫によって、畑地のほとんどが流されていることも記されており、かつてより洪水の多い河川であったことが伺える。上流部に関しては聞き取りによるもので、夕張方面への交通路やシカやワシ・タカ類の狩猟に関する記述がある。武四郎の日誌からは、上流域におけるこの時期の集落は存在せず、無人地帯となっていたことがわかり、中世アイヌ文化期から近世アイヌ文化期にかけて厚真川流域における社会・集落構造の変容が分かりつつある。

これらの記録以前のアイヌ文化期については、厚幌ダム湛水地域内等の試掘・発掘調査で確認された上幌内モイ遺跡、オニキシベ 2 遺跡、ヲチャラセナイチャシ跡、富里 2 遺跡、ニタップナイ遺跡、ヲイカルマイ遺跡などのほか、厚和 1 遺跡、幌内 5 遺跡では耕作により近世アイヌ土坑墓が単独で発見されている。

## 2. 遺跡の位置と周辺の環境

### A　地理的環境

遺跡の周辺地域を幌内市街地より厚真川上流域で現存する厚真ダムまでの範囲としたい。この範囲は行政区画上、厚真町字幌内地番であるが、以後、便宜的に「厚幌地区」と称する。厚幌地区の中で比較的大きな支流である鬼岸辺川、ショロマ川がある。分水嶺を介して鬼岸辺川は東方の鵡川水系むかわ町豊田地区へ、本遺跡が所在するショロマ川は分水嶺を越えて石狩川水系夕張川の夕張市滝之上地区へのルートが想定される。この他、ショロマ川との合流点より約 4.8km 上流、厚真ダム左岸の支流メルクンナイ川も鵡川水系むかわ町穂別地区へのルートとして考えられる。厚幌地区は標高約 150～250mの山地に囲まれ、厚真川が浸食開折した谷状の地形の“線状”の地域となっており、遺跡群は流域に形成された河岸段丘上に立地している。厚真川流域の段丘面は上流～中流域まで発達し、厚真川上流域の上幌内モイ遺跡周辺の段丘面を標識として $T_0$～$T_5$ 面に細分されている（出穂 2006)。本流河川面との比高差や支笏、恵庭、樽前の各火山灰の堆積状態から離水時期がわかり、他地域よりも詳細に離水時期を把握することができる。支流域まで含めた詳細な検討はされていないものの、概ね連動しているものと思われる。

本遺跡は夕張山地南端部、厚真川河口から約 35.6km に位置し、厚真川とショロマ川の合流点よりショロマ川上流 430mの右岸に所在している。ショロマ川の水源は直線距離で北北東側約 9.3km、由仁町との境界にある標高約 494m峰を水源とする。南北に約 6.8km にわたる標高約 300m山稜から東向きの半島状に突出した山塊先端部の段丘面 $T_3$(標高約 78.3～83.0m)に形成されている。段丘面は南北に約 60m、東西に約 70mの範囲で概ね南東方向を頂点とする直角三角形状の地形面となっている。南縁部はショロマ川の浸食攻撃面となっており、当段丘面から比高差約 16mの段丘崖となっている。遺跡の立地環境としてショロマ川が開析する沢口にあたり、厚真川との合流点付近の南東方向への眺望が利き、北東に隣接するショロマ 2 遺跡や対岸のショロマ 1 遺跡を望むことができる。遺跡が立地する段丘面の南側には無名の沢が開析し、通年にわたる流水がある。また、本遺跡とショロマ 2 遺跡との間にも小規模な沢地形が形成され、数ヵ所の湧水地点があり、生活利水環境としては好条件と言える。

### B　歴史的環境

厚幌地区には、後期旧石器時代から中近世アイヌ文化期までの時期にわたる 22 遺跡が所在する（図Ⅰ-1 右下）。最上流のイクバンドユクチセ 2 遺跡（J-13-87）は河口より約 37km の地点にあるが、さらに約 1.5 km上流に位置する厚真ダム堤体付近にも遺跡が所在していたという。時期的な特徴として、縄文時代後期初頭から前葉にかけての余市式土器群が各遺跡から出土しており、時期の偏りも見受けられる。また、擦文文化期中期以降中世アイヌ文化期に至るまでの遺跡数も多い。発掘調査が行われた遺跡は厚幌 1 遺跡と上幌内モイ遺跡、オニキシベ 2 遺跡などがあるものの、厚幌地区における先史時代については未だ不明な点が多く、今後の発掘調査に期待される。

### C　松浦武四郎の記録とアイヌ語地名

この地区でのアイヌ文化に係る記録としては、先述の松浦武四郎の記録が最も古い。ヲチャラセナイやカニシユウ（現一里沢遺跡)、ヲニケレベ(現鬼岸辺)、シヨウロマ（現ショロマ)、メルクンナイなどが記載されている。厚真川から鵡川水系、夕張水系への沢に「ル」（路）の付く地名が多く、複数の山越えルートが存在する地域でもある。

シヨロマ（現ショロマ川）も厚真村史では語源として「草ソテツの群生するところ」とあるが、ソ（滝)・ル（路)・マ（泳ぎ渡る）とも読み取れる。明治 29 年発行の地形図には「ショルマ」と記載されており、かつては滝瀬の中を道として馬車で木材や木炭を運び出したこと、明治・大正期の夕張山地への熊狩の記録（厚真村史 1956）から、夕張川水系滝ノ上地区於兎牛（おそうし）へのルートが想定される。現在は「厚真川林道」が敷設されている。これらのルートは厚真川本流と鬼岸辺川との合流点付近で 1 本となり、対岸に位置するヲチャラセナイチャシ跡は早来方面と穂別方面、日高方面、夕張方面への全てのルートが把握できる地点でもある。ヒトやモノの流れにおいて厚幌地区が重要な位置にあったことも容易に想定できる。

ショロマ川流域に関する記述は「西岸川巾五六間、急流峨々たる山の間より落来るとかや。是滝川に成るより号るとかや。」またこの流域について「マタヤツチセ　是冬分鷲、熊等を取に来りし時の小屋」、「ソウ　滝に成て此処に落る。少し此辺より上一面の椴木立に成り」、「ベンケヤツチセ是も猟師の立置処～中略～うしろはユウハリのソウホコマナイのうしろに当るとかや」と 3 つの地名等を書き記している。「ソウホコマナイ」は夕張市滝ノ上地区にある「草木舞沢川」に相当すると思われ、夕張川との合流点付近には滝ノ上チャシ跡が所在している。この他、鷲鷹、熊猟の地域でもあることが記されており、現在でも 1 月～3 月にかけて厚真川とショロマ川との合流付近一帯はオオワシ・オジロワシが数羽ほど飛来、越冬している。

## ３．調査区内の地形と地質（図Ⅰ-4・7～9）

### A　地形

発掘調査区の微地形については、調査区内の地形は狭小な調査区であることから、隣接する地形との関わりが強い。遺跡形成時期の地形面に近い樽前ｂテフラ直下、Ⅲ層上面で計測、作成した等高線図（図Ⅰ-4）を用いて説明する。調査区内は標高 78.3m～83.0mの東向き緩斜面で、本来は舌状に張り出した地形である。南側の林道工事の際に、先端部南側の一部が削り取られている。本段丘面は、フォールユニットの樽前ｄテフラが更新世斜面堆積物を被覆する堆積状態から先述の河岸段丘面 $T_3$ 面に相当する。この様な地形面は、更新世最終氷期に背後の約 30°の急傾斜地からの供給によって形成された可能性が考えられる。旧石器確認調査におけるトレンチでは、この斜面堆積物の層厚を確認するに至らず、最大 1.2m以上の層厚であった（図Ⅰ-8)。

地形面①：標高 83.0m～81.0m、調査区東側の急傾斜地の裾部が尾根状に張り出し、その延長部分が 2 列ほど調査区内西側拡張区の等高線にも表れている。

地形面②：調査区中央部の標高 80.9m～80.2mの等高線は南北に並行し、ほぼ直線状となって

いる。ショロマ川の基本流路方向と合致しており、この下層に埋没した河岸段丘面が存在している可能性がある。

地形面③：調査区東側の標高 79.8～80.1mは等高線の間隔も広く、やや平坦な地形である。地形面②との傾斜角の変換地点に続縄文文化期の土坑墓（ⅢGP-01）が構築されている（図Ⅰ-9）。

地形面④：東側の段丘面先端部の標高 79.8m付近、南側の標高 81m以南は段丘崖上部となっている。南部の段丘崖は沢状の湾入部分あり、調査車両の進入の取付道路を敷設した。東側にはショロマ２遺跡が河岸段丘 $T_2$ 面に所在し、比高差は約 10m程度である。南側は林道を挟んでショロマ川への段丘崖となっている。

**Ｂ　地質（図Ⅰ-7・9）**

本遺跡は耕作や造植林等による近現代の撹乱が殆ど生じておらず、遺跡の遺存状態は極めて良好であった。しかし、本地区内の他の遺跡と比較して、堆積は薄く黒色腐植土の発達も弱い。この条件も起因して、樹木の根による撹乱の影響も大きく、遺構堆積や遺物出土状態の多くに擾乱を確認した。笹根などを伴う表土層も薄いが、近世に降下堆積した樽前ａテフラ、樽前ｂテフラは連続的に堆積している。これらに駒ヶ岳 c2 テフラが挟在する部分もあり、火山灰の堆積状態は他の遺跡とほぼ同じ堆積状態であった。

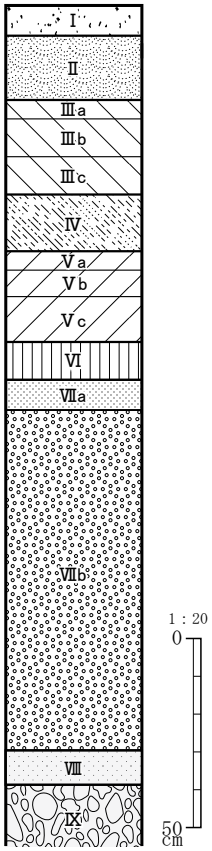
しかし、黒色腐植土のⅢ層やⅤ層の発達は弱く、包含層における厳密な時期的区分は他の遺跡と比べて難しい状態であった。Ⅲ層黒色土は薄いもののⅢｂ層黒色土が安定的に堆積しており、遺物集中等の被覆黒色土の層厚も確認できた。Ⅴ層腐植土層は、特に発達が弱く黒色土として確認できる範囲は少なく、ほとんどが黒褐色から暗褐色の色調で、倒木痕や遺構の窪地に黒色土として堆積していた。張り出した高位段丘面であることから風向風速等の緒環境により、腐植土の発達が弱いものと思われる。

漸移層Ⅵ層は、樽前 d テフラ降下以降、腐植土層発達以前の風成堆積土を主体とし、一部樽前 d1 テフラを包括する色調は褐色系であるものの断面等で露出状態におくと、短時間で乾燥する特徴がある。

樽前 d1 テフラⅦａ層は他地域においてスコリア（岩滓）として認識されており、本地域における降下直後の本層は青灰色スコリア層で 10cm 程度の堆積を観察することができる。この降下直後の堆積状態は、本地域では河岸段丘 $T_2$ 面において再堆積層を被覆した領域にて観察することができる。最も層厚がある樽前 d2 テフラⅦｂ層は、本段丘面においてフォールユニットで平均 1mの堆積である。上層 10～20cm は風化等により粒径を保たず、土壌化している。多くは赤褐色を呈するが、木根やＴピット逆茂木跡の周辺において不規則に白色の粘土化している部分もある。

Ⅷ層、Ⅸ層は更新世堆積物。Ⅷ層は最上層堆積ローム質土で粘性が極めて強い。本層の上位には近隣の苫小牧市や千歳市では黒色土が発達するが、本地域では未発達で暗紫色を呈する。本遺跡では、炭化物を微量に含む程度で色調の変化も見られない。

Ⅸ層は斜面堆積物と思われる。不淘汰な砂粒、シルト岩の角礫を主体とし、極少量の砂岩亜角礫を含む。ローム質土と互層となっている。互層の層境は斑状となっており、水流による互層（ラミナ）とは様相を異なっている。類似堆積物は上幌内モイ遺跡の段丘面 $T_3$ 面において後期旧石器包含層を被覆する「ユニットⅧ」（出穂 2006）があり、背後に急傾斜地を有し河岸段丘堆積物を被覆する堆積環境も共通していることから、本層も斜面堆積層と判断した。




Ⅰ層：表土 7.5YR2/1 黒色　層厚10cm前後

Ⅱ層：樽前ｂテフラ(Ta-b) 2.5YR7/3 浅黄色　1667年降下。層厚20cm前後。

Ⅲ層：黒色腐植土

ａ；砂質シルト 7.5YR2/1 黒色

Ⅱ層を斑状に含む。層厚1cm前後。やや赤みあり。近世初頭遺物包含層。

ｂ；シルト 10YR1.7/1 黒色

やや粘性あり。層厚5cm前後。上位から中位が中近世アイヌ文化期遺物包含層。下位が擦文文化期包含層。Ⅲｂ層とⅢｃ層との層境に白頭山-苫小牧火山灰(B-Tm シルト質降下火山灰 10c前半～中頃)が1～2cm部分的に堆積する。

ｃ；砂質シルト 10YR2/2 黒褐色　層厚10cm前後。縄文晩期後葉～続縄文期初頭包含層。

Ⅳ層：樽前ｃテフラ(Ta-c) 10YR6/6 明黄褐色　B.P.2,500～3,000年降下。層厚15cm前後。

Ⅴ層：黒色腐植土

ａ；シルト 10YR3/2 黒褐色 層厚3cm前後。縄文晩期中葉までの遺物包含層。

ｂ；シルト 10YR1.7/1 黒色 層厚は5～10cm前後。縄文中・後期遺物包含層。

ｃ；シルト 10YR2/3 黒褐色 層厚は5～10cm前後。縄文前・中期遺物包含層。

Ⅵ層：漸移層 2.5YR4/6 褐色 暗褐色シルト。層厚10cm前後。縄文早期の遺物包含層。

Ⅶ層：樽前dテフラ(Ta-d) B.P.8,000年前後降下。

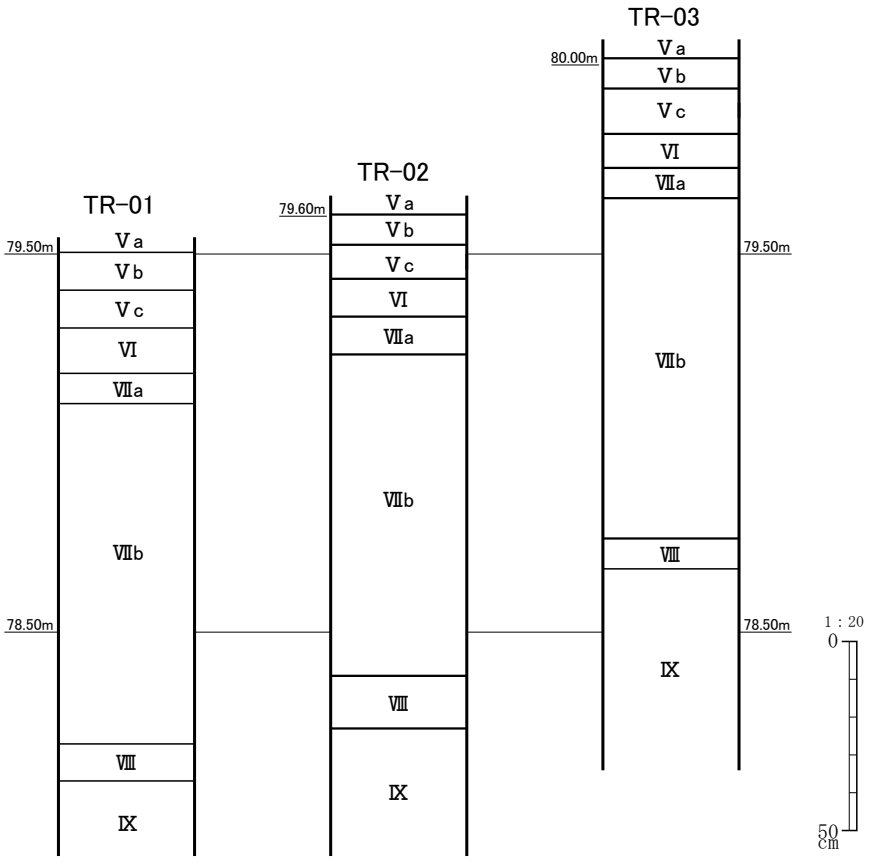
ａ；樽前d1テフラ（Ta-d1）5G4/1 暗緑灰色 細礫質降下スコリア（ø5↓）層厚8cm前後。

ｂ；樽前d2テフラ（Ta-d2）5YR4/8 赤褐色 中礫質降下スコリア 層厚90cm前後。部分的に水成風化による粘土化。

Ⅷ層：粘土質シルト 10YR7/3 にぶい黄褐色 粘性非常に強い。しまり弱い。

Ⅸ層：斜面堆積物 10YR7/2 灰黄色 角礫砂礫層主体で粘土質シルト層と互層。

図Ⅰ-7 基本土層柱状図




図Ⅰ-8 旧石器調査トレンチ土層柱状図

図Ⅰ-9 調査区土層断面図

# 第Ⅱ章　Ⅲ層の調査

本章で取り扱う遺構及び遺物は、Ta-b テフラ層下の黒色腐植土(Ⅲ層)より出土したものである。

遺跡はショロマ川右岸より約 20m高台の標高約 78.3m～83mの段丘上に立地しており、東向きの緩やかな傾斜を示している。発掘区は AP-19 と AU-18 グリッド付近を結んだラインより東側 700 ㎡を当初計画発掘区として調査し、西側 445 ㎡を拡張区として調査を行った。調査は重機で表土層から Ta-b テフラまで除去し、Ⅲ層上面で一度精査を行い、グリッド単位に掘開調査した。

集中区の名称は整理業務で付したが、これらの遺構・遺物群は調査段階から検出層位より同時期の可能性を考慮していた。

当初計画発掘区からの遺構は、擦文文化期の礫集中と、続縄文文化期の合葬された人骨を伴う土坑墓が確認された。拡張区からは擦文文化期の焼土、土器集中、礫集中、鉄器集中と、縄文時代晩期中葉以降～中世アイヌ文化期以前の道跡が確認された。Ⅲ層出土遺物は調査区全体で土器 149 点、剥片石器 129 点、礫石器 39 点、剥片類 71 点、礫 1,060 点、鉄器（甲冑製品ほか）139 点の合計 1,587 点が出土している。（工藤）

表Ⅱ-1　Ⅲ層遺構群一覧表

| 遺構名 | | 時期 | 規模(cm) | | | グリッド | 層位 | 付属・関連遺構 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 長軸 | 短軸 | 深さ/厚さ | | | | |
| 集中区1 | ⅢF-01 | 擦文文化期 | 140 | 64 | 9 | AQ-20 | ⅢbL | | |
| | ⅢPB-01 | 擦文文化期 | 38 | 30 | － | AP-20 | ⅢbL | | |
| | ⅢSB-03 | 擦文文化期 | 115 | 40 | － | AQ-19・20 | ⅢbL | | |
| ⅢF-02 | | 擦文文化期 | 94 | 58 | 9 | AU-20・21 | ⅢbL | | |
| ⅢSB-01 | | 擦文文化期 | 335 | 313 | － | AR-17 | ⅢbL | | |
| ⅢSB-02 | | 擦文文化期 | 190 | 86 | － | AQ-18 | ⅢbL | | |
| IPB-01 | | 擦文文化期 | 168 | 101 | － | AT-18 | ⅢbL | | 甲冑製品出土 |
| ⅢGP-01 | | 続縄文文化期 | 185 | 166 | 126 | AQ-15<br>AR-15 | Ⅲc | 柱穴4 | 合葬墓(3体) |
| ⅢR-01 | | 縄文時代晩期中葉以降～中世アイヌ文化期以前 | 1680 | 58 | 10 | AT-19～21<br>AU-18・19 | Ⅲc | | |

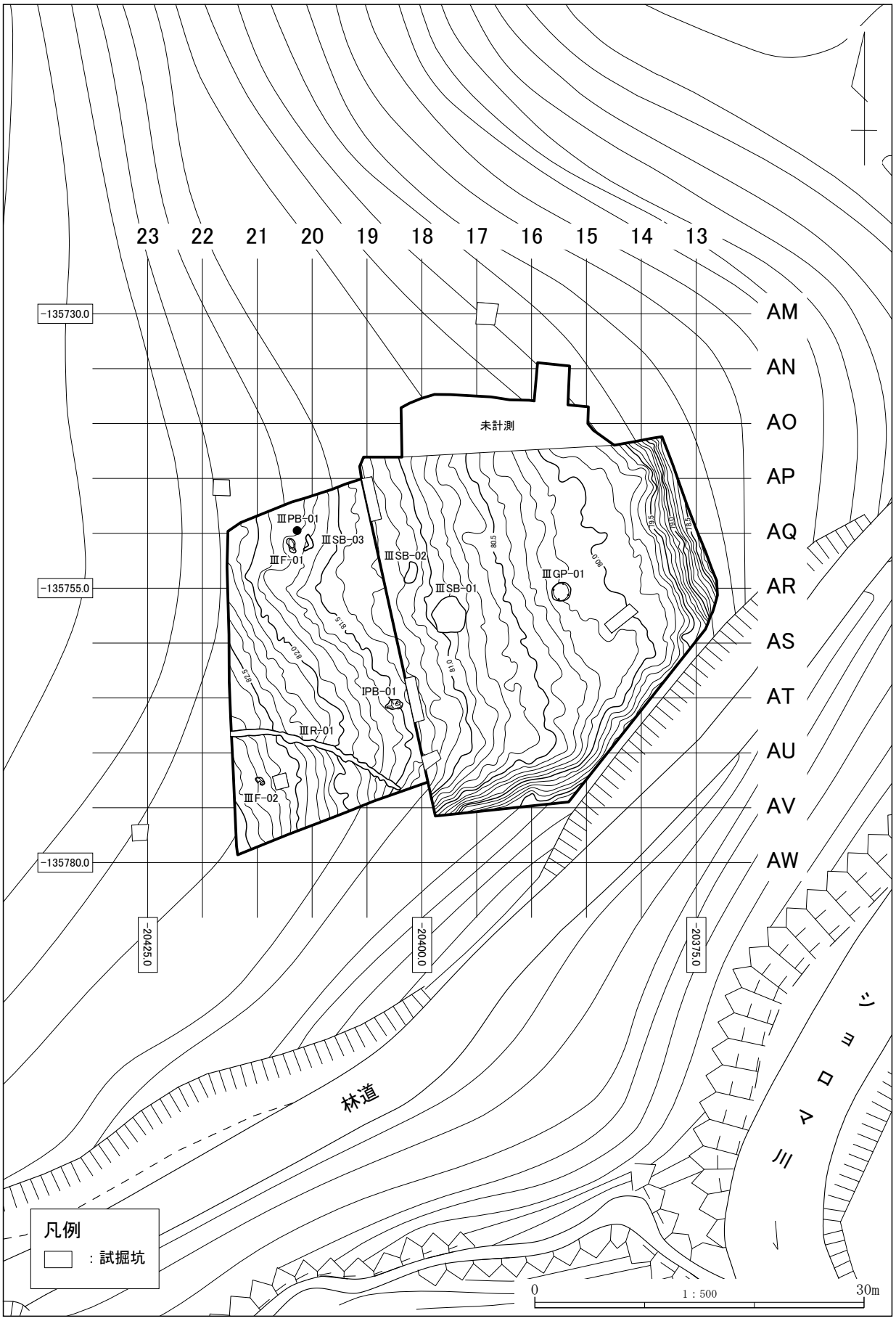
## 第１節　集中区

拡張区北側の標高 81.8m付近より、礫集中を検出し、周りを精査したところ焼土及び土器集中を確認したため、この範囲を遺構検出の集中区として据えて総括にて記述する。

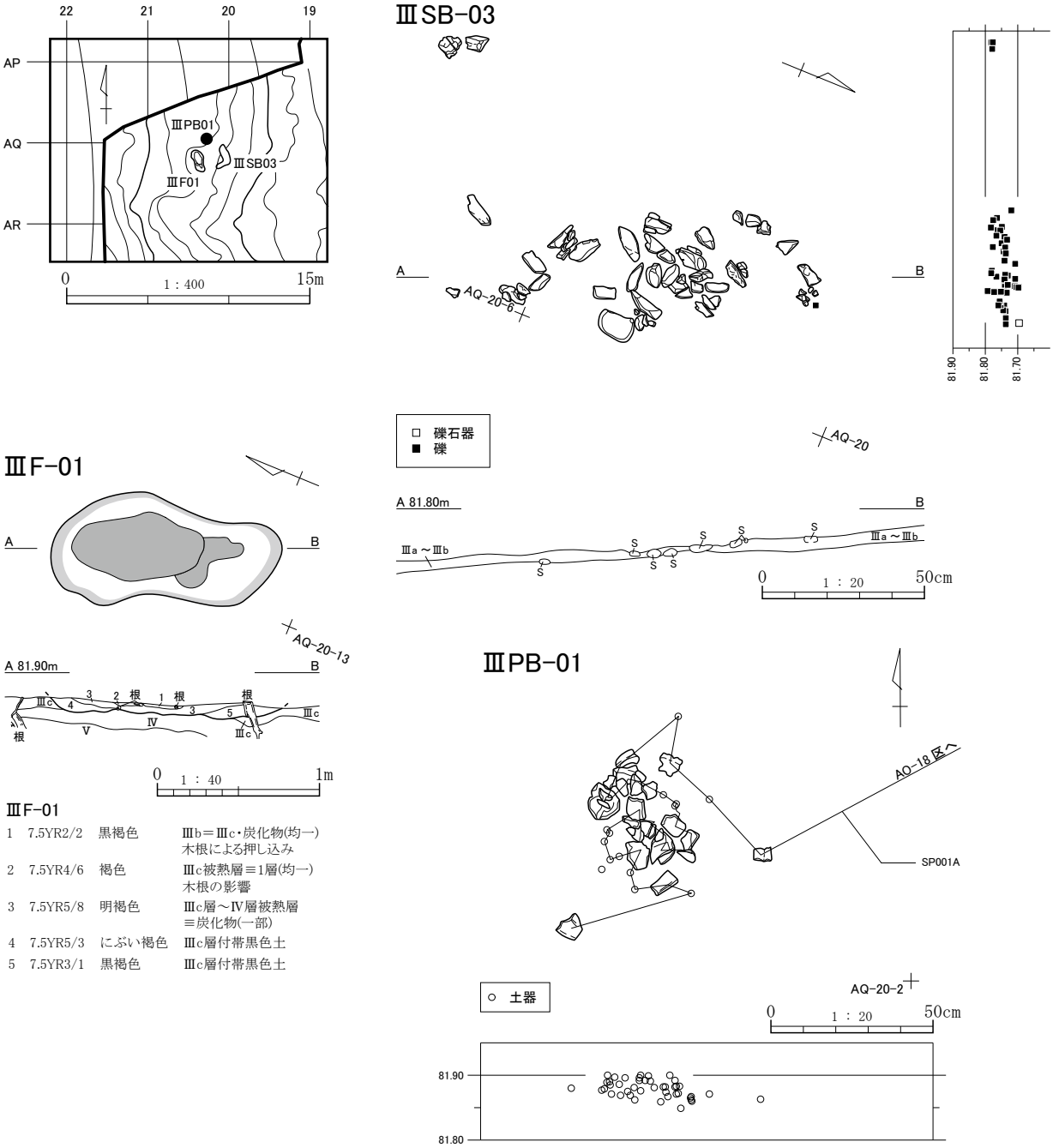
### １．焼土　ⅢF-01（図Ⅱ-2　図版 2-2・5）

位置：AQ-20　層位：Ⅲb 層下位　規模：140×64×9cm　平面形：長楕円形

**確認・調査**：ⅢSB-03 を調査中、西側で弱い被熱層を検出した。周囲は現代の木根跡があり、根を切断して平面形の確認を行った。平面形は長楕円形で、Ⅲc 層上面に被熱層と炭化物が、周囲には同心円状の付帯黒色土が認められた。検出写真は焼土単体で撮影した後、同集中区内の遺構と合わせて検出状態の撮影を行っている。焼土は平面形の図化後にトレンチを設定し断面の記録を行い調査終了としている。


23
22
21
20
19
18
17
16
15
14
13
AM
AN
AO
AP
AQ
AR
AS
AT
AU
AV
AW
-135730.0
-135755.0
-135780.0
-20425.0
-20400.0
-20375.0
未計測
ⅢPB-01
ⅢSB-03
ⅢF-01
ⅢSB-02
ⅢSB-01
ⅢGP-01
IPB-01
ⅢR-01
ⅢF-02
林道
ショロマ川
凡例
：試掘坑
0
1：500
30m

図Ⅱ-1　Ⅲ層遺構配置図



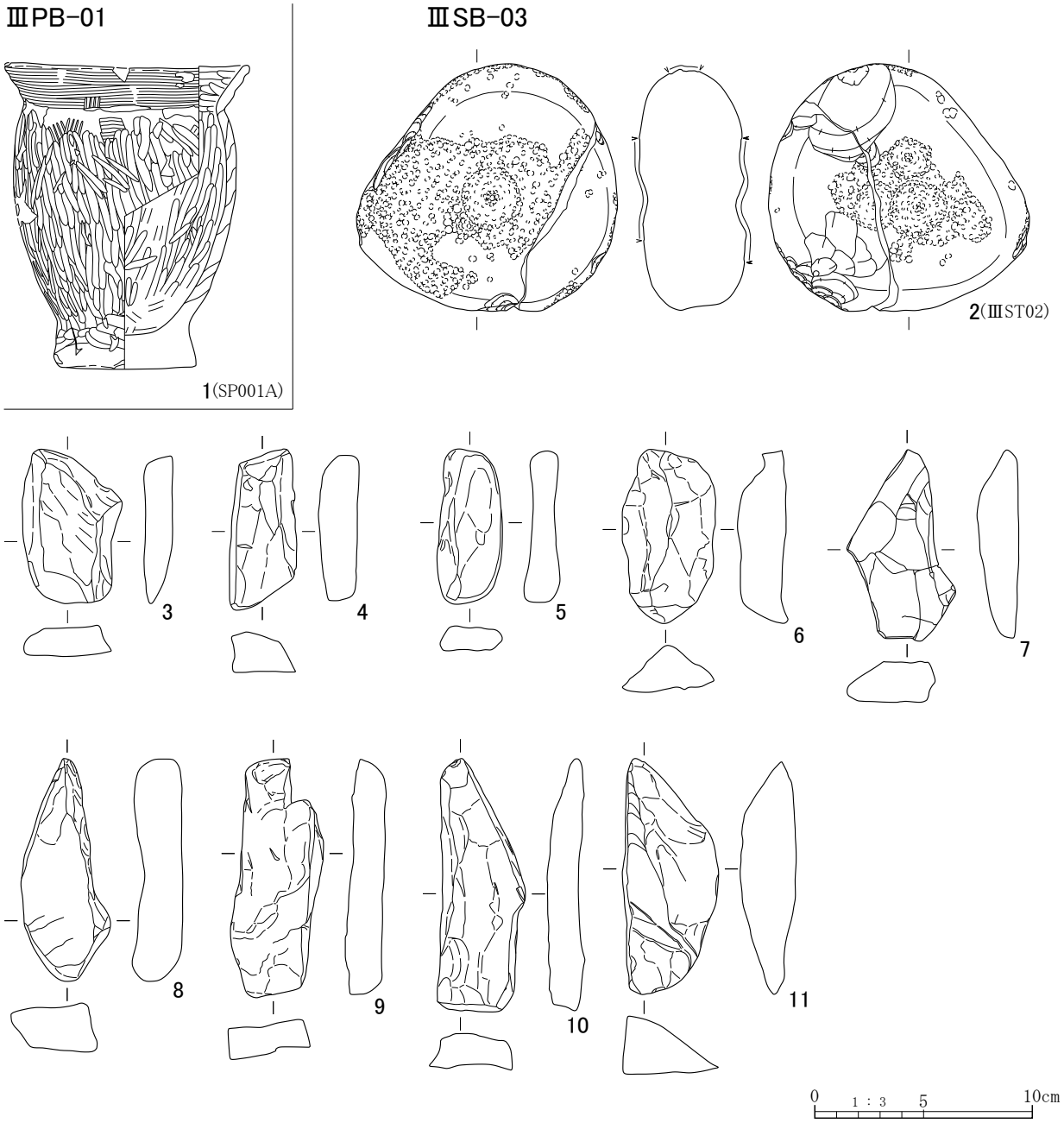

ⅢF-01

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 7.5YR2/2 | 黒褐色 | Ⅲb＝Ⅲc・炭化物(均一)<br>木根による押し込み |
| 2 | 7.5YR4/6 | 褐色 | Ⅲc被熱層≡1層(均一)<br>木根の影響 |
| 3 | 7.5YR5/8 | 明褐色 | Ⅲc層～Ⅳ層被熱層<br>≡炭化物(一部) |
| 4 | 7.5YR5/3 | にぶい褐色 | Ⅲc層付帯黒色土 |
| 5 | 7.5YR3/1 | 黒褐色 | Ⅲc層付帯黒色土 |

図Ⅱ-2　集中区１平面図及び関連遺構

表Ⅱ-2　ⅢF-01属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 遺構名 | グリッド | 層位 | 平面形 | 規模(cm) | | | 灰・骨片の有無 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 長軸 | 短軸 | 厚さ | | |
| Ⅱ-2 | － | ⅢF-01 | AQ-20 | ⅢbL | 長楕円形 | 140 | 64 | 9 | 無 | |




図Ⅱ-3　集中区１関連遺構出土遺物

表Ⅱ-3　ⅢPB-01出土土器属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 個体名称 | 分類 | 遺構名/グリッド | 点数 | 部位 | 器形等 | 文様 | 胎土 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口縁－口唇/胴部/底側面－変換点－底面 | 口唇－口縁－内面/胴部－内面/底側面－底面－内面 | | |
| Ⅱ-3-1 | 18-1-1 | SP001A | ⅦB3 | ⅢPB-01 | 63 | 口縁部～底部 | 「く」の字に外へ開く平縁-丸/中ほどにやや膨らみをもって底部に向かってすぼまる/平底・張り出し高台状の底部 | ミガキ-横位ナデ・一部ハケメ-横位ミガキ/縦位ハケメ後縦位ミガキ-縦位ミガキ/底面・ミガキ-ミガキ+沈線?-ミガキ | 砂粒微量 | |
| | | | | AO-18 | 1 | | | | | |

## 表Ⅱ-4　ⅢSB-03出土礫石器属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 個体名称 | 遺物番号 | 遺物名 | 分類 | 遺構名 | 層位 | 計測値(mm) | | | 重量(g) | 材質 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 長軸 | 短軸 | 厚さ | | | |
| Ⅱ-3-2 | 18-2 | ⅢST02 | 1090 | たたき石 | ⅢA | ⅢSB-03 | ⅢbL | 119.8 | 111.2 | 50.5 | 843.0 | Sa. | 完形、接(1062) |

## 表Ⅱ-5　ⅢSB-03出土礫属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 個体名称 | 遺物番号 | グリッド | 層位 | 状態 | 計測値(mm) | | | 長短比 | 重量(g) | 被熱 | 材質 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 長軸 | 短軸 | 厚さ | | | | | |
| Ⅱ-3-3 | 18-3 | - | 1110 | AQ-20 | ⅢbL | 完形 | 69.8 | 28.3 | 16.6 | 2.47 | 40.9 | - | Sa. | |
| Ⅱ-3-4 | | - | 1083 | AQ-20 | ⅢbL | 完形 | 67.2 | 30.8 | 18.4 | 2.18 | 48.3 | - | Mud. | |
| Ⅱ-3-5 | | - | 1114 | AQ-20 | ⅢbL | 完形 | 71.0 | 45.1 | 16.5 | 1.57 | 45.2 | - | Mud. | |
| Ⅱ-3-6 | | - | 1097 | AQ-20 | ⅢbL | 完形 | 79.9 | 42.2 | 23.0 | 1.89 | 61.8 | - | Sa. | |
| Ⅱ-3-7 | | ⅢS008 | 1106 | AQ-20 | ⅢbL | 完形 | 86.7 | 53.4 | 19.5 | 1.62 | 64.7 | - | Mud. | 接(1105、1092) |
| Ⅱ-3-8 | | - | 1094 | AQ-20 | ⅢbL | 欠損 | 102.3 | (37.3) | 22.1 | - | (89.0) | - | Sa. | |
| Ⅱ-3-9 | | - | 1080 | AQ-20 | ⅢbL | 完形 | 107.5 | 36.9 | 18.3 | 2.91 | 84.6 | - | Mud. | |
| Ⅱ-3-10 | | - | 1095 | AQ-20 | ⅢbL | 欠損 | 108.3 | (43.4) | 25.2 | - | (94.5) | - | Mud. | |
| Ⅱ-3-11 | | - | 1089 | AQ-20 | ⅢbL | 完形 | 115.0 | 37.1 | 15.3 | 3.10 | 73.3 | - | Mud. | |
| - | | ⅢS009 | 1101 | AQ-20 | ⅢbL | 完形 | 77.8 | 49.1 | 23.2 | 1.58 | 83.9 | - | Mud. | 接(1102-1・2、1103) |
| - | | ⅢS010 | 1077 | AQ-20 | ⅢbL | 完形 | 84.9 | 42.2 | 19.8 | 2.01 | 55.9 | - | Mud. | 接(1078) |
| - | | ⅢS011 | 1086 | AQ-20 | ⅢbL | 完形 | 99.0 | 30.2 | 25.7 | 3.28 | 56.4 | - | Mud. | 接(1086-1・3) |
| - | | - | 1120 | AQ-20 | ⅢbL | 欠損 | (65.9) | 36.6 | 14.7 | - | (30.8) | - | Mud. | |
| - | | ⅢS019 | 1099 | AQ-20 | ⅢbL | 完形 | 109.9 | 38.0 | 31.9 | 2.89 | 118.2 | - | Mud. | 接(1100) |
| - | | ⅢS018 | 1111 | AQ-20 | ⅢbL | 完形 | 102.6 | 39.7 | 32.7 | 2.58 | 104.3 | - | Sa. | 接(1121) |
| - | | - | 1085 | AQ-20 | ⅢbL | 完形 | 104.4 | 39.5 | 32.9 | 2.64 | 116.2 | - | Sa. | |
| - | | - | 1113 | AQ-20 | ⅢbL | 欠損 | 97.8 | (47.0) | 26.4 | - | (119.5) | - | Sa. | |
| - | | ⅢS014 | 1082 | AQ-20 | ⅢbL | 完形 | 85.0 | 33.5 | 28.7 | 2.54 | 94.5 | - | Mud. | 接(1082-1～3) |
| - | | ⅢS013 | 1107 | AQ-20 | ⅢbL | 完形 | 83.7 | 44.0 | 11.1 | 1.90 | 40.1 | - | Mud. | 接(1108、1109) |
| - | | ⅢS015 | 1117 | AQ-20 | ⅢbL | 完形 | 76.2 | 31.9 | 26.8 | 2.39 | 66.0 | - | Mud. | 接(1118) |
| - | | - | 1096 | AQ-20 | ⅢbL | 完形 | 72.9 | 47.7 | 24.3 | 1.53 | 81.5 | - | Sa. | |
| - | | ⅢS017 | 1116 | AQ-20 | ⅢbL | 完形 | 72.4 | 36.8 | 26.2 | 1.97 | 70.7 | - | Mud. | 接(1125-1～3、1116-2・3) |
| - | | - | 1088 | AQ-20 | ⅢbL | 完形 | 70.5 | 41.9 | 17.6 | 1.68 | 66.0 | - | Sa. | |
| - | | - | 1084 | AQ-20 | ⅢbL | 欠損 | 82.9 | 38.5 | (14.4) | - | (56.4) | - | Sa. | |
| - | | - | 1091 | AQ-20 | ⅢbL | 欠損 | (49.8) | (30.1) | 22.7 | - | (28.7) | - | Sa. | |
| - | | - | 1112 | AQ-20 | ⅢbL | 欠損 | (28.6) | (25.0) | (13.1) | - | (9.8) | - | Mud. | |
| - | | ⅢS016 | 1087-1 | AQ-20 | ⅢbL | 欠損 | (49.6) | (32.0) | 25.3 | - | (36.6) | - | Mud. | 接(1087-2) |
| - | | - | 1104 | AQ-20 | ⅢbL | 完形 | 52.4 | 35.7 | 10.9 | 1.47 | 18.1 | - | Mud. | |
| - | | - | 1079 | AQ-20 | ⅢbL | 欠損 | (45.5) | (28.6) | (9.5) | - | (8.1) | - | Mud. | |
| - | | - | 1081 | AQ-20 | ⅢbL | 欠損 | (43.1) | (29.8) | (12.8) | - | (12.5) | - | Mud. | |
| - | | - | 1119 | AQ-20 | ⅢbL | 欠損 | (38.3) | (37.6) | (9.5) | - | (12.3) | - | Mud. | |
| - | | - | 1115 | AQ-20 | ⅢbL | 欠損 | 48.6 | (20.8) | (12.5) | - | (11.5) | - | Mud. | |
| - | | - | 1104-2 | AQ-20 | ⅢbL | 欠損 | (32.0) | (21.2) | (7.4) | - | (4.4) | - | Mud. | |
| - | | - | 1087-2 | AQ-20 | ⅢbL | 欠損 | 43.0 | (28.6) | (14.5) | - | (20.5) | - | Mud. | |
| - | | - | 1104-3 | AQ-20 | ⅢbL | 欠損 | (34.0) | (16.9) | (5.7) | - | (2.8) | - | Mud. | |
| - | | - | 1104-4 | AQ-20 | ⅢbL | 欠損 | (20.8) | (13.4) | (3.3) | - | (0.9) | - | Mud. | |
| - | | - | 1086-2 | AQ-20 | ⅢbL | 欠損 | (30.1) | (18.8) | (11.2) | - | (6.7) | - | Mud. | |
| - | | - | 1093 | AQ-20 | ⅢbL | 欠損 | (27.1) | (25.2) | (10.0) | - | (4.1) | - | Mud. | |
| - | | - | 1098 | AQ-20 | ⅢbL | 欠損 | (34.2) | (25.5) | (14.5) | - | (7.3) | - | Mud. | |
| - | | - | 1120 | AQ-20 | ⅢbL | 欠損 | (29.0) | (24.1) | 8.4 | - | (5.7) | - | Mud. | |
| - | | - | 1122-1 | AQ-20 | ⅢbL | 欠損 | (21.9) | (19.9) | (8.6) | - | (3.4) | - | Mud. | |
| - | | - | 1122-2 | AQ-20 | ⅢbL | 欠損 | (22.2) | (15.4) | (6.8) | - | (2.4) | - | Mud. | |
| - | | - | 1123-2 | AQ-20 | ⅢbL | 欠損 | (18.3) | (16.4) | (9.1) | - | (3.5) | - | Mud. | |
| - | | - | 1123-3 | AQ-20 | ⅢbL | 欠損 | (18.0) | 17.8 | 7.4 | - | (2.5) | - | Mud. | |
| - | | - | 1123-4 | AQ-20 | ⅢbL | 欠損 | (22.8) | (15.1) | (7.2) | - | (2.7) | - | Mud. | |
| - | | - | 1123-5 | AQ-20 | ⅢbL | 欠損 | (17.8) | (8.1) | (5.8) | - | (0.9) | - | Mud. | |
| - | | - | 1124 | AQ-20 | ⅢbL | 欠損 | (27.7) | (20.2) | (10.0) | - | (4.5) | - | Mud. | |
| | | | | | | | | | | 合計 | 1,972.4 | | | |
| | | | | | | 平均値 | 84.4 | 39.2 | 21.9 | 2.21 | 69.5 | | | |
| | | | | | | | | | | | 完形20点 | | | |

**２．土器集中　ⅢPB-01**（図Ⅱ-2・3-1　図版 2-3・5・18-1-1）

位置：AP-20　層位：Ⅲb 層下位　規模：38×30cm　出土点数：土器 69 点

**確認・調査：** ⅢSB-03 を調査中、北西側の木根跡付近で擦文土器が少量出土した。周辺を掘り下げたところ、小破片だが口縁部や底部片が認められたため、1 個体の小型の土器であると考えられ、土器集中として分布範囲の確認を行った。微細図については比較的大型の破片のみを記録し、その他は座標点のみで取り上げている。本集中も同集中区内と合わせて出土状態の記録を行い調査を終了した。（奈良）

**出土遺物**（1）：擦文文化期後期に属する土器（SP001A）で、器形は口縁部が「く」の字状に外へ開き、胴部の中ほどにやや膨らみを持ち、底部に向かいすぼむ平底張り出しを有する小型甕形土器である。内面は口縁部に横位の入念なミガキ調整が施されている。口唇部ミガキ、口縁部の器面にはハケメ後横位ナデ調整されている。胴部には縦位ハケメ調整の後、縦位ミガキ調整が入念に施される。底面には沈線 1 条がみられるが、文様として描かれたものかどうか不明である。入念なミガキ調整が施されている。（長谷川）

**３．礫集中　ⅢSB-03**（図Ⅱ-2・3-2～11　図版 2-4・5・18-1-2・3）

位置：AQ-19・20　層位：Ⅲb 層下位　規模：115×40cm　出土点数：石器 1 点、礫 69 点

**確認・調査**：Ⅲb 層を掘り下げると、調査区北側で棒状礫が比較的まとまって出土した。拡張範囲ではⅢa 層を掘り下げた段階で、遺物自体の出土が僅少であったため、礫のまとまりから礫集中を想定し、長軸上にベルトを設定し平面分布の確認を行った。ベルトは礫集中の基底面と被覆する黒色土の厚さを確認する目的で設定し､断面図を作成した後､除去して検出写真の記録を行った。この際、北西側で擦文土器の小破片、西側で焼土を同一層位で検出しているため、これらを同時期の所産と考え、合わせて検出写真等の記録を行っている。礫集中は出土状態の微細図の記録と座標点による取り上げを行って調査終了とした。（奈良）

**出土遺物**（2）：たたき石のⅢA 類に属するもので、ⅢSB-03 の東側と AQ-20 グリッド出土が接合した。扁平な不整円形礫を用い、両面中央に敲打による窪みと周縁の一部に敲打痕を残している。礫は 69 点あり、接合により 47 個体となった。そのうち完形あるいは略完形の 9 点を掲載した（図Ⅱ-3-3～11、図版 18-3)。礫は棒状のものがほとんどである。石材別の比率では泥岩が 37 個体 79%で、残りを砂岩で占めている。礫の総重量は 1,334.0ｇである。

（工藤）

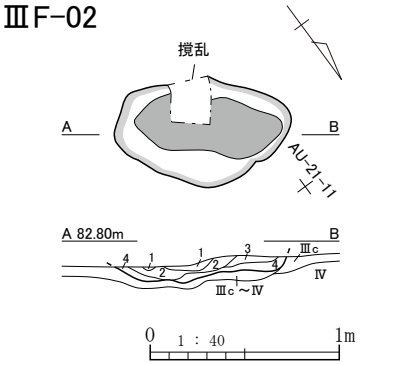
## 第 2 節　焼土

第 1 節の集中区に記載したⅢF-01 を除く、検出焼土について述べる。

**ⅢF-02**（図Ⅱ-4　図版 3-1）

位置：AU-20・21　層位：Ⅲb 層下位　規模：94×58×9cm　平面形：楕円形

**確認・調査**：拡張区Ⅲc 層精査中、焼骨片と被熱層を検出した。平面形は楕円形で、Ⅲc 層上面に被熱層が、周




ⅢF-02

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 10YR2/2 | 黒褐色 | Ⅲb≡焼骨片(均一)<br>西側 木根による撹乱 |
| 2 | 7.5YR5/8 | 明褐色 | Ⅲc層 強い被熱層≡焼骨片(均一) |
| 3 | 7.5YR4/6 | 褐色 | Ⅲc層 弱い被熱層 |
| 4 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | Ⅲc層 付帯黒色土 |

**図Ⅱ-4　ⅢF-02 平面及び断面図**

囲にはほぼ同心円状に付帯黒色土が認められた。平面図化後、トレンチを設定し断面の記録を行い調査終了とした。なお、焼土を採取しフローテーションを行ったところ、陸棲哺乳類の微細な焼骨片を 1.5g 検出した。（工藤）

表Ⅱ-6　ⅢF-02属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 遺構名 | グリッド | 層位 | 平面形 | 規模(cm) | | | 灰・骨片の有無 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 長軸 | 短軸 | 厚さ | | |
| Ⅱ-4 | 3-1 | ⅢF-02 | AU-20・21 | ⅢbL | 楕円形 | 94 | 58 | 9 | 焼骨片微量 | |

## 第 3 節　礫集中

礫集中は調査区全体のⅢ層調査で 3 ヵ所確認している。分布範囲はⅢ層遺構配置図（図Ⅱ-1）で見るように調査区中央付近の AR-17 グリッドにⅢSB-01 があり、北西方向の緩斜面上方へⅢSB-02 と集中区に位置するⅢSB-03 が帯状の配列で検出している。

以下、第 1 節の集中区に記載したⅢSB-03 を除く、礫集中について述べる。

**ⅢSB-01**（図Ⅱ-5-1・2　図版 3-2・3・18-2-1・2・19-1）

位置：AR-17　層位：Ⅲb 層下位　規模：335×313cm

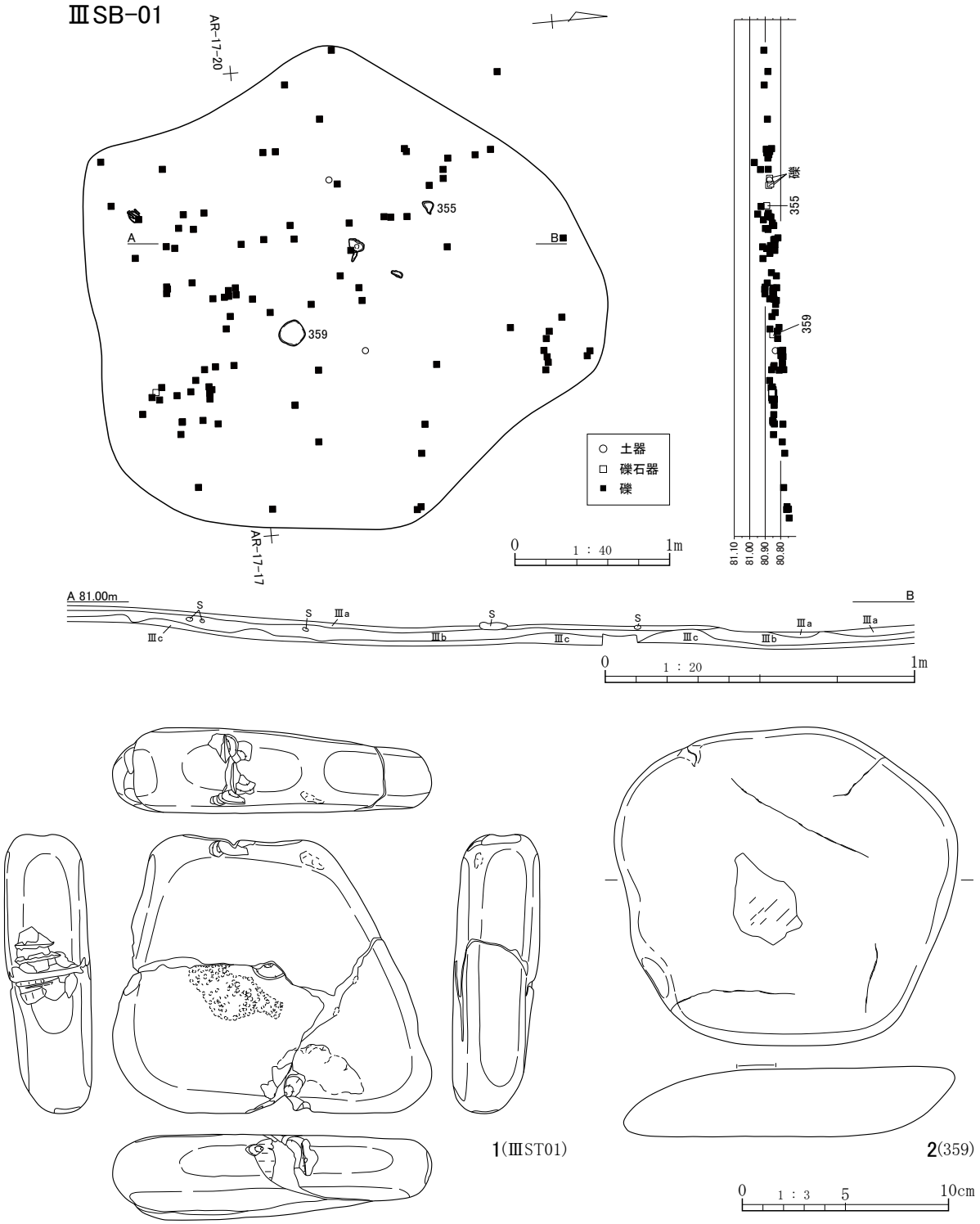
出土点数：土器 2 点、石器 4 点、剥片類 1 点、礫 119 点

**確認・調査**：Ⅲ層上面を精査中に線条痕のある板状礫と数点の礫片を検出した。礫集中として被覆堆積土層観察用のベルトを十字に設定し、隣接してトレンチを掘開した。その後、礫集中の範囲確認のためⅢb 層下位まで周囲を掘り下げた。Ⅲb 層調査時に被熱礫と炭化物が認められたため、土壌サンプルを回収し焼土の存在も考慮したが確認できなかった。本礫集中の中央付近からⅦ群土器 2 点が出土したことから擦文文化期の礫集中と想定したが、Ⅲ層黒色土の層厚自体が薄く、検出層位からの厳密な判断をしかねた。土層断面を記録したのち、土壌を採取しながら周囲を掘り下げ範囲を確認し、検出状態の写真撮影と比較的大きな礫のみ微細図の作成を行い、位置を記録し遺物を取り上げ調査終了とした。採取した土壌のフローテーションを行った結果、ブドウ、クルミ、キハダなどの野生種の炭化種子をやや多く回収した（第Ⅳ章第 1 節参照）。

**出土遺物**（1・2）：土器は擦文文化期後期に属する中型甕形の胴部片で AR-16 グリッド他から出土し、復元されたものに接合しているので、ここでは記述を省略する（図Ⅱ-17-4）。礫は細片が主体で、うち被熱礫が 12 点ある。石材は泥岩が圧倒的に主体で、完形及び略完形の礫 3 点のうち 1 点は棒状を呈している。

**たたき石**（1）：ⅡA3 類に属するもので、3 点が接合し、そのうち 2 点が本礫集中の北西側から、もう 1 点が AQ-16 グリッドのⅢb 層下位から出土している。隅丸台形状の礫を素材としたもので、表面の中央近くに敲打痕を有している。側縁 3 ヵ所に金属製工具によると思われる裁断を 2～5 回試みた加工痕が筋状に残っている。そのうち、2 ヵ所の加工痕から破断しており、3 つの破片に損壊したと考えられる。なお、接合した破片 2 点は被熱している。

**線条痕のある礫**（2）：礫集中の中央部から出土した。光沢のある扁平礫の表面中央に微細な線条痕が密にある。（工藤）




図Ⅱ-5　ⅢSB-01 平面及び断面図・出土礫石器

**ⅢSB-02**（図Ⅱ-6-1～9　図版 3-4・5・18-2-3・4・19-2）

位置：AQ-18　層位：Ⅲb 層下位　規模：190×86cm　出土点数：石器 2 点、鉄器 1 点、礫 54 点

**確認・調査：** Ⅲb 層精査中、礫のまとまりを確認した。周囲を精査したところ、刀子が出土したため、それを通るベルトを設定し土層断面を記録した。周囲を掘り下げ範囲確認後、写真撮影・微細図作成を行い、位置を記録し遺物を取り上げて調査終了とした。

**出土遺物**（2～9）： 礫は細片が多く、完形及び略完形では、棒状が多い。被熱礫は完形及び略完形の 7 点（3～9）中に 4 点みられ、ほかに黒色物質が付着している礫（9）が 1 点出土した。石材は砂岩が主体を占めている。

**刀子**（1）： 平棟平造の両刃両区で、刀身の中ほどから切先側を欠いている。茎部は断面方形で、目釘穴はなく 63mm ある。本資料は鉄器集中 IPB-01 出土の切先片と棟の厚さと断面形、メタル本体の残存状態、欠損部位の形態的な共通性から同一個体と思われる（道埋文センター　三浦正人氏・田口尚氏のご教示による）。

**たたき石**（2）： たたき石 2 点が出土しているが、ⅠA1 類に属するものを掲載した。刀子に接して南側から出土し、扁平な楕円形礫の中央に敲打による窪みと潰れが認められる。　（工藤）

**表Ⅱ-7　ⅢSB-01出土礫石器属性表**

| 挿図番号 | 図版番号 | 個体名称 | 遺物番号 | 遺物名 | 分類 | 遺構名 | 層位 | 計測値(mm) | | | 重量(g) | 材質 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 長軸 | 短軸 | 厚さ | | | |
| Ⅱ-5-1 | 18-1 | ⅢST01 | 357 | たたき石 | ⅡA3 | ⅢSB-01 | ⅢbL | 155.6 | 135.3 | 40.7 | 1,160.0 | Sa. | 接(525、355) |
| Ⅱ-5-2 | 18-2 | - | 359 | 線条痕のある礫 | - | ⅢSB-01 | ⅢbL | 167.1 | 153.9 | 32.0 | 1,525.0 | Bs. | |

**表Ⅱ-8　ⅢSB-01出土礫属性表（1）**

| 挿図番号 | 図版番号 | 個体名称 | 遺物番号 | グリッド | 層位 | 状態 | 計測値(mm) | | | 長短比 | 重量(g) | 被熱 | 材質 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 長軸 | 短軸 | 厚さ | | | | | |
| - | 19-1 | ⅢS001 | 360 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (69.8) | 31.4 | 29.6 | - | (70.2) | - | Sa. | 接 (303-1、312) |
| - | | - | 356 | AR-17 | ⅢbL | 完形 | 80.7 | 34.6 | 25.7 | 2.33 | 71.8 | - | Sa. | |
| - | | - | 358 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (69.5) | (22.2) | 7.5 | - | (15.3) | - | Mud. | |
| - | | - | 325 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (52.5) | 26.9 | 27.9 | - | (40.2) | - | Sa. | |
| - | | ⅢS026 | 257 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (46.1) | (41.6) | 15.1 | - | (22.3) | - | Mud. | 接(257-1～7) |
| - | | - | 287 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (48.1) | (36.1) | 15.2 | - | (25.7) | - | Mud. | |
| - | | - | 252 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | 45.1 | (20.8) | 12.8 | - | (9.9) | - | Mud. | |
| - | | ⅢS027 | 281-2 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | 31.6 | (31.7) | 20.3 | - | (22.3) | - | Mud. | 接(262、263、265、272、282) |
| - | | ⅢS028 | 268 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (34.0) | 18.7 | 12.9 | - | (9.3) | ○ | Mud. | 接(271) |
| - | | - | 352 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (34.7) | 30.6 | 18.7 | - | (19.8) | ○ | Mud. | |
| - | | - | 354 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (44.7) | (24.5) | 9.7 | - | (9.4) | - | Mud. | |
| - | | - | 239 | AR-17 | ⅢbU | 欠損 | (31.1) | (28.4) | 16.8 | - | (13.1) | - | Mud. | |
| - | | - | 240 | AR-17 | ⅢbU | 欠損 | (17.4) | (7.3) | (10.8) | - | (1.0) | - | Mud. | |
| - | | - | 241 | AR-17 | ⅢbU | 欠損 | (15.9) | (9.3) | 8.0 | - | (1.8) | - | Mud. | |
| - | | - | 242 | AR-17 | ⅢbU | 欠損 | (17.6) | (9.2) | 4.7 | - | (1.0) | - | Mud. | |
| - | | - | 243 | AR-17 | ⅢbL | 完形 | 17.3 | 10.2 | 7.1 | 1.70 | 1.6 | - | Mud. | |
| - | | - | 244 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | 18.6 | (16.9) | 6.8 | - | (2.0) | - | Mud. | |
| - | | - | 245 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (18.9) | (13.6) | (5.5) | - | (1.6) | - | Mud. | |
| - | | - | 246 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (18.1) | (14.3) | (5.2) | - | (2.1) | - | Mud. | |
| - | | - | 247 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (22.5) | (12.6) | 9.6 | - | (2.5) | - | Mud. | |
| - | | - | 249 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (10.5) | (10.3) | (3.7) | - | (1.0) | - | Mud. | |
| - | | - | 248 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | 18.3 | (7.2) | (7.8) | - | (1.6) | ○ | Mud. | |
| - | | - | 253 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (11.7) | (6.9) | (5.6) | - | (0.6) | - | Mud. | |
| - | | - | 255 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (8.6) | (4.4) | 14.5 | - | (0.6) | - | Mud. | |

## 表Ⅱ-9　ⅢSB-01出土礫属性表（2）

| 挿図番号 | 図版番号 | 個体名称 | 遺物番号 | グリッド | 層位 | 状態 | 計測値(mm) | | | 長短比 | 重量(g) | 被熱 | 材質 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 長軸 | 短軸 | 厚さ | | | | | |
| － | 19-1 | － | 258 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (27.6) | 23.3 | 11.4 | － | (9.7) | － | Mud. | |
| － | | － | 256 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (15.4) | (15.2) | (9.6) | － | (2.4) | － | Mud. | |
| － | | － | 259 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (10.8) | (8.9) | 4.7 | － | (0.6) | － | Mud. | |
| － | | － | 260 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (24.1) | (17.7) | (4.0) | － | (3.2) | － | Mud. | |
| － | | － | 261 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (12.2) | (11.0) | 7.1 | － | (1.3) | － | Mud. | |
| － | | － | 264 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | 25.1 | (15.8) | 10.7 | － | (4.2) | － | Mud. | |
| － | | － | 266 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (15.8) | (3.5) | (12.7) | － | (0.8) | － | Mud. | |
| － | | － | 267 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (24.4) | (13.7) | 6.8 | － | (3.4) | － | Mud. | |
| － | | － | 269 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (17.2) | (9.1) | 2.6 | － | (0.6) | － | Mud. | |
| － | | － | 274 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (13.7) | (9.0) | 8.0 | － | (1.7) | ○ | Mud. | |
| － | | － | 275 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (19.0) | 16.8 | 9.4 | － | (3.9) | － | Mud. | |
| － | | － | 275-2 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | 13.6 | (8.0) | 5.4 | － | (0.8) | － | Mud. | |
| － | | － | 277-1 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (18.0) | (17.2) | (9.9) | － | (4.7) | － | Mud. | |
| － | | － | 277-2 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (17.3) | 7.0 | 3.5 | － | (0.6) | － | Mud. | |
| － | | － | 278 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (16.9) | (14.7) | (9.7) | － | (4.1) | － | Mud. | |
| － | | － | 279 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (20.7) | (4.0) | (11.4) | － | (1.1) | － | Mud. | |
| － | | － | 280 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (11.9) | (8.9) | 17.4 | － | (2.7) | － | Mud. | |
| － | | － | 281-1 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (14.7) | 13.9 | 15.1 | － | (5.2) | － | Mud. | |
| － | | ⅢS021 | 283 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (32.8) | (29.6) | (10.8) | － | (10.1) | － | Mud. | 接(305-1) |
| － | | － | 284 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (38.6) | (25.5) | (11.2) | － | (15.0) | － | Sa. | |
| － | | － | 285 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (20.1) | 12.8 | (2.2) | － | (0.9) | ○ | Mud. | |
| － | | ⅢS022 | 286 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (16.4) | (16.1) | (11.3) | － | (2.8) | － | Mud. | 接(288) |
| － | | － | 289 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (15.7) | (12.6) | 7.8 | － | (1.8) | － | Mud. | |
| － | | － | 290 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | 24.8 | (20.5) | 9.2 | － | (5.6) | ○ | Mud. | |
| － | | － | 291-1 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (13.8) | (6.5) | 5.4 | － | (0.6) | － | Mud. | |
| － | | － | 291-2 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (11.0) | (0.7) | (4.8) | － | (0.3) | － | Mud. | |
| － | | － | 292-1 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (15.8) | (11.0) | (5.9) | － | (1.4) | － | Mud. | |
| － | | － | 292-2 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (12.1) | (5.5) | (4.7) | － | (0.4) | － | Mud. | |
| － | | － | 293 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (17.5) | (11.7) | (3.2) | － | (1.0) | － | Mud. | |
| － | | － | 294 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (18.4) | (11.4) | (3.9) | － | (1.1) | － | Mud. | |
| － | | － | 296 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | 14.2 | (10.2) | 4.6 | － | (0.9) | － | Mud. | |
| － | | － | 297 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | 12.6 | (6.0) | 2.3 | － | (0.4) | － | Mud. | |
| － | | － | 298 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (18.6) | (13.2) | 4.4 | － | (1.5) | － | Mud. | |
| － | | － | 299 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (22.3) | (20.9) | 10.4 | － | (4.5) | － | Mud. | |
| － | | － | 254 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (6.4) | 5.9 | 5.6 | － | (0.3) | － | Mud. | |
| － | | － | 276 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (9.6) | (9.2) | 2.3 | － | (0.4) | － | Mud. | |
| － | | － | 291-3 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (8.7) | (7.9) | 3.8 | － | (0.3) | － | Mud. | |
| － | | － | 301 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (15.9) | (11.6) | (8.7) | － | (1.2) | ○ | Mud. | |
| － | | － | 302 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | 18.0 | (11.6) | 6.5 | － | (1.2) | ○ | Mud. | |
| － | | － | 303-2 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | 12.9 | (6.7) | 9.9 | － | (1.2) | ○ | Mud. | |
| － | | ⅢS023 | 304 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (20.6) | (20.2) | (14.1) | － | (4.3) | ○ | Mud. | 接(309) |
| － | | － | 305-2 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (15.3) | (10.7) | (5.4) | － | (0.6) | － | Mud. | |
| － | | － | 307 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (17.3) | (16.0) | 7.2 | － | (2.1) | － | Mud. | |
| － | | － | 308 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (19.0) | (17.5) | (5.8) | － | (1.4) | － | Mud. | |
| － | | － | 310 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (29.1) | (14.6) | (10.2) | － | (3.5) | － | Mud. | |
| － | | － | 311 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | 19.4 | (10.6) | (5.2) | － | (1.0) | － | Mud. | |
| － | | － | 313 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (21.6) | (12.7) | (5.9) | － | (0.9) | ○ | Mud. | |
| － | | － | 314 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (20.1) | (10.9) | (8.8) | － | (1.6) | － | Mud. | |
| － | | － | 316 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (12.7) | (9.2) | (7.4) | － | (0.8) | － | Mud. | |
| － | | － | 317 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (34.3) | (19.5) | (13.7) | － | (8.7) | － | Mud. | |
| － | | － | 318 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (22.9) | (15.2) | (11.1) | － | (3.6) | － | Mud. | |
| － | | － | 319 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (22.3) | (16.7) | (6.5) | － | (2.1) | ○ | Mud. | |
| － | | － | 320-1 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (13.7) | (9.8) | (9.6) | － | (1.4) | － | Mud. | |
| － | | － | 320-2 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (14.8) | (10.8) | 10.0 | － | (1.5) | － | Mud. | |

## 表Ⅱ-10　ⅢSB-01出土礫属性表(3)

| 挿図番号 | 図版番号 | 個体名称 | 遺物番号 | グリッド | 層位 | 状態 | 計測値(mm) | | | 長短比 | 重量(g) | 被熱 | 材質 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 長軸 | 短軸 | 厚さ | | | | | |
| – | 19-1 | – | 321 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (28.1) | (17.3) | 10.0 | – | (4.1) | – | Mud. | |
| – | | – | 322 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (22.5) | 15.7 | (10.7) | – | (3.7) | – | Mud. | |
| – | | – | 323 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (15.9) | (9.7) | (14.6) | – | (1.8) | – | Mud. | |
| – | | – | 324 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (28.4) | (17.3) | (14.4) | – | (4.2) | – | Mud. | |
| – | | – | 326 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | 30.2 | (17.7) | (8.8) | – | (3.7) | – | Mud. | |
| – | | – | 327 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (21.7) | (14.6) | (6.1) | – | (1.8) | – | Mud. | |
| – | | – | 328 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (24.9) | (19.0) | (10.1) | – | (3.4) | – | Mud. | |
| – | | – | 329 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (14.7) | (12.7) | (5.5) | – | (1.0) | – | Mud. | |
| – | | – | 330 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (13.8) | (8.0) | (2.9) | – | (0.3) | – | Mud. | |
| – | | ⅢS024 | 331-1 | AR-17 | ⅢbL | 欠損 | (15.7) | (9.2) | (5.6) | – | (0.7) | – | Mud. | 接(331-2) |
| – | | – | 353 | AR-17 | ⅢbL | 完形 | 24.9 | 19.9 | 10.5 | 1.25 | 5.7 | – | Mud. | |
| | | | | | | | | | | 合計 | 514.5 | | | |
| | | | | | | 平均値 | 40.9 | 21.5 | 14.4 | 1.76 | 26.3 | | | |
| | | | | | | | | | | | 完形3点 | | | |

## 表Ⅱ-11　ⅢSB-02出土刀子属性表

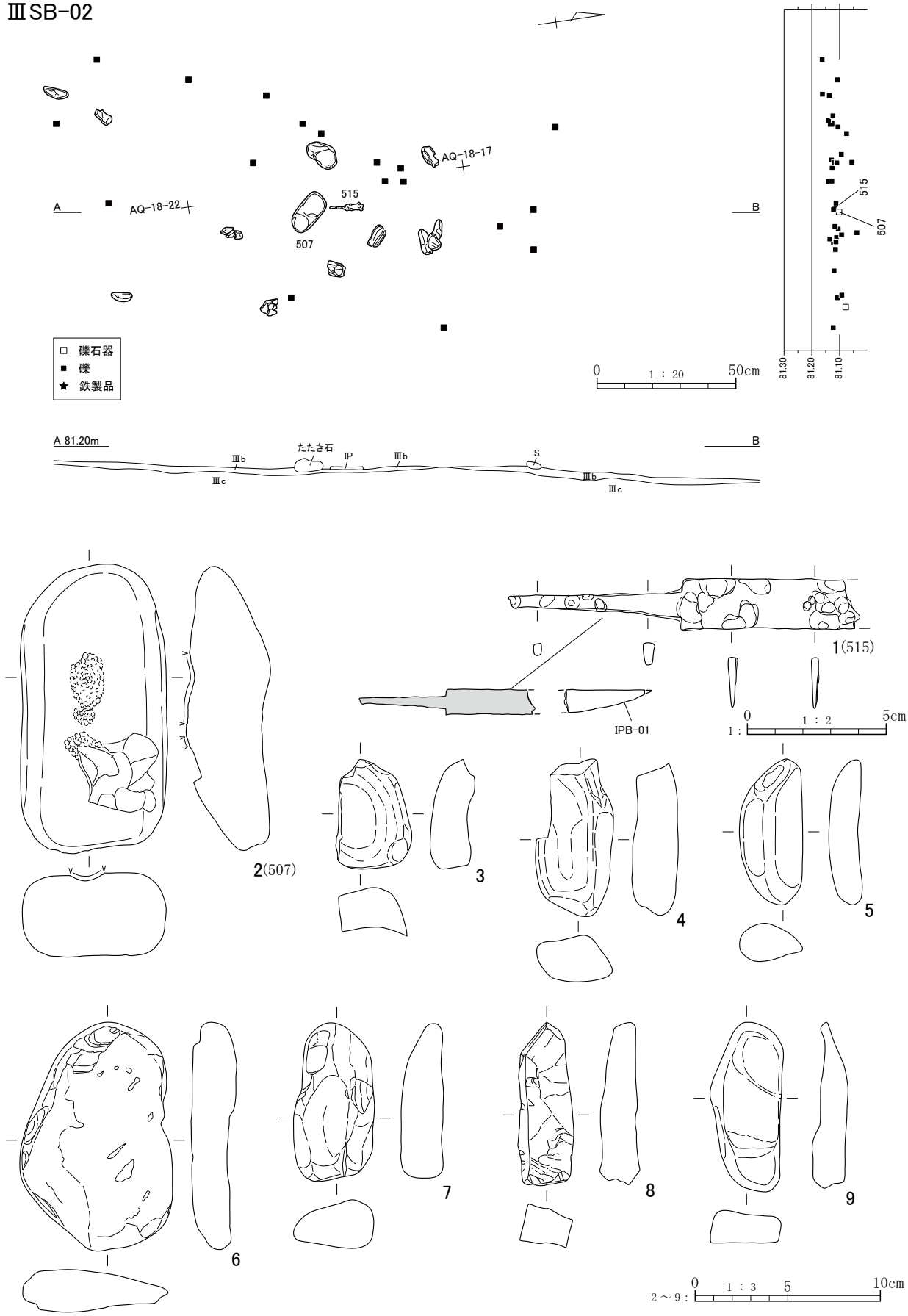
| 挿図番号 | 図版番号 | 個体名称 | 遺物番号 | 遺物名 | 層位 | 遺構名 | グリッド | 計測値(mm) | | | 重量(g) | 材質 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 長軸 | 短軸 | 厚さ | | | |
| Ⅱ-6-1 | 18-3 | – | 515 | 刀子 | ⅢbL | ⅢSB-02 | AQ-18 | (125.1) | 18.3 | 4.4 | (19.9) | Fe. | IPB-01に同一個体片?有り |

## 表Ⅱ-12　ⅢSB-02出土礫石器属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 個体名称 | 遺物番号 | 遺物名 | 分類 | 遺構名 | 層位 | 計測値(mm) | | | 重量(g) | 材質 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 長軸 | 短軸 | 厚さ | | | |
| Ⅱ-6-2 | 18-4 | – | 507 | たたき石 | ⅠA1 | ⅢSB-02 | ⅢbL | 151.7 | 78.5 | 46.3 | 795.0 | Sa. | 被熱 |

## 表Ⅱ-13　ⅢSB-02出土礫属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 個体名称 | 遺物番号 | グリッド | 層位 | 状態 | 計測値(mm) | | | 長短比 | 重量(g) | 被熱 | 材質 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 長軸 | 短軸 | 厚さ | | | | | |
| Ⅱ-6-3 | 19-2 | – | 511 | AQ-18 | ⅢbL | 完形 | 57.6 | 39.0 | 24.0 | 1.48 | 74.2 | ○ | Sa. | |
| Ⅱ-6-4 | | – | 514 | AQ-18 | ⅢbL | 欠損 | (82.9) | 39.9 | 24.2 | – | (97.6) | ○ | Sa. | |
| Ⅱ-6-5 | | – | 504 | AQ-18 | ⅢbL | 完形 | 78.3 | 34.4 | 21.6 | 2.28 | 69.3 | – | Sa. | |
| Ⅱ-6-6 | | – | 508 | AQ-18 | ⅢbL | 完形 | 122.7 | 81.1 | 22.7 | 1.51 | 322.0 | – | Dio. | |
| Ⅱ-6-7 | | ⅢS006 | 510 | AQ-18 | ⅢbL | 完形 | 84.1 | 43.5 | 27.1 | 1.93 | 116.0 | – | Sa. | 接(510-2) |
| Ⅱ-6-8 | | – | 513 | AQ-18 | ⅢbL | 完形 | 96.6 | 31.3 | 22.3 | 3.09 | 82.5 | ○ | Mud. | |
| Ⅱ-6-9 | | – | 502 | AQ-18 | ⅢbL | 完形 | 90.5 | 37.1 | 18.0 | 2.44 | 83.2 | ○ | Sa. | 黒色物質付着 |
| | | | | | | | | | | 合計 | 844.8 | | | |
| | | | | | | 平均値 | 88.3 | 44.4 | 22.6 | 2.12 | 124.5 | | | |
| | | | | | | | | | | | 完形6点 | | | |




図Ⅱ-6　ⅢSB-02 平面及び断面図・出土遺物

## 第 4 節　鉄器集中

鉄器集中は拡張調査区のⅢ層調査で 1 ヵ所検出しており、甲冑製品や刀子・礫が出土している。本集中はⅢb 層調査中に板状の金属製品が 1 点出土し、更にグリッドを掘り下げたところ、倒木痕の窪みに同一個体と思われる金属製品がまとまっていたことによって明らかとなった。本集中は倒木の窪みに出土したもので、時期の特定は困難であるが、同遺跡のⅢ層からは擦文文化期及び続縄文文化期の遺構、遺物を検出しており続縄文文化期は墓坑 1 基と試掘坑の土器集中のみであることから、擦文文化期に帰属する可能性が高いと考えられる。

IPB-01（図Ⅱ-7・8・9-1～4・10-5～15・11-16～25　図版 4・20・21-1～6・22-7～25）

位置：AT-18　層位：Ⅲb 層下位　規模：168×101cm　出土点数：鉄器 129 点、礫 10 点

**確認・調査**：Ⅲb 層下位で板状の金属製品が出土した後、周辺を掘り下げると AT-18 グリッドの切株周辺から同様の形態を示した金属製品が認められた。切株を切断してプランを確認したところ不整形な倒木痕を確認した。遺物の有無を確認するため、倒木痕を半截したところ多量の板状鉄製品が出土した。当初、金属製品は倒木痕による撹乱を受け層位的に乱れていると考えたため、検出層位からの断面図等は作成していない。その後、集中範囲の広がりを確認するため金属製品を台状に残しながら掘り進め、全体の写真撮影を行った。

本集中から出土した金属製品は板状で非常に脆弱であり、取り上げ後の接合が困難であると予想されたため、形状を残す個体（ブロック 1）についてはパラロイド B72 を 5%～10%に希釈して、塗布し硬化処理を行っている。平面出土位置の微細図、堆積状態は金属製品を残した台を利用して見通しの断面図を作成し、座標点で取り上げ調査終了とした。取り上げ後、クリーニングと必要に応じて裏打ちの補強を行い保存処理委託を行っている。（奈良）

**出土遺物**：鉄器は、ⅢSB-02 出土の刀子柄 1 点と本集中周辺包含層出土を含め 139 点出土している。そのうち 129 点が本集中から出土し、1 点が刀子切先で、この他鋲留めの甲冑製品である。以下、ブロックごとに掲載したものについて記述する。

**ブロック 1**（1～4）：本集中の北西側に、40×18cm の範囲で検出した。1 は最も保存状態が良好な大型片で、表面を上にした断面弧状を呈し、東西方向に長い状態で出土した。長軸 135mm 以上、短軸 55～60mm、厚さ 1mm 前後の長方形竪矧板鋲留甲で、長軸両側縁に鉄板を重ね、4 ヵ所の鋲留めを確認できる。断面は縦位が直線的で、横位が湾曲している。左側縁には上部が弧状を呈し、内面から穿たれた直径 1.7～3.5mm の円形孔を 10～30mm の間隔で設けている。表面の孔の周囲には高さ 1mm 程度の径 8～10mm の輪状の痕跡が残っていることから、内面からの鋲留め脱落痕と考えられ、革綴り孔とは異なっている。中央には竪矧板の重複部分があり、鋲留めされている。鋲頭は 3 面に打ち潰され、丸みのある山状を呈し、径は 9～14mm で、高さ 3～5mm ある。鋲は縦 18～20mm、25～34mm の間隔で配置している。右側縁は中央から延びた板の端に 1 枚重ねて 2 枚にしており、重ねた板の端が残っている。下側縁は矧板の固定用に長軸 60mm、短軸 19～21mm、厚さ 1mm の帯状鉄板（帯金）がある。板は 3 枚重なっている状態で、下端が内面に少し折り曲がっている。鋲は 25mm 間隔で計 10 ヵ所が打ちつけられている。内面の鋲留めは直径 6～10 mm の円形で、1～2mm の高さで平らに叩き潰されている。2 は 3 枚重ねで、鋲 2 点は 48mm の間隔で付けられている。中板は上側縁が残存し、下板は帯金の一部と思われる。3 は 3 枚重ねの鋲留め板で、表面には鋲頭が残るものと鋲の脱落した孔がある。孔は径 3mm で、内面から穿たれている。鋲頭のある、内面の鋲の芯が脱落し、径

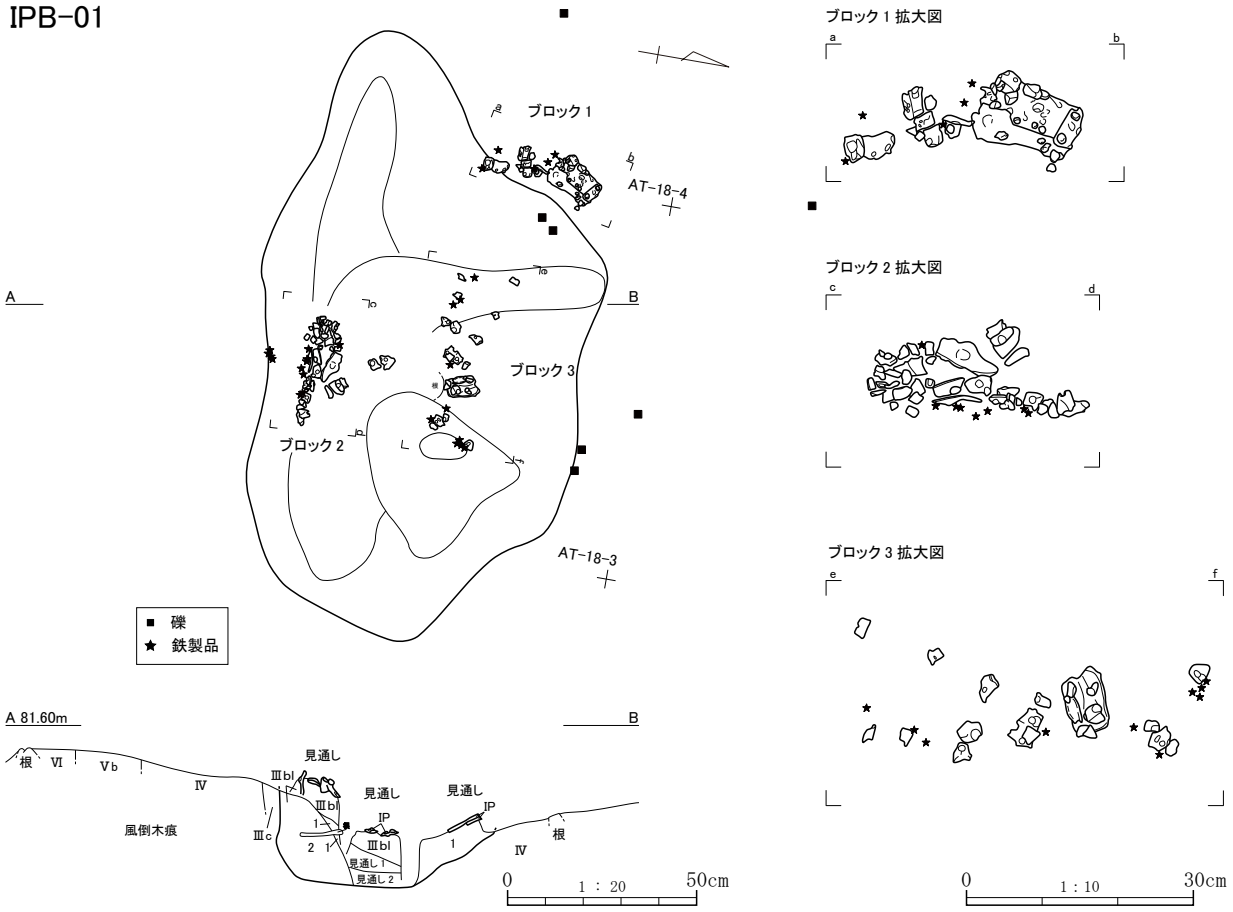
3㎜の孔が穿たれているが、径8㎜の輪状の痕跡がみられる。鋲頭は11～13㎜あり、高さ4㎜ある。内面には板の角が⌉状に残っている。4は鋲脱落孔2ヵ所有する残片で、孔は内面から穿たれている。

**ブロック2**（5～15）： 本集中の南側、南北36×23cmの範囲で、長軸20～120㎜、短軸20～60㎜の板状鉄製残片のまとまりを確認した。5は縦長の破片で、左側縁に鋲が縦位置に25㎜の間隔で3ヵ所あり、うち下端の1点は鋲頭のみが脱落している。板は2枚重ねで、下板はよく残っているが、上板は鋲がある周囲のみに残存している。縦断面は、ややゆがみがあるものの直線的であり、横断面は僅かに湾曲している。鋲は径10～14㎜、高さ4～5㎜あり、頭は若干潰しがみられる。内面には径6～10㎜、高さ1.5～2.5㎜、鋲留め3点が18～23㎜の間隔で並ぶ。6は鋲無しの竪板で、断面は横が僅かに内湾している。孔は確認できない。7は大きく内湾しているもので、板3枚の重なりが確認できるが、内面に近い1枚は縦にのびる帯金の可能性がある。8は横断面が僅かに内湾している1枚板で、中央に錆膨れした鋲があり、内面には帯金？が残っている。9は2枚重ね接ぎの残片である。10は縦に板2枚を重ね接いでいるもので表面には鋲のとれた痕跡が認められる。11・12は2枚重ねの竪板残片で、鋲頭が3面に打ち潰されている。13は断面が縦・横ともに直線的な板で、径2.5㎜の孔をもつもので、表面に鋲の脱落痕がみられる。14・15は2枚重ね板に鋲留めしている残片で、15の鋲頭は潰しがみられ、内面の留めは径7㎜、厚さ1㎜あり、保存状態が良い。

**ブロック3**（16～22）： ブロック2の北、本集中の中央にあり、53×30cmの範囲で、ブロック2同様、南北に長く若干散在した状態で確認した。16は横断面が僅かに内湾している竪板で、左側縁に縦に鋲3点が認められる。内面の鋲留め2ヵ所にもう1枚の板一部が残り、2枚に接いでいる。断面は縦が直線的、横が僅かに内湾している。17は縦が直線的、横が僅かに内湾し、鋲留めしている2枚板である。鋲は径8～9㎜で、高さ3～4㎜あり、内面の留めは微かにわかる。18は鋲が1枚と2枚とに付いている。19は竪板を補強する帯金が横に付いていると思われる残片である。鋲留めの厚さは板2枚を含めて12.5㎜ある。20は2枚板に鋲留めし、鋲頭は2面から打ち潰されているものである。下板は側縁が現存している。21は断面直線的な板の残片で、上端に径2.5㎜、下端に径4㎜の孔をもつもので、下から突いて孔を開けている。厚さ2㎜前後。22は1枚板に鋲留めした残片で、鋲は径11㎜、留めは錆膨れで径・高さともに9㎜ある。

**刀子**（23）： ブロック3の西端で、鋲留め甲冑製品と同じレベルから出土している。平棟両刃の切先部で、刃部は先端へ緩やかに反り、先が少し欠損している。なお、ⅢSB-02 から切先部を欠いた茎のある刀子が出土しているが、同一個体の判断について道埋文センター　三浦正人氏・田口尚氏に鑑定して頂いたところ、棟の厚さと断面形態、メタル本体の残存状態、欠損部位から同一個体である可能性が高いことがわかった。

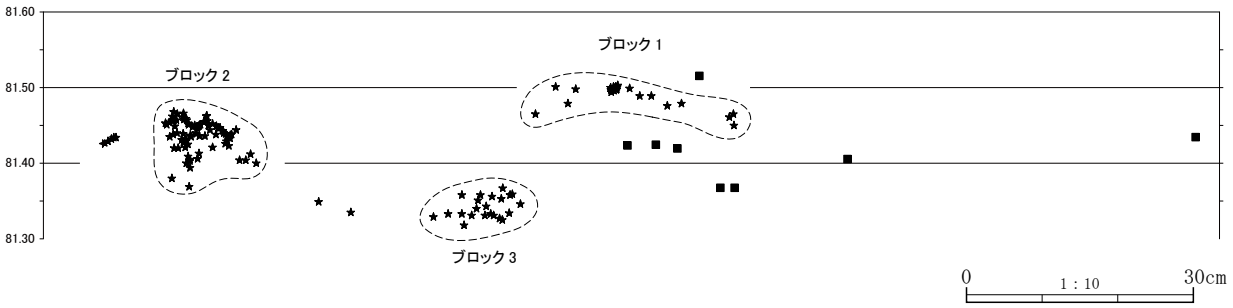
**礫**（24・25）： 砂岩質の未被熱の礫が完形2点含め、10点、205.6ｇが出土している。完形品の2点を掲載した。ともに、棒状礫で平均サイズは99.9×35.0×17.8㎜である。　（工藤）



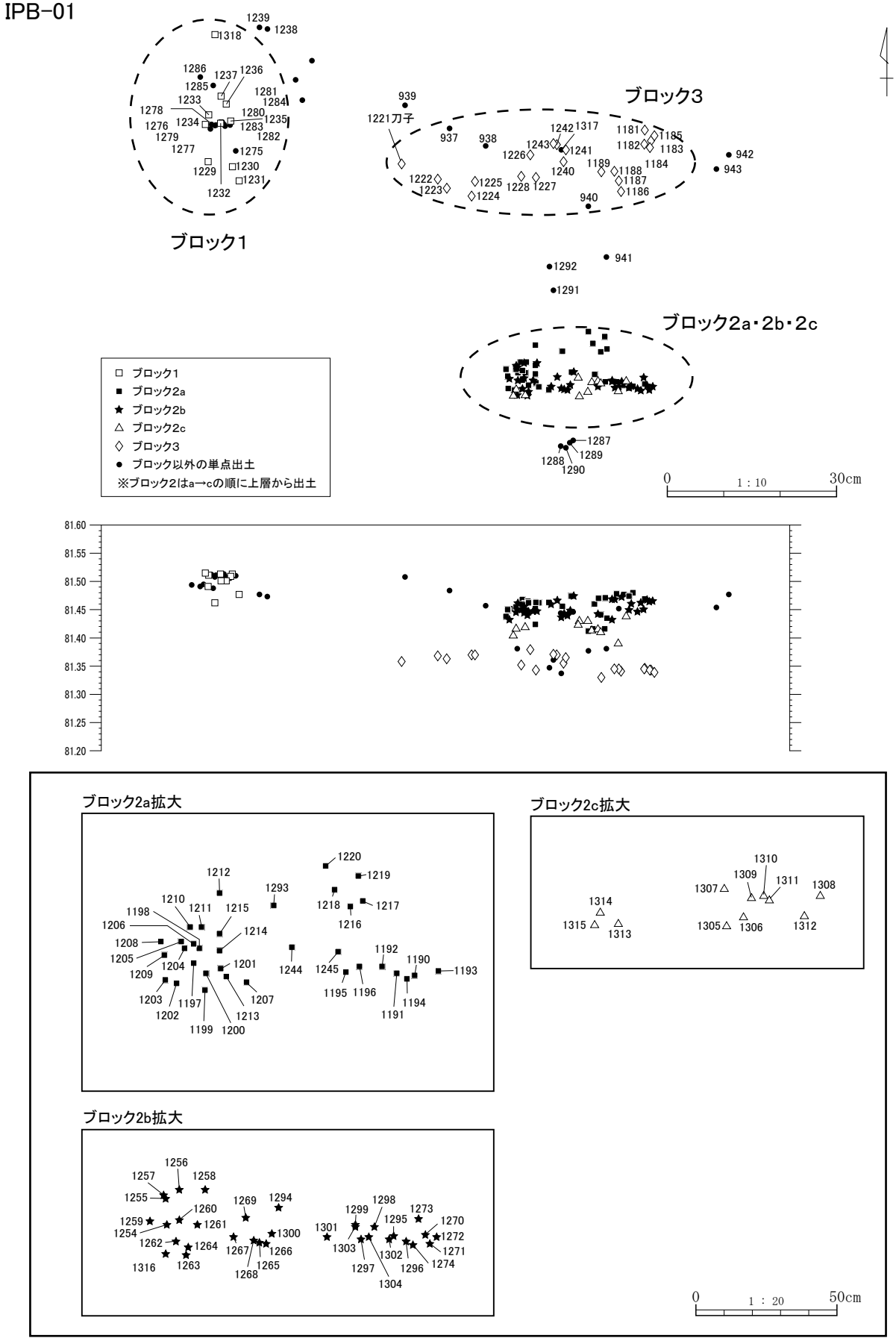

IPB-01

1　10YR2/3　黒褐色　Ⅲb＝Ⅳ(均質) しまりあり 粘性あり 風倒木窪みの初期水成シルト質

2　10YR3/2　黒褐色　Ⅲb＋Ⅳ(斑状) しまりなし 粘性なし 根多い 風倒木窪みへの流れ込み

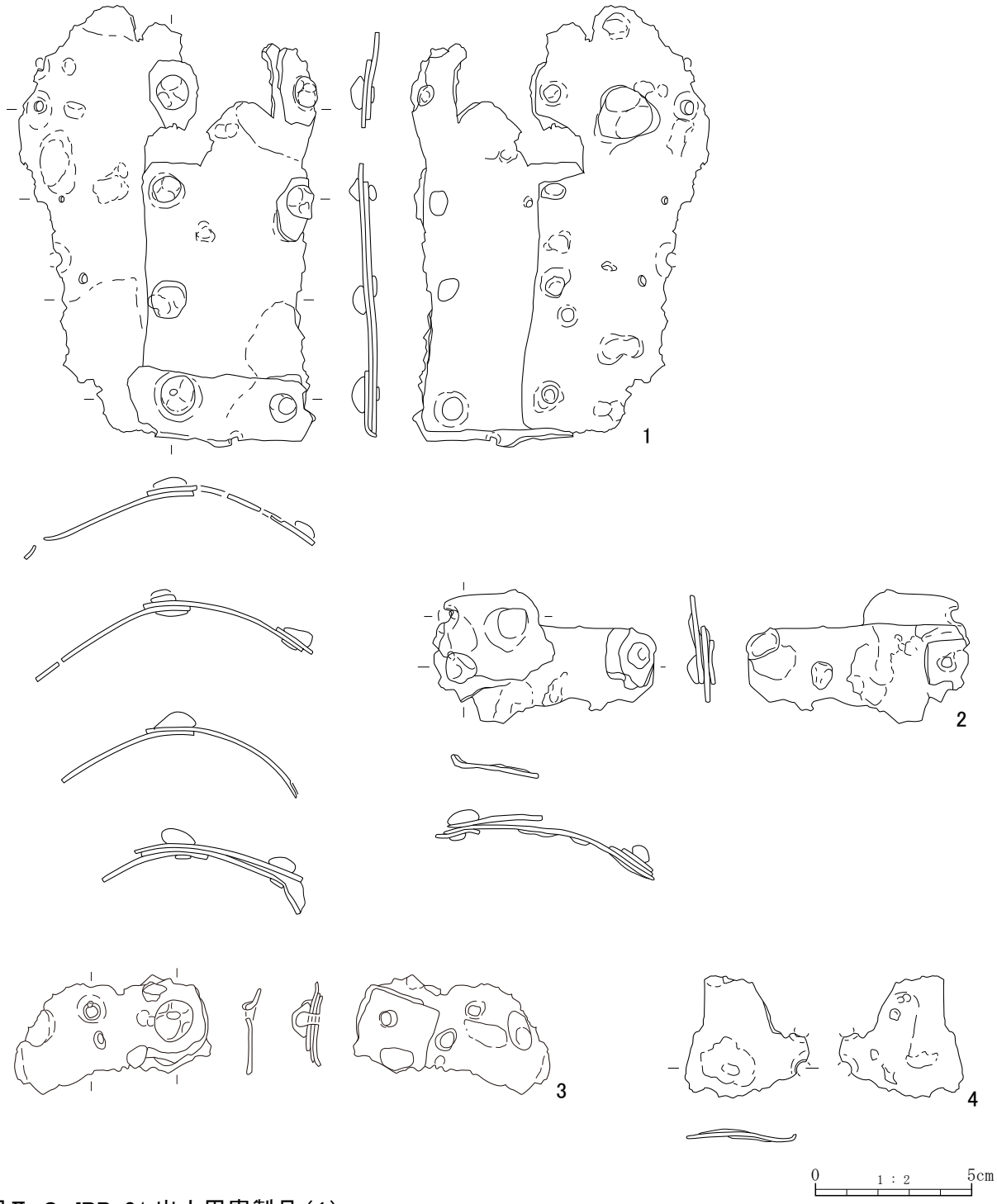



図Ⅱ-7　IPB-01 平面及び断面図



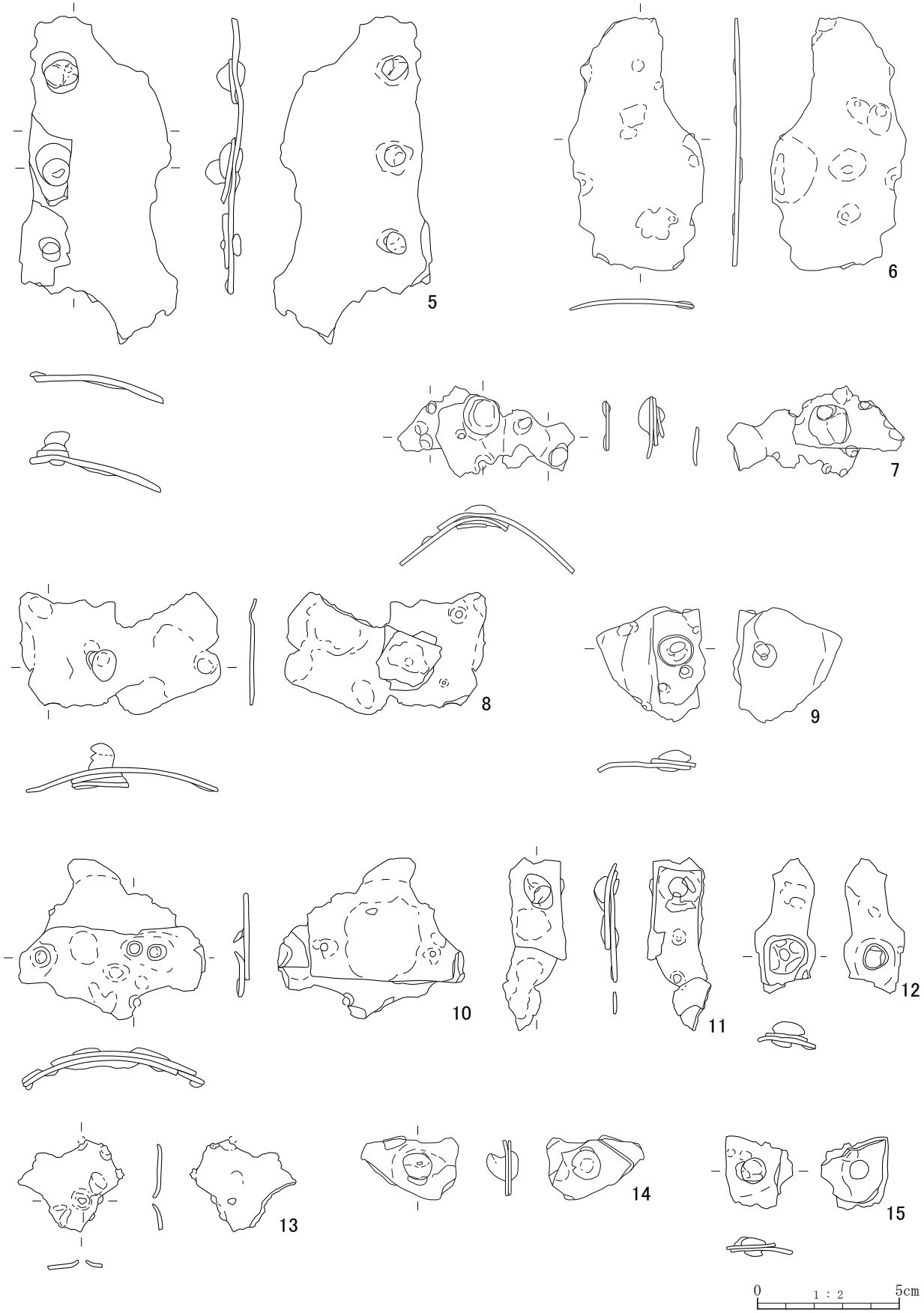

図Ⅱ-8 IPB-01 甲冑製品分布図

ブロック１



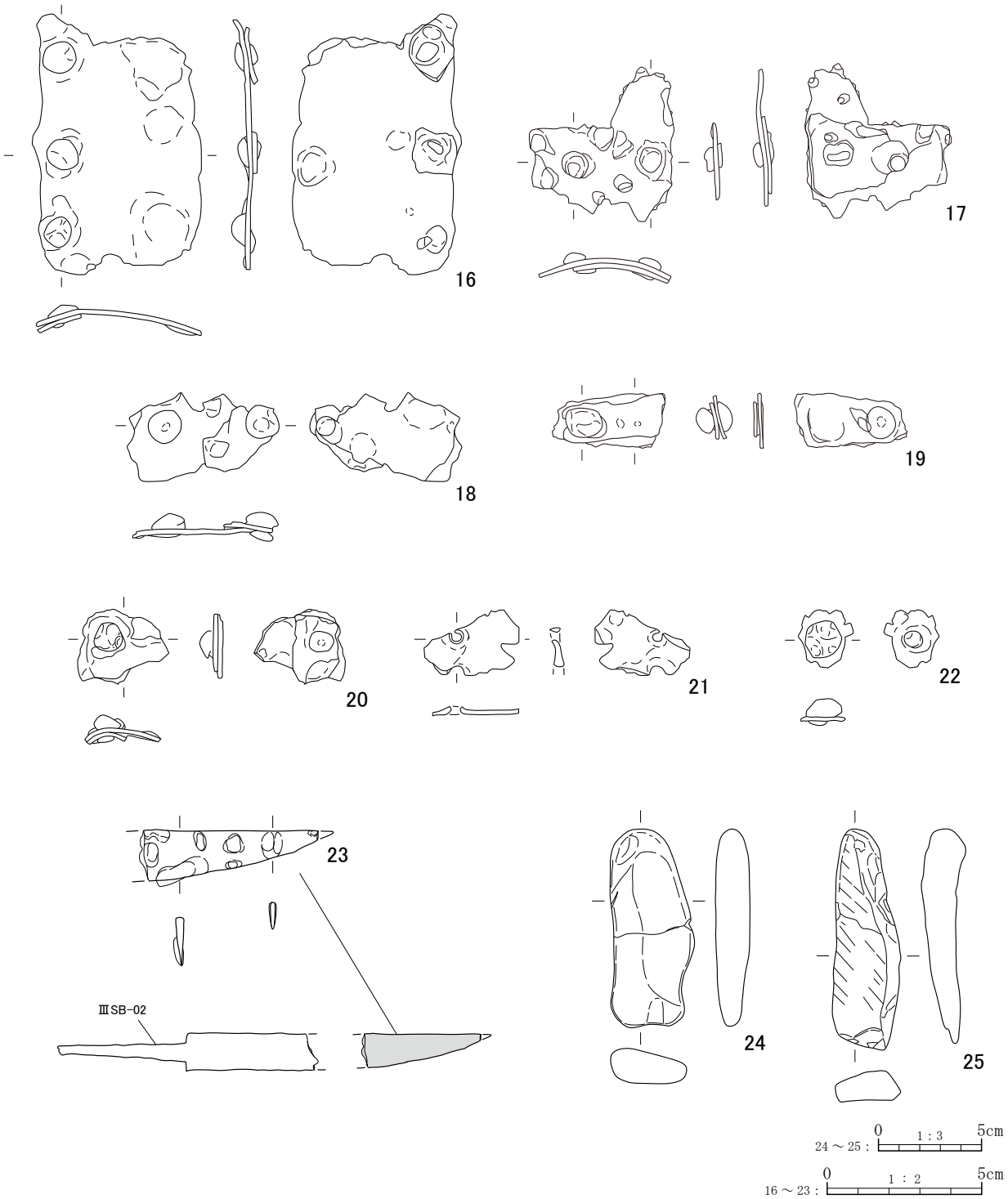

図Ⅱ-9　IPB-01 出土甲冑製品（1）

ブロック２




図Ⅱ-10 IPB-01 出土甲冑製品（2）

ブロック 3




図Ⅱ-11　IPB-01 出土甲冑製品他

## 表Ⅱ-14 IPB-01出土甲冑製品・刀子属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | ブロック | 遺物番号 | 遺物名 | 層位 | 遺構名 | グリッド | 計測値(mm) 長軸 | 短軸 | 厚さ | | 重量(g) | 材質 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⅱ-9-1 | 21-1 | 1 | 1318-1～3・1318-5～7 | 甲冑製品 | ⅢbL | IPB-01 | AT-18 | 401.8 | 95.7 | 1.0<br>1.5<br>1.5 | 4.0 | 92.7 | Fe. | 3枚重ね、鋲有、鋲孔有 |
| Ⅱ-9-2 | 21-2 | 1 | 1232・1233・1235 | 甲冑製品 | ⅢbL | IPB-01 | AT-18 | 71.6 | 43.0 | 1.5<br>1.5<br>1.0 | 4.0 | 18.7 | Fe. | 3枚重ね、鋲有 |
| Ⅱ-9-3 | 21-3 | 1 | 1230・1231 | 甲冑製品 | ⅢbL | IPB-01 | AT-18 | 63.3 | 34.4 | 1.5<br>1.0<br>1.0 | 3.5 | 11.5 | Fe. | 3枚重ね、鋲有、鋲孔有 |
| Ⅱ-9-4 | 21-4 | 1 | 1237 | 甲冑製品 | ⅢbL | IPB-01 | AT-18 | 39.6 | 39.3 | 1.5 | 1.5 | 4.1 | Fe. | |
| Ⅱ-10-5 | 21-5 | 2 | 1244・1268・1300・1301 | 甲冑製品 | ⅢbL | IPB-01 | AT-18 | 114.8 | 55.8 | 2.0<br>2.0 | 4.0 | 34.4 | Fe. | 2枚重ね、鋲有 |
| Ⅱ-10-6 | 21-6 | 2 | 1293 | 甲冑製品 | ⅢbL | IPB-01 | AT-18 | 89.7 | 48.3 | 1.5 | － | 18.0 | Fe. | |
| Ⅱ-10-7 | 22-7 | 2 | 1190・1191・1193 | 甲冑製品 | ⅢbL | IPB-01 | AT-18 | 58.4 | 29.6 | 1.5<br>1.5<br>0.5 | 3.5 | 10.8 | Fe. | 3枚重ね、鋲有 |
| Ⅱ-10-8 | 22-8 | 2 | 1264・1316 | 甲冑製品 | ⅢbL | IPB-01 | AT-18 | 71.0 | 43.5 | 1.5<br>2.0<br>1.5 | 5.0 | 17.8 | Fe. | 3枚重ね、鋲有 |
| Ⅱ-10-9 | 22-9 | 2 | 1218 | 甲冑製品 | ⅢbL | IPB-01 | AT-18 | 40.4 | 28.5 | 1.5<br>1.5 | 3.0 | 9.7 | Fe. | 2枚重ね、鋲有 |
| Ⅱ-10-10 | 22-10 | 2 | 1312 | 甲冑製品 | ⅢbL | IPB-01 | AT-18 | 67.2 | 57.5 | 1.5<br>1.5 | 3.0 | 22.4 | Fe. | 2枚重ね、鋲有 |
| Ⅱ-10-11 | 22-11 | 2 | 1295・1302 | 甲冑製品 | ⅢbL | IPB-01 | AT-18 | 59.7 | 22.4 | 2.0<br>2.0 | 4.0 | 8.7 | Fe. | 2枚重ね、鋲有 |
| Ⅱ-10-12 | 22-12 | 2 | 1254・1260・1261 | 甲冑製品 | ⅢbL | IPB-01 | AT-18 | 48.3 | 24.4 | 1.0<br>2.0 | 3.0 | 6.4 | Fe. | 2枚重ね、鋲有 |
| Ⅱ-10-13 | 22-13 | 2 | 1296 | 甲冑製品 | ⅢbL | IPB-01 | AT-18 | 32.3 | 29.4 | 1.5 | － | 3.4 | Fe. | 鋲孔有 |
| Ⅱ-10-14 | 22-14 | 2 | 1267 | 甲冑製品 | ⅢbL | IPB-01 | AT-18 | 34.1 | 22.4 | 1.0<br>1.0 | 2.0 | 6.3 | Fe. | 2枚重ね、鋲有 |
| Ⅱ-10-15 | 22-15 | 2 | 1192 | 甲冑製品 | ⅢbL | IPB-01 | AT-18 | 26.6 | 24.3 | 1.0<br>1.0 | 2.0 | 4.7 | Fe. | 2枚重ね、鋲有 |
| Ⅱ-11-16 | 22-16 | 3 | 1317-1 | 甲冑製品 | ⅢbL | IPB-01 | AT-18 | 84.4 | 55.6 | 1.5<br>1.5 | 3.0 | 25.5 | Fe. | 2枚重ね、鋲有 |
| Ⅱ-11-17 | 22-17 | 3 | 1227・1228 | 甲冑製品 | ⅢbL | IPB-01 | AT-18 | 55.3 | 46.9 | 2.0<br>1.0 | 3.0 | 11.3 | Fe. | 2枚重ね、鋲有 |
| Ⅱ-11-18 | 22-18 | 3 | 1224・1225 | 甲冑製品 | ⅢbL | IPB-01 | AT-18 | 49.4 | 28.5 | 2.0<br>1.0 | 3.0 | 7.4 | Fe. | 2枚重ね、鋲有 |
| Ⅱ-11-19 | 22-19 | 3 | 942 | 甲冑製品 | ⅢbM | IPB-01 | AT-18 | 36.6 | 17.8 | 1.5<br>1.5 | 3.0 | 6.1 | Fe. | 2枚重ね、鋲有 |
| Ⅱ-11-20 | 22-20 | 3 | 1240 | 甲冑製品 | ⅢbL | IPB-01 | AT-18 | 30.0 | 23.9 | 1.5<br>1.5 | 3.0 | 4.5 | Fe. | 2枚重ね、鋲有 |
| Ⅱ-11-21 | 22-21 | 3 | 936 | 甲冑製品 | ⅢbM | IPB-01 | AT-18 | 31.3 | 19.0 | 1.5 | － | 2.8 | Fe. | 鋲孔有 |
| Ⅱ-11-22 | 22-22 | 3 | 1189 | 甲冑製品 | ⅢbL | IPB-01 | AT-18 | 18.6 | 17.5 | 1.0 | － | 3.2 | Fe. | 1枚重ね、鋲有 |
| Ⅱ-11-23 | 22-23 | 3 | 1221 | 刀子 | ⅢbL | IPB-01 | AT-18 | (58.3) | 18.5 | 3.0 | － | (7.1) | Fe. | 切先片 |

表Ⅱ-15 IPB-01出土礫属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 個体名称 | 遺物番号 | グリッド | 層位 | 状態 | 計測値(mm) 長軸 | 短軸 | 厚さ | 長短比 | 重量(g) | 被熱 | 材質 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⅱ-11-24 | 22-24 | ⅢS025 | 1246 | AT-18 | ⅢbL | 完形 | 96.0 | 38.9 | 17.2 | 2.47 | 77.4 | － | Sa. | 接(1247) |
| Ⅱ-11-25 | 22-25 | － | 1249 | AS-18 | ⅢbL | 完形 | 103.9 | 31.2 | 18.5 | 3.33 | 70.2 | － | Sa. | |
| － | － | － | 1248 | AS-18 | ⅢbL | 欠損 | (31.0) | (23.0) | (13.5) | － | (10.9) | － | Sa. | |
| － | － | － | 1250 | AT-18 | ⅢbL | 欠損 | (31.6) | (29.7) | (15.6) | － | (18.3) | － | Sa. | |
| － | － | － | 1251 | AT-18 | ⅢbL | 欠損 | (24.4) | (16.1) | (7.3) | － | (2.8) | － | Sa. | |
| － | － | － | 1252 | AT-18 | ⅢbL | 欠損 | (31.1) | (22.7) | (17.2) | － | (19.3) | － | Sa. | |
| － | － | － | 1253-1 | AT-18 | ⅢbL | 欠損 | (23.0) | (12.7) | (11.4) | － | (3.2) | － | Sa. | |
| － | － | － | 1253-2 | AT-18 | ⅢbL | 欠損 | (19.7) | (12.6) | (12.9) | － | (3.5) | － | Sa. | |
| － | － | － | 1253-3 | AT-18 | ⅢbL | 欠損 | (27.3) | (9.1) | (3.8) | － | (0.7) | － | Sa. | |
| | | | | | | | | | | 合計 | 206.3 | | | |
| | | | | | | 平均値 | 99.9 | 35.0 | 17.8 | 2.90 | 73.8 | | | |
| | | | | | | | | | | | 完形2点 | | | |

## 第5節　土坑墓

土坑墓は、当初計画調査区のほぼ中央部斜面のⅢc層で1基検出している。

**ⅢGP-01**（図Ⅱ-12・13・14-1～51・15-52～59　カラー図版2　図版5・6・7-1～3・23-1～59）

位置：AQ・AR-15　層位：Ⅲb層　規模：185×166×126cm　出土遺物：石器116点

**確認・調査**：当初、Ⅱ層であるTa-b層を除去した段階でやや深い窪みとして検出していた。その後、AQ-ARグリッド間に東西土層断面を設定し、土層堆積観察用のトレンチを窪みの中央にかかるように調査を行った。この時点ではⅢ層の時期に形成された土坑らしき遺構と判断して、調査を進めていたが、トレンチをⅢ層下位まで掘り下げた段階で、Ta-dテフラを揚げ土とする風倒木痕と推定するに至った。しかし、縄文時代の遺物包含層であるⅤ層までグリッドを掘開調査した時点で遺構上端の輪郭が明らかになり、Ｔピットを想定し掘開調査を進めた。さらに土坑の南半部を慎重に調査を進めていった。坑底近くまで掘り下げた時点で副葬品が出土し、土坑墓と断定した。土坑の東西土層断面の撮影及び実測を行い、北半部の調査に着手した。北半部の調査が坑底近くまで達した段階で、土層観察ベルトを除去し、さらに慎重に坑底の調査を行い、仰臥屈葬人骨3体と副葬品の検出につとめた。人骨・副葬品が検出された段階で、近接撮影の写真実測による微細図作成及び南北横断図作成等を行った。副葬品を取り上げた後、人骨は北より1号、中央を2号、南を3号と命名した後、保存状態が不良のため、薬剤による保存処理は行わず、アルミ箔に包み取り上げた。その後、土坑墓完掘に向けて坑底を精査したところ、1・2号人骨の下にベンガラと思われる赤褐色物質の広がりを検出し、取り上げて株式会社 第四紀地質研究所に分析を依頼した。壁際には径10cmに満たない円形の黒褐色土の落ち込み4ヵ所を四辺形となる角に検出し、半截して調査した。その結果、土坑墓の坑底に設けた柱穴であることが判明した。

**形態**：平面形は南西側と北東側が少し張り出す円形で、坑底は南側が少し張り出した円形を呈する。断面形は底がほぼ平坦で、坑底面から壁面への立ち上がりは丸みをもっている。北壁は外傾して立ち上がり、中場から直立して坑口に至る。南壁は直立して立ち上がり、中場で少し内側に膨らみ、坑口で直立している。東壁はやや外傾しているが、中場からやや内湾し、坑口で外傾・直立している。西壁はほぼ直立しているが中場でオーバーハングし、坑口は直立している。

**掘り上げ土**：褐色あるいは明褐色を呈して、墓の周囲で検出され、一部は坑口際で確認されている。規模は西側で長さ115cm、東側で長さ60cmあり、厚さは、ともに7cmほどである。

**埋土**： 墓の上面をⅢa、Ⅲb 層が覆い、その下位に掘り上げ土がある。坑口付近では、Ta-dl、Ta-c を主体にⅤ層がブロック状に混じる。中場上位では総じてⅤ層を主体に、Ta-dl、Ta-c が混じる。中場下位から坑底はⅤ層を主体に Ta-dp などが混じる。

**赤褐色物質**： 1・2 号の人骨下位からベンガラと思われる赤褐色物質が 1～2cm の厚さで検出されている。1 号人骨では、頭蓋骨の下に楕円形？の広がりで長軸 15cm、短軸 8cm あり、左肢骨下には楕円形に広がり長軸 11cm、短軸 7cm 確認されている。2 号人骨では、右肢骨あたりの下に楕円形の広がりで、長軸 20cm、短軸 12cm 確認されている。検出した赤褐色物質を採取して、成分鑑定を依頼したが、鉄分が多いものの人為的に精製されたベンガラと断定するにいたらなかった。

**付属施設・柱穴**： 坑底の壁際で径 7～9cm の円形の黒褐色土の落ち込み 4 ヵ所を検出し、半截したところ柱穴と確認できたため、付番した。柱穴間は 85～102cm ほどである。配置は少し歪んだ四辺形を呈し、人骨 3 体が柱穴の配置内におさまり、かつ頭骨側が若干広くなっている。柱穴先端は鋭い V 字状を呈して深さ 30～47cm ほどで、柱を立てる際の掘り方がなく、打ち込みによる柱穴と確認した。

**人骨**： 人骨は 3 体の合葬であり、いずれも頭蓋骨は北東方向にある。肋骨・脊椎等は確認されなく、四肢骨の一部が折り曲った状態で残り、向きは南西の方向である。仰臥屈葬と思われる。人骨の配置は 1 号と 2 号の間に空間があり、2・3 号間は狭まっている。保存状態は、頭蓋骨は少し残り、四肢骨は灰褐色あるいは褐色化して、糊状を呈している。

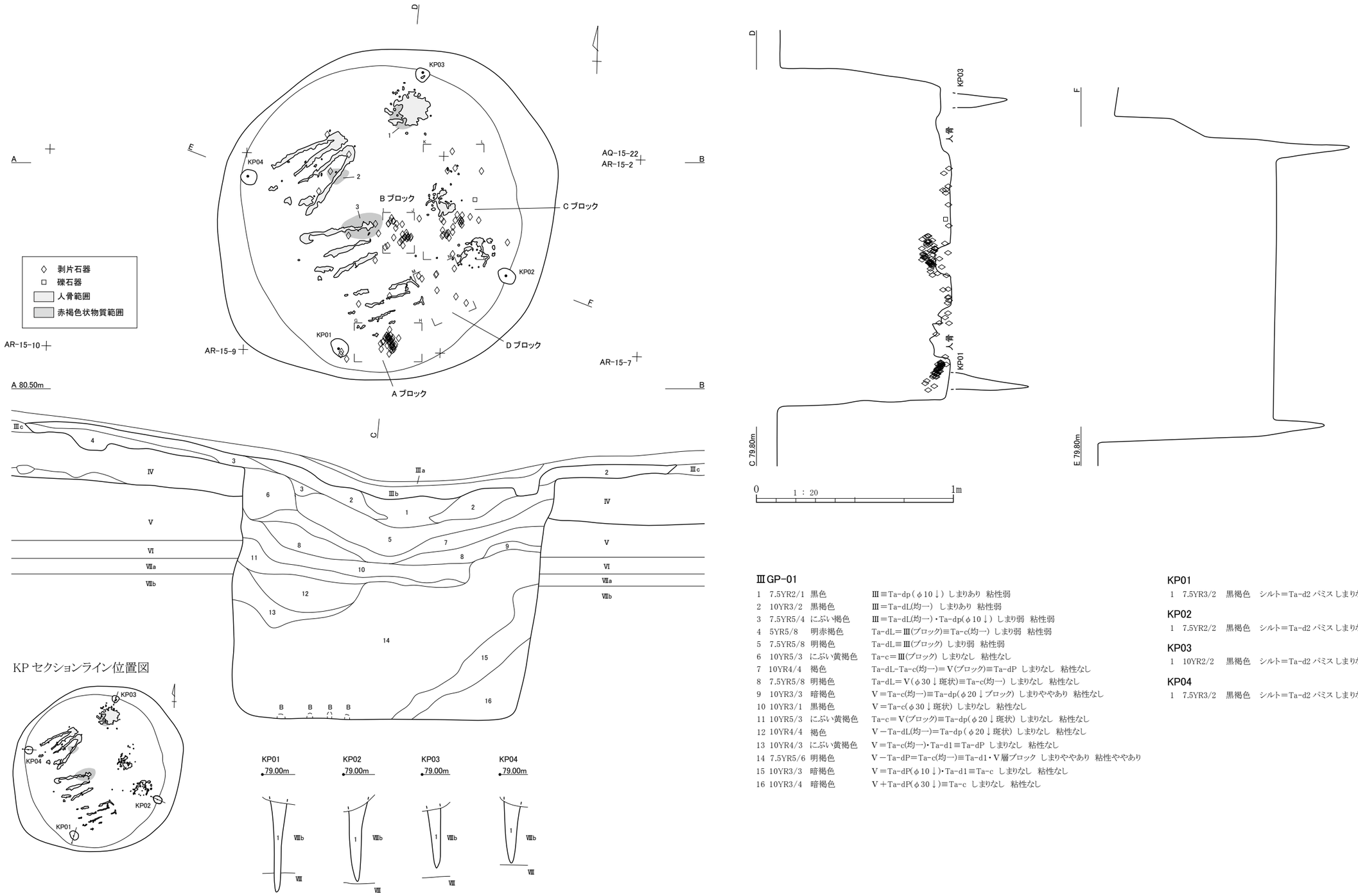
**副葬品**： 墓坑の中央から南東側、2・3 号人骨及びその付近の人骨の上面や坑底近くから石鏃 111 点、ナイフ 4 点、石斧 1 点の合計 116 点出土し、整理作業での石鏃の接合により 113 個体になった。分布の状況から、以下の A～D ブロックに分けられる。

**A ブロック**（1～20）： 3 号人骨の左下肢骨側周辺の底面近くから石鏃 40 点が出土し、そのうち 20 点以上の石鏃先端が西方を向いて、集中していた。このような出土状態は原位置にあり、最も近い 3 号人骨に対して副葬されたものと考えられる。石鏃の分類別では黒曜石製石鏃 A2 類 16 点、頁岩製 A2 類 1 点、片岩製石鏃 A5 類 23 点で、A5 類が 57%を占めている。完形石鏃の平均サイズは、A2 類（13 点）が 21.5×13.4×3.1mm、0.6ｇ、A5 類（20 点）が 24.7×13.8×1.9mm、0.6ｇで、A5 類は A2 類に比べ重量は変わらないが、3mm 大きい。

1～8 は A2 類の両面加工の黒曜石製である。1～4・8 は平基で、2・3 は両側縁の長さが異なるため形が変形している。5～7 は浅く湾入した凹基で、7 の基部は「く」の字状に湾入している。9～19 は、薄く板状に剥がれ、節理面のできる片岩を用いたもので、周縁のみに加工を施している。9・10・12・17・18 は平基で、9・12 は両側縁の長さが異なるため、変形を呈し、11・13・14・15・16・19 は凹基で、14・16 は深く湾入を施しているが、ほかは比較的浅い湾入である。20 は頁岩製の浅く湾入を施した凹基で両面に入念な加工を施している。

**B ブロック**（21～38）： 2 号人骨の中央で石鏃 35 点が出土している。若干、散在するものの 10 点ほどが先端を北北東に向いている。B ブロックの副葬品は、2 号人骨の胸部の上にあることから位置的に 2 号人骨に伴うものと思われる。石鏃は分類別では、黒曜石製の A2 類 5 点、頁岩製の C 類 1 点、片岩製の A5 類 29 点で、A5 類が 82%を占めている。完形石鏃の平均サイズは、A2 類（2 点）が 21.7×13.3×3.1mm、重さ 0.6ｇ、A5 類（28 点）が 25.3×14.3×2.1mm、重さ 0.7ｇあり、A5 類が A2 類に比べ 3.6mm 大きく、0.1ｇ重い。

## ⅢGP-01




### ⅢGP-01

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 7.5YR2/1 | 黒色 | Ⅲ≡Ta-dp（φ10↓）しまりあり　粘性弱 |
| 2 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Ⅲ＝Ta-dL(均一)　しまりあり　粘性弱 |
| 3 | 7.5YR5/4 | にぶい褐色 | Ⅲ＝Ta-dL(均一)・Ta-dp(φ10↓)　しまり弱　粘性弱 |
| 4 | 5YR5/8 | 明赤褐色 | Ta-dL＝Ⅲ(ブロック)≡Ta-c(均一)　しまり弱　粘性弱 |
| 5 | 7.5YR5/8 | 明褐色 | Ta-dL≡Ⅲ(ブロック)　しまり弱　粘性弱 |
| 6 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色 | Ta-c＝Ⅲ(ブロック)　しまりなし　粘性なし |
| 7 | 10YR4/4 | 褐色 | Ta-dL-Ta-c(均一)＝Ⅴ(ブロック)≡Ta-dP　しまりなし　粘性なし |
| 8 | 7.5YR5/8 | 明褐色 | Ta-dL＝Ⅴ(φ30↓斑状)≡Ta-c(均一)　しまりなし　粘性なし |
| 9 | 10YR3/3 | 暗褐色 | Ⅴ＝Ta-c(均一)≡Ta-dp(φ20↓ブロック)　しまりややあり　粘性なし |
| 10 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Ⅴ＝Ta-c(φ30↓斑状)　しまりなし　粘性なし |
| 11 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色 | Ta-c＝Ⅴ(ブロック)≡Ta-dp(φ20↓斑状)　しまりなし　粘性なし |
| 12 | 10YR4/4 | 褐色 | Ⅴ－Ta-dL(均一)＝Ta-dp（φ20↓斑状）しまりなし　粘性なし |
| 13 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | Ⅴ＝Ta-c(均一)・Ta-d1≡Ta-dP　しまりなし　粘性なし |
| 14 | 7.5YR5/6 | 明褐色 | Ⅴ－Ta-dP＝Ta-c(均一)≡Ta-d1・Ⅴ層ブロック　しまりややあり　粘性ややあり |
| 15 | 10YR3/3 | 暗褐色 | Ⅴ＝Ta-dP(φ10↓)・Ta-d1≡Ta-c　しまりなし　粘性なし |
| 16 | 10YR3/4 | 暗褐色 | Ⅴ＋Ta-dP(φ30↓)≡Ta-c　しまりなし　粘性なし |

### KP01

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | シルト＝Ta-d2 パミス しまりなし 粘性弱 |

### KP02

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 7.5YR2/2 | 黒褐色 | シルト＝Ta-d2 パミス しまりなし 粘性弱 |

### KP03

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト＝Ta-d2 パミス しまりなし 粘性弱 |

### KP04

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | シルト＝Ta-d2 パミス しまりなし 粘性なし |

図Ⅱ-12　ⅢGP-01 平面及び断面図

21はA2類に属し、両面加工を施した平基の黒曜石製である。22～37はA5類で、主に周縁に加工を施した片岩製である。22～25・32・37は平基で、ほかは比較的浅く湾入を施した凹基である。38はA2類に相当し、Dブロック出土の先端部と接合したものである。両面加工の黒曜石製である。

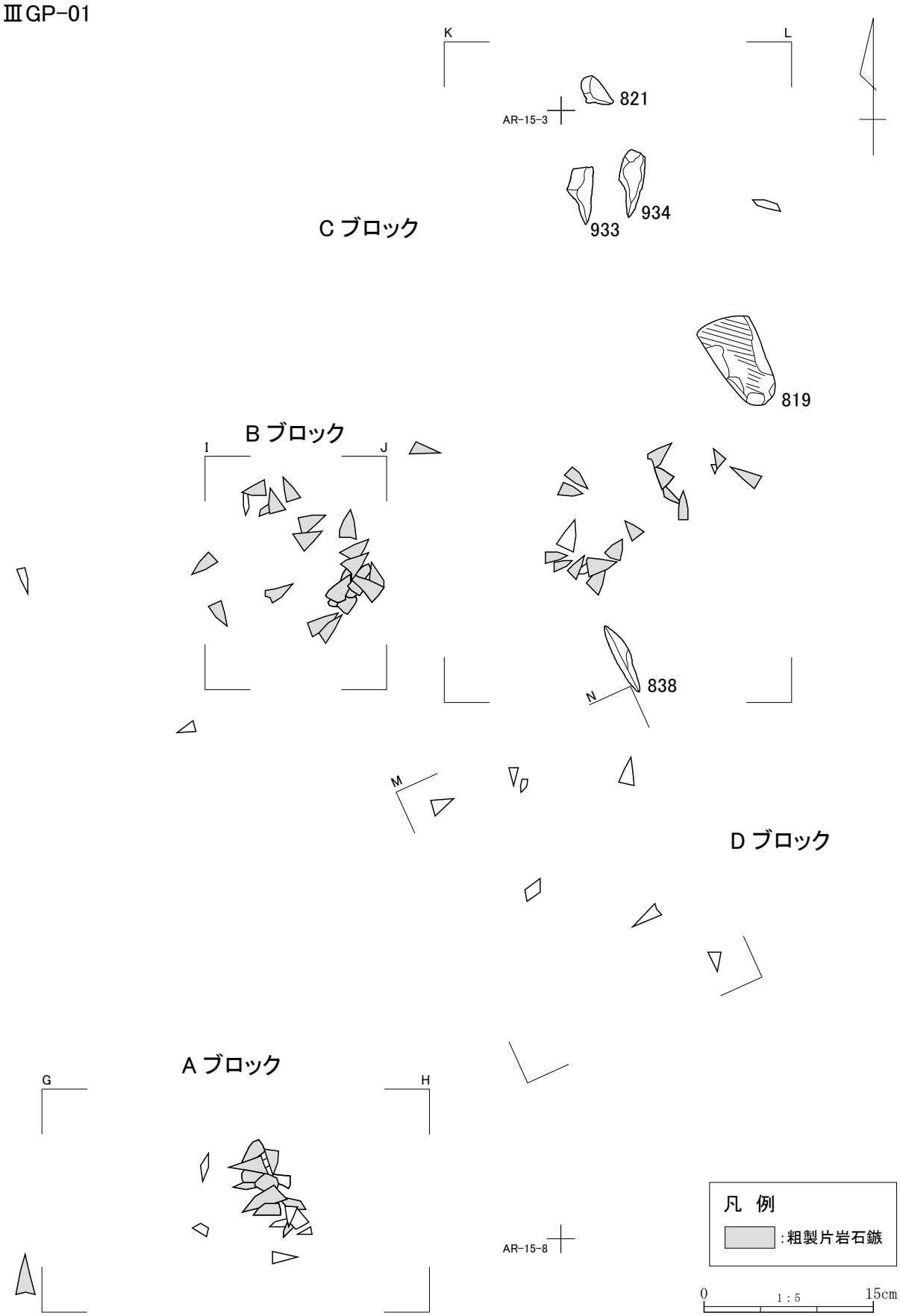
**Cブロック**（39～56）：2号と3号人骨の間に位置し、底面より若干浮いて30点出土した。本ブロックの副葬品は、位置的に1号人骨に伴う可能性がある。石器の器種別・分類別内訳は、黒曜石製石鏃A2類6点、片岩製石鏃A5類19点、頁岩製ナイフ・スクレイパー類のD類4点、緑色泥岩製石斧A3類1点で、このブロックのみ石鏃以外の器種が副葬されていた。分類別では、石鏃A5類が63％を占めるが、石鏃のタイプ比率ではA5類が76％を占めている。完形石鏃の平均サイズは、A2類（4点）が26.5×13.2×2.8mm、重さ0.7ｇ、A5類（18点）が23.7×13.2×2.0mm、重さ0.6ｇで、A2類が3mm弱大きく、0.1ｇ重い。

39～41はA2類で、39は平基、40・41はやや深く湾入する凹基タイプである。いずれも両面に加工しているが、40・41は主に周縁に施している。42～51はA5類で、42・44・46～48・51は平基である。51は両側縁の長さが異なるため、若干形が変形している。43・45・49・50は凹基としたもので、基部は比較的浅く湾入している。52～55は、ナイフ・スクレイパー類のD類に属するものである。石材は全て頁岩である。52は柄部が楕円形、刃部が三角形を呈するもので、横断面は柄部・刃部ともに三角形である。加工は刃部一側縁に若干施されている。53・54は、柄部が大きく長方形状を呈している。刃部は幾度かの加工を経ているためか、細く湾曲し、側面観が嘴状に尖っている。断面は三角形を呈し、摩滅はみられない。55は柳葉形状の左右非対照を呈する。柄部は石槍の尖頭部状を呈し、両面に入念な加工が施されている。刃部は若干黒く変色し、右側縁に新しい調整加工が施され、湾入している。断面は柄部より厚みがあり、いびつな凸レンズ状で、棟には潰れは認められない。形態及び調整剥離技法は縄文時代のポイント類に類似しており、古い時期の石器を再利用した可能性もある（道埋文センター　鈴木信氏・鈴木宏行氏のご教示による）。56は両面の一部に整形時の剥離を残す磨製石斧で、直刃で両刃に近い片刃である。

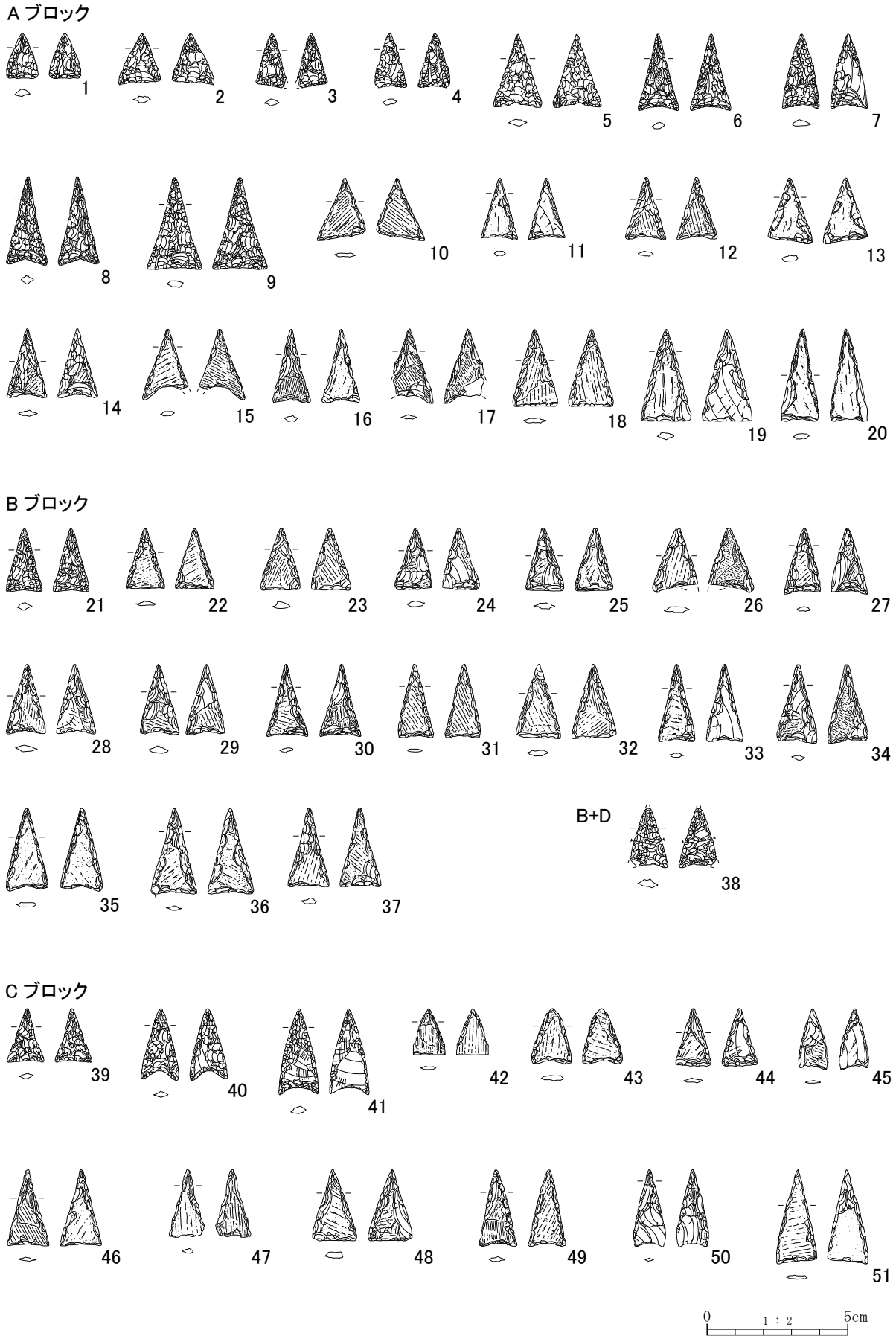
**Dブロック**（57～59）：A・Bブロック間の3号人骨を覆い、石鏃8点が散在して出土している。出土位置から考慮すると、2号ないし3号に副葬されたものと推定される。石鏃の分類はA2類7点、C類1点で、石材はすべて黒曜石である。完形石鏃の平均サイズは、A2類（3点）が23.3×13.3×2.6mm、重さ0.6ｇである。57・59は凹基タイプで、57は深く湾入した凹基を有し、先端部を欠損している。58は凹基で片方の逆棘が短い。59は両面加工の整った平基タイプである。

**構築時期**：時期を決定づける副葬品は出土していないが、掘り込み面がⅢc層上面であること、続縄文文化期後北式期の特徴的な遺物である片岩製粗製石鏃や、近くの包含層から後北A式及びB式土器が出土していることを考慮して、判断するならば、後北A式ないしB式期が妥当と思われる。

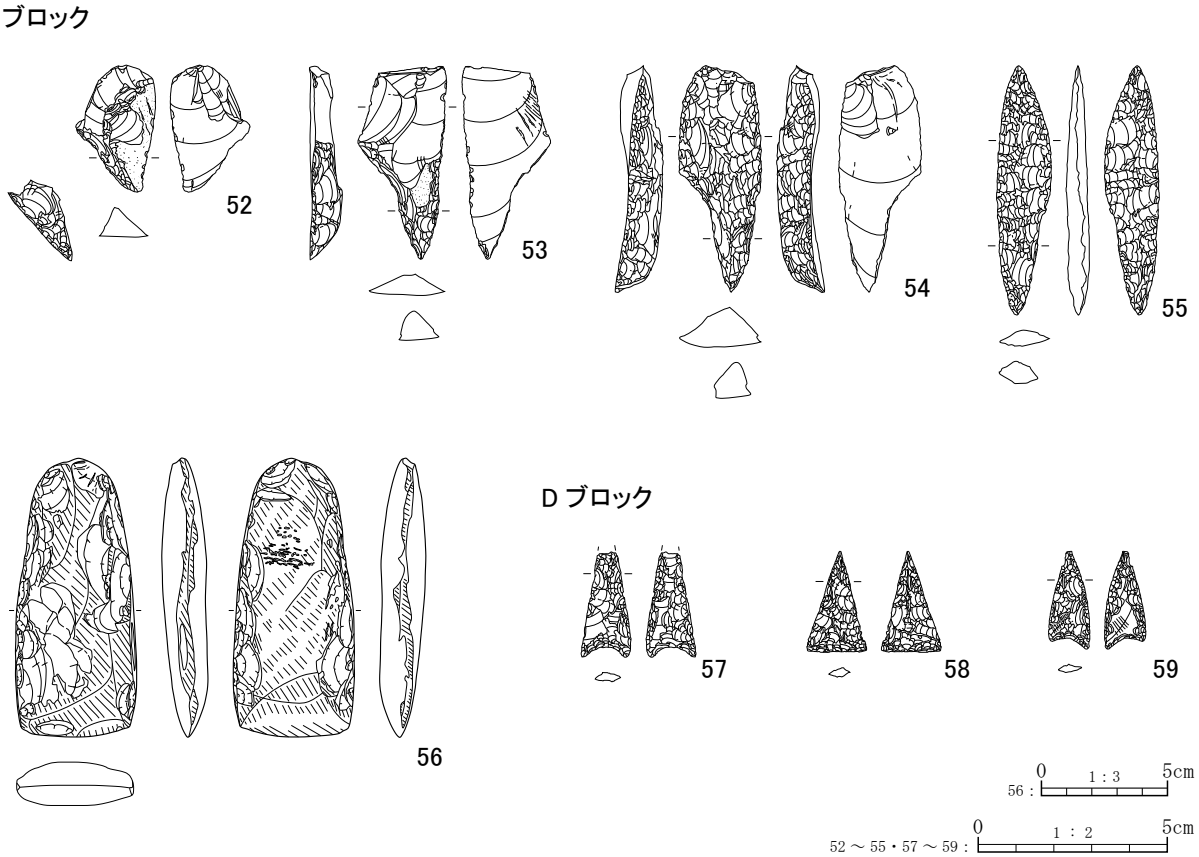
（工藤）




図Ⅱ-13　ⅢGP-01 出土副葬品分布拡大図




図Ⅱ-14　ⅢGP-01 出土副葬品（1）




図Ⅱ-15　ⅢGP-01 出土副葬品（2）

表Ⅱ-16　ⅢGP-01属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 層位 | グリッド | 平面形 | 調査面規模(cm) | | 坑底面規模(cm) | | 深さ(cm) | 長軸方向 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 調査面/坑底面 | 長軸 | 短軸 | 長軸 | 短軸 | | | |
| Ⅱ-12 | 5・6<br>7-1～3 | Ⅲc | AQ-15<br>AR-15 | 円形/円形 | 185 | 166 | 151 | 139 | 126 | N-57°W | 合葬:3体、柱穴:4本<br>副葬品:石器113個体 |

表Ⅱ-17　ⅢGP-01柱穴属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 遺構名 | 規模(cm) | | | 傾き(度) | タイプ | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 上端 | 下端 | 深さ | | | |
| Ⅱ-12 | 7-1 | KP01 | 9 | - | 47 | 2 | 打込み | |
| Ⅱ-12 | 7-1 | KP02 | 9 | - | 41 | 2 | 打込み | |
| Ⅱ-12 | 7-1～3 | KP03 | 7 | - | 30 | 4 | 打込み | |
| Ⅱ-12 | 7-1 | KP04 | 8 | - | 32 | 0 | 打込み | |

## 表Ⅱ-18　ⅢGP-01出土副葬品属性表（1）

| 挿図番号 | 図版番号 | ブロック | 遺物番号 | 遺物名 | 分類 | グリッド | 層位 | 計測値(mm) | | | 重量(g) | 材質 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 長軸 | 短軸 | 厚さ | | | |
| Ⅱ-14-1 | 23-1 | A | 848 | ポイント類 | A2 | AR-15 | 14 | 16.6 | 11.4 | 3.0 | 0.4 | Obs. | 完形 |
| Ⅱ-14-2 | 23-2 | A | 861 | ポイント類 | A2 | AR-15 | 14 | 17.4 | 14.9 | 3.0 | 0.5 | Obs. | 完形 |
| Ⅱ-14-3 | 23-3 | A | 849 | ポイント類 | A2 | AR-15 | 14 | 18.6 | 10.2 | 3.4 | 0.4 | Obs. | 完形 |
| Ⅱ-14-4 | 23-4 | A | 900 | ポイント類 | A2 | AR-15 | 14 | 19.3 | 11.4 | 2.6 | 0.4 | Obs. | 完形 |
| Ⅱ-14-5 | 23-5 | A | 899 | ポイント類 | A2 | AR-15 | 15 | 21.0 | 17.3 | 3.6 | 0.8 | Sh. | 完形 |
| Ⅱ-14-6 | 23-6 | A | 903 | ポイント類 | A2 | AR-15 | 14 | 26.2 | 14.3 | 3.1 | 0.6 | Obs. | 完形 |
| Ⅱ-14-7 | 23-7 | A | 922 | ポイント類 | A2 | AR-15 | 14 | 26.6 | 13.1 | 3.7 | 0.8 | Obs. | 完形 |
| Ⅱ-14-8 | 23-8 | A | 860 | ポイント類 | A2 | AR-15 | 14 | 31.3 | 14.6 | 3.9 | 1.0 | Obs. | 完形 |
| Ⅱ-14-9 | 23-9 | A | 901 | ポイント類 | A2 | AR-15 | 14 | 32.6 | 19.4 | 2.9 | 1.1 | Obs. | 完形 |
| Ⅱ-14-10 | 23-10 | A | 920 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 20.9 | 17.9 | 1.9 | 0.6 | Sch. | 完形 |
| Ⅱ-14-11 | 23-11 | A | 855 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 21.6 | 13.0 | 1.8 | 0.4 | Sch. | 完形 |
| Ⅱ-14-12 | 23-12 | A | 904 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 22.1 | 14.4 | 2.1 | 0.5 | Sch. | 完形 |
| Ⅱ-14-13 | 23-13 | A | 916 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 22.2 | 15.8 | 2.3 | 0.7 | Sch. | 完形 |
| Ⅱ-14-14 | 23-14 | A | 919 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 24.7 | 14.2 | 3.3 | 0.8 | Sch. | 完形 |
| Ⅱ-14-15 | 23-15 | A | 913 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 25.4 | (15.7) | 1.7 | (0.5) | Sch. | 基部欠損 |
| Ⅱ-14-16 | 23-16 | A | 902 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 26.1 | 13.3 | 2.0 | 0.6 | Sch. | 完形 |
| Ⅱ-14-17 | 23-17 | A | 857 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 27.0 | (12.9) | 2.5 | (0.7) | Sch. | 基部欠損 |
| Ⅱ-14-18 | 23-18 | A | 851 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 27.5 | 15.9 | 2.0 | 0.8 | Sch. | 完形 |
| Ⅱ-14-19 | 23-19 | A | 853 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 32.7 | 17.5 | 2.5 | 1.4 | Sch. | 完形 |
| Ⅱ-14-20 | 23-20 | A | 923 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 32.9 | 13.3 | 2.4 | 0.9 | Sch. | 完形 |
| - | - | A | 921 | ポイント類 | A2 | AR-15 | 14 | (14.1) | 11.0 | 2.2 | (0.3) | Obs. | 先端・基部一部欠損 |
| - | - | A | 859 | ポイント類 | A2 | AR-15 | 14 | (13.5) | 5.7 | 2.3 | (0.2) | Obs. | 先端部欠 |
| - | - | A | 906 | ポイント類 | A2 | AR-15 | 14 | 16.6 | 13.8 | 3.5 | 0.6 | Obs. | 完形 |
| - | - | A | 915 | ポイント類 | A2 | AR-15 | 14 | 17.1 | 13.6 | 3.5 | 0.6 | Obs. | 完形 |
| - | - | A | 914 | ポイント類 | A2 | AR-15 | 14 | 17.2 | 12.5 | 3.0 | 0.5 | Obs. | 完形 |
| - | - | A | 854 | ポイント類 | A2 | AR-15 | 14 | 17.3 | 11.6 | 2.8 | 0.4 | Obs. | 完形 |
| - | - | A | 847 | ポイント類 | A2 | AR-15 | 14 | 19.5 | (12.0) | 2.5 | (0.5) | Obs. | 基部一部欠損 |
| - | - | A | 909 | ポイント類 | A2 | AR-15 | 14 | 23.2 | 13.2 | 2.0 | 0.6 | Obs. | 完形 |
| - | - | A | 907 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | (21.1) | (16.4) | 1.4 | (0.4) | Sch. | 基部欠損 |
| - | - | A | 918 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 20.4 | 12.6 | 1.3 | 0.3 | Sch. | 完形 |
| - | - | A | 905 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 21.2 | 13.5 | 1.2 | 0.4 | Sch. | 完形 |
| - | - | A | 917 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 22.3 | 12.7 | 1.1 | 0.3 | Sch. | 完形 |
| - | - | A | 911 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 22.6 | 12.0 | 0.1 | 0.4 | Sch. | 完形 |
| - | - | A | 912 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 22.6 | 12.6 | 1.3 | 0.4 | Sch. | 完形 |
| - | - | A | 856 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 22.6 | 13.0 | 2.2 | 0.7 | Sch. | 完形 |
| - | - | A | 852 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 24.9 | 13.2 | 3.4 | 0.9 | Sch. | 完形 |
| - | - | A | 910 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 25.0 | 12.8 | 1.1 | 0.4 | Sch. | 完形 |
| - | - | A | 850 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 26.3 | 12.6 | 3.1 | 0.8 | Sch. | 完形 |
| - | - | A | 908 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 26.5 | 11.3 | 1.1 | 0.4 | Sch. | 完形 |
| - | - | A | 858 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 28.2 | 13.7 | 2.7 | 1.0 | Sch. | 完形 |
| Ⅱ-14-21 | 23-21 | B | 864 | ポイント類 | A2 | AR-15 | 14 | 22.3 | 12.6 | 3.1 | 0.6 | Obs. | 完形 |
| Ⅱ-14-22 | 23-22 | B | 892 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 21.6 | 13.6 | 1.8 | 0.5 | Sch. | 完形 |
| Ⅱ-14-23 | 23-23 | B | 883 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 21.8 | 14.0 | 1.8 | 0.7 | Sch. | 完形 |
| Ⅱ-14-24 | 23-24 | B | 866 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 21.8 | 13.1 | 2.3 | 0.6 | Sch. | 完形 |
| Ⅱ-14-25 | 23-25 | B | 887 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 16 | 22.1 | 13.5 | 2.3 | 0.7 | Sch. | 完形 |
| Ⅱ-14-26 | 23-26 | B | 873 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 23.7 | 16.2 | 2.0 | 0.6 | Sch. | 完形 |
| Ⅱ-14-27 | 23-27 | B | 872 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 24.1 | 12.7 | 2.1 | 0.6 | Sch. | 完形 |
| Ⅱ-14-28 | 23-28 | B | 874 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 24.7 | 13.7 | 2.6 | 0.7 | Sch. | 完形 |
| Ⅱ-14-29 | 23-29 | B | 891 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 24.9 | 13.7 | 2.5 | 0.7 | Sch. | 完形 |
| Ⅱ-14-30 | 23-30 | B | 893 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 25.8 | 14.7 | 2.4 | 0.7 | Sch. | 完形 |
| Ⅱ-14-31 | 23-31 | B | 879 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 26.1 | 12.4 | 1.2 | 0.5 | Sch. | 完形 |
| Ⅱ-14-32 | 23-32 | B | 890 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 26.2 | 15.8 | 1.9 | 0.8 | Sch. | 完形 |
| Ⅱ-14-33 | 23-33 | B | 867 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 27.4 | 13.0 | 2.1 | 0.6 | Sch. | 完形 |
| Ⅱ-14-34 | 23-34 | B | 878 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 27.6 | 14.2 | 2.6 | 0.8 | Sch. | 完形 |
| Ⅱ-14-35 | 23-35 | B | 882 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 29.2 | 14.8 | 1.6 | 0.7 | Sch. | 完形 |
| Ⅱ-14-36 | 23-36 | B | 880 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 30.4 | 16.3 | 1.8 | 0.8 | Sch. | 完形 |
| Ⅱ-14-37 | 23-37 | B | 865 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 28.1 | 14.6 | 1.8 | 0.7 | Sch. | 完形 |

## 表Ⅱ-19　ⅢGP-01出土副葬品属性表（2）

| 挿図番号 | 図版番号 | ブロック | 遺物番号 | 遺物名 | 分類 | グリッド | 層位 | 計測値(mm) | | | 重量(g) | 材質 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 長軸 | 短軸 | 厚さ | | | |
| - | - | B | 927 | ポイント類 | A2 | AR-15 | 14 | (11.0) | (6.4) | 2.1 | (0.1) | Obs. | 先端部欠損 |
| - | - | B | 929 | ポイント類 | A2 | AR-15 | 14 | (16.7) | 15.9 | 2.5 | (0.6) | Obs. | 先端部欠損 |
| - | - | B | 931+932 | ポイント類 | A2 | AQ-15 | 14 | (24.4) | 13.5 | 2.3 | (0.5) | Obs. | 先端部欠損、接 |
| - | - | B | 930 | ポイント類 | C | AR-15 | 14 | (22.5) | (9.2) | 3.2 | (0.5) | Sh. | 茎部欠損 |
| - | - | B | 898 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | (21.8) | 15.1 | 1.6 | (0.6) | Sch. | 先端部欠損 |
| - | - | B | 881 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 22.0 | 14.2 | 2.3 | 0.6 | Sch. | 完形 |
| - | - | B | 869 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 22.7 | 12.4 | 2.4 | 0.6 | Sch. | 完形 |
| - | - | B | 875 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 23.2 | 14.6 | 2.1 | 0.8 | Sch. | 完形 |
| - | - | B | 871 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 23.4 | 15.4 | 1.8 | 0.7 | Sch. | 完形 |
| - | - | B | 884 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 25.7 | 15.9 | 1.6 | 0.6 | Sch. | 完形 |
| - | - | B | 886 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 25.9 | 15.1 | 1.6 | 0.8 | Sch. | 完形 |
| - | - | B | 876 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 26.0 | 14.9 | 2.1 | 0.7 | Sch. | 完形 |
| - | - | B | 885 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 26.1 | 15.7 | 2.8 | 1.0 | Sch. | 完形 |
| - | - | B | 877 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 26.3 | 14.4 | 1.7 | 0.6 | Sch. | 完形 |
| - | - | B | 870 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 26.5 | 14.9 | 2.2 | 0.7 | Sch. | 完形 |
| - | - | B | 889 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 26.5 | 13.1 | 2.3 | 0.9 | Sch. | 完形 |
| - | - | B | 868 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 14 | 27.3 | 13.0 | 3.1 | 0.8 | Sch. | 完形 |
| Ⅱ-14-38 | 23-38 | B・D | 863+844 | ポイント類 | A2 | AR-15 | 14・15 | (21.1) | (13.9) | 3.1 | (0.6) | Obs. | 略完形、接 |
| Ⅱ-14-39 | 23-39 | C | 926 | ポイント類 | A2 | AR-15 | 16 | 19.2 | 13.0 | 2.7 | 0.4 | Obs. | 完形 |
| Ⅱ-14-40 | 23-40 | C | 820 | ポイント類 | A2 | AR-15 | 16 | 25.2 | 13.5 | 2.6 | 0.6 | Obs. | 完形 |
| Ⅱ-14-41 | 23-41 | C | 835 | ポイント類 | A2 | AR-15 | 15 | 30.7 | 14.0 | 2.8 | 0.9 | Obs. | 完形 |
| Ⅱ-14-42 | 23-42 | C | 828 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 15 | 16.5 | 11.5 | 1.6 | 0.3 | Sch. | 完形 |
| Ⅱ-14-43 | 23-43 | C | 829 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 15 | 19.8 | 14.2 | 2.1 | 0.7 | Sch. | 完形 |
| Ⅱ-14-44 | 23-44 | C | 833 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 15 | 20.5 | 12.4 | 2.3 | 0.5 | Sch. | 完形 |
| Ⅱ-14-45 | 23-45 | C | 825 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 16 | 21.4 | 10.4 | 1.4 | 0.3 | Sch. | 完形 |
| Ⅱ-14-46 | 23-46 | C | 925 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 16 | 22.2 | 14.8 | 2.0 | 0.6 | Sch. | 完形 |
| Ⅱ-14-47 | 23-47 | C | 834 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 15 | 24.0 | 12.2 | 2.1 | 0.6 | Sch. | 完形 |
| Ⅱ-14-48 | 23-48 | C | 830 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 15 | 25.6 | 15.9 | 2.4 | 0.8 | Sch. | 完形 |
| Ⅱ-14-49 | 23-49 | C | 822 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 16 | 27.4 | 13.4 | 2.0 | 0.7 | Sch. | 完形 |
| Ⅱ-14-50 | 23-50 | C | 824 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 16 | 27.6 | 10.6 | 2.0 | 0.5 | Sch. | 完形 |
| Ⅱ-14-51 | 23-51 | C | 832 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 16 | 32.6 | 14.5 | 1.8 | 0.9 | Sch. | 完形 |
| Ⅱ-15-52 | 23-52 | C | 821 | ナイフ・スクレイパー類 | D | AQ-15 | 16 | 33.6 | 20.3 | 10.3 | 5.9 | Sh. | 完形 |
| Ⅱ-15-53 | 23-53 | C | 933 | ナイフ・スクレイパー類 | D | AR-15 | 16 | 51.4 | 22.5 | 7.3 | 7.2 | Sh. | 完形 |
| Ⅱ-15-54 | 23-54 | C | 934 | ナイフ・スクレイパー類 | D | AR-15 | 16 | 60.6 | 22.1 | 10.3 | 12.8 | Sh. | 完形 |
| Ⅱ-15-55 | 23-55 | C | 838 | ナイフ・スクレイパー類 | D | AR-15 | 16 | 65.8 | 14.3 | 5.7 | 5.0 | Sh. | 完形 |
| Ⅱ-15-56 | 23-56 | C | 819 | 石斧 | A | AR-15 | 16 | 110.2 | 45.5 | 17.4 | 141.5 | Gr-Mud. | 完形 |
| - | - | C | 894 | ポイント類 | C | AR-15 | 16 | (12.0) | (10.1) | 2.6 | (0.4) | Obs. | 胴部のみ |
| - | - | C | 888 | ポイント類 | A2 | AR-15 | 16 | (15.4) | 8.2 | 2.6 | (0.3) | Obs. | 先端部欠損 |
| - | - | C | 896 | ポイント類 | A2 | AR-15 | 15 | 30.7 | 12.3 | 3.0 | 0.9 | Obs. | 完形 |
| - | - | C | 836 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 16 | 23.3 | 14.0 | 1.8 | 0.6 | Sch. | 完形 |
| - | - | C | 823 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 16 | (17.8) | 12.5 | 1.4 | (0.3) | Sch. | 先端部欠損 |
| - | - | C | 924 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 16 | 21.1 | 13.8 | 2.4 | 0.8 | Sch. | 完形 |
| - | - | C | 826 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 16 | 22.4 | 13.0 | 2.2 | 0.6 | Sch. | 完形 |
| - | - | C | 827 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 16 | 23.4 | 13.9 | 2.2 | 0.7 | Sch. | 完形 |
| - | - | C | 837 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 15 | 23.8 | 12.1 | 1.6 | 0.5 | Sch. | 完形 |
| - | - | C | 831 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 15 | 24.0 | 14.1 | 2.8 | 0.7 | Sch. | 完形 |
| - | - | C | 895 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 16 | 24.9 | 13.4 | 2.2 | 0.7 | Sch. | 完形 |
| - | - | C | 897 | ポイント類 | A5 | AR-15 | 16 | 25.8 | 13.9 | 1.4 | 0.5 | Sch. | 完形 |
| Ⅱ-15-57 | 23-57 | D | 841 | ポイント類 | A2 | AR-15 | 16 | (27.9) | 13.3 | 3.1 | (0.9) | Obs. | 先端部欠損 |
| Ⅱ-15-58 | 23-58 | D | 839 | ポイント類 | A2 | AR-15 | 16 | 21.7 | 15.9 | 3.1 | 0.8 | Obs. | 完形 |
| Ⅱ-15-59 | 23-59 | D | 862 | ポイント類 | A2 | AR-15 | 14 | 26.3 | 11.0 | 2.6 | 0.5 | Obs. | 完形 |
| - | - | D | 843 | ポイント類 | A2 | AR-15 | 16 | (13.8) | 10.1 | 2.3 | (0.3) | Obs. | 先端部欠損 |
| - | - | D | 842 | ポイント類 | A2 | AR-15 | 16 | (16.8) | 15.5 | 3.1 | (0.7) | Obs. | 先端部欠損 |
| - | - | D | 845+846 | ポイント類 | A2 | AR-15 | 16 | 21.9 | 13.1 | 2.1 | 0.5 | Obs. | 完形、接 |
| - | - | D | 928 | ポイント類 | A2 | AR-15 | 14 | (26.7) | 14.0 | 2.5 | (0.9) | Obs. | 先端部欠損 |
| - | - | D | 840 | ポイント類 | C | AR-15 | 16 | (9.5) | (8.5) | 2.2 | (0.2) | Obs. | 先端部・基部欠損 |

## 第 6 節　道跡

調査区（拡張区）南西の南斜面において、Ⅲc 層～Ta-c 層で堅く締まり、粘性の強い黒褐色土として確認された。

**ⅢR-01**（図Ⅱ-16　図版 7-4・5）

位置：AT-19～21・AU-18・19　層位：Ⅲc 層　規模：延長約 17m×幅平均 50cm

**確認・調査：** 道跡は弧を描いて筋状に、東側は調査区外の沢状地形を斜めに下り、西側は区外の高い尾根状地形へ続くと思われる。このことから、道跡と判断した。道幅は狭い部分で幅 30cm、広い部分で幅 65cm あり、総じて幅は 50cm 前後である。横断面は凹凸のある浅い窪みを呈して深さは 7～12cm である。時期は縄文時代晩期中葉以降～中世アイヌ文化期以前と思われる。（工藤）

**表Ⅱ-20　ⅢR-01属性表**

| 挿図番号 | 図版番号 | 遺構名 | グリッド | 層位 | 平面形 | 規模(cm) | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 長軸 | 短軸 | 深さ | |
| Ⅱ-16 | 7-4･5 | ⅢR-01 | AT-19～21<br>AU-18･19 | Ⅲc | 弧状 | 1,680 | 23～58 | 10 | |

## 第 7 節　包含層出土遺物

Ⅲ層の包含層からは、土器 78 点、剥片石器 14 点、礫石器 31 点、剥片類 70 点、鉄製品 9 点、礫 808 点の計 1,010 点出土している。分布傾向は総じて遺構が検出されている周辺及び調査区中央で多く出土している（図Ⅱ-18）。

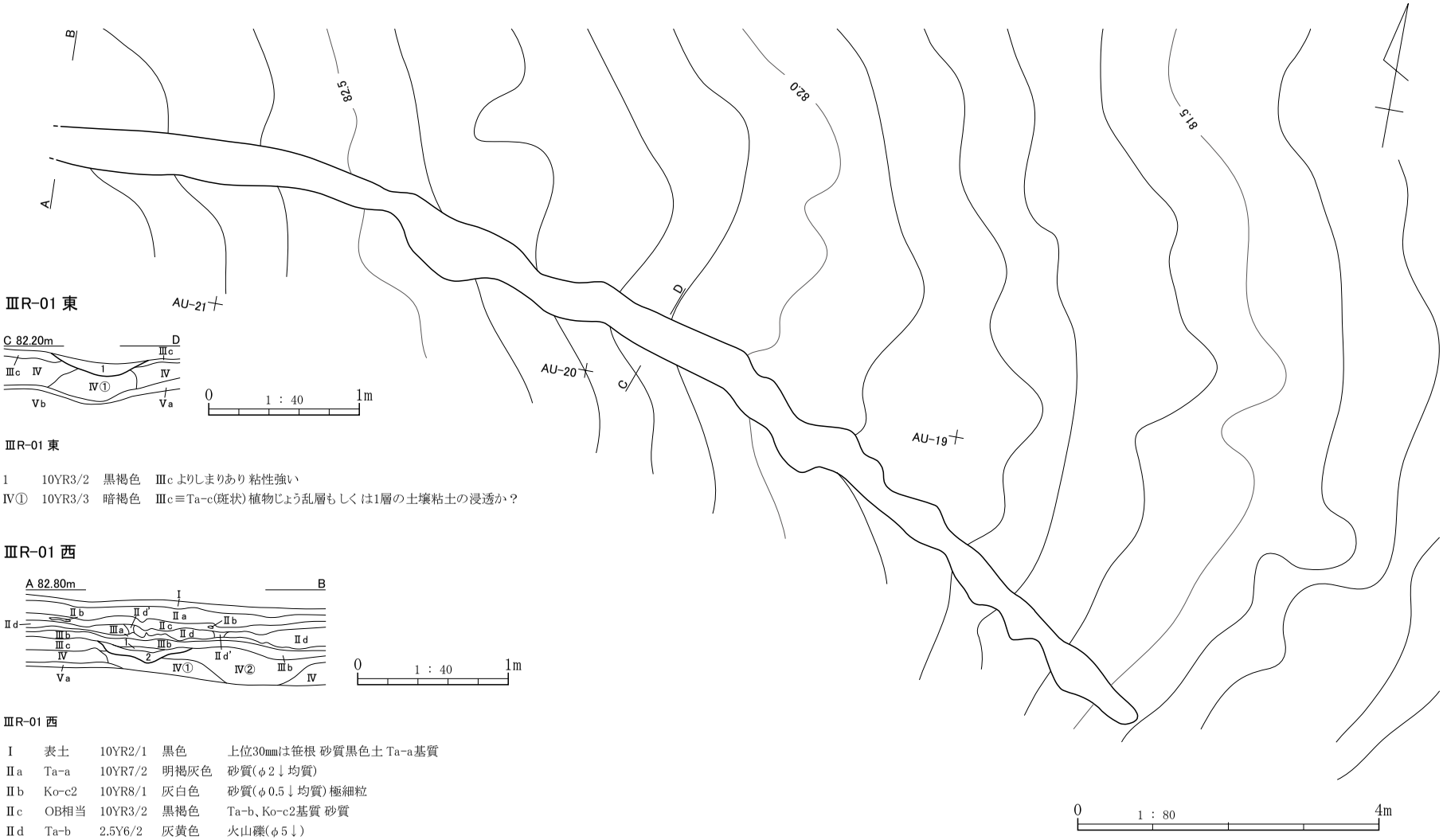
**1．土器**（図Ⅱ-17-1～4　図版 24-1-1～4）

Ⅲ層出土の土器は、遺構で扱ったⅢPB-01 出土土器を含め 149 点出土している。そのうち、78 点が包含層からの出土である。分布は調査区東側の AP・AQ-14 グリッドほかでⅥ群 C1・C2 類に属する後北 A・B 式土器、調査区中央の AR・AS-16・17 グリッドほかでⅦ群 B3 類に属する擦文土器が出土している（図Ⅱ-18）。

**Ⅵ群 C1 類土器**（1）： 後北 A 式に相当する土器で、口縁部が若干外反する上げ底、倒鐘形の深鉢である（ZP01A）。口唇は尖り気味だが、丸みをもっている。密ではないが刻みを斜めに施文している。小突起は 4 ヵ所にあるものと思われる。突起の頂部には刻み目が施されている。口縁の内面は、なだらかに丸みをもってナデ調整しているが、部分的に稜をもっている。器面には口縁の突起から縦位 2 条（U 字状）の貼付帯を施して、縦位貼付帯に連結するように横位貼付帯 2 条をめぐらし、この間には横走する縄文と D 字形の刺突文を施している。縦位貼付帯及び横位貼付帯上には刺突文が施され、刺突文はさらに横位貼付帯の上下にも並行するように施される。下位の貼付帯から下 2cm ほどに 3 条の沈線を横位にめぐらし、沈線間に刺突文が加えられる。下位の貼付帯と横位沈線間を斜線でつなぐように施し、突器の下部あたりから向きをかえて施している。胴部には帯状の縦走する縄文が施文されている。施文順位は口縁部の縄文、胴部の縄文を施文してから貼付帯や沈線を施している。

**Ⅵ群 C2 類土器**（2・3）： 2 は後北 B 式に相当する小型深鉢である（ZP02A）。口唇断面は尖り、刻み目がついている。内面は緩やかに外反し、下位はほぼ直立している。小突起が 4 ヵ所につくものと思われる。これより垂下する「ハ」の字状の隆起線が施され口縁に沿って隆起線 3 条めぐり、隆起線上に細かな三ヶ月状の刻み目が施される。3 条目の隆起線下部にも刻み目が、これより 1cm ほど下位の器面

## ⅢR-01




### ⅢR-01 東




ⅢR-01 東

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Ⅲc よりしまりあり 粘性強い |
| Ⅳ① | 10YR3/3 | 暗褐色 | Ⅲc≡Ta-c(斑状)植物じょう乱層もしくは1層の土壌粘土の浸透か？ |

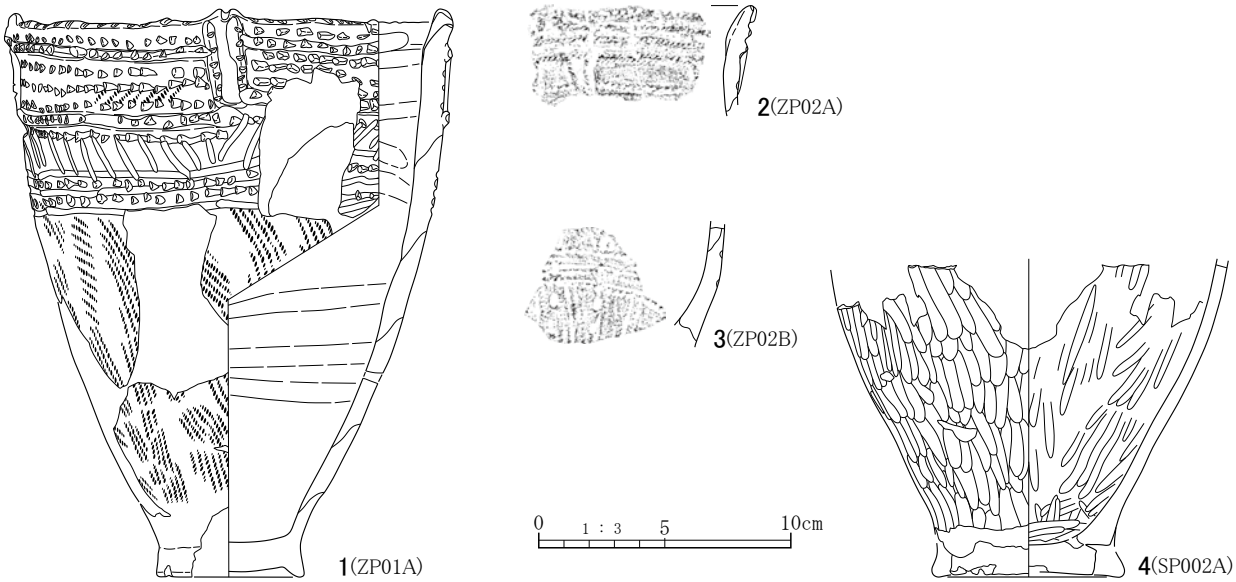
### ⅢR-01 西




ⅢR-01 西

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| Ⅰ | 表土 | 10YR2/1 | 黒色 | 上位30㎜は笹根 砂質黒色土 Ta-a基質 |
| Ⅱa | Ta-a | 10YR7/2 | 明褐灰色 | 砂質(φ2↓均質) |
| Ⅱb | Ko-c2 | 10YR8/1 | 灰白色 | 砂質(φ0.5↓均質)極細粒 |
| Ⅱc | OB相当 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Ta-b、Ko-c2基質 砂質 |
| Ⅱd | Ta-b | 2.5Y6/2 | 灰黄色 | 火山礫(φ5↓) |
| Ⅱd' | | 10YR2/1 | 黒色 | Ⅲb＝Ta-b 根のじょう乱 |
| 1 | | 10YR2/2 | 黒褐色 | Ⅲb(水成シルト質)しまりあり 粘性強 道跡終末期の路面か？ |
| 2 | | 10YR3/2 | 黒褐色 | Ⅲb≡Ta-c(均一)しまりあり 粘性あり 道跡覆土 Ⅲcよりも Ⅲbに近い |
| Ⅳ① | | 10YR4/4 | 褐色 | Ta-c＝Ⅲc(斑状)しまりあり |
| Ⅳ② | | 10YR3/3 | 暗褐色 | Ⅲb＝Ta-c≡Ⅴ(斑状)しまり弱 粘性あり 植物じょう乱層 |

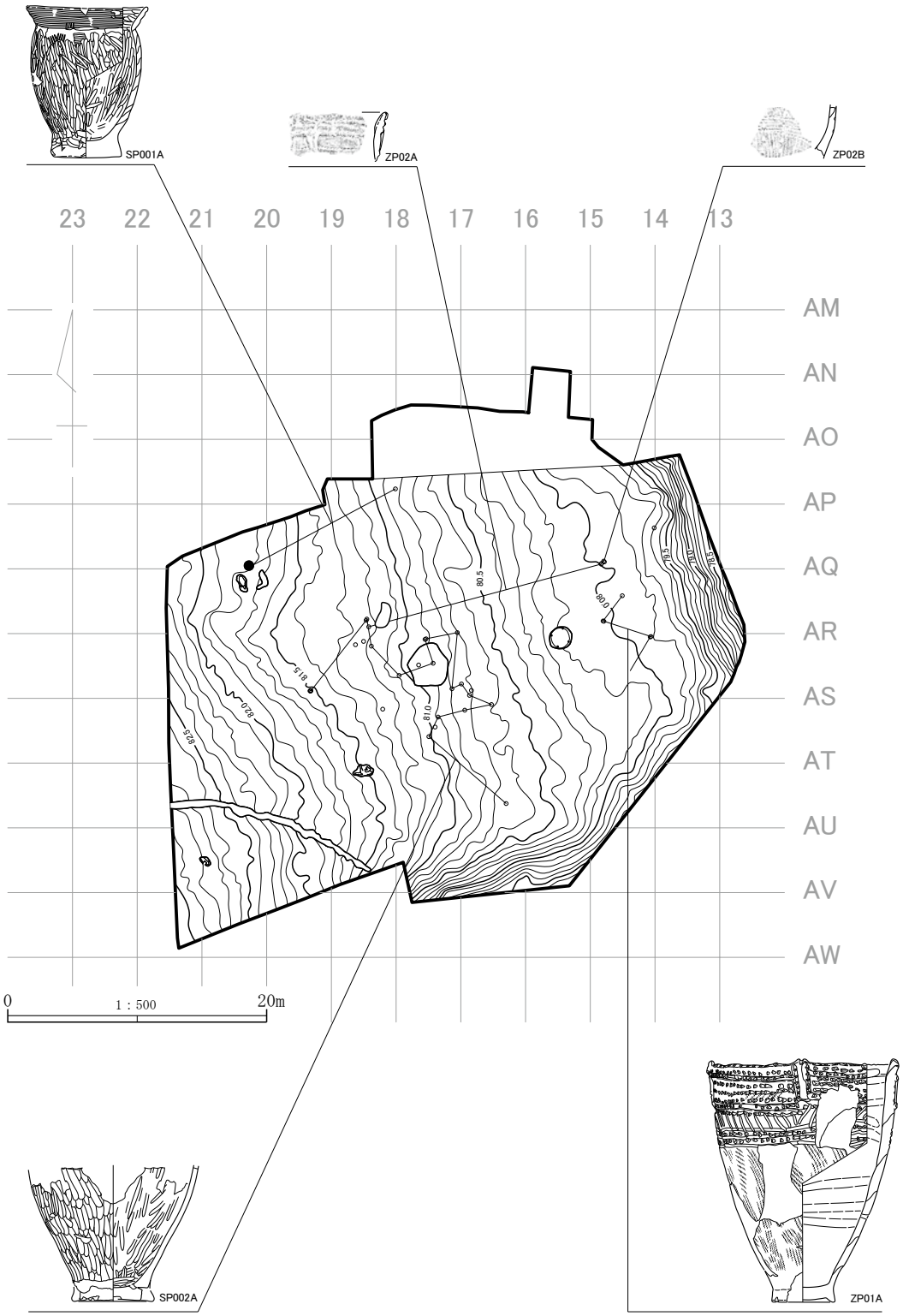
図Ⅱ-16 ⅢR-01 平面及び断面図




図Ⅱ-17　Ⅲ層包含層出土土器

表Ⅱ-21　Ⅲ層包含層出土土器属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 個体名称 | 分類 | 遺構名/グリッド | 点数 | 部位 | 器形等<br>口縁－口唇/胴部/底側面－変換点－底面 | 文様<br>口唇－口縁－内面/胴部－内面/底側面－底面－内面 | 胎土 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⅱ-17-1 | 24-1-1 | ZP01A | ⅣC1(後北A) | AQ-14 | 3 | 口縁部～底部 | 小突起・やや外反する平縁-尖り気味で外縁丸み/やや外傾する/外傾-上げ底・張り出し倒鐘形の器形 | 刻み目-刺突文+刻み目のある隆起線-横方向のナデ/斜位沈線文+横位沈線文+刺突文+帯状RL縄文-横方向のナデ/帯状RL縄文 | 砂粒微量 | |
| | | | | AR-14 | 3 | | | | | |
| | | | | TR-01 | 7 | | | | | |
| Ⅱ-17-2 | 24-1-2 | ZP02A | ⅣC2(後北B) | AP-14 | 3 | 口縁部 | 小突起・平縁・直立-外反気味で外端丸み | 刻み目-刻み目のある縦走りの隆起線文+横方向の刺突文 | 砂粒微量 | |
| | | | | AQ-18 | 1 | | | | | |
| Ⅱ-17-3 | 24-1-3 | ZP02B | ⅣC2(後北B) | AP-14 | 2 | 胴部 | 上半直立・下半外傾 | 帯状の横走・縦走縄文+横方向の刺突文+縦方向の短刻線文 | 砂粒微量 | |
| Ⅱ-17-4 | 24-1-4 | SP002A | ⅦB3 | AQ-17 | 1 | 胴部～底部 | 上位垂直・下位外傾/張り出し甕形 | 縦位ミガキ/縦位ミガキ-ミガキ | 砂粒微量 | |
| | | | | AQ-18 | 3 | | | | | |
| | | | | AR-16 | 13 | | | | | |
| | | | | AR-17 | 4 | | | | | |
| | | | | AR-18 | 1 | | | | | |
| | | | | AR-19 | 4 | | | | | |
| | | | | AS-16 | 388 | | | | | |
| | | | | AS-17 | 2 | | | | | |
| | | | | AT-16 | 1 | | | | | |
| | | | | ⅢSB-01 | 1 | | | | | |




図Ⅱ-18　Ⅲ層出土土器接合線図

にも横方向に斜位D字形の刺突文列が施される。突起より「ハ」の字状に垂下する隆起線の延長下部には縦の隆起線が施され、刻み目をつけている。縦の隆起線は4条認められる。隆起線に沿うようにナデ調整が施される。3は後北B式に相当する胴部破片である（ZP02B）。上半に横走する縄文、下半に縦走する縄文が帯状に施文される。横走縄文上位と縦走縄文上位には横走するD字形の刺突文列が施される。またこれらの文様を施文後に縦方向に垂下する短刻線文が2列施される。刻み目の施文方向や、内面の粗い調整及び胎土の状態からZP02Aと同一個体と考えられる。

**Ⅶ群B3類土器**（4）：擦文文化期後期に属すると思われる中型甕形の胴部下半から底部にかけて復元された土器である（SP002A）。胴部上位はほぼ垂直、底部に向かいすぼまり底部はくびれ外へ張り出す。底面中央がやや窪む。器面及び底部は縦位ミガキ調整される。内面は縦位ミガキ調整されており、黒色を呈する。器壁は薄く4mm程度である。器面胴部から底部にかけてと、内面の胴部上位に炭化物の付着が少量認められる。（長谷川）

**２．剥片石器**（図Ⅱ-19-1～4　図版24-2-1～4）

Ⅲ層の剥片石器は遺構を含め129点あり、そのうち14点が包含層から出土している。内訳はポイント類A2類2点、A5類2点、B類1点、エンド・スクレイパーB2類2点、UF・RF類7点である。以下、掲載した4点について述べる。

**石鏃**（1・2）：1はA2類に属し、両面に細かな加工を施す無茎平基である。基部の一方を欠く。2はA5類に属し、板状に剥離する片岩を用いて周縁のみに加工を施している無茎平基である。続縄文後北式期に特徴的な石器で、掲載しなかったが本類は、もう1点出土している。

**エンド・スクレイパー**（3・4）：ともにB2類に属する。3は原石面を残す不整な楕円形剥片を用い、表面の刃部となる側縁に加工を施している。4は表面の刃部となる下側縁に加工を施している。不整な隅丸長方形を呈し、横と縦の断面が三角形で、原石面を残している。

**３．礫石器**（図Ⅱ-19-5～12　図版24-2-5～12）

Ⅲ層からは遺構を含め39点出土し、そのうち包含層からは31点出土している。器種別の内訳は、石斧6点（5個体）、たたき石16点（13個体）、擦石1点、火打ち石1点、砥石5点（4個体）、台石2点（1個体）である。掲載した8点について述べる。

**石斧**（5）：すべてA類に属するものである。5は円刃片刃の石斧である。打ち欠き整形後、敲打と研磨により表面中央に低い隆起を作出して山形状に仕上げている。刃部には刃毀れと思われる痕跡が認められる。ちなみに石斧出土地点の南西にⅢGP-01が位置している。

**たたき石**（6～8）：接合により、Ⅰ群のA1類・A2類各1個体、B1類3個体、B2類・B3類各1個体、Ⅱ群のA2類3個体、B2類1個体、Ⅲ群のA類2個体が出土している。6がⅠ群B1類、7がⅠ群B3類、8がⅢ群A類に属する。6は扁平な楕円形礫を用い、側縁の一部に敲打による剥離と打痕を残す。ⅢSB-01出土の剥片と接合している。本器種で扱ったが石材からも火打石の可能性がある。7は不整な弧状を呈するもので、表面と側縁の一部に敲打痕を残している。8は2点が接合したもので、断面が不整な台形状の棒状礫の1面に敲打痕を縦長に残している。

**擦石**（9）：平・断面ともに楕円形を呈して光沢があり、両面の中央に若干の潰れと、その周りと側縁に擦り痕が認められる。

**台石**（10）：扁平な不整台形を呈する台石で、表面中央に敲打による浅い窪みが認められる。

**火打石**（11）： 石英片岩の節理面を裏面に残す板状のもので、一側縁に打痕による細かな潰れ痕をもつ。出土地点に隣接してⅢSB-02 が位置している。

**砥石**（12）： 2 点が接合したもので、表面の中央に条痕が集中している。（工藤）

**表Ⅱ-22 Ⅲ層包含層出土石器属性表**

| 挿図番号 | 図版番号 | 個体名称 | 遺物番号 | 遺物名 | 分類 | グリッド | 層位 | 計測値(mm) | | | 重量(g) | 材質 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 長軸 | 短軸 | 厚さ | | | |
| Ⅱ-18-1 | 24-2-5 | - | 551 | ポイント類 | A2 | AQ-14 | Ⅲc | (19.5) | (14.2) | 3.4 | (0.5) | Obs. | 基部欠損 |
| Ⅱ-18-2 | 24-2-6 | - | 578 | ポイント類 | A5 | AP-14 | Ⅲc | 18.3 | 15.7 | 2.0 | 0.5 | Sch. | 完形 |
| Ⅱ-18-3 | 24-2-7 | - | 159 | ナイフ・スクレイパー類 | B2 | AS-14 | Ⅲc | 44.2 | 33.6 | 9.2 | 10.6 | Obs. | 完形 |
| Ⅱ-18-4 | 24-2-8 | - | 591 | ナイフ・スクレイパー類 | B2 | AQ-15 | Ⅲc | 30.4 | 22.8 | 15.4 | 8.6 | Obs. | 完形 |
| Ⅱ-18-5 | 24-2-9 | - | 568 | 石斧 | A | AQ-14 | Ⅲc | 117.3 | 45.9 | 25.6 | 188.0 | Sch. | 完形 |
| Ⅱ-18-6 | 24-2-10 | ⅢST006 | 640 | たたき石 | ⅢA | AP-16 | ⅢbL | 115.9 | 95.3 | 22.1 | 369.0 | Cha. | 完形、接(270) |
| Ⅱ-18-7 | 24-2-11 | - | 950 | たたき石 | ⅠB1 | AU-20 | ⅢbL | 123.0 | 56.4 | 45.3 | 410.0 | Sa. | 完形 |
| Ⅱ-18-8 | 24-2-12 | ⅢST007 | 814 | たたき石 | ⅠB3 | AU-20 | ⅢbL | 235.7 | 56.9 | 47.2 | 860.0 | Sa. | 完形、接(948) |
| Ⅱ-18-9 | 24-2-13 | - | 1170 | 擦石 | C | AP-20 | ⅢbL | 88.1 | 75.2 | 53.9 | 605.0 | Bs. | 完形 |
| Ⅱ-18-10 | 24-2-14 | - | 947 | 台石 | - | AV-20 | ⅢbL | 137.3 | 127.7 | 41.1 | 985.0 | Sa. | 完形 |
| Ⅱ-18-11 | 24-2-15 | - | 479 | 火打石 | - | AQ-18 | ⅢbL | 70.9 | 64.6 | 10.9 | 81.7 | Qu-Sch. | |
| Ⅱ-18-12 | 24-2-16 | ⅢST008 | 620 | 砥石 | - | AQ-17 | Ⅲc | 215.3 | (146.4) | 43.4 | (1,200.0) | Sa. | 欠損、接(619) |

図Ⅱ-19　Ⅲ層包含層出土石器

# 第Ⅲ章　Ⅴ層の調査

本章で取り扱う遺構及び遺物は、Ta-c テフラ層下の黒色腐植土（Ⅴ層）及び漸移層（Ⅵ層）から確認したものである。Ⅴ層の調査は、Ⅲ層と同範囲及び拡張区の合計 905 ㎡について調査した。発掘調査は町教委が行い、整理報告は町教委の協力のもとシン技術が行った。

作業経過について、当初計画区 700 ㎡はⅢ層調査終了後、重機による Ta-c 層除去を行いⅤ層の調査を行った。拡張区については、町教委による試掘調査結果に基づき当初計画区の北側 205 ㎡の拡張を行った。Ⅴ層調査面積は 905 ㎡となった。西側拡張区は、当初計画区Ⅲ層の調査終了と同時に、重機による Ta-c を除去し、Ⅴ層調査を行い、調査終了後、旧石器確認調査のため、重機で 4×2mのトレンチを 3 ヵ所掘開し Ta-d 層を除去、Ⅸ層上面までの精査を行った。北側拡張区は、当初計画区Ⅴ層調査着手後、重機で Ta-c 層までを除去し、Ⅴ層の調査を行った。

検出した遺構は、住居跡 1 軒、Ｔピット 8 基、土坑 3 基、焼土 2 基、土器集中 14 ヵ所、礫集中 1 ヵ所である。

Ⅴ層出土遺物は調査区全体で、土器 2,030 点、剥片石器 35 点、礫石器 50 点、土製品 2 点、剥片類 70 点、礫 1,562 点が出土している。出土土器については、縄文時代早期末葉に属する東釧路Ⅳ式から後期中葉の手稲式に属するものまで出土しているが、主体となるのは縄文時代後期前葉のタプコプ式土器である。（工藤）

## 第 1 節　住居跡

**VH-01**（図Ⅲ-2・3-1～4　図版 8・25-1～4・8）

位置：AQ-17・AR-17・18　層位：Ⅴb 層上位　規模：446×430×35cm

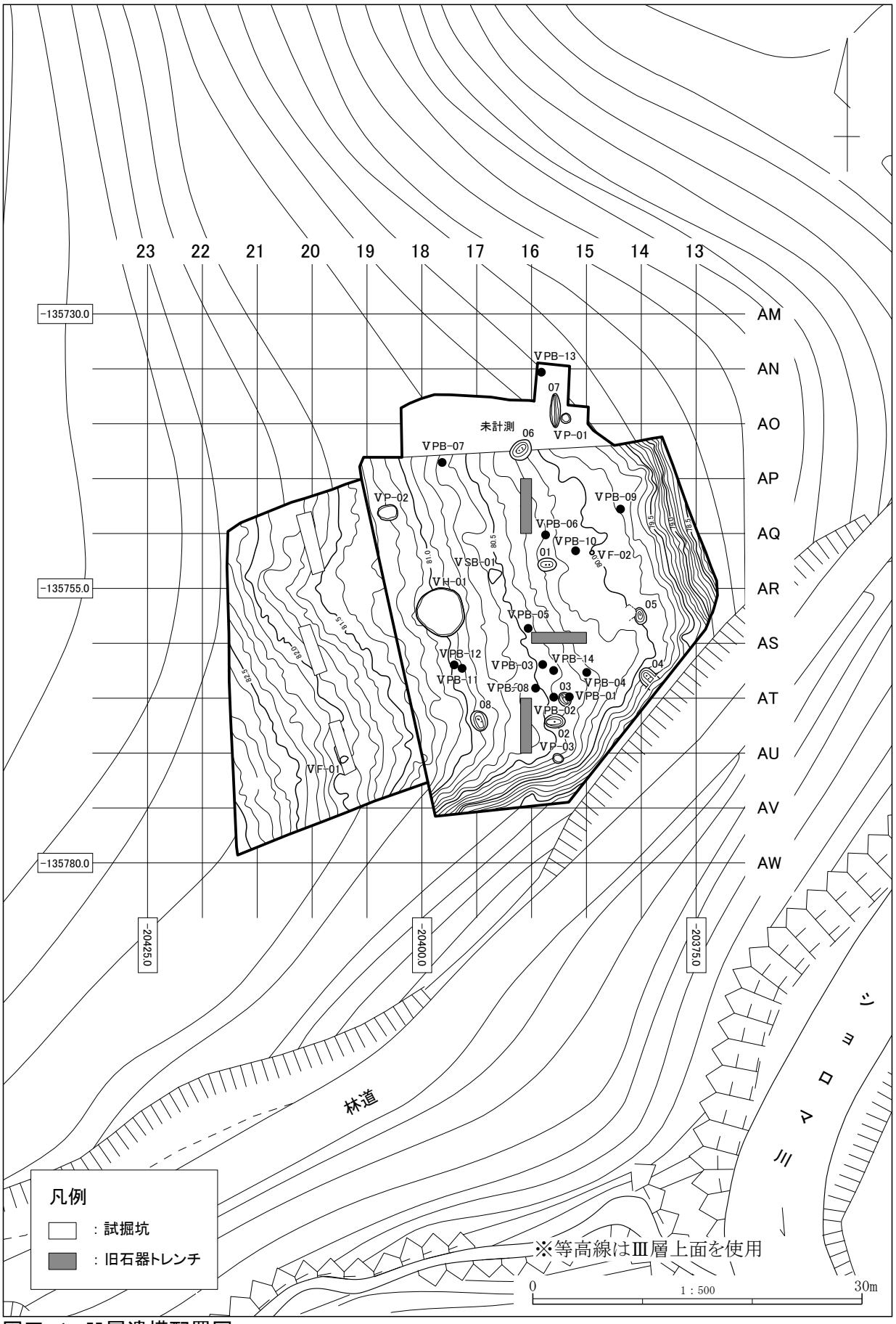
出土点数：土器 125 点、石器 2 点、剥片類 2 点、礫 44 点

長軸方向：　N-48°W　平面形：不整円形　付属遺構：HF01

**確認・調査**：　重機による火山灰除去を行っている際、調査区中央に円形の浅い窪みを確認した。窪みの南側には Ta-d パミスを混入したⅤc～Ⅵ層が狭い範囲ではあるが分布していた。これらが住居跡及びその掘り上げ土である可能性と考え調査を行った。調査は中心と予想される地点から掘り上げ土を含めた十字ベルトを設定し、トレンチ調査で床面及び壁面の立ち上がり、掘り上げ土の範囲を確認した。床面からは石組炉を確認した。十字ベルトセクションの記録後に、付属遺構及び柱穴の確認調査を行い、完掘写真を撮影して調査終了とした。

**堆積状態**：　12 層は掘り上げ土で、一部住居内に二次的に流入している。2～4・10・11 層は堀り上げ土若しくは屋根土の流れ込み、5・6・8・9 層はこの上面が生活面であったと考えられる。1・7 層は、起伏に富んだ堆積状況から屋根土であると考えられる。

**石組炉**：　住居跡床面中央やや西側に板状礫で構成された石組炉を 1 ヵ所検出した。礫は床面から浮いた状態で、その角度も浅く水平に近い、また平面形も乱れている。これは倒木痕の影響を受けたためと考えられる。このため形状について確かなことは言えないが炉跡の東側には土器が細片となって分布している。この土器片は全てタプコプ式の同一個体で二次被熱を受けていることから、炉壁の一部としての使用が考えられる。炉内外から焼土や炭化物は検出されなかった。焼土が検出されなかった理由としては、倒木痕の影響が考えられる。


23
22
21
20
19
18
17
16
15
14
13
-135730.0
-135755.0
-135780.0
AM
AN
AO
AP
AQ
AR
AS
AT
AU
AV
AW
-20425.0
-20400.0
-20375.0
VPB-13
07
未計測
06
VP-01
VPB-07
VP-02
VPB-09
VPB-06
VPB-10
01
VF-02
VSB-01
VH-01
05
VPB-05
VPB-12
VPB-11
VPB-03
VPB-14
04
VPB-04
VPB-08
03
VPB-01
08
VPB-02
02
VP-03
VF-01
林道
マロッシ川
凡例
：試掘坑
：旧石器トレンチ
※等高線はⅢ層上面を使用
0
1：500
30m

図Ⅲ-1　Ⅴ層遺構配置図

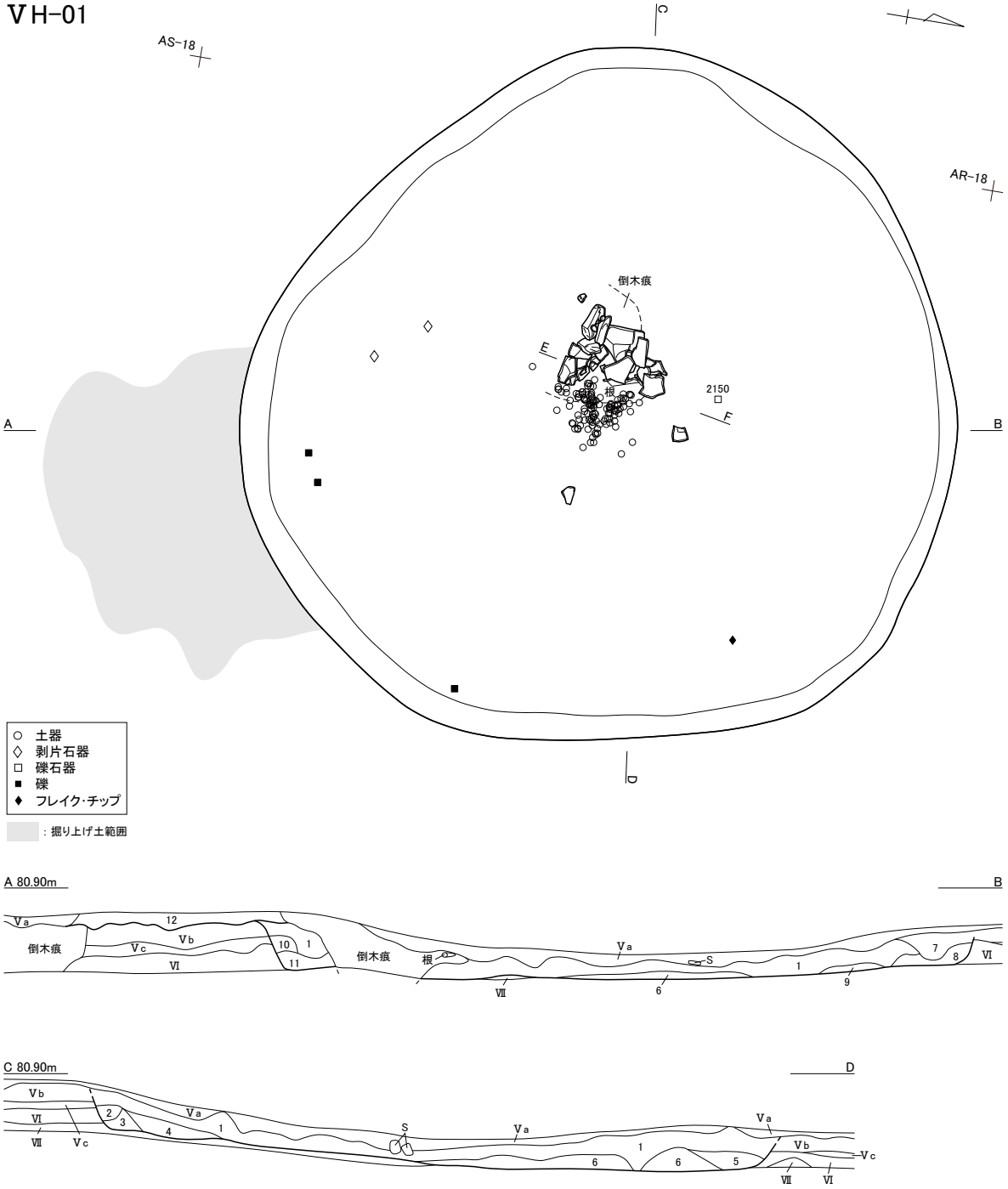
表Ⅲ-1　Ⅴ層遺構群一覧表

| 遺構名 | 時期 | 規模(cm) | | | グリッド | 層位 | 付属・関連遺構 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長軸 | 短軸 | 深さ/厚さ | | | | |
| VH-01 | 縄文時代後期 | 446 | 430 | 35 | AQ-17<br>AR-17・18 | VbU | 石組炉1 | |
| TP-01 | 縄文時代中期～後期 | 170 | 119 | 88 | AQ-15 | Vc | 逆茂木跡2 | |
| TP-02 | 縄文時代中期～後期 | 187 | 125 | 96 | AT-15 | Vc | 逆茂木跡1 | |
| TP-03 | 縄文時代中期～後期 | 116 | 114 | 105 | AS・AT-15 | Vc | 逆茂木跡2 | ⅣA2以前 |
| TP-04 | 縄文時代中期～後期 | (136) | 149 | 119 | AS-13・14 | Vc | 逆茂木跡3 | |
| TP-05 | 縄文時代中期～後期 | 156 | 108 | 116 | AR-14・15 | Vc | 逆茂木跡2 | |
| TP-06 | 縄文時代中期～後期 | 213 | 170 | 122 | AO-16 | Vc | 逆茂木跡4 | |
| TP-07 | 縄文時代中期～後期 | 312 | 88 | 130 | AN・AO-15 | Ⅵ | | |
| TP-08 | 縄文時代中期～後期 | 190 | 148 | 116 | AT-16・17 | Ⅵ | 逆茂木跡4 | ⅢB3a以前 |
| VP-01 | 縄文時代 | 90 | 88 | 20 | AN-15 | Ⅵ | | |
| VP-02 | 縄文時代 | 184 | 140 | 32 | AP-18 | Ⅵ | | |
| VP-03 | 縄文時代 | 97 | 86 | 27 | AU-15 | Ⅵ | | |
| VF-01 | 縄文時代後期 | 76 | 57 | 25 | AU-19 | Vc | | 石組炉 礫:216点 |
| VF-02 | 縄文時代後期 | 43 | 38 | 12 | AQ-14 | Vc | | 石組炉 礫:132点 |
| VPB-01 | 縄文時代後期 | 140 | 103 | － | AS-15<br>AT-15 | Va | | |
| VPB-02 | 縄文時代中期 | 66 | 31 | － | AS-15<br>AT-15 | Va | | |
| VPB-03 | 縄文時代後期 | 100 | 64 | － | AS-15 | VbU | | |
| VPB-04 | 縄文時代後期 | 106 | 63 | － | AS-14・15 | VbU | | |
| VPB-05 | 縄文時代後期 | 104 | 82 | － | AR-15・16 | VbU | | |
| VPB-06 | 縄文時代後期 | 43 | 41 | － | AP-15<br>AQ-15 | VbU | | |
| VPB-07 | 縄文時代後期 | 200 | 77 | － | AO-17 | VbU | | |
| VPB-08 | 縄文時代後期 | 74 | 37 | － | AS-15 | VbU | | |
| VPB-09 | 縄文時代後期 | 60 | 29 | － | AP-14 | VbU | | |
| VPB-10 | 縄文時代中期 | 50 | 38 | － | AQ-15 | KR | | 倒木痕落ち込み |
| VPB-11 | 縄文時代中期 | 83 | 62 | － | AS-17 | VbU | | |
| VPB-12 | 縄文時代中期 | 52 | 18 | － | AS-17 | VbU | | |
| VPB-13 | 縄文時代後期 | 59 | 36 | － | AN-15 | VbU | | |
| VPB-14 | 縄文時代後期 | 40 | 20 | － | AS-15 | VbU | | |
| VSB-01 | 縄文時代 | 125 | 96 | － | AQ-16 | VbU | | |

**遺物出土状態**：住居跡内も石組炉周辺を除けば出土遺物は少なく、そのほとんどが礫である。

（岩橋）

**出土遺物**（1～4）：VH-01 から礫石器・RF 各 1 点、剥片類 2 点、礫 8 点の合計 12 点と HF01 から礫 35 点、その周辺から土器 125 点、礫 1 点の合計 173 点出土している。1～3 は縄文時代後期前葉の新段階のタプコプ式に相当する。掲載した 3 点は石組炉付近で出土したものである。土器片は同一個体と考えられる破片 125 点で、すべて被熱し総じて剥落したものが多いために復元することができなかった。1 は隅丸角状の口唇をもつ口縁部で、口唇及び器面に LR 斜行縄文を施文し、内面は剥落している（JP13A）。2・3 は胴部で、2 は内面（JP13B）、3 は器面が剥落しており LR 斜行縄文が施される（JP13C）。胎土に砂粒を多く含む。（長谷川）

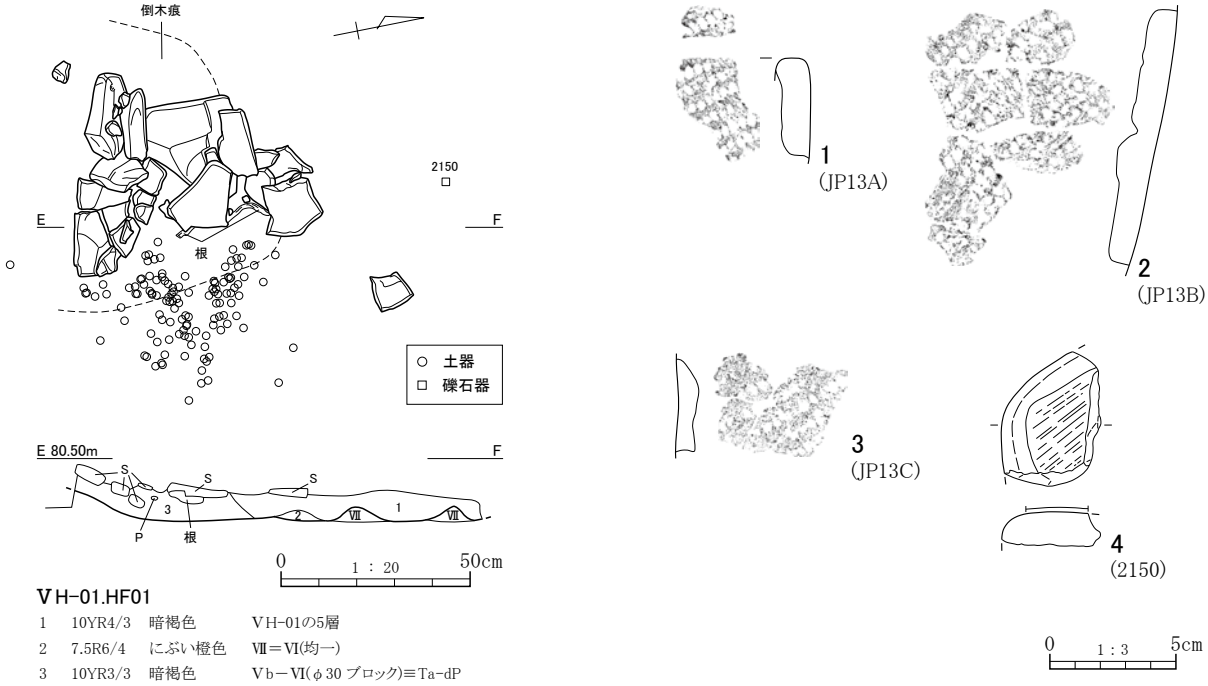



ⅤH-01

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 10YR2/2 | 黒褐色 | Ⅴb＝Ⅵ(φ40↓ブロック)≡Ta-dP 遺物包含層 |
| 2 | 10YR3/4 | 暗褐色 | Ⅵ－Ⅴb(均一) |
| 3 | 10YR4/6 | 褐色 | Ⅵ≡Ⅴb(φ10↓斑状)≡Ta-dP |
| 4 | 10YR3/3 | 暗褐色 | Ⅴb－Ⅵ(φ40↓ブロック)≡Ta-dP 汚れた土 |
| 5 | 10YR3/3 | 暗褐色 | Ⅴb＝Ⅵ(均一)≡Ⅶ(φ10↓斑状) |
| 6 | 10YR3/4 | 暗褐色 | Ⅵ＝Ⅴb(均一)≡小円礫(φ10↓) |
| 7 | 10YR2/3 | 黒褐色 | Ⅴb≡Ⅵ(φ10↓斑状)≡小円礫(φ5↓) |
| 8 | 10YR4/4 | 褐色 | Ⅵ＝Ⅴb(均一)≡Ⅶ(φ10斑状) |
| 9 | 10YR4/6 | 褐色 | Ⅵ＝Ⅵ(均一) |
| 10 | 10YR2/3 | 黒褐色 | Ⅴb＝Ⅵ(φ30↓ブロック) |
| 11 | 10YR4/4 | 褐色 | Ⅵ＝Ⅴb(φ20↓斑状) |
| 12 | 10YR4/6 | 褐色 | Ⅵ＝Ⅴc(均一)≡Ta-dP |

0　1：40　2m

図Ⅲ-2　ⅤH-01 平面及び断面図




ⅤH-01.HF01

1　10YR4/3　暗褐色　ⅤH-01の5層

2　7.5R6/4　にぶい橙色　Ⅶ＝Ⅵ(均一)

3　10YR3/3　暗褐色　Ⅴb－Ⅵ(φ30 ブロック)≡Ta-dP

図Ⅲ-3　ⅤH-01.HF01 平面及び断面図・出土遺物

## 表Ⅲ-2　ⅤH-01属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | グリッド | 層位 | 長軸方向 | 規模(cm) 上端 長軸 | 上端 短軸 | 下端 長軸 | 下端 短軸 | 深さ | 付属遺構 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⅲ-2 | 8-1・2 | AQ-17<br>AR-17<br>AR-18 | ⅤbL | N-15°E | 446 | 430 | 416 | 404 | 35 | HF01 | |

## 表Ⅲ-3　ⅤH-01・HF01属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 遺構名 | グリッド | 層位 | タイプ | 平面形 | 規模(cm) 上面 長軸 | 上面 短軸 | 底面 長軸 | 底面 短軸 | 深さ | 灰・骨片の有無 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⅲ-3 | 8-3 | HF01 | AR-17 | 1 | 石組炉 | 楕円形 | 80 | 66 | 55 | 40 | 9 | 無 | |

## 表Ⅲ-4　ⅤH-01出土土器属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 個体名称 | 分類 | グリッド | 層位 | 点数 | 部位 | 器形等 | 文様 | 胎土 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 口縁－口唇/胴部/底側面－変換点－底面 | 口唇－口縁－内面/胴部－内面/底側面－底面－内面 | | |
| Ⅲ-3-1 | 25-1 | JP13A | ⅣB1 | AR-17 | 5 | 1 | 口縁部 | 直立－隅丸角状 | LR縄文－LR斜行縄文－剥落 | 砂粒多量 | |
| Ⅲ-3-2 | 25-2 | JP13B | ⅣB1 | AR-17 | 5 | 7 | 胴部 | 外傾 | LR斜行縄文 | 砂粒多量 | |
| Ⅲ-3-3 | 25-3 | JP13C | ⅣB1 | AR-17 | 5 | 3 | 胴部 | 外傾 | 剥落－LR斜行縄文 | 砂粒多量 | |

表Ⅲ-5　ⅤH-01出土礫石器属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 個体名称 | 遺物番号 | 遺物名 | 分類 | 遺構名 | 層位 | 計測値(mm) | | | 重量(g) | 材質 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 長軸 | 短軸 | 厚さ | | | |
| Ⅲ-3-4 | 25-4 | - | 2150 | 砥石 | - | ⅤH-01 | 1 | (53.0) | (38.8) | (12.7) | (33.6) | Sa. | 破片 |

表Ⅲ-6　ⅤH-01.HF01出土炉石属性表

| 図版番号 | 個体名称 | 遺物番号 | グリッド<br>層位<br>状態 | 長軸(mm)<br>短軸(mm)<br>厚さ(mm) | 重量(g)<br>被熱<br>石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 25-8 | VS101 | 2325・2326・2328・2329・2330・2332・2333・2335・2340・2341・2342 | AQ-17<br>AR-17・18 | 328.0 | (3500.0) | |
| | | | ⅤbL | (298.0) | ○ | |
| | | | 欠損 | 43.1 | Sa. | |
| 25-8 | VS102 | 2314・2317・2318・2321・2322・2323 | AQ-17<br>AR-17・18 | 370.0 | 3100.0 | |
| | | | ⅤbL | 206.2 | ○ | |
| | | | 完形 | 48.1 | Sa. | |
| 25-8 | VS103 | 2324・2331 | AQ-17<br>AR-17・18 | 280.4 | 5210.0 | |
| | | | ⅤbL | 279.8 | ○ | |
| | | | 完形 | 59.9 | Sa. | |
| 25-8 | - | 3257 | AQ-17<br>AR-17・18 | (230.4) | (1360.0) | |
| | | | ⅤbL | 198.6 | ○ | |
| | | | 欠損 | 31.3 | Sa. | |

4は炉跡の東0.3mの覆土から出土した砥石である。扁平礫の1面に使用面をもつ破片で、裏面は剥落しているが、被熱痕は見られない。石材は砂岩製である。

炉石（図版25－8）は砂岩製で35点あり、接合により大型の板状礫4個体と破片12点となった。総重量は18,235ｇあり、ほとんどの礫から被熱痕が確認されている。（工藤）

## 第2節　Ｔピット　（図Ⅲ-4～9　図版9～12）

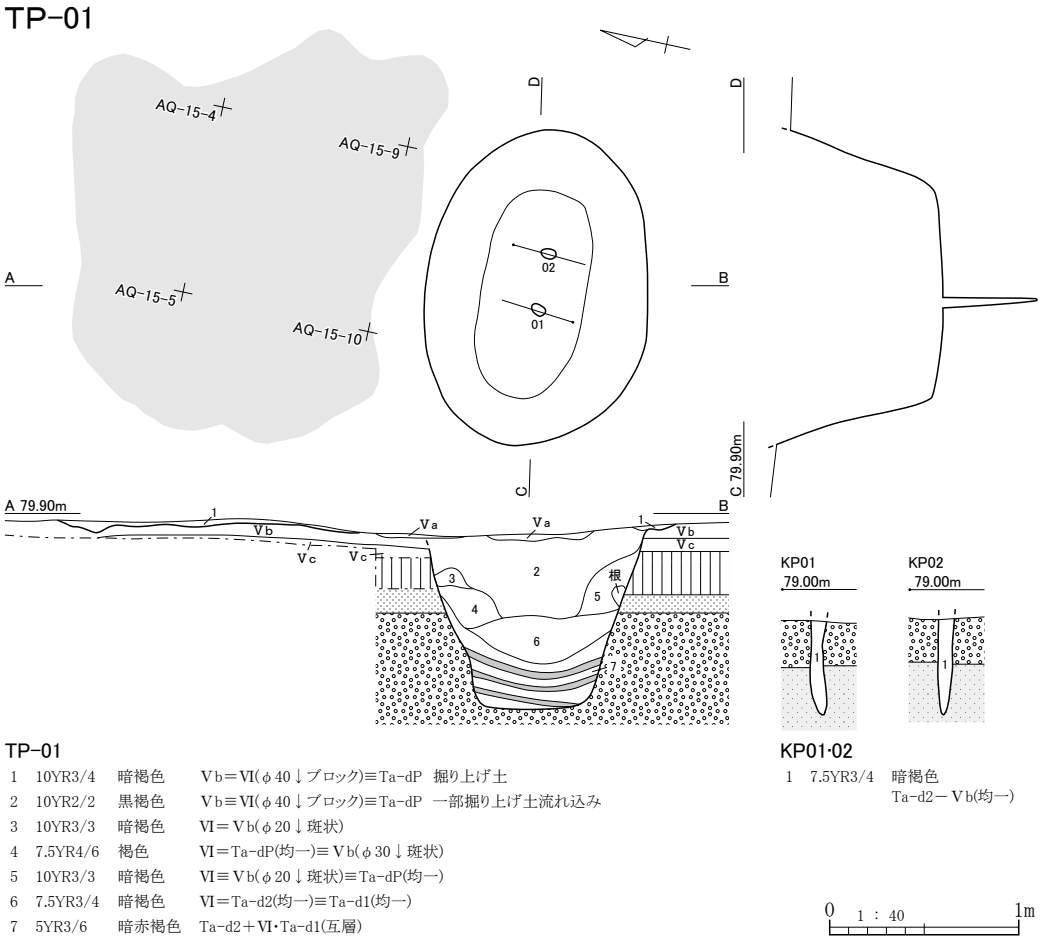
Ｔピットは8基検出した。ここでは形態、堆積状況、分布と配列等について項目ごとにまとめて記載を行い、個別の記載は特筆すべき例を除き行わなかったため、個別の図表を参照されたい。

**確認・調査**：TP-07・08を除いて、Ⅳ層除去段階で窪みを確認した。また周囲にはTa-dパミスが混入したⅤb～Ⅵ層が、低いマウンド状に堆積していたため掘り上げ土と想定した。このため窪み長軸の中間付近でそれと直交する位置にベルトを残し周囲をⅤc層まで掘り下げ、掘り上げ土の範囲確認とＴピット平面形の検出作業を行った。その後、ベルト設定線に沿って半截し、堆積状態の撮影・実測を行った。実測終了後に残り半分を調査し、完掘平面形の撮影・実測及びエレベーションの計測を行った。TP-07・08はⅤc層上面で黒色土の落ち込みを確認した段階で、ベルトに替えてセクションラインを設定した以外は同様の手順で調査を行った。また坑底で杭穴を検出したものは、半截掘開し、同じ手順の記録調査を行った。（岩橋）

**形態分類**：Ｔピットの形態分類は、坑底面の長短比及び杭穴の有無を基準とする『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅱ』（苫小牧市教委 1987）での分類案を基に、長短比数値に若干の変更を加えた厚幌1遺跡（厚真町教委 2004）での分類に従い、細分を含め7タイプに分けた。

## 表Ⅲ-7　Tピット属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 遺構名 | 分類 | 平面形 調査面/坑底面 | グリッド | 調査面層位 | 調査面規模(cm) 長軸 | 調査面規模(cm) 短軸 | 坑底面規模(cm) 長軸 | 坑底面規模(cm) 短軸 | 深さ(cm) | 長軸方向 | 杭跡 | 重複 | 調査面長短比 | 坑底面長短比 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⅲ-4 | 9-1～3 | TP-01 | C2 | 楕円/楕円 | AQ-15 | Ⅴc | 170 | 119 | 111 | 57 | 88 | N-90°W | 2 | 無 | 1.43 | 1.95 |
| Ⅲ-5 | 9-4～6 | TP-02 | C2 | 楕円/長楕円 | AT-15 | Ⅴc | 187 | 125 | 130 | 54 | 96 | N-90°W | 1 | 無 | 1.50 | 2.42 |
| Ⅲ-6 | 10-1～4 | TP-03 | C2 | 不整円/長楕円 | AS・AT-15 | Ⅴc | 116 | 114 | 88 | 31 | 105 | N-32°W | 2 | 無 | 1.02 | 2.82 |
| Ⅲ-7 | 10-5・6 | TP-04 | C2 | 楕円/長楕円 | AS-13・14 | Ⅴc | (136) | 149 | (96) | 45 | 119 | N-45°E | 3 | 無 | (0.91) | (2.13) |
| Ⅲ-7 | 11-1・2 | TP-05 | C2 | 楕円/長楕円 | AR-14・15 | Ⅴc | 156 | 108 | 71 | 40 | 116 | N-9°W | 2 | 無 | 1.45 | 1.79 |
| Ⅲ-8 | 11-3 4・5 | TP-06 | C2 | 不整円/長楕円 | AO-16 | Ⅴc | 213 | 170 | 105 | 54 | 122 | N-51°E | 4 | 無 | 1.25 | 1.95 |
| Ⅲ-9 | 12-1・2 | TP-07 | A1 | 長楕円/溝状 | AN・AO-15 | Ⅵ | 312 | 88 | 284 | 13 | 130 | N-5°W | - | 無 | 3.55 | 22.22 |
| Ⅲ-9 | 12-3・4 | TP-08 | C2 | 楕円/長楕円 | AT-16・17 | Ⅵ | 190 | 148 | 113 | 54 | 116 | N-22°W | 4 | 無 | 1.29 | 2.11 |




図Ⅲ-4　TP-01 平面及び断面図

A 型：長短比が 8 以上で、長さに比して幅が狭い溝状のタイプ

A1 型：長軸が 2m以上のもの　　A2 型：長軸が 2m未満のもの

B 型：長短比が 4 以上、8 未満のもので、長楕円のタイプ

B1 型：杭穴がないもの　　B2 型：杭穴があるもの

C 型：長短比が 4 未満のもので、楕円形から円形に近いタイプ

C1 型：杭穴がないもの　　C2 型：杭穴があるもの

D 型：長さ 1m、幅 0.2m前後で、かつ深さが 0.5m以下のタイプ　　（奈良）

**形態**： 分類ごとの検出数は A1 型 1 基、C2 型 7 基である。これは構築時期の違いによるものと考えられる。

**堆積状態**： Ｔピットの堆積状況は、基本的に覆土上位に黒色土の自然堆積層（Ⅴ層）が存在し、中位～下位にＴピット壁面崩落土や周囲からの流れ込み土が堆積している。また半数の例で坑底面に厚さ 3～5cm の黒褐色土の堆積を確認した。掘り上げ土は TP-01～06 の周囲で検出した。いずれもⅤb 層中での確認で、Ⅴb・Ⅵ層を主体とし Ta-d パミスが混じる褐色または暗褐色土である。

**分布と配列**： 配列は、分類の異なる TP-07 を除いて、短軸方向において TP-01・02・06 と TP-03・04・05・08 に分けられ、それぞれ等高線に並行・直交する配列が考えられる。

**新旧関係**： 今回検出したＴピットで重複・切り合い関係に当たるものはない。　　（岩橋）

**表Ⅲ-8　Tピット逆茂木跡属性表**

| 挿図番号 | 図版番号 | 遺構名 | | グリッド | 平面形 | 規模(cm) | | | 傾き(度) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 調査面/坑底面 | 上端 | 下端 | 深さ | | |
| Ⅲ-4 | － | TP-01 | KP01 | AQ-15 | 楕円/ － | 9 | － | 51 | 5 | |
| | | | KP02 | AQ-15 | 楕円/ － | 9 | － | 51 | 0 | |
| Ⅲ-5 | 9-7 | TP-02 | KP01 | AT-15 | 円形/ － | 6 | － | 31 | 0 | |
| Ⅲ-6 | 10-4 | TP-03 | KP01 | AS-15 | 円形/ － | 6 | － | 37 | 0 | |
| | － | | KP02 | AT-15 | 円形/ － | 6 | － | 37 | 5 | |
| Ⅲ-7 | － | TP-04 | KP01 | AS-13 | 円形/ － | 6 | － | 26 | 0 | |
| | 10-7 | | KP02 | AS-13 | 楕円/ － | 4 | － | 17 | 5 | |
| | | | KP03 | AS-13 | 円形/ － | 6 | － | 26 | 0 | |
| Ⅲ-7 | － | TP-05 | KP01 | AR-14 | 円形/ － | 4 | － | 11 | 0 | |
| | | | KP02 | AR-14 | 円形/ － | 6 | － | 23 | 7 | |
| Ⅲ-8 | － | TP-06 | KP01 | AO-16 | 円形/ － | 6 | － | 23 | 5 | |
| | | | KP02 | AO-16 | 円形/ － | 6 | － | 20 | 15 | |
| | | | KP03 | AO-16 | 楕円/ － | 9 | － | 45 | 5 | |
| Ⅲ-9 | － | TP-08 | KP01 | － | － | － | － | － | － | 自然の落込みのため欠番 |
| | 12-5 | | KP02 | AT-16 | 楕円/ － | 6 | － | 23 | 0 | |
| | | | KP03 | AT-16 | 楕円/ － | 4 | － | 20 | 6 | |
| | － | | KP04 | AT-16 | 隅丸方形/ － | 6 | － | 28 | 4 | |

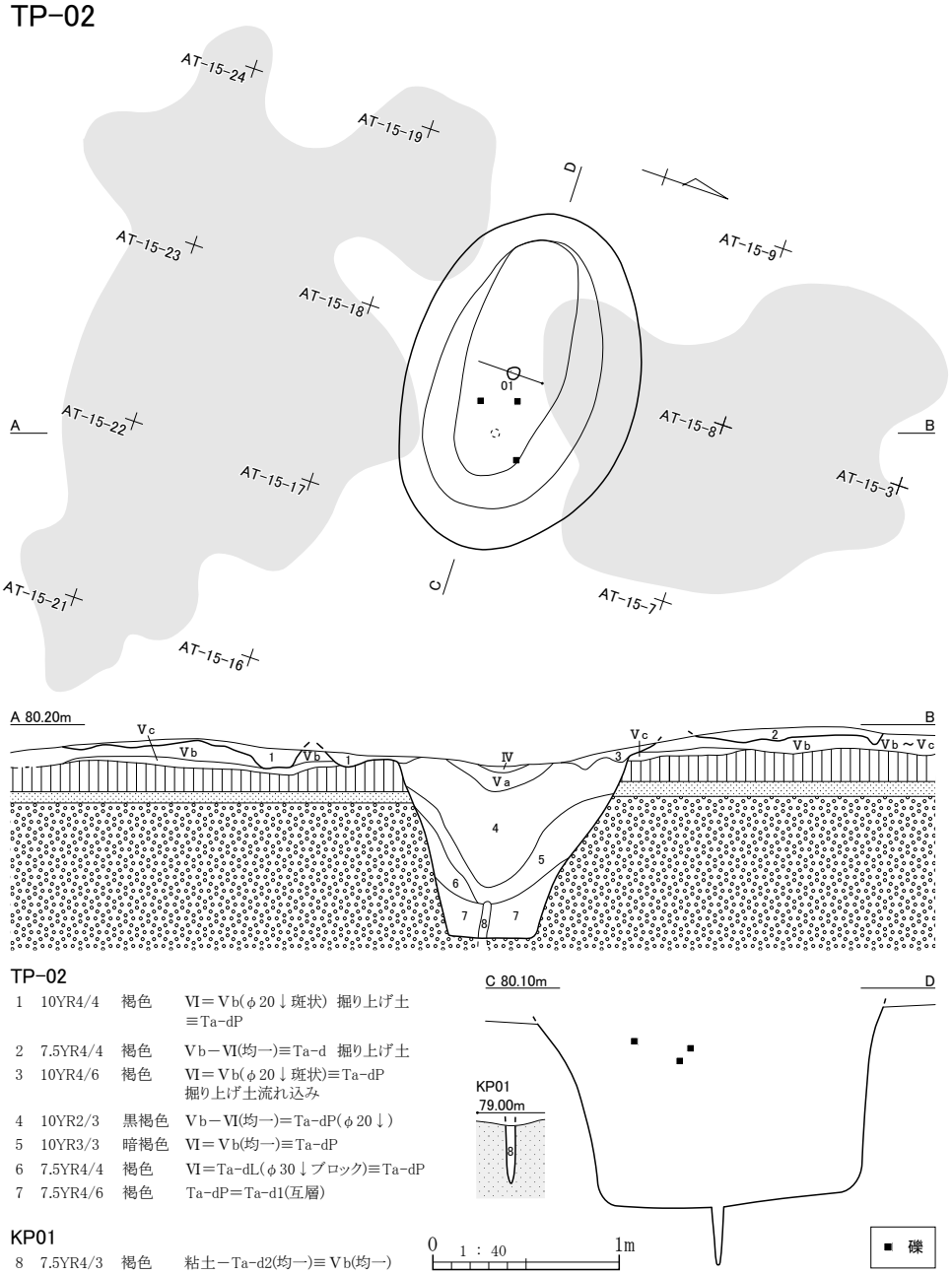
**個別記載**

**TP-03（C2 型）**（図Ⅲ-6-1　図版 10・25-5）

位置：AS・AT-15　検出層位：Ⅴc 層　平面形：不整円形/長楕円形

確認面規模：116×114cm　坑底面規模：88×31cm　深さ：105cm　長軸方向：N-32°W

**確認・調査**： Ⅳ層除去段階で窪みが確認でき、その窪みからⅤPB-01 を、西側に近接してⅤPB-02 を検出した。




TP-02

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/4 | 褐色 | Ⅵ＝Ⅴb(φ20↓斑状) 掘り上げ土 ≡Ta-dP |
| 2 | 7.5YR4/4 | 褐色 | Ⅴb－Ⅵ(均一)≡Ta-d 掘り上げ土 |
| 3 | 10YR4/6 | 褐色 | Ⅵ＝Ⅴb(φ20↓斑状)≡Ta-dP 掘り上げ土流れ込み |
| 4 | 10YR2/3 | 黒褐色 | Ⅴb－Ⅵ(均一)＝Ta-dP(φ20↓) |
| 5 | 10YR3/3 | 暗褐色 | Ⅵ＝Ⅴb(均一)≡Ta-dP |
| 6 | 7.5YR4/4 | 褐色 | Ⅵ＝Ta-dL(φ30↓ブロック)≡Ta-dP |
| 7 | 7.5YR4/6 | 褐色 | Ta-dP＝Ta-d1(互層) |

KP01

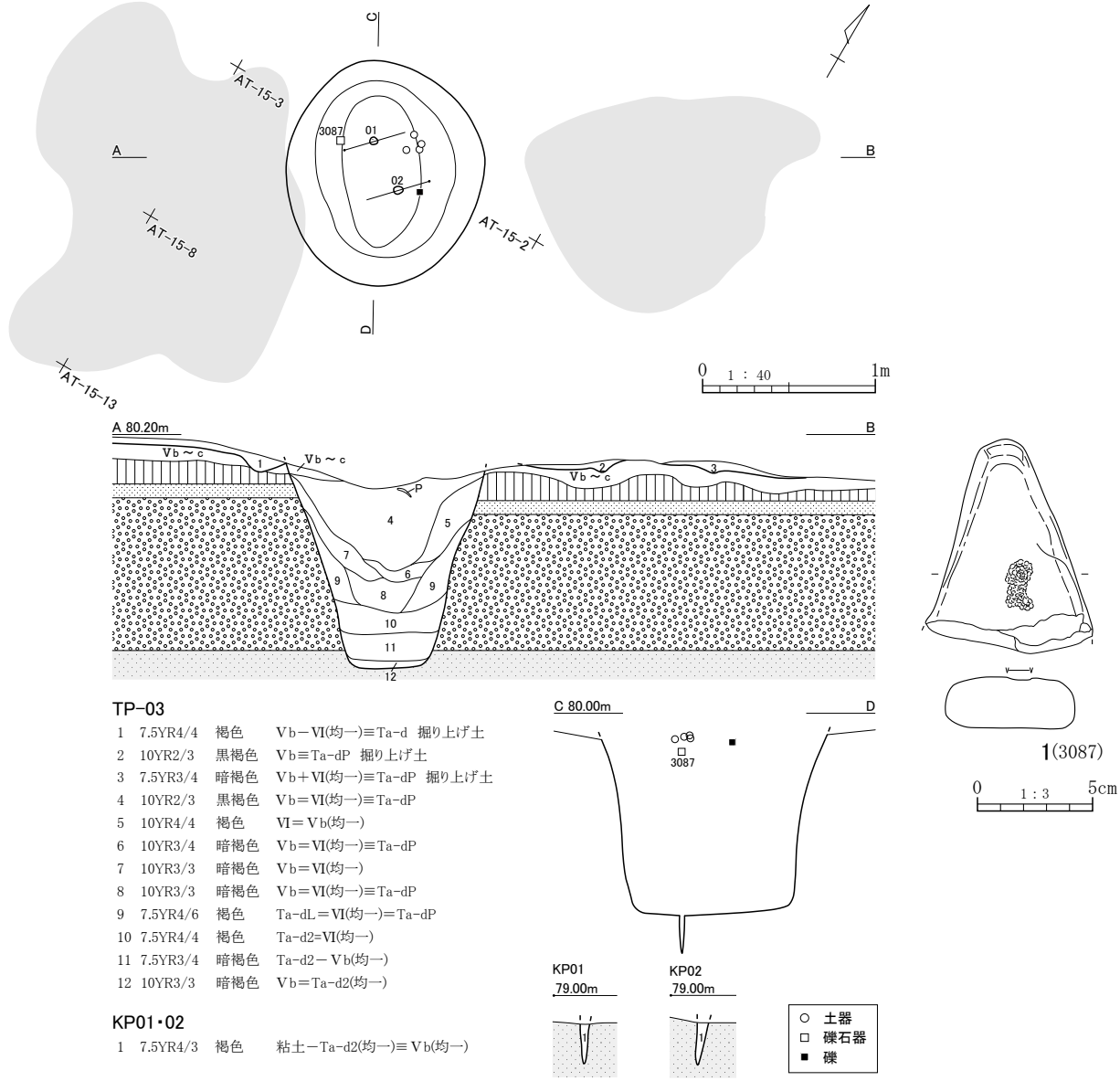
| | | | |
|---|---|---|---|
| 8 | 7.5YR4/3 | 褐色 | 粘土－Ta-d2(均一)≡Ⅴb(均一) |

**図Ⅲ-5 TP-02 平面及び断面図**

ⅤPB-01(Ⅳ群B1類)には掘り上げ土が被覆し、土器は覆土中からも出土している。TP-02北側とTP-03西側の掘り上げ土（以下A）は同一のものである。土質から見ると、TP-02南側の掘り上げ土（以下B）より、TP-03北東側の掘り上げ土に近い。またTP-02の覆土3は掘り上げ土Bに近い。これらから、掘り上げ土AはTP-03構築時のものである可能性が高いが、TP-02・03の新旧関係については不明である。（岩橋）

**出土遺物**（1）： 土器4点、石器1点、礫1点が出土している。土器は中央の覆土上位から胴部のみ出土した。ⅤPB-01出土の土器と2点接合し、復元している。図Ⅲ-12を参照されたい。

TP-03




TP-03

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 7.5YR4/4 | 褐色 | Vb－Ⅵ(均一)≡Ta-d　掘り上げ土 |
| 2 | 10YR2/3 | 黒褐色 | Vb≡Ta-dP　掘り上げ土 |
| 3 | 7.5YR3/4 | 暗褐色 | Vb＋Ⅵ(均一)≡Ta-dP　掘り上げ土 |
| 4 | 10YR2/3 | 黒褐色 | Vb＝Ⅵ(均一)≡Ta-dP |
| 5 | 10YR4/4 | 褐色 | Ⅵ＝Vb(均一) |
| 6 | 10YR3/4 | 暗褐色 | Vb＝Ⅵ(均一)≡Ta-dP |
| 7 | 10YR3/3 | 暗褐色 | Vb＝Ⅵ(均一) |
| 8 | 10YR3/3 | 暗褐色 | Vb＝Ⅵ(均一)≡Ta-dP |
| 9 | 7.5YR4/6 | 褐色 | Ta-dL＝Ⅵ(均一)＝Ta-dP |
| 10 | 7.5YR4/4 | 褐色 | Ta-d2=Ⅵ(均一) |
| 11 | 7.5YR3/4 | 暗褐色 | Ta-d2－Vb(均一) |
| 12 | 10YR3/3 | 暗褐色 | Vb＝Ta-d2(均一) |

KP01・02

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 7.5YR4/3 | 褐色 | 粘土－Ta-d2(均一)≡Vb(均一) |

**図Ⅲ-6　TP-03 平面及び断面図・出土礫石器**

1はたたき石で、中央の覆土上部から出土している。扁平な砂岩を用いたもので、両面の一部に敲打痕を有する。被熱している。（工藤）

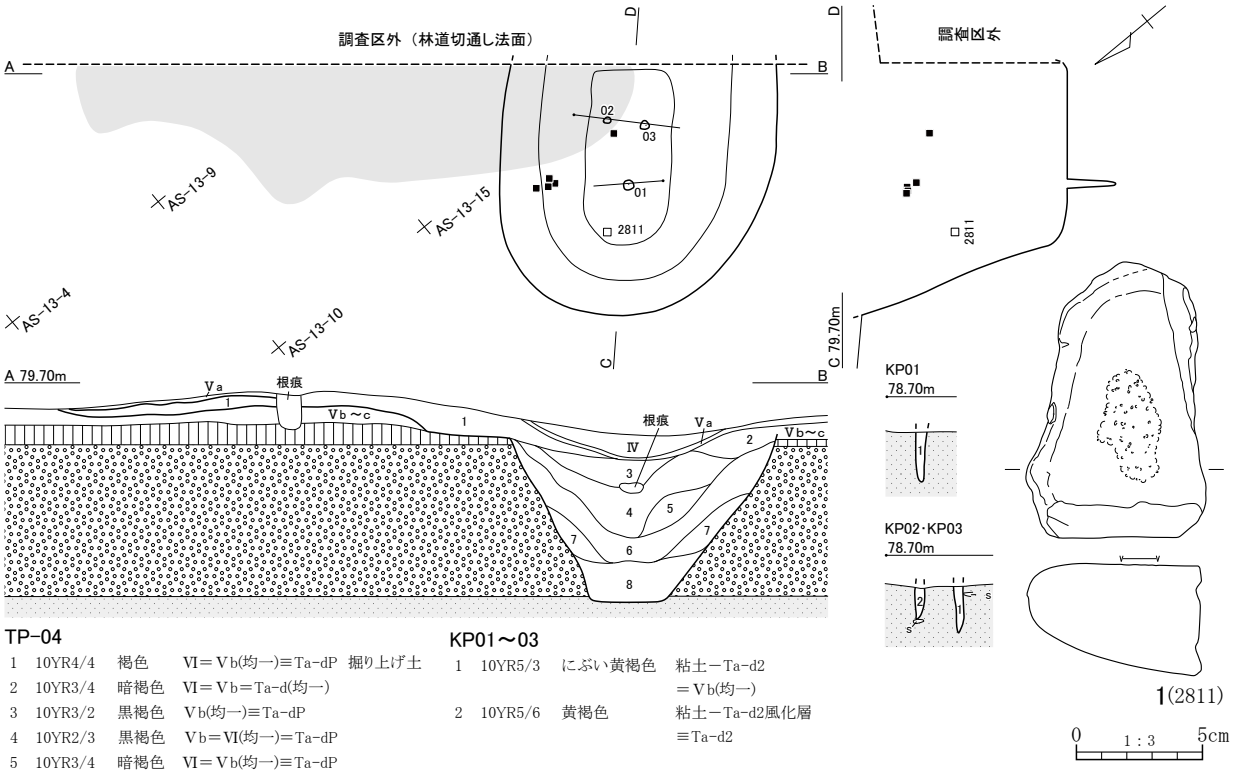
TP-04　(C2 型)（図Ⅲ-7-1　図版 10-5～7・25-6）

位置：AS-13・14　検出層位：Ⅴc 層　平面形：(楕円形)/長楕円形

確認面規模：(136) ×149cm　坑底面規模：96×45cm　深さ：119cm　長軸方向：N-45°E

**確認・調査**：Ⅴ層精査中、調査区南東側境界にてⅣ層の落ち込みと褐色の掘り上げ土と想定される堆積土を検出した。境界線より南東側は林道の切通し法面となっているため安全確保を優先し、調査区境界線より 1mほど内側にセクションラインを設定し調査を行った。掘り上げ土はＴピット北東側に広がり、Ⅵ層を基調としⅤb 層と Ta-d パミスが混入する。一部はＴピット内に流れ込んでいる。

## TP−04




**TP−04**

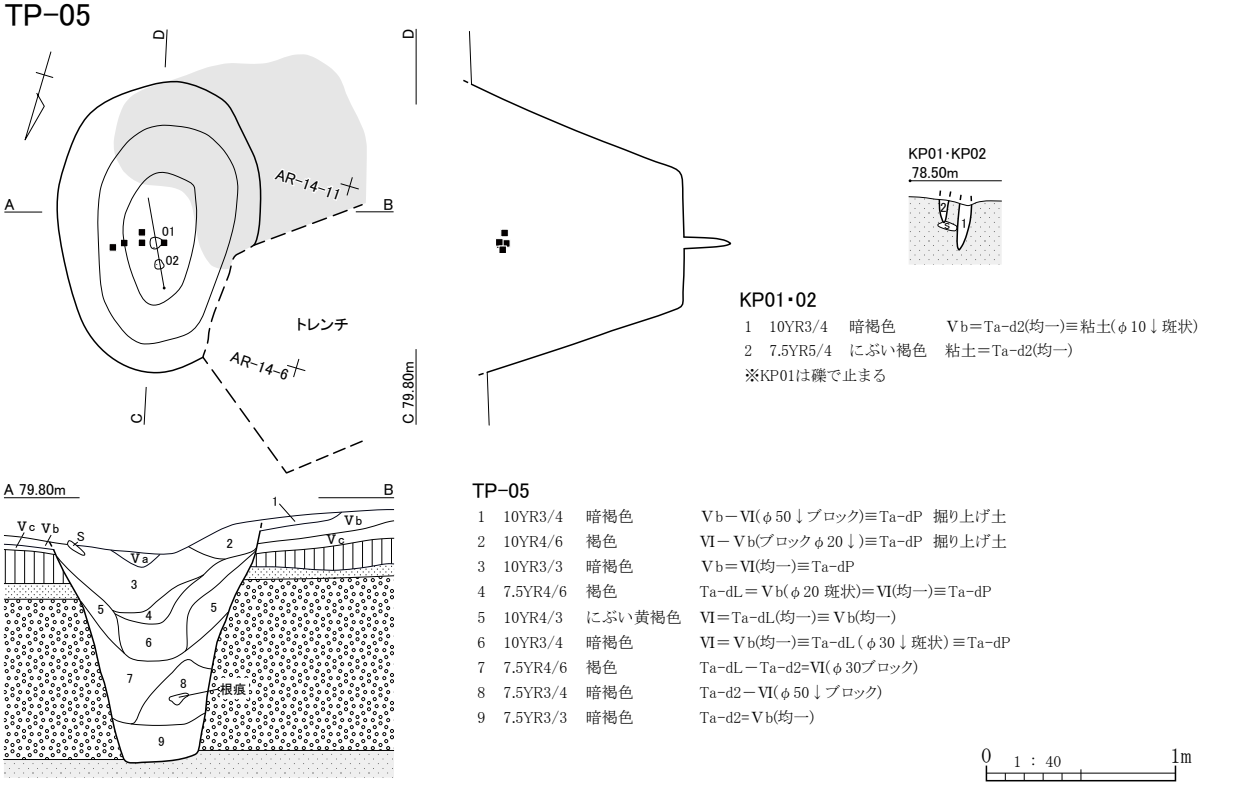
| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/4 | 褐色 | Ⅵ＝Vb(均一)≡Ta−dP 掘り上げ土 |
| 2 | 10YR3/4 | 暗褐色 | Ⅵ＝Vb＝Ta−d(均一) |
| 3 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb(均一)≡Ta−dP |
| 4 | 10YR2/3 | 黒褐色 | Vb＝Ⅵ(均一)＝Ta−dP |
| 5 | 10YR3/4 | 暗褐色 | Ⅵ＝Vb(均一)≡Ta−dP |
| 6 | 7.5YR3/4 | 暗褐色 | Ta−dL＝Vb(均一)≡Ta−dP |
| 7 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | Ta−d2＝Vb(斑状) |
| 8 | 7.5YR4/6 | 褐色 | Ta−d2＝Vb(均一) |

**KP01〜03**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色 | 粘土−Ta−d2 ＝Vb(均一) |
| 2 | 10YR5/6 | 黄褐色 | 粘土−Ta−d2風化層 ≡Ta−d2 |

□ 礫石器
■ 礫

## TP−05




**KP01・02**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 10YR3/4 | 暗褐色 | Vb＝Ta−d2(均一)≡粘土(φ10↓斑状) |
| 2 | 7.5YR5/4 | にぶい褐色 | 粘土＝Ta−d2(均一) |

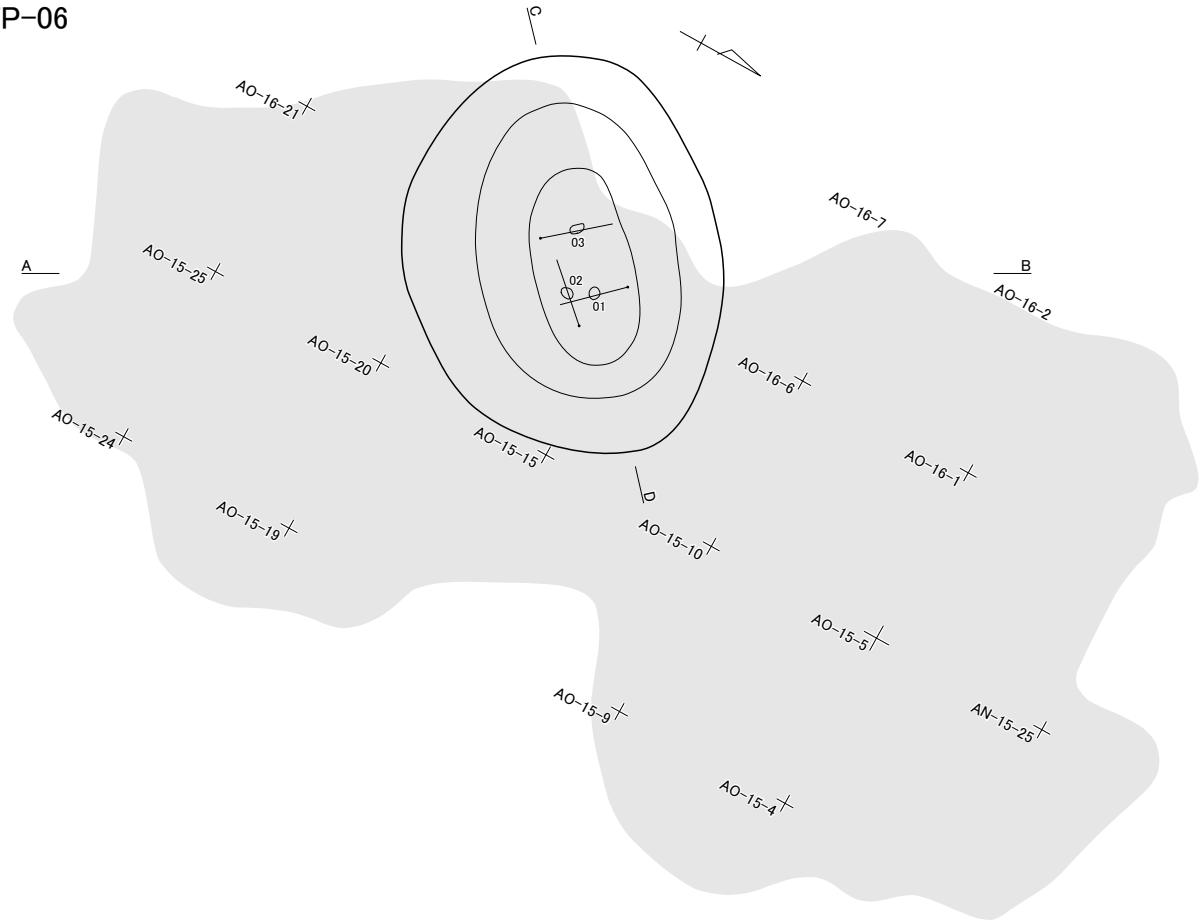
※KP01は礫で止まる

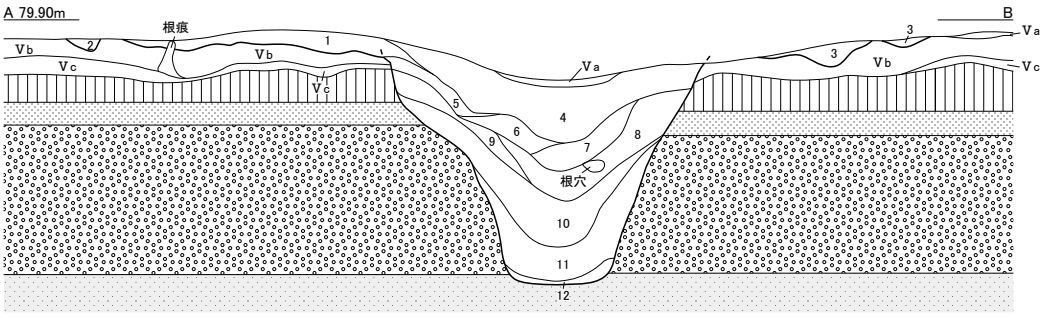
**TP−05**

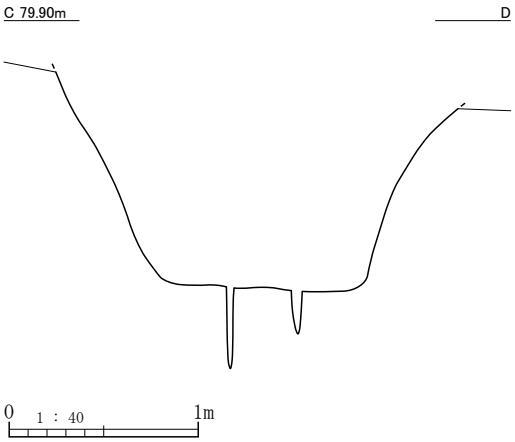
| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 10YR3/4 | 暗褐色 | Vb−Ⅵ(φ50↓ブロック)≡Ta−dP 掘り上げ土 |
| 2 | 10YR4/6 | 褐色 | Ⅵ−Vb(ブロックφ20↓)≡Ta−dP 掘り上げ土 |
| 3 | 10YR3/3 | 暗褐色 | Vb＝Ⅵ(均一)≡Ta−dP |
| 4 | 7.5YR4/6 | 褐色 | Ta−dL＝Vb(φ20 斑状)＝Ⅵ(均一)≡Ta−dP |
| 5 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | Ⅵ＝Ta−dL(均一)≡Vb(均一) |
| 6 | 10YR3/4 | 暗褐色 | Ⅵ＝Vb(均一)≡Ta−dL(φ30↓斑状)≡Ta−dP |
| 7 | 7.5YR4/6 | 褐色 | Ta−dL−Ta−d2=Ⅵ(φ30ブロック) |
| 8 | 7.5YR3/4 | 暗褐色 | Ta−d2−Ⅵ(φ50↓ブロック) |
| 9 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | Ta−d2=Vb(均一) |

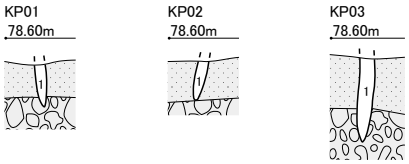
図Ⅲ−7　TP−04・05 平面及び断面図・出土礫石器

TP-06




KP01～03

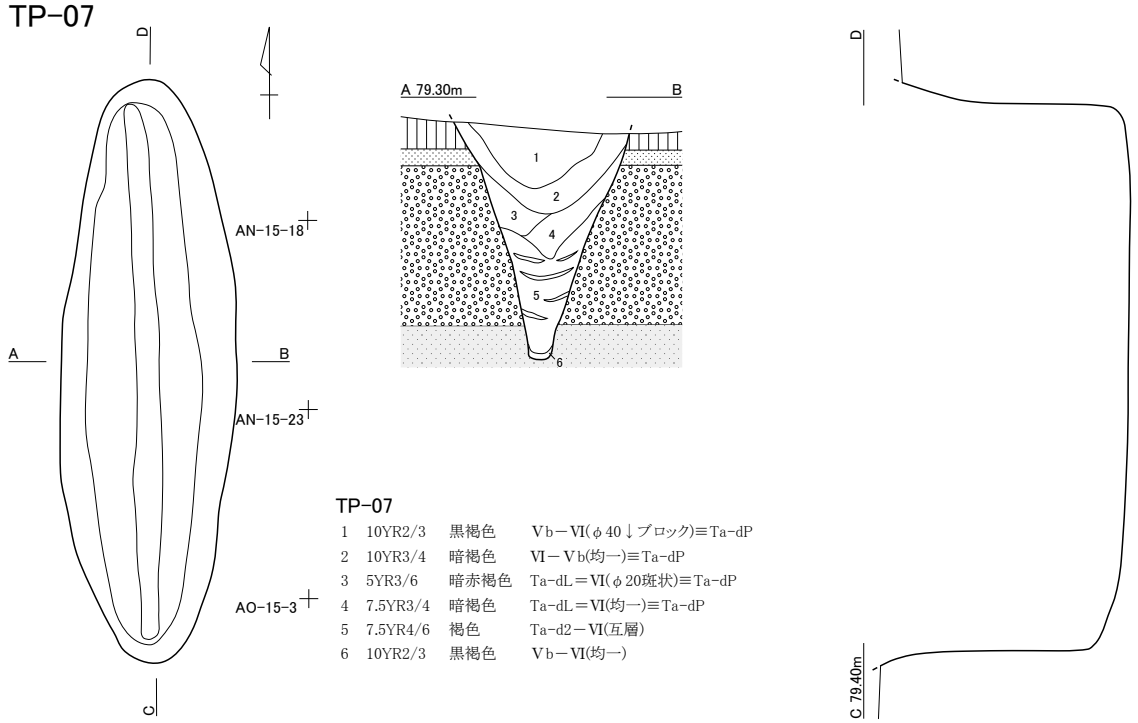
1　10YR3/4　暗褐色　Vb＝粘土(ブロック)＝Ta-d2

TP-06

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 10YR2/3 | 黒褐色 | Vb＝Ⅵ(均一)≡Ta-dP　掘り上げ土(一部流れ込み) |
| 2 | 10YR4/4 | 褐色 | Ⅵ＝Vb(均一)≡Ta-dP　掘り上げ土 |
| 3 | 10YR4/6 | 褐色 | Ⅵ＝Vb(φ10↓斑状)　掘り上げ土 |
| 4 | 10YR2/2 | 黒褐色 | Vb≡Ta-d1・Ta－dP(均一) |
| 5 | 10YR3/4 | 暗褐色 | Vb≡Ta－d1(均一) |
| 6 | 7.5YR4/6 | 褐色 | Ta-dL(φ20斑状)≡Vb・Ta－dP |
| 7 | 7.5YR3/4 | 暗褐色 | Vb＝Ta－d1(均一)≡Ta-dP |
| 8 | 10YR2/3 | 黒褐色 | Vb≡Ta－d1(均一)・Ta-dP |
| 9 | 7.5YR3/4 | 暗褐色 | Vb－Ⅵ(斑状) |
| 10 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | Ta－d1－Ta－dP≡Vb(斑状) |
| 11 | 7.5YR3/4 | 暗褐色 | Ta-dP＝Ⅳ(斑状)・Ta－d1 |
| 12 | 10YR2/3 | 黒褐色 | Vb＝Ta-d1(均一)≡Ta－dP |

図Ⅲ-8　TP-06 平面及び断面図

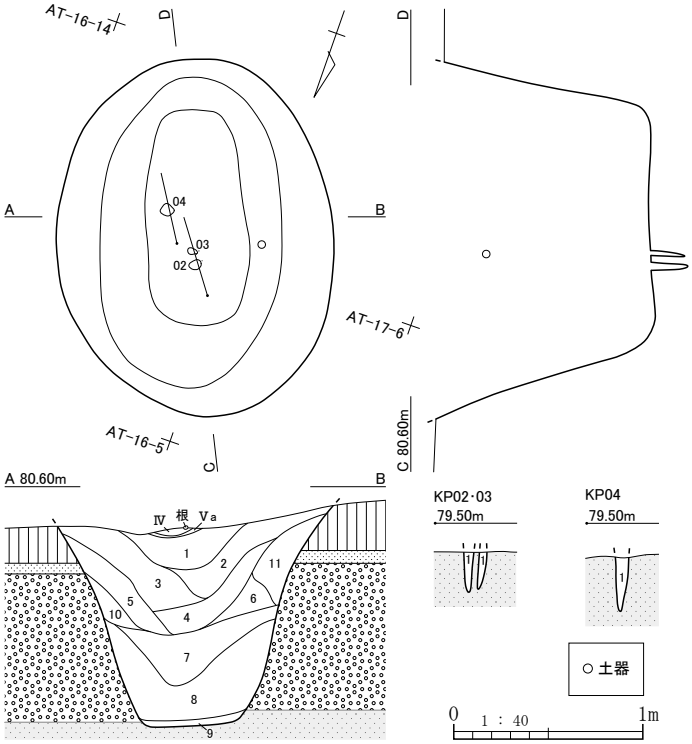
## TP−07




TP−07

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 10YR2/3 | 黒褐色 | Ｖｂ－Ⅵ(φ40↓ブロック)≡Ta-dP |
| 2 | 10YR3/4 | 暗褐色 | Ⅵ－Ｖb(均一)≡Ta-dP |
| 3 | 5YR3/6 | 暗赤褐色 | Ta-dL＝Ⅵ(φ20斑状)≡Ta-dP |
| 4 | 7.5YR3/4 | 暗褐色 | Ta-dL＝Ⅵ(均一)≡Ta-dP |
| 5 | 7.5YR4/6 | 褐色 | Ta-d2－Ⅵ(互層) |
| 6 | 10YR2/3 | 黒褐色 | Ｖｂ－Ⅵ(均一) |

## TP−08




TP−08

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 10YR3/4 | 暗褐色 | Ｖｂ＝Ⅵ(φ30↓斑状)≡Ta-dP |
| 2 | 10YR3/3 | 暗褐色 | Ｖｂ＝Ⅵ(均一) |
| 3 | 10YR3/3 | 暗褐色 | Ｖｂ＝Ⅵ(均一)＝Ta-dP |
| 4 | 10YR2/2 | 黒褐色 | Ｖｂ≡Ⅵ(均一)≡Ta-dP |
| 5 | 7.5YR3/4 | 暗褐色 | Ｖｂ＝Ta-dL(均一)≡Ⅵ(均一)≡Ta-dP |
| 6 | 7.5YR4/6 | 褐色 | Ta-dL＝Ｖb(φ20↓斑状)＝Ta-dP |
| 7 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | Ta-dP－Ⅵ(φ30↓斑状) |
| 8 | 7.5YR2/3 | 極暗褐色 | Ta-dP－Ⅵ(均一)＝Ｖb(均一) |
| 9 | 10YR2/3 | 黒褐色 | Ｖｂ≡Ta-dP |
| 10 | 5YR3/6 | 暗赤褐色 | Ta-dL＝Ｖb(均一) |
| 11 | 7.5YR4/4 | 褐色 | Ta-dL＝Ⅵ(均一) |

KP02・03

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 7.5YR4/6 | 褐色 | 粘土＋Ta-dP≡Ｖb(均一) |

KP04

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 7.5YR4/4 | 褐色 | 粘土－Ta-dP≡Ｖb(均一) |

図Ⅲ−9　TP−07・08 平面及び断面図・出土土器

表Ⅲ-9　Tピット出土土器属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 個体名称 | 分類 | 遺構名/グリッド | 層位 | 点数 | 部位 | 器形等 | 文様 | 胎土 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 口縁－口唇/胴部/底側面－変換点－底面 | 口唇－口縁－内面/胴部－内面/底側面－底面－内面 | | |
| Ⅲ-9-1 | 25-7 | JP09C | ⅣB1 | TP-08 | Ⅱ | 1 | 胴部 | やや外傾 | LR斜行縄文 | 砂粒微量 | |

表Ⅲ-10　Tピット出土礫石器属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 個体名称 | 遺物番号 | 遺物名 | 分類 | 遺構名 | 層位 | 計測値(mm) | | | 重量(g) | 材質 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 長軸 | 短軸 | 厚さ | | | |
| Ⅲ-6-1 | 25-5 | － | 3087 | たたき石 | ⅡA1 | TP-03 | 1 | (92.5) | (72.2) | 22.7 | 163.8 | Sa. | 被熱、欠損 |
| Ⅲ-7-1 | 25-6 | － | 2811 | たたき石 | ⅡA1 | TP-04 | 2 | (111.6) | (68.4) | 47.5 | 460.0 | Sa. | 被熱、欠損 |

KP02 の覆土は他の杭穴跡の覆土とは異なり、黒色土を含まず粘土と Ta-d2 から構成されている。これは、構築時に杭を抜いたため黒色土が形成される前に、崩落等によって埋まってしまった結果ではないかと考えられる。杭を抜いた理由としては、杭跡の直下に礫を検出したことから、必要な深さが得られず他の場所に打ち直したためではないかと考えられる。同様の状態は、TP-05 で検出した KP01 にも認められる。（岩橋）

**出土遺物**（1）： 石器 1 点、礫 8 点が出土している。1 はたたき石で、北西側の覆土中位から出土した。扁平な砂岩を用いたもので、平坦面の一部に敲打痕を有し被熱している。

礫は被熱した砂岩製 8 点出土し、総重量は 770ｇある。（工藤）

**TP-07（A2 型）**（図Ⅲ-9　図版 12-1・2）

位置：AN・AO-15　検出層位：Ⅵ層　平面形：長楕円形/溝状

確認面規模：312×88cm　坑底面規模：284×13cm　深さ：131cm　長軸方向：N-5°W

**確認・調査**： Ⅵ層精査中、長楕円形の黒色土の落ち込みを確認した。プラン確認後短軸で半截を行った結果、深さや堆積状況からＴピットであることが判明したため、堆積状況の実測・写真撮影後、調査区外へ続く北側部分の表土等を重機で除去し、残り半分の調査を行った。（岩橋）

**TP-08（C2 型）**（図Ⅲ-9-1　図版 12-3～5・25-7）

位置：AT-16・17　検出層位：Ⅵ層　平面形：楕円形

確認面規模：190×148cm　坑底面規模：113×54cm　深さ：116cm　長軸方向：N-22°W

**確認・調査**： Ⅵ層精査中、楕円形の黒色土の落ち込みを確認した。プラン確認後、短軸で半截した結果、深さや堆積状況からＴピットであることが判明したため、各種記録を取って調査終了とした。（岩橋）

**出土遺物**（1）： 覆土上部出土で、流れ込みと考えられる土器 1 点が出土している。1 は LR 斜行縄文を施している胴部細片で（JP09C）、内面は剥落している。胎土に砂粒を微量に含む。細片のため詳細は不明だが縄文時代後期初頭に相当する土器と思われる。（工藤）

## 第３節　土坑

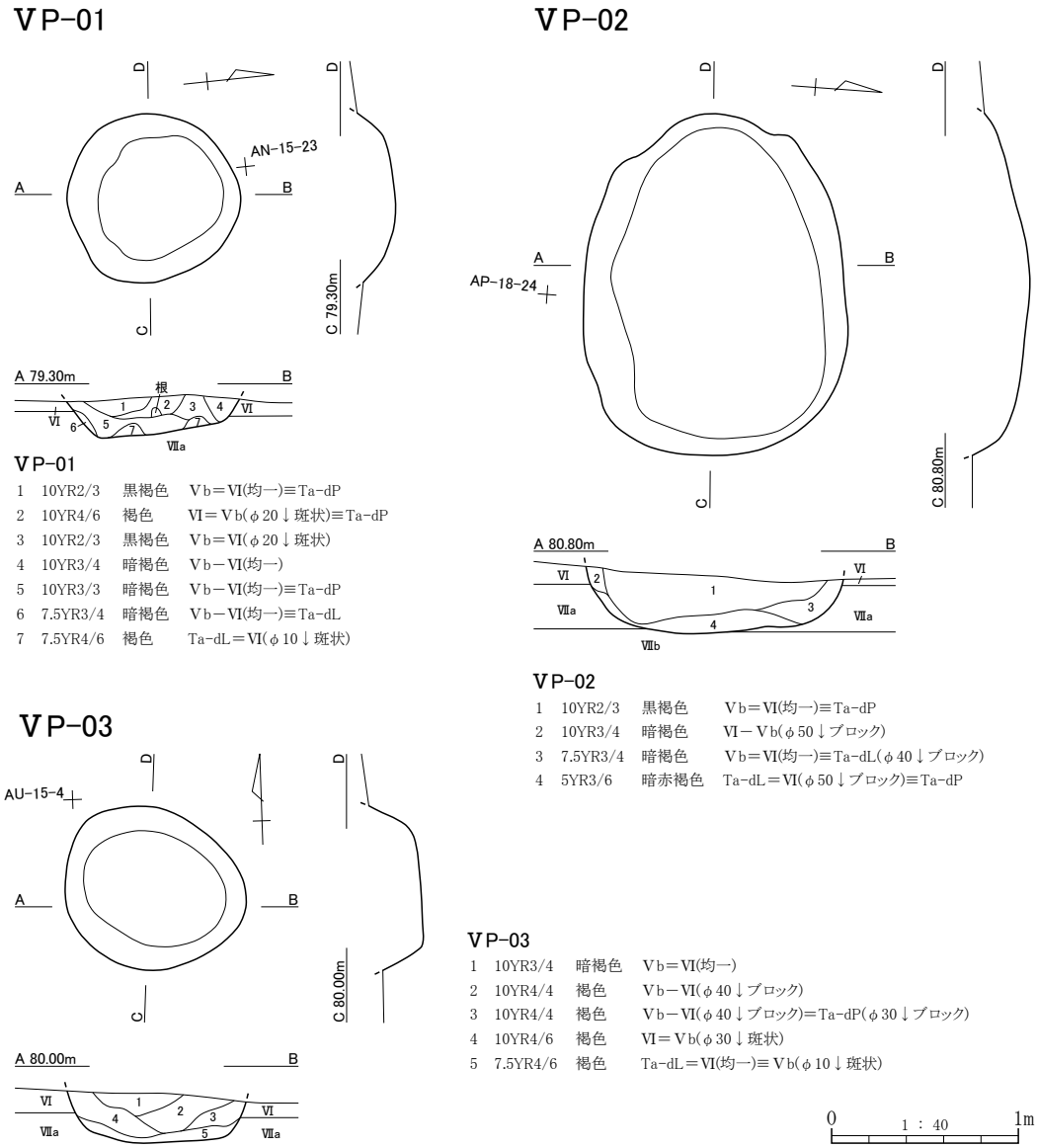
検出した土坑は３基で、重複関係に当たるものはない。いずれも調査区縁辺部で検出しており、土坑から遺物は確認されなかった。このため構築時期を特定できないが、Ｖ層出土遺物の多くが縄文時代後期前葉であることから、当該時期の所産と思われる。（工藤）

**ＶP-01**（図Ⅲ-10　図版 13-1・2）

位置：AN-15　検出層位：Ⅵ層　平面形：円形

調査面規模：90×88cm　坑底面規模：59×68cm　深さ：20cm　長軸方向：N-60°E

**確認・調査**：TP-07 プラン精査中、東側に隣接した円形の黒色土の落ち込み範囲を検出した。半截した断面で坑底面は南にわずかに傾斜するが、壁面の明瞭な立ち上がりを確認したため土坑と判断し調査を行った。堆積はＶ層主体の自然堆積層である。（岩橋）




図Ⅲ-10　ＶP-01 ～ 03 平面及び断面図

VP-02（図Ⅲ-10　図版 13-3・4）

位置：AP-18　検出層位：Ⅵ層　平面形：楕円形

調査面規模：184×140cm　坑底面規模：166×111cm　深さ：32cm　長軸方向：N-82° E

**確認・調査**：Ⅵ層精査中、楕円形の黒色土の落ち込みを検出した。半截して断面を観察したところ、坑底面は水平で壁面の立ち上がりが認められたため、土坑と判断し調査を行った。形状は不整な楕円形で、底面は皿状にわずかに窪み、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は、1 層は自然堆積層、2～4 層は壁面崩落及び流れ込みによる堆積層である。（岩橋）

VP-03（図Ⅲ-10　図版 13-5・6）

位置：AU-15　検出層位：Ⅵ層　平面形：円形

調査面規模：97×86cm　坑底面規模：73×59cm　深さ：27cm　長軸方向：N-46° W

**確認・調査**：Ⅵ層精査中、円形の黒色土の落ち込みを確認した。半截したところ水平な坑底面と壁の立ち上がりが確認できたため、土坑と判断し調査を行った。坑底面は平坦だがやや南に傾き、立ち上がりは急である。1～4 層はⅤ層を主体とした自然堆積層、5 層は壁面崩落または流れ込みによる層である。（岩橋）

表Ⅲ-11　ⅤP属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 遺構名 | グリッド | 層位 | 平面形 | 調査面規模(cm) | | 坑底面規模(cm) | | 深さ(cm) | 長軸方向 | 長短調査比面 | 長短坑底比面 | 出土遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 調査面/坑底面 | 長軸 | 短軸 | 長軸 | 短軸 | | | | | | |
| Ⅲ-10 | 13-1･2 | VP-01 | AN-15 | Ⅵ | 円形/円形 | 90 | 88 | 68 | 59 | 20 | N-60°E | 1.02 | 1.15 | － | |
| Ⅲ-10 | 13-4 | VP-02 | AP-18 | Ⅵ | 楕円形/楕円形 | 184 | 140 | 166 | 111 | 32 | N-82°E | 1.31 | 1.50 | － | |
| Ⅲ-10 | 13-5･6 | VP-03 | AU-15 | Ⅵ | 円形/円形 | 97 | 86 | 73 | 59 | 27 | N-46°W | 1.13 | 1.24 | － | |

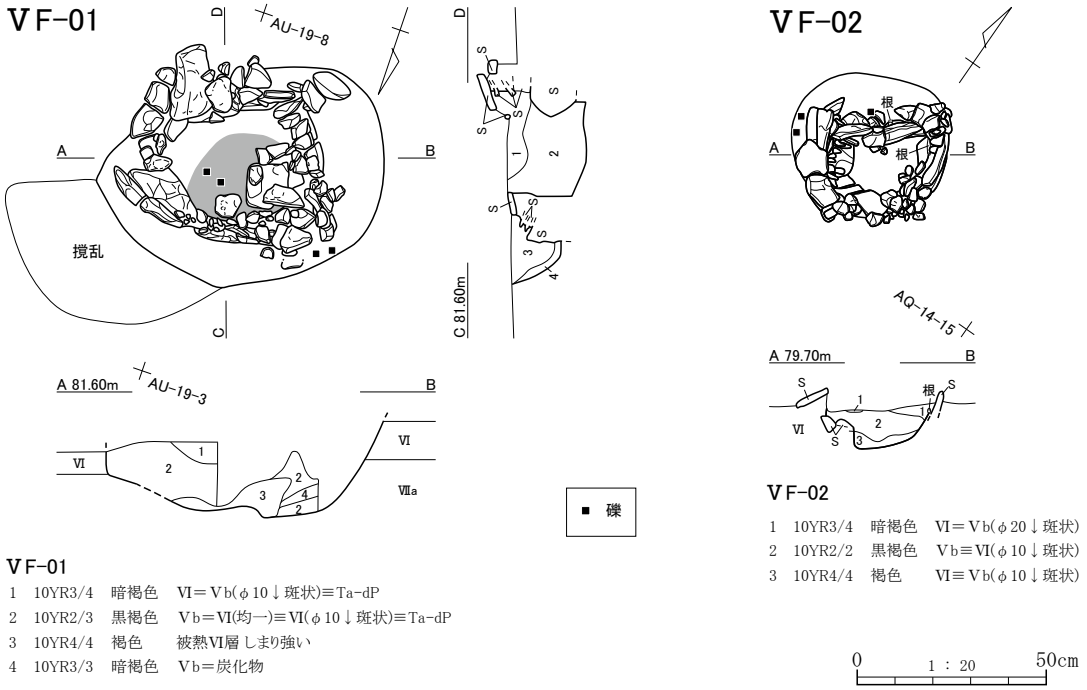
## 第 4 節　焼土

検出した焼土は VF-01・02 の 2 基で、重複関係に当たるものはない。いずれもⅤ層を掘り込み、板状礫で構成される石組炉である。焼土からは被熱礫が多量に検出されたが、礫以外の遺物は出土していない。また、周囲に住居跡に伴う柱穴等も確認されていないことにより、屋外に設けた炉と考えられる。なお、VF-01 は西側の拡張区のⅤ層で検出した唯一の遺構である。（工藤）

VF-01（図Ⅲ-11　図版 13-7・8・26-1）

位置：AU-19　検出層位：Ⅴc 層　平面形：不整楕円形　規模：76×57cm　出土点数：礫 216 点

**確認・調査**：西側のⅢ層拡張区に掘開した 3 本のトレンチのうち、一番南側のトレンチ 3 のⅤc 層精査中、「ロ」の字状に配置された被熱礫を検出した。形状から石組炉であると想定し、礫を残して周囲を精査したところ黒色土の落ち込みを確認した。石組中央を通る位置で半截し、この時点で、土層面の撮影・実測、プランの撮影、炉石の微細図作成を行った。西側の礫の下位に炭化物層が検出されたため、先のセクション面と直行し、炭化物層を通るセクション面を新たに設定し、被熱礫の取り上げ後、撮影・実測を行った。炭化物層は調査時には西側にも広がっていたことが確認されており、東側は 5 層により切られていることから、当初、やや西寄りに炉が有り、その後検出位置に再度掘り込みを行い石組炉が構築されたと考えられる。被熱層は 3 層のみで他は被熱を確認できなかった。焼骨片・灰等は検出されなかった。炭化物層を採取しフローテーションを行ったが、炭化材以外は回収されなかった。（岩橋）




図Ⅲ-11　ⅤF-01・02 平面及び断面図

**出土遺物**：炉石（図版 26-1）は砂岩製で 213 点あり、接合により大型の板状礫 6 個体と破片で 164 点となった。総重量は 14,235ｇあり、ほとんどの礫から被熱痕が確認されている。なお、本石組炉出土の被熱礫が南西に約 30m離れて位置するⅤF-02 出土の被熱礫 1 点と接合している。（工藤）

**ⅤF-02**（図Ⅲ-11　図版 14-1・2・26-2）

位置：AQ-14　検出層位：Ⅴc 層　平面形：楕円形　規模：43×38cm　出土点数：礫 132 点

**確認・調査**：AQ-14 グリッドⅤ層精査中、「ロ」の字状の被熱礫を検出した。形状から石組炉であると想定し、礫を残して周囲を精査したところ、黒色土の落ち込みを確認した。石組中央を通る位置で半截し、断面の撮影・実測、炉石の微細図作成を行った。焼土・焼骨片等は検出されなかった。周辺からも焼土等は確認されなかったため、掻き出しが行われたと考えられる。（岩橋）

**出土遺物**：炉石（図版 26-2）は砂岩製で 71 点あり、接合により大型の板状礫 4 個体と破片 65 点となった。総重量 5,135ｇあり、ほとんどの礫から被熱痕が確認されている。なお、本石組炉出土の被熱礫が北東に約 30m離れて位置するⅤF-01 出土の被熱礫 1 点と接合している。（工藤）

表Ⅲ-12　ⅤF属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 遺構名 | グリッド | 層位 | 平面形 | 規模(cm) | | | 灰・骨片の有無 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 長軸 | 短軸 | 厚さ | | |
| Ⅲ-11 | 13-7・8 | ⅤF-01 | AU-19 | Ⅴc | 不整楕円形 | 76 | 57 | 25 | 無 | 石組炉 礫:216点 |
| Ⅲ-11 | 14-1・2 | ⅤF-02 | AQ-14 | Ⅴc | 楕円形 | 43 | 38 | 12 | 無 | 石組炉 礫:132点 |

表Ⅲ-13　ⅤF-01出土炉石属性表

| 図版番号 | 個体名称 | 遺物番号 | グリッド<br>層位<br>状態 | 長軸(mm)<br>短軸(mm)<br>厚さ(mm) | 重量(g)<br>被熱<br>石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 26-1 | VS104 | 3230・3232 | AU-19<br>Ⅵ<br>欠損 | (159.6)<br>(74.4)<br>17.7 | (225.0)<br>○<br>Sa. | |
| 26-1 | VS105 | 2510・2513・2515・2519 | AU-19<br>Ⅵ<br>欠損 | (159.7)<br>(100.6)<br>21.8 | (435.0)<br>○<br>Sa. | VS107と同一母岩 |
| 26-1 | VS106 | 3267・3274・3295 | AU-19<br>Ⅵ<br>欠損 | (132.7)<br>(130.9)<br>10.0 | (175.6)<br>○<br>Sa. | VS104と同一母岩 |
| 26-1 | VS107 | 2750・2751・2752 | AU-19<br>Ⅵ<br>欠損 | (147.9)<br>(103.5)<br>21.1 | (405.0)<br>○<br>Sa. | |
| 26-1 | VS108 | 3228・3260 | AU-19<br>Ⅵ<br>欠損 | (234.0)<br>(229.7)<br>59.5 | (2440.0)<br>○<br>Sa. | |
| 26-1 | VS109 | 2493・2494・2495・2496・2497・2498・2500・2502・2503・2504・2505・2520・2523・2527・2529・2530・2531・2532・2718・2720・2721・2724・2746・2747・2748・2749・3246・3258 | AU-19<br>Ⅵ<br>欠損 | 354.0<br>(337.0)<br>31.5 | (3350.0)<br>○<br>Sa. | |
| 26-1 | － | 2526 | AU-19<br>Ⅵ<br>欠損 | (126.9)<br>(109.0)<br>21.0 | (355.0)<br>○<br>Sa. | |
| 26-1 | － | 3257 | AU-19<br>Ⅵ<br>欠損 | (230.4)<br>198.6<br>31.3 | (1360.0)<br>○<br>Sa. | |

表Ⅲ-14　ⅤF-02出土炉石属性表

| 図版番号 | 個体名称 | 遺物番号 | グリッド | 層位 | 状態 | 計測値(mm) | | | 重量(g) | 被熱 | 石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 長軸 | 短軸 | 厚さ | | | | |
| 26-2 | VS110 | 3151・3152 | AQ-14 | Ⅵ | 略完形 | 177.9 | 170.7 | 20.0 | (60.5) | ○ | Sa. | |
| 26-2 | VS111 | 2688・3141 | AQ-14 | Ⅵ | 欠損 | 170.7 | (104.1) | 25.2 | (480.0) | ○ | Sa. | |
| 26-2 | VS112 | 3314・3316・3137・3159 | AQ-14 | Ⅵ | 欠損 | (320.2) | (198.0) | 34.0 | (2200.0) | ○ | Sa. | |
| 26-2 | VS113 | 2508・3317 | AQ-14 | Ⅵ | 欠損 | (105.1) | (65.5) | 1.0 | (84.9) | ○ | Sa. | VF-01と接合 |

## 第５節　土器集中

土器集中は 14 ヵ所検出されている。Ⅲ群 B2 類は 2 ヵ所（VPB-02・10）、Ⅲ群 B3 類 a は 2 ヵ所（VPB-11・12）、Ⅳ群 A2 類は 3 ヵ所（VPB-04・05・08）、Ⅳ群 B1 類は 7 ヵ所（VPB-01・03・06・07・09・13・14）である。隣接する TP-03 との関係が考えられるVPB-01・02 を除いて微細図の作成は行わず写真撮影のみとし、位置の記録をしながら遺物の取り上げを行った。

**VPB-01**（図Ⅲ-12-1　図版 14-3・27-1・2）

位置：AS・AT-15　層位：Ⅴa 層　規模：140×103cm　出土点数：土器 114 点、礫 4 点

**確認・調査**：調査区南東の TP-03 のプラン精査中、TP-03 の窪みに流れ込む状態で土器片集中を検出した。遺物を残して TP-03 確認面まで掘り下げ、撮影と微細図の作成を行い、位置を記録し遺物の取り上げを行った。一部は TP-03 覆土中より出土した。（岩橋）

**出土遺物**（1）：土器の一部は砂岩礫（370×205×53mm 4,700ｇ）の上を覆って出土している。復元作業の結果、VPB-04 と TP-03 出土の一部と接合している。縄文時代後期初頭の新段階のタプコプ式に相当する（JP15A）。土器は底部がややすぼまる円筒形を呈する。口唇は隅丸角状を呈し LR 縄文が

図Ⅲ-12　ⅤPB-01 平面及び垂直分布図・出土土器

施されている。口縁部はやや内湾気味となる。器面の口縁から胴部にかけてはRL･LR羽状縄文となる。口縁部器面には縄文が施され、口唇と平行して6ヵ所に縄の圧痕が認められ、長さ5cmほどの横位縄線文が施される。胴部下半から底部にかけての器面は剥落が著しい。口縁部内面には横走気味の縄文や斜行縄文が施され、以下は横位にナデ調整される。底面には縄文が施される。胎土に砂粒と黄褐色火山灰パミス?を多量に含む。（長谷川）

**VPB-02**（図Ⅲ-13-1　図版14-4・27-3）

位置：AS・AT-15　層位：Ⅴa層　規模：66×31cm　出土点数：土器41点

**確認・調査**：調査区南東で、VPB-01の西約1.2mにTP-03を挟んで位置する。TP-03のプラン精査中、TP-03の窪みに隣接した西側のⅤa層で土器片集中を検出した。土器を残して掘り下げたところ周囲に広がりが認められなかったため、撮影と微細図の作成を行い、位置を記録し遺物の取り上げを行った。（岩橋）

**出土遺物**（1）：土器は復元の結果、VPB-03出土の一部とも接合している。縄文時代中期後半の柏木川式に相当する（JP03A）。口縁部が断面三角形になる肥厚帯を形成する。口縁部には棒状突起が2ヵ所につくものと思われ、肥厚帯及び胴部にLR斜行縄文が施文されている。内面には横位から斜位にかけての粗いヘラナデ調整痕が残る。器形は口縁部が外傾し、肥厚帯直下から胴部上位にかけて直立、中ほどでやや膨らみ、底部近くですすぼまり内傾するいわゆる倒鐘形を呈する。（長谷川）

**VPB-03・14**（図Ⅲ-13-2・18　図版14-5・16-3・27-4・5）

〔VPB-03〕位置：AS-15　層位：Ⅴb層上位　規模：100×64cm
出土点数：土器224点、礫1点

〔VPB-14〕位置：AS-15　層位：Ⅴb層上位　規模：40×20cm　出土点数：土器35点

**確認・調査**：調査区南東、緩斜面のⅤb層上位で検出したもので、VPB-02の北北西約3mに位置する。接合作業の結果、両集中はその多くが同一個体であることが判明したため、まとめて記述する。VPB-03はⅤb層上位で、VPB-14は木根周りのⅤb層精査中、土器片集中を検出した。遺物を残して掘り下げたところ下層に続かなかったため、それぞれ撮影を行い、位置を記録し遺物の取り上げを行った。細片については一括して取り上げを行った。（岩橋）

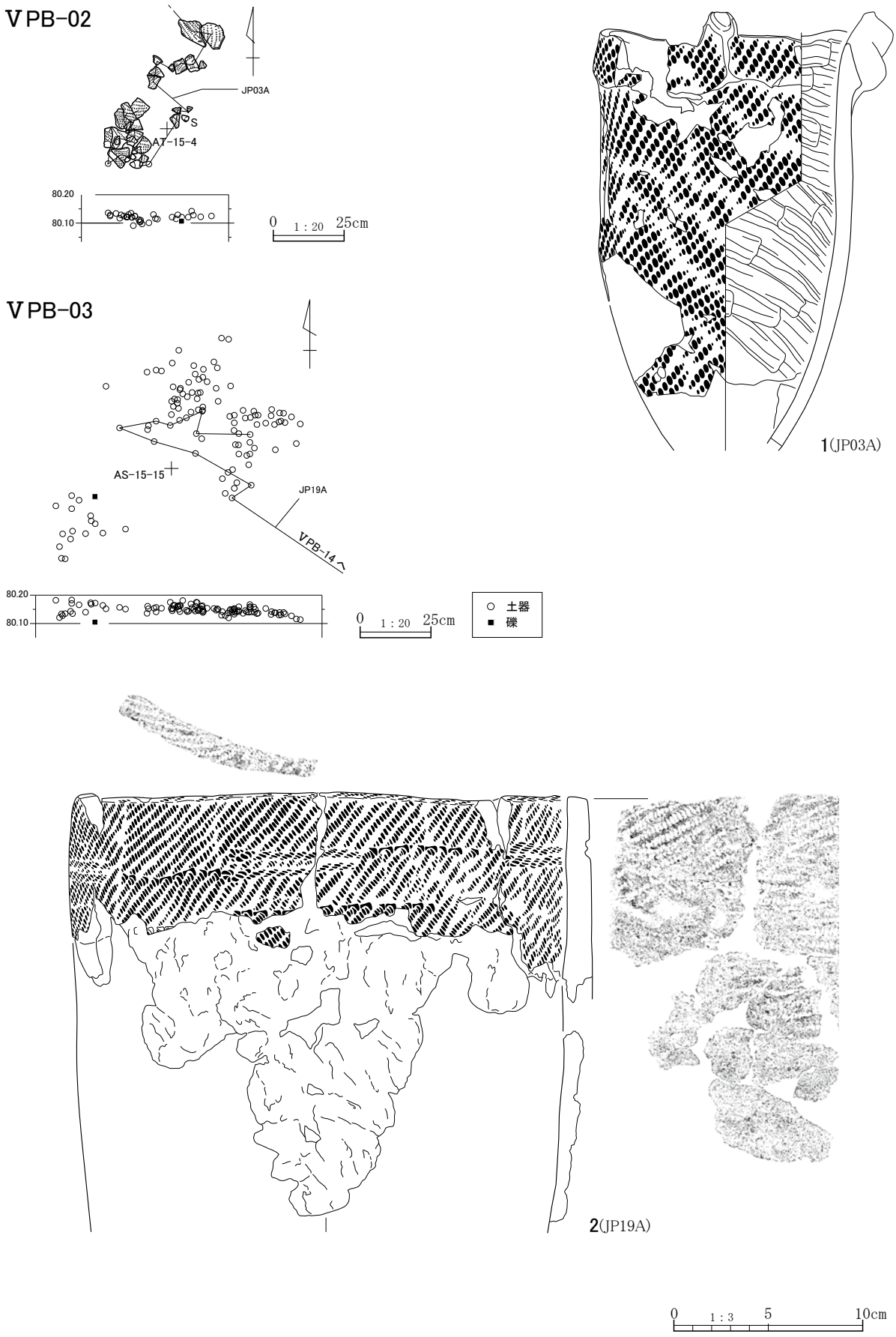
**出土遺物　VPB-03**（2）：土器の広がりの中央からは大型の砂岩礫（370mm×280mm×70mm 7,550g）が出土している。土器は復元の結果、VPB-04及びVPB-14出土のものと接合している。縄文時代後期前葉の新段階のタプコプ式に相当する円筒形を呈しているが、胴部下半から底部を欠損している（JP19A）。口唇部は隅丸角状で0段多条LR縄文が施されナデ調整される。口縁部には0段多条LR斜行縄文が施された後に器面がナデ調整される。口縁部には口唇下3～4cmに長さ7cmほどのRL原体2条1対の破線状の縄線文6ヵ所に施されている。胴部下半は剥落が著しい。口縁部内面には横走あるいは斜行する縄文が施されナデ調整される。胎土は砂粒を多量に含む。

**出土遺物　VPB-14**：VPB-03・04出土土器と接合関係にあり、特にVPB-03（JP19A）の復元土器に22点が接合している。（長谷川）

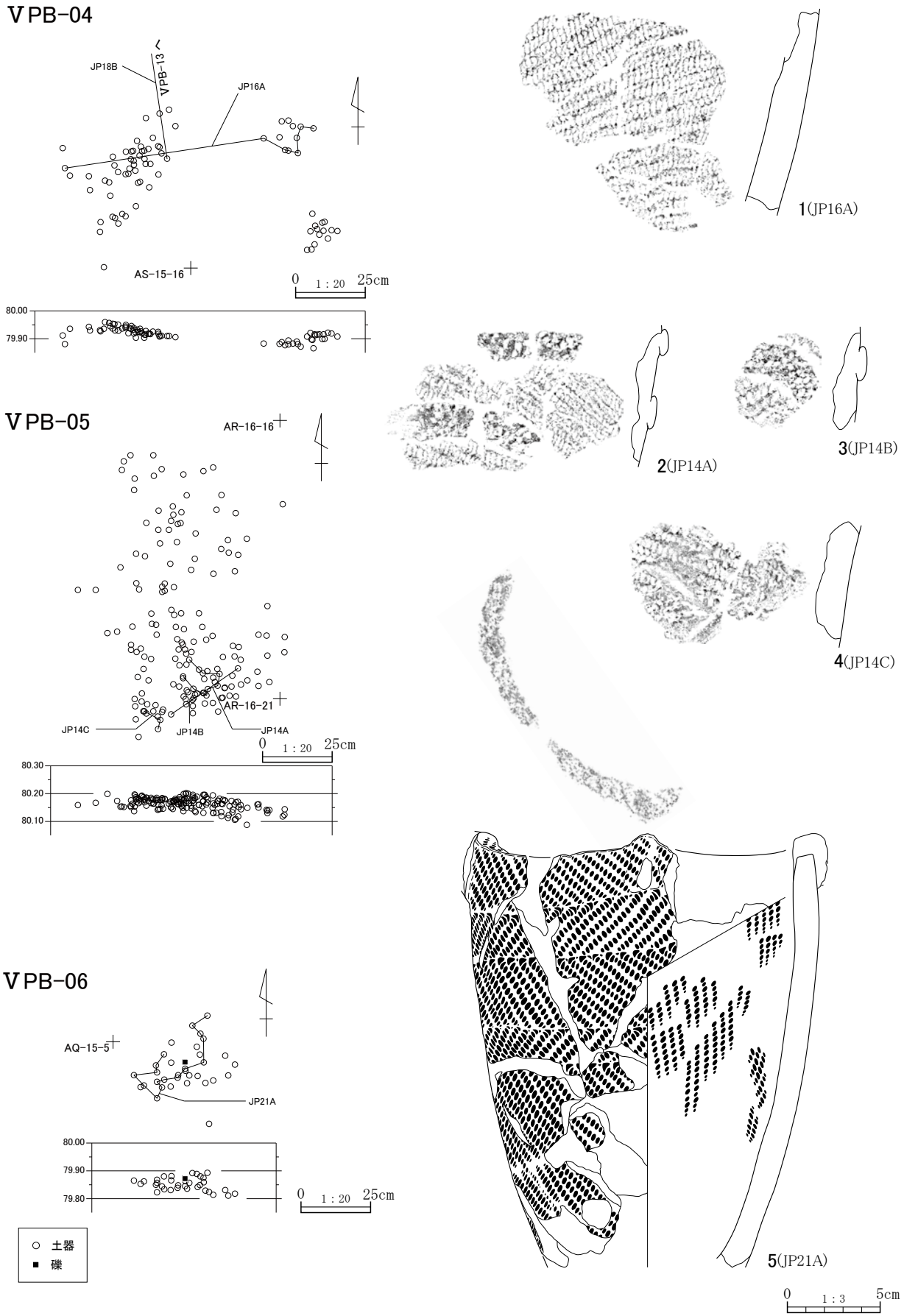
**VPB-04**（図Ⅲ-14-1　図版14-6・27-6）

位置：AS-14・15　層位：Ⅴb層上位　規模：106×63cm　出土点数：土器184点

**確認・調査**：調査区南西緩斜面、VPB-03の西4mに位置し、Ⅴb層上位で土器片集中を検出した。周囲を精査したところ東側約0.4mの地点に土器片集中を2ヵ所検出した。破片を確認したところ




図Ⅲ-13　ⅤPB-02・03 平面及び垂直分布図・出土土器




図Ⅲ-14　ⅤPB-04 ～ 06 平面及び垂直分布図・出土土器

同一個体の土器であったため、土器を残し周囲を掘り下げ、範囲を確認した。撮影終了後、位置を記録し遺物の取り上げを行った。VPB-01・03・13 出土遺物と接合したものがあり、最少個体数は 4 個体である。（岩橋）

**出土遺物**（1）： 土器は細片が主体で復元できなかったが、うち 4 点がVPB-01（JP15A）の復元土器に接合している。縄文時代後期初頭の古段階のタプコプ式に相当する土器である（JP16A）。0 段多条 LR 縄文を施文する胴部片である。胎土に砂粒を多く含む。（長谷川）

**VPB-05**（図Ⅲ-14-2～4　図版 14-7・27-7～9）

位置：AR-15・16　層位：Vb 層上位　規模：104×82cm　出土点数：土器 230 点

**確認・調査**： 調査区中央の緩斜面で、距離的に近いVPB-03 からは北北西へ 3mに位置する。Vb 層上位で土器片集中を検出した。土器を残し掘り下げたところ周囲に広がりは認められなかったため、撮影を行い位置を記録し遺物の取り上げを行った。細片については一括して取り上げを行った。（岩橋）

**出土遺物**（2～4）： 縄文時代後期初頭の新段階の余市式に相当する土器である（JP14A・B・C）。2 は地文に RL 斜行縄文を施した後に上位には横・下位には曲線の貼付帯を付し、貼付帯上に LR 縄文が施文される。3 は地文に LR 斜行縄文を施した後に曲線の貼付帯をつけ、貼付帯上に LR 縄文が施される。4 は RL・LR 羽状縄文が施された胴部である。2～4 はいずれも内面が剥落している。（長谷川）

**VPB-06**（図Ⅲ-14-5　図版 14-8・28-1）

位置：AP・AQ-15　層位：Vb 層上位　規模：43×41cm　出土点数：土器 33 点、礫 1 点

**確認・調査**： 調査区西側緩斜面にあり、VPB-05 から北へ約 9mに位置する。Vb 層上位で土器片集中を検出した。この時点で撮影を行い、位置を記録し遺物の取り上げを行った。（岩橋）

**出土遺物**（5）： 縄文時代後期前葉の新段階のタプコプ式に相当する土器である（JP21A）。口線部が直立し、胴部が外傾する円筒形を呈する。底部は欠損する。口唇部は角状でやや内傾し、RL 縄文が施文される。口縁部に棒状突起が 4 ヵ所につくものと思われる。口縁から胴部上半にかけては LR・RL 羽状縄文を施す。胴部下半には RL 斜行縄文が施される。内面の口縁部から胴部に縦走縄文が施される。胎土には砂粒を多く含む。（長谷川）

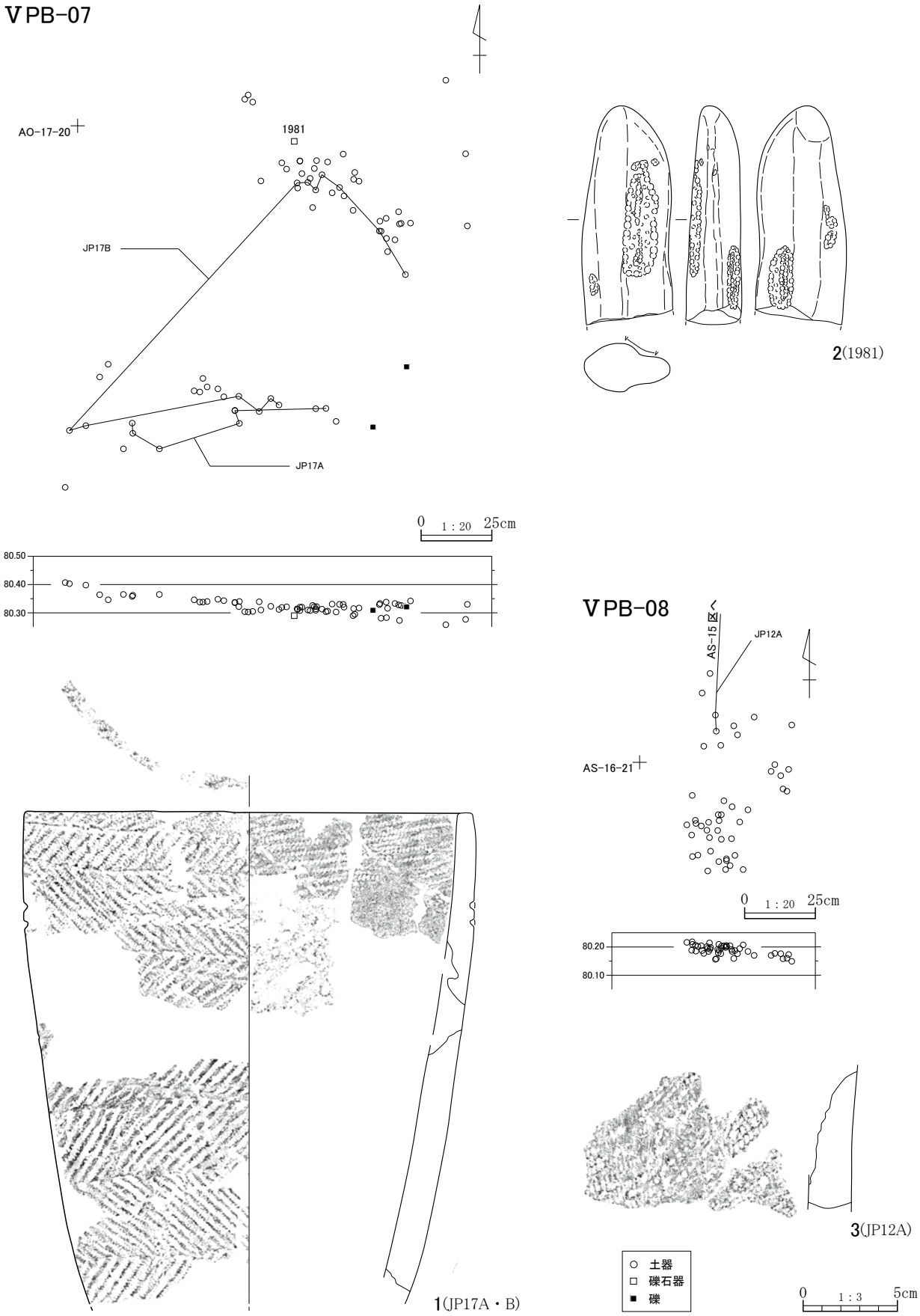
**VPB-07**（図Ⅲ-15-1・2　図版 15-1・28-2～4）

位置：AO-17　層位：Vb 層上位　規模：200×77cm　出土点数：土器 70 点、石器 1 点、礫 2 点

**確認・調査**： 調査区北側緩斜面にあり、VPB-06 から北西へ約 11mに位置している。Vb 層上位で土器片集中を検出した。周囲を精査したところ南側 0.8m地点に土器集中を検出した。破片を確認したところ同一個体で、遺物を残し掘り下げたが下層に続かなかったため撮影を行い、位置を記録し遺物の取り上げを行った。（岩橋）

**出土遺物**（1・2）： 1 は縄文時代後期前葉の新段階のタプコプ式土器で（JP17A・B）、口縁部が直立し、胴部以下がすぼまる円筒形を呈する。底部は欠損する。口唇部は角状で斜行縄文が施され、0 段多条 LR・RL 羽状縄文が口縁から胴部にかけて施される。口唇に並行して 5cm ほど下位に、2 条 1 対の破線状の縄線文が施されている。口縁部内面には横走縄文を施文している。胎土に砂粒を多く含む。器面は縄文施文後ナデ調整され、条向が潰れている。（長谷川）

2 はⅠ群 B2 類に属するたたき石で、偏平な棒状礫の両面に長めの敲打による窪みを有する。（工藤）




図Ⅲ-15　ⅤPB-07・08 平面及び垂直分布図・出土遺物

VPB-08（図Ⅲ-15-3　図版 15-2・28-5）

位置：AS-15　層位：Ｖb 層上位　規模：74×37cm　出土点数：土器 124 点

**確認・調査**：調査区南東緩斜面のＶPB-02 の北西約 2ｍに位置している。Ｖb 層上位で土器片集中を検出した。土器を残し周囲の層を掘り下げたが広がりが認められなかったため撮影を行い、位置を記録し遺物の取り上げを行った。（岩橋）

**出土遺物**（3）：縄文時代後期初頭の古段階のタプコプ式土器である（JP12A）。直立する胴部片で、器面にはLR 斜行縄文が粗く施される。縄文施文後にナデ調整される。胎土に砂粒を多く含む。（長谷川）

VPB-09（図Ⅲ-16-1　図版 15-3・28-6）

位置：AP-14　層位：Ｖb 層上位　規模：60×29cm　出土点数：土器 29 点

**確認・調査**：調査区北東の緩斜面のＶb 層上位で土器片集中を検出した。周囲を掘り下げたが広がりが認められなかったため撮影を行い、位置を記録し遺物の取り上げを行った。（岩橋）

**出土遺物**（1）：縄文時代後期前葉の新段階のタプコプ式土器で（JP20A）、口唇断面が角状となりやや内傾し、RL 縄文を施す。器面にはRL 斜行縄文を施文する。口唇から 2～3cm 下位の口縁部に横位 2 条 1 対の破線状の縄線文が施される。RL 縄文の下位にLR 縄文が施される羽状縄文となる。（長谷川）

VPB-10（図Ⅲ-16-2～5　図版 15-4・28-7～10）

位置：AQ-15　層位：倒木痕中　規模：50×38cm　出土点数：土器 35 点、石器 1 点

**確認・調査**：倒木痕の落ち込み部分で土器集中を検出した。倒木痕中からの出土ではあったが、同一個体片が多く集中していたため付番した。遺物を残し周囲の層を掘り下げたが広がりが認められなかったので撮影を行い、位置を記録し遺物の取り上げを行った。細片については一括して取り上げを行った。（岩橋）

**出土遺物**（2～5）：縄文時代中期後半の柏木川式に相当する土器である。2 は第 1 種結束LR 斜行縄文を施す胴部片で、胎土に繊維を微量含む（JP06A）。3 は器面に幅 20mm ほどの隆起帯を貼付し、さらに縄線文を施文している。隆起帯の縁部の器面にはLR 縄文の端部が認められる（JP06B）。4 はLR 斜行縄文を施文する胴部片で、胎土に繊維を微量含む（JP06C）。（長谷川）

5 はサイド・スクレイパーでC1 類ｂに属する。縦長剥片の表面左側縁に加工を施し、表面右側縁に原石面を残しており、ここに微細な剥離痕が認められる。（工藤）

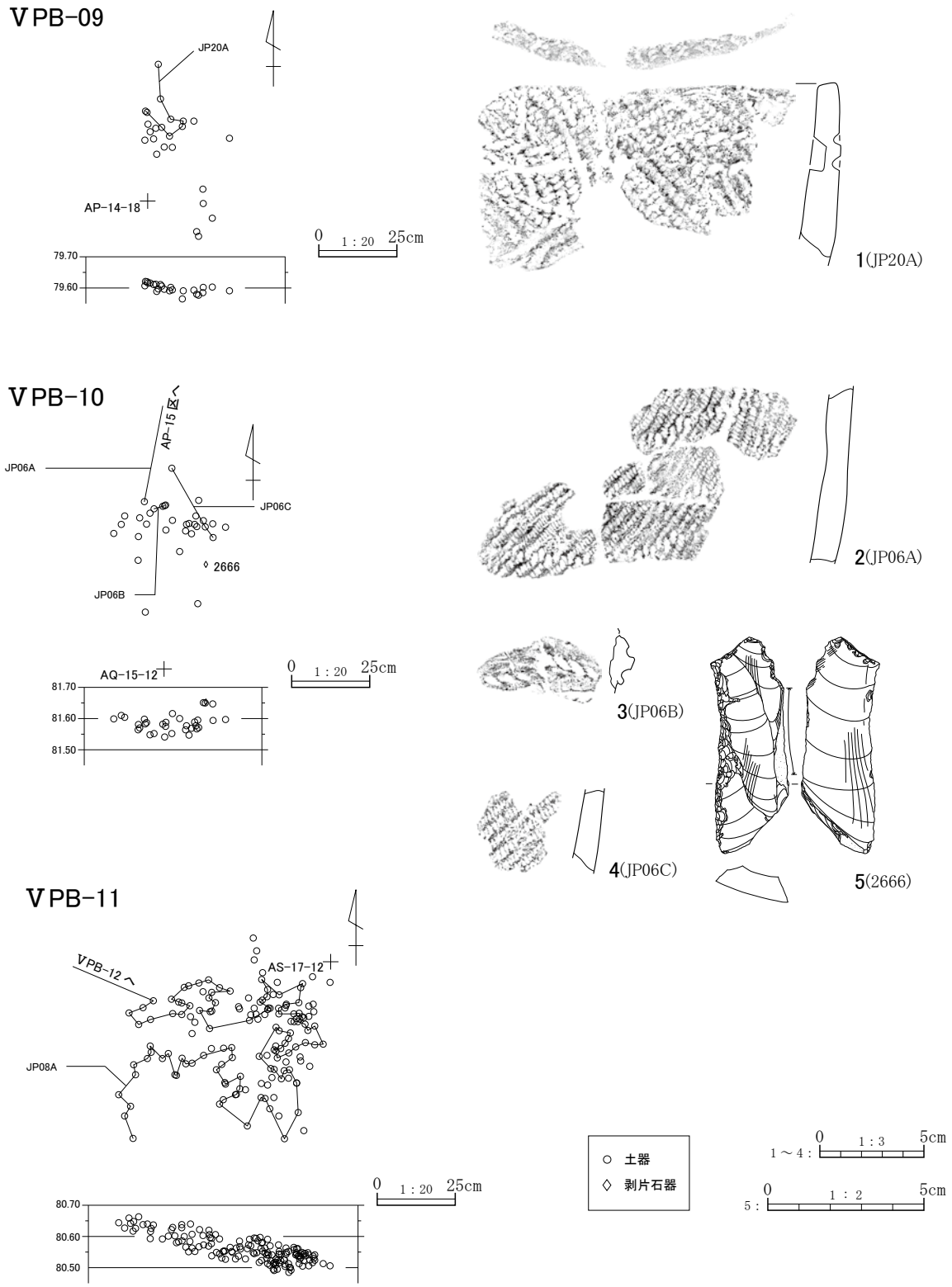
VPB-11・12（図Ⅲ-16・17-1・18　図版 15-5・16-1・29）

〔VPB-11〕位置：AS-17　層位：Ｖb 層上位　規模：83×62cm　出土遺物：土器 161 点

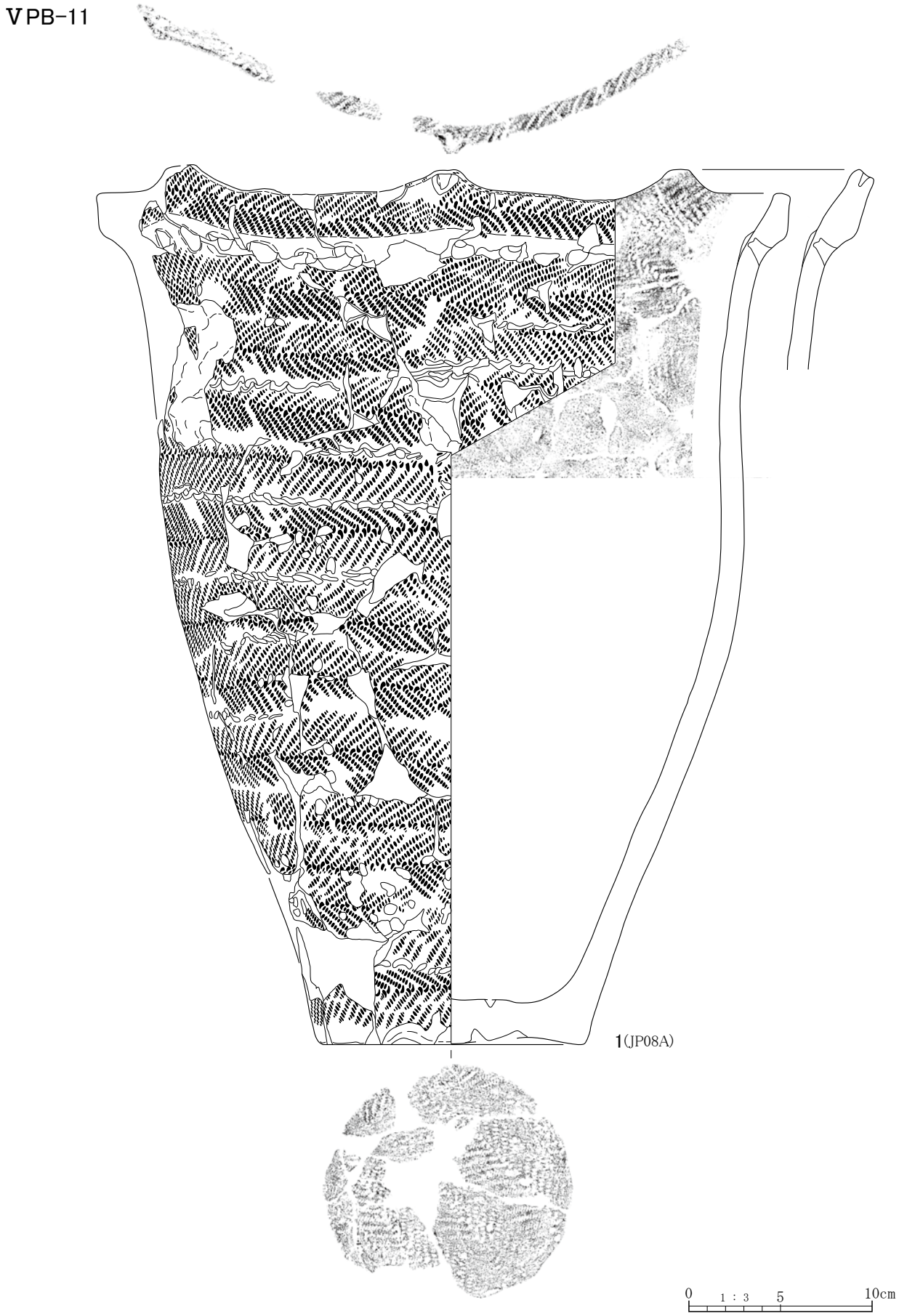
〔VPB-12〕位置：AS-17　層位：Ｖb 層上位　規模：52×18cm　出土遺物：土器 34 点、礫 2 点

**確認・調査**：調査区中央のＶH-01 の南約 2ｍに位置し、北西に隣接してＶPB-12 がある。接合作業の結果、両集中はその多くが同一個体であることが判明したため、まとめて記述する。Ｖb 層上位で隣接して土器片集中を検出した。東側をＶPB-11、西側をＶPB-12 と付番した。それぞれ遺物を残し周囲を掘り下げたが、下層及び周囲への広がりは確認できなかったため撮影を行い、位置を記録し遺物の取り上げを行った。（岩橋）

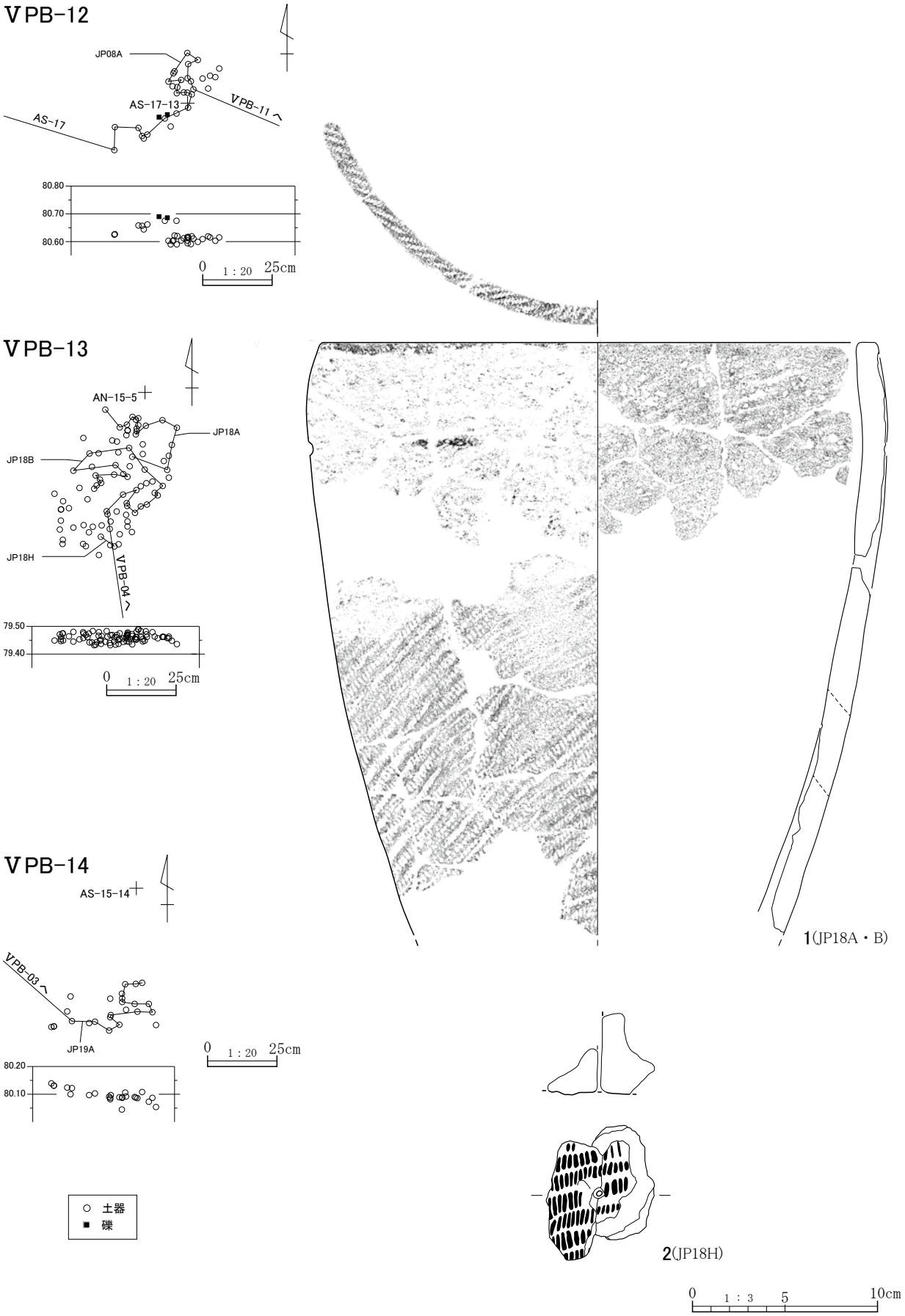
**出土遺物**　VPB-11（1）：縄文時代中期末葉の北筒式に相当する土器である（JP08A）。突起を 6 ヵ所にもつ大型の深鉢形土器である。口縁部が外反し、胴部中ほどに膨らみをもち、底部にかけすぼ




図Ⅲ-16　ⅤPB-09 ～ 11 平面及び垂直分布図・出土遺物




図Ⅲ-17　ⅤPB-11 出土土器




図Ⅲ-18　ⅤPB-12 ～ 14 平面及び垂直分布図・出土土器

## 表Ⅲ-15　ⅤPB出土土器属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 個体名称 | 分類 | 遺構名/グリッド | 層位 | 点数 | 部位 | 器形等<br>口縁－口唇/胴部/底側面－変換点－底面 | 文様<br>口唇－口縁－内面/胴部－内面/底側面－底面－内面 | 胎土 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⅲ-12-1 | 27-1 | JP15A | ⅣB1 | ⅤPB-01 | Ⅴa | 54 | 口縁部～底部 | 平縁・やや内湾-隅丸角状/外傾/外傾円筒形 | LR縄文/RL・LR羽状縄文-縄圧痕・縄線文 | 砂粒多量黄褐色火山灰パミス?多量 | |
| | | | | | ⅤbU | 1 | | | | | |
| | | | | ⅤPB-04 | | 4 | | | | | |
| | | | | AS-15 | | 1 | | | | | |
| | | | | TP-03 | 1 | 2 | | | | | |
| Ⅲ-13-1 | 27-3 | JP03A | ⅢB2 | ⅤPB-02 | Ⅴa | 32 | 口縁部～胴部 | 棒状突起・平縁、断面三角形肥厚帯/胴部中央やや膨らむ | LR斜行縄文-ヘラナデ/LR斜行縄文-ヘラナデ | 繊維微量 | |
| | | | | AS-17 | ⅤbU | 1 | | | | | |
| | | | | AT-17 | | 3 | | | | | |
| | | | | | KR | 1 | | | | | |
| | | | | AQ-16 | ⅤbU | 1 | | | | | |
| | | | | AR-17 | | 1 | | | | | |
| Ⅲ-13-2 | 27-4 | JP19A | ⅣB1 | ⅤPB-03 | ⅤbU | 13 | 口縁部～胴部 | 平縁・直立-隅丸角状/直立 | LR斜行縄文-0段多条LR斜行縄文・2条1対の破線状の縄線文-0段多条横走・斜行縄文・ナデ | 砂粒多量 | |
| | | | | ⅤPB-04 | | 1 | | | | | |
| | | | | ⅤPB-14 | | 22 | | | | | |
| | | | | AS-15 | | 2 | | | | | |
| Ⅲ-14-1 | 27-6 | JP16A | ⅣA2 | ⅤPB-04 | ⅤbU | 8 | 胴部 | やや外傾 | 0段多条LR斜行縄文 | 砂粒多量 | |
| Ⅲ-14-2 | 27-7 | JP14A | ⅣA2 | ⅤPB-05 | ⅤbU | 9 | 胴部 | 直立 | RL斜行縄文・貼付帯:LR縄文 | 砂粒少量 | |
| Ⅲ-14-3 | 27-8 | JP14B | ⅣA2 | ⅤPB-05 | ⅤbU | 2 | 胴部 | 直立 | LR斜行縄文・貼付帯:LR縄文 | 砂粒少量 | |
| Ⅲ-14-4 | 27-9 | JP14C | ⅣA2 | ⅤPB-05 | ⅤbU | 3 | 胴部 | やや外傾 | RL・LR羽状縄文 | 砂粒少量 | |
| Ⅲ-14-5 | 28-1 | JP21A | ⅣB1 | ⅤPB-06 | ⅤbU | 16 | 口縁部～胴部 | 棒状突起・やや内湾-角状内斜/外傾円筒形 | RL縄文-RL・LR羽状縄文-縦走縄文 | 砂粒少量 | |
| Ⅲ-15-1 | 28-2<br>28-3 | JP17A+JP17B | ⅣB1 | ⅤPB-07 | ⅤbU | 20 | 口縁部～胴部 | 平縁-角状/やや外傾円筒形 | 0段多条LR縄文-0段多条LR・RL羽状縄文、2条1対の破線状の縄線文/0段多条LR・RL羽状縄文 | 砂粒多量 | |
| Ⅲ-15-3 | 28-5 | JP12A | ⅣA2 | ⅤPB-08 | ⅤbU | 2 | 胴部 | 直立 | LR斜行縄文・ナデ | 砂粒多量 | |
| | | | | AS-15 | | 1 | | | | | |
| Ⅲ-16-1 | 28-6 | JP20A | ⅣB1 | ⅤPB-09 | ⅤbU | 9 | 口縁部 | 平縁・直立-隅丸角状 | RL縄文-RL・LRの羽状縄文・2条1対の破線状の縄線文 | 砂粒多量 | |
| Ⅲ-16-2 | 28-7 | JP06A | ⅢB3a | ⅤPB-10 | KR | 1 | 胴部 | やや外傾 | 第1種結束LR斜行縄文 | 繊維微量 | |
| | | | | AP-15 | ⅤbL | 5 | | | | | |
| Ⅲ-16-3 | 28-8 | JP06B | ⅢB3a | ⅤPB-10 | KR | 2 | 胴部 | やや外傾 | 隆起帯・縄線文、RL縄文 | － | |
| Ⅲ-16-4 | 28-9 | JP06C | | | | 3 | 胴部 | やや外傾 | LR斜行縄文 | 繊維微量 | |
| Ⅲ-17-1 | 29 | JP08A | ⅢB3a | ⅤPB-11 | ⅤbU | 97 | 口縁部～広部 | 突起・平縁肥厚帯-隅丸角状/胴部中央やや膨らみ/外傾-上げ底 | LR縄文-第1種結束LR・RL羽状縄文、円形刺突文-第1種結束LR・RL羽状縄文/第1種結束LR・RL羽状縄文/LR・RL羽状縄文 | 砂粒少量 | 補修孔有 |
| | | | | ⅤPB-12 | | 23 | | | | | |
| | | | | AS-17 | | 1 | | | | | |
| Ⅲ-18-1 | 30-1 1・2 | JP18A+JP18B | ⅣB1 | ⅤPB-13 | ⅤbU | 20 | 口縁部 | 平縁・やや内湾・隅丸角状/やや外傾 | LR縄文-LR縄文-LR斜行縄文/LR斜行縄文・ナデ | 砂粒少量 | |
| | | | | ⅤPB-04 | | 1 | 胴部 | | | | |
| | | | | ⅤPB-13 | | 25 | | | | | |
| Ⅲ-18-2 | 30-1 3a・3b | JP18H | ⅣB1 | ⅤPB-13 | ⅤbU | 2 | 底部 | 平底 | 底面:0段多条LR縄文 | 砂粒少量 | φ2～3㎜の焼成前孔有 |

表Ⅲ-16　ⅤPB出土石器属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 個体名称 | 遺物番号 | 遺物名 | 分類 | 遺構名 | グリッド | 層位 | 計測値(mm) | | | 重量(g) | 材質 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | 長軸 | 短軸 | 厚さ | | | |
| Ⅲ-15-2 | 28-4 | － | 1981 | たたき石 | ⅠB2 | ⅤPB-07 | AO-17 | ⅤbU | (115.4) | 47.4 | 29.3 | (181.6) | Sa. | 欠損 |
| Ⅲ-16-5 | 28-10 | － | 2666 | ナイフ・スクレイパー類 | C1b | ⅤPB-10 | AQ-15 | KR | 68.7 | 23.3 | 8.9 | 13.7 | Obs. | 完形 |

む器形を呈する。口縁部は肥厚し、突起の頂部には刺突文を施す。口唇部は角状となり縄文を施し、口縁部肥厚帯には横位に第1種結束LR・RL羽状縄文を施文している。口縁部内面には、横・斜位に第1種結束LR・RL羽状縄文が施されている。肥厚帯の下には円形刺突文をめぐらし、内面は瘤状になっている。口縁部から底部にかけて、横位に第1種結束LR・RL羽状縄文が施文される。胴部に補修孔が1対ある。底面は僅かに窪み上げ底となる。第1種結束LR・RL羽状縄文が施される。

**出土遺物**　ⅤPB-12：土器34点、礫2点出土しており、そのうち24点がⅤPB-11（JP08A）と接合あるいは同一個体関係にある。（長谷川）

ⅤPB-13（図Ⅲ-18　図版16-2・30-1～3）

位置：AN-15　層位：Ⅴb層上位　規模：59×36cm　出土点数：土器253点

**確認・調査**：TP-07調査ため範囲精査中、Ⅴb層上位で土器片集中を検出した。土器を残し周囲を掘り下げたが、広がりが認められなかったため撮影を行い、位置を記録し遺物の取り上げを行った。細片については一括して取り上げを行った。（岩橋）

**出土遺物**（1・2）：縄文時代後期前葉の新段階のタプコプ式土器である。1は口縁部が内湾し、胴部上半が直立、下部は底部に向かいすぼまる器形の土器である。口縁部から胴部上半の器面は剥落し、口唇付近の極一部に縄文が認められる。口唇にはLR縄文が、口縁部内面にはLR斜行縄文が施されナデ調整される。胴部はLR斜行縄文を施文後ナデ調整される（JP18A・B）。胎土には砂粒を少量含む。2は0段多条LR縄文を底面に施す。厚さは30mm以上ある。焼成前に底面から穿たれた径2～3mmの孔をもつ。胎土には砂粒を少量含む（JP18H）。（長谷川）

## 第6節　礫集中

礫集中はⅤb層上位で1ヶ所確認している。

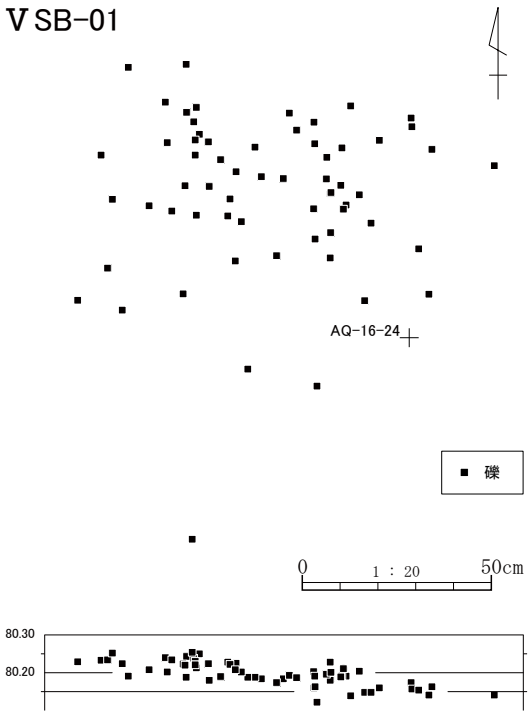
ⅤSB-01（図Ⅲ-19　図版16-5・30-2）

位置：AQ-16　層位：ⅤbU層　規模：125×96cm

出土点数：礫63点

**確認・調査**：ⅤH-01の北東方向6mの地点で、Ⅴb層上位から礫が集中出土した。礫を残して下位に掘り下げて範囲を確認したのち、撮影を行い、位置を記録しながら遺物の取り上げを行った。（岩橋）

**出土遺物**：円礫や角礫が63点出土しており、石材のほとんどが砂岩製であり、総重量が20,185gある。被熱礫は認められなかった。（工藤）




図Ⅲ-19　ⅤSB-01平面及び垂直分布図

## 第７節　包含層出土遺物

**１．土器**（図Ⅲ-20-1～11　図版 31-1-1～11）

Ⅴ層から出土した土器は、遺構出土のものを含めて 2,030 点が出土している。そのうち包含層からは、331 点が出土している（図Ⅲ-21）。分布傾向は、土器集中（ⅤPB）が多く検出されている調査区南側で、総じて土器集中とほぼ一致している。時期別では、縄文時代早期末葉に属すⅠ群 B4 類 16 点、前期後葉に属すⅡ群 B2 類 1 点、中期後半に属すⅢ群は 32 点で、そのうち、B2 類 14 点、B3a 類 18 点である。後期初頭から中葉に属すⅣ群は 261 点で、そのうち A1a 類 2 点、A2 類 119 点、B1 類 139 点、C2 類 1 点あり、A2 類と B1 類が主体となる。Ⅳ群のうち、細片のため細分できなかったものが 21 点ある。推定個体数は、Ⅰ群 B4 類 1 個体、Ⅱ群 B2 類 1 個体、Ⅲ群 B2 類が 3 個体、B3ａ類 5 個体、Ⅳ群 A1a 類 1 個体、A2 類 3 個体、B1 類 7 個体、C2 類 1 個体で、計 22 個体あり、土器集中（ⅤPB-01～14）と同一個体と思われるものが多いことを考慮すると、本遺跡出土の総個体数は、24 個体前後と推定される。

**Ⅰ群 B4 類土器**（1）：調査区南緩斜面のⅥ層から出土しているもので、縄文時代早期末葉の東釧路Ⅳ式に相当する（JP01A）。口唇は丸く口縁は平縁でわずかに内湾し、胴部は外傾する。口縁部から胴部には撚糸文と自縄自巻の LR 斜行縄文が施され羽状構成となる。LR 斜行縄文はゆるいＳ字状を描くように湾曲し施文される。口縁部は若干黒味を帯び胴部は赤褐色を呈する。内面は指頭圧痕による浅い凹凸があり、平坦になっていない。胎土には砂粒を微量含む。

**Ⅱ群 B2 類土器**（2）：調査区北端緩斜面のⅤb 層下位から出土したもので、縄文時代前期後葉の円筒下層ｃ式ないしｄ式に相当する（JP24A）。原体は 0 段多条 LR 縄文で節が深く施文されている。内面は磨かれ、胎土には繊維を少量含む。

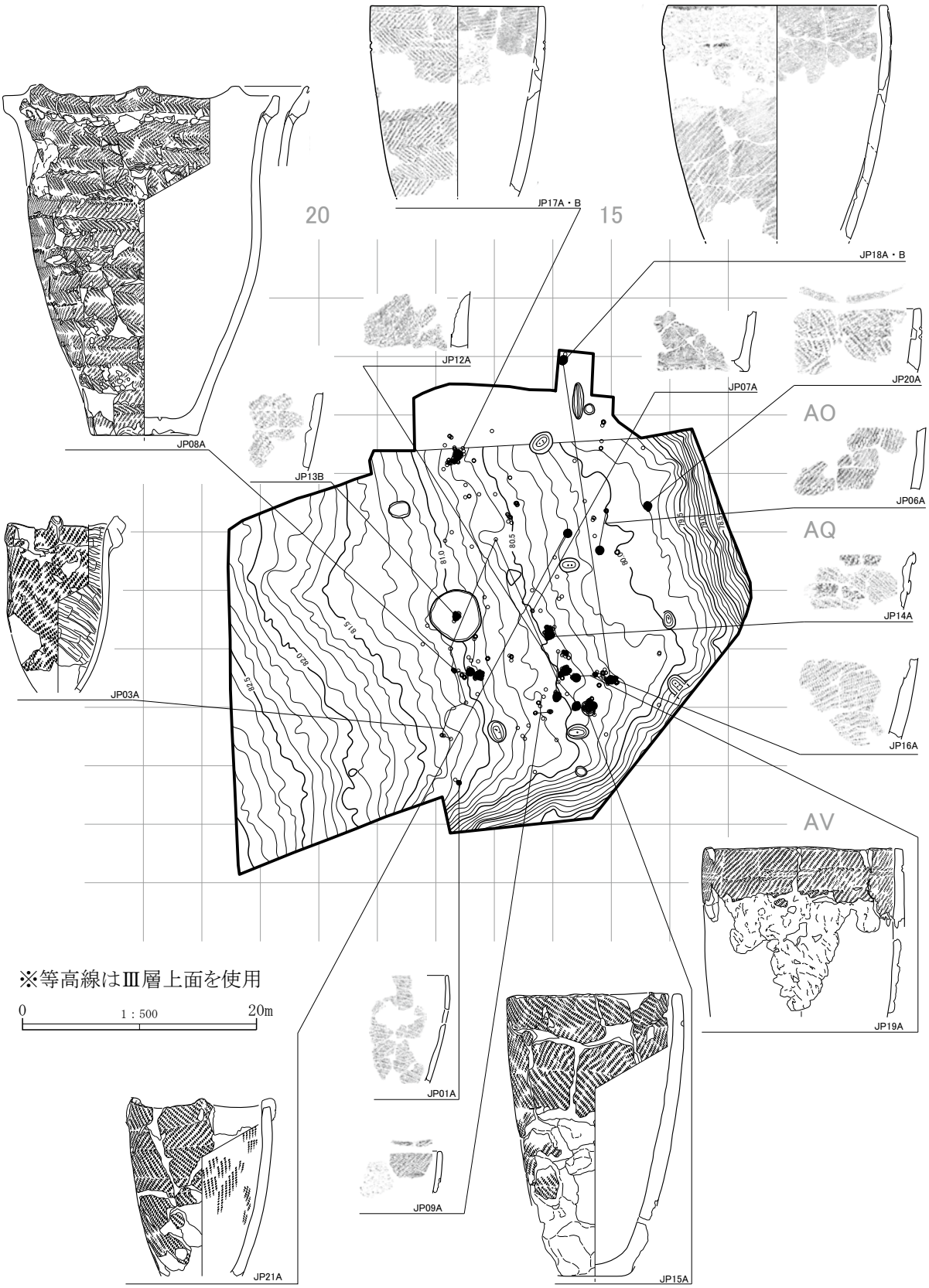
**Ⅲ群 B2 類土器**（3・4）：縄文時代中期後半の柏木川式に相当する。3（JP02A）は調査区南緩斜面のⅤb 層から出土したものである。第 1 種結束 0 段多条の LR 斜行縄文を施す底部である。底部は若干外へ張り出す。胎土には、繊維を微量に含む。4（JP04A）は調査区中央（ⅤH-01 付近）のⅤb・Ⅴc 層上位から出土している。LR 斜行縄文を施文する平底の底部で、底部が外へ張り出している。胎土には繊維を微量含む。

**Ⅲ群 B3 類ａ土器**（5・6）：縄文時代中期末葉の北筒式に相当する。5（JP05A）は調査区北側緩斜面のⅤa 層から出土した。口縁部に断面三角形の肥厚帯をもつ。肥厚帯には、LR 斜行縄文を施す。胎土には砂粒を微量含む。6（JP07A）は調査区中央緩斜面のⅤb 層上位から出土している。縄文は施文されているが、器面が磨滅しているため判然としない。直立気味に立ち上がる底部で、胴部にいたる上部は外傾する。

**Ⅳ群 B1 類土器**（7～10）：縄文時代後期前葉の新段階のタプコプ式に相当する。7（JP10A）は調査区北東緩斜面のⅤb 層上位から出土している。口唇部に縄文、口縁部器面には RL・LR 羽状縄文を施文する。胎土に砂粒を多く含む。8（JP11A）は調査区中央のⅤb 層上位から出土している。器面・内面・口唇に LR 縄文が施文されている。縄文は器面が LR 斜行縄文、内面が LR 縦走縄文である。9（JP09B）は調査区南西緩斜面のⅤb 層下位から出土している。LR 斜行縄文が器面及び底面に浅く施文している。胎土には砂粒を少量含む。10（JP09A）は調査区南西緩斜面のⅤa 層から出土している。LR 斜行縄文の施文された口縁部で、口唇部に LR 斜行縄文、口縁部内面には同じ原体による横走する縄文が施される。胎土には砂粒を少量含む。

**図Ⅲ-20　Ⅴ層包含層出土土器及び土製品**

**Ⅳ群 C2 類土器**（11）：後期中葉の手稲式に相当する土器である（JP22A）。調査区中央緩斜面のⅤb層上位から出土したものである。器面が磨滅しており細いRLと思われる斜行縄文を施文した胴部片で、胎土には砂粒を少量含む。（長谷川）




図Ⅲ-21　Ⅴ層出土土器接合線図

表Ⅲ-17　Ⅴ層包含層出土土器属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 個体名称 | 分類 | 遺構名/グリッド | 層位 | 点数 | 部位 | 器形等<br>口縁－口唇/胴部/底側面－変換点－底面 | 文様<br>口唇－口縁－内面/胴部－内面/底側面－底面－内面 | 胎土 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⅲ-20-1 | 31-1-1 | JP01A | ⅠB4 | AU-17 | Ⅵ | 14 | 口縁部～胴部 | 平縁・外傾-丸/胴部外傾 | 撚糸文+自縄自巻LR斜行縄文 | 砂粒微量 | |
| Ⅲ-20-2 | 31-1-2 | JP24A | ⅡB2 | TR-03 | ⅤbL | 1 | 胴部 | 外傾 | 0段多条LR斜行縄文-ミガキ | 繊維少量 | |
| Ⅲ-20-3 | 31-1-3 | JP02A | ⅢB2 | AT-16 | Ⅴb | 3 | 底部 | 張り出し-平底 | 第1種結束0段多条LR斜行縄文 | 繊維微量 | |
| Ⅲ-20-4 | 31-1-4 | JP04A | ⅢB2 | AR-17 | Ⅴa<br>ⅤbU | 1<br>1 | 底部 | 張り出し-平底 | LR斜行縄文 | 繊維微量 | |
| Ⅲ-20-5 | 31-1-5 | JP05A | ⅢB3a | AP-16 | Ⅴa | 2 | 口縁部 | 平縁・断面三角形肥厚帯 | LR斜行縄文 | 繊維微量 | |
| Ⅲ-20-6 | 31-1-6 | JP07A | ⅢB3a | AR-16 | ⅤbU | 6 | 底部 | 直立気味 | 斜行縄文 | 砂粒微量 | |
| Ⅲ-20-7 | 31-1-7 | JP10A | ⅣB1 | AO-15 | ⅤbU | 2 | 口縁部 | 平縁・直立-隅丸角状RL縄文 | RL・LR羽状縄文 | 砂粒微量 | |
| Ⅲ-20-8 | 31-1-8 | JP11A | ⅣB1 | AR-17 | ⅤbU | 4 | 口縁部 | 平縁・直立-半円状 | LR縄文-LR斜行縄文-LR縦走縄文 | 砂粒少量 | |
| Ⅲ-20-9 | 31-1-11 | JP09B | ⅣB1 | AS-14 | ⅤbL | 1 | 胴部 | 外傾-平底 | LR斜行縄文-LR斜行縄文 | 砂粒少量 | |
| Ⅲ-20-10 | 31-1-10 | JP09A | ⅣB1 | AT-16 | Ⅴb | 5 | 口縁部 | 平縁-隅丸角状 | LR縄文-LR斜行縄文-LR横位縄文 | 砂粒多量 | |
| Ⅲ-20-11 | 31-1-9 | JP22A | ⅣA2 | AS-17 | ⅤbU | 1 | 胴部 | やや外傾 | 斜行縄文 | 砂粒微量 | |

## 2．土製品（図Ⅲ-20-12・13　図版 31-1-12・13）

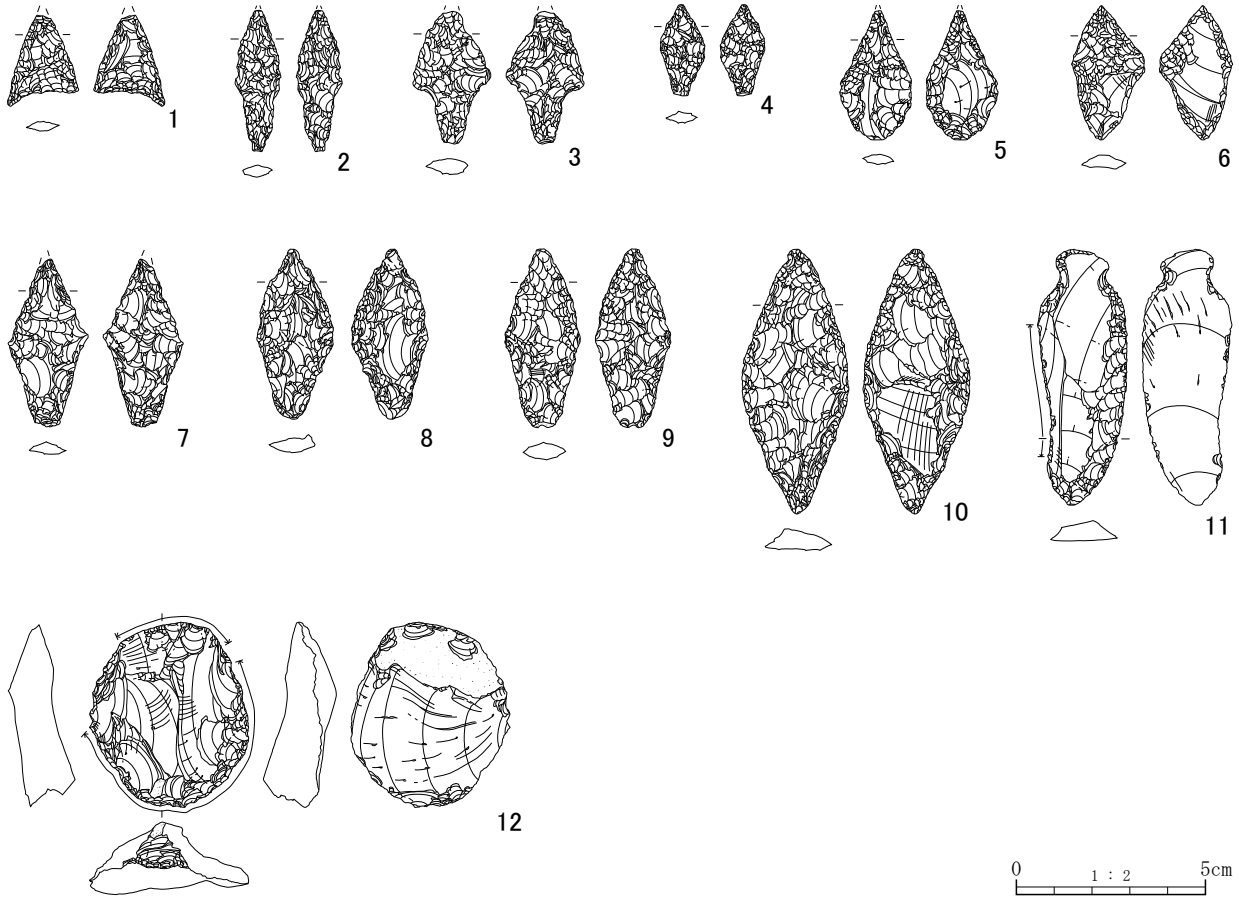
焼成粘土塊 2 点が、調査区中央南寄りの AS-12 グリッドのⅤc 層から共に出土している。平面・断面は楕円状と推定され、灰白色を呈し、主に表面に径 1㎜ 以下の気泡状の窪みがあり、珪藻を含む粘土を用いたと思われる。硬さは爪痕が残る程度である。サイズは大きい方の 12 で、28.9×20.1×15.7㎜ あり、重さは 2 点合わせても 5.6ｇと比較的軽い。（工藤）

表Ⅲ-18　Ⅴ層包含層出土土製品属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 個体名称 | 遺物番号 | グリッド | 層位 | 計測値(㎜)<br>長軸 | 短軸 | 厚さ | 重量(g) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⅲ-20-12 | 31-1-12 | - | 2244-1 | AS-16 | Ⅴc | 28.9 | 20.1 | 15.7 | 3.7 | 焼成粘土塊 |
| Ⅲ-20-13 | 31-1-13 | - | 2244-2 | AS-16 | Ⅴc | 21.2 | 16.1 | 14.7 | 1.9 | 焼成粘土塊 |

## 3．剥片石器（図Ⅲ-22-1～12　図版 31-2-1～12）

Ⅴ層の剥片石器は遺構を含め 35 点あり、そのうち 33 点が包含層から出土している。内訳はポイント類の石鏃 11 点、石銛・石槍 10 点の 21 点あり、石錐は 1 点、ナイフ・スクレイパー類はつまみ付きナイフ、ラウンド・スクレイパー、エンド・スクレイパー各 1 点とサイド・スクレイパー、コンケイブ・スクレイパー各 2 点の 7 点、UF 及び RF3 点、石核 1 点である。石材はつまみ付きナイフが頁岩で、ほかは黒曜石である。分布傾向は調査区南側で土器集中周辺からやや多く出土している。




**図Ⅲ-22　Ⅴ層包含層出土剥片石器**

**石鏃**（1～6）： 分類別ではA2類１点、A3類及びA4類各４点、C類２点である。1～4は両面加工、5・6は両面の周縁に主に加工を施し、1～3・5は先端を欠いている。１はA2類に属する凹基で、逆刺の一方が短く片脚鏃に近い。2・3はA3類に属し、明瞭な茎部をもつもので、2は細身で茎部端がくびれて細く、3は幅広の尖頭部を有する。4はA4類に属する細身で薄手のもので、最大幅を先端寄りにもつ。5・6はA4類に属し、不明瞭な茎部をもつもので、5は円基、6は逆三角形の茎部を有している。

**石銛・石槍**（7～10）： 7～10は長軸4cm以上で、このうち7はB1a類、ほかはB2類に属する不明瞭な茎部をもつものである。いずれも両面の周縁部に主に加工を施している。7は先端部を欠き、尖頭部と茎部間は「く」の字状に内屈しているもので、両面にはやや粗い加工を施している。10は木葉形を呈し、表面と裏面の周縁に加工を施している。

**つまみ付きナイフ**（11）： A1類に属し、縦長素材の表面の刃部とつまみ部の周縁に加工を主に施し、左側縁には微細剥離が残されている。

**ラウンド・スクレイパー**（12）： B1類に属し、楕円形剥片の表面周縁のみに加工を施しているもので、表面の下端及び裏面の上半に原石面を残している。（工藤）

**４．礫石器**（図Ⅲ-23-1～8・24-9～15　図版 32-1～9・33-10～15）

Ⅴ層の礫石器は遺構を含め 50 点あり、そのうち 46 点が包含層から出土している。内訳は石斧及び石斧未成品 10 点、たたき石 23 点、砥石 6 点・石皿 1 点、台石 6 点で、分布は調査区東緩斜面の 15 グリッドラインにやや多く出土する傾向がみられる。以下、掲載した 15 点について述べる。

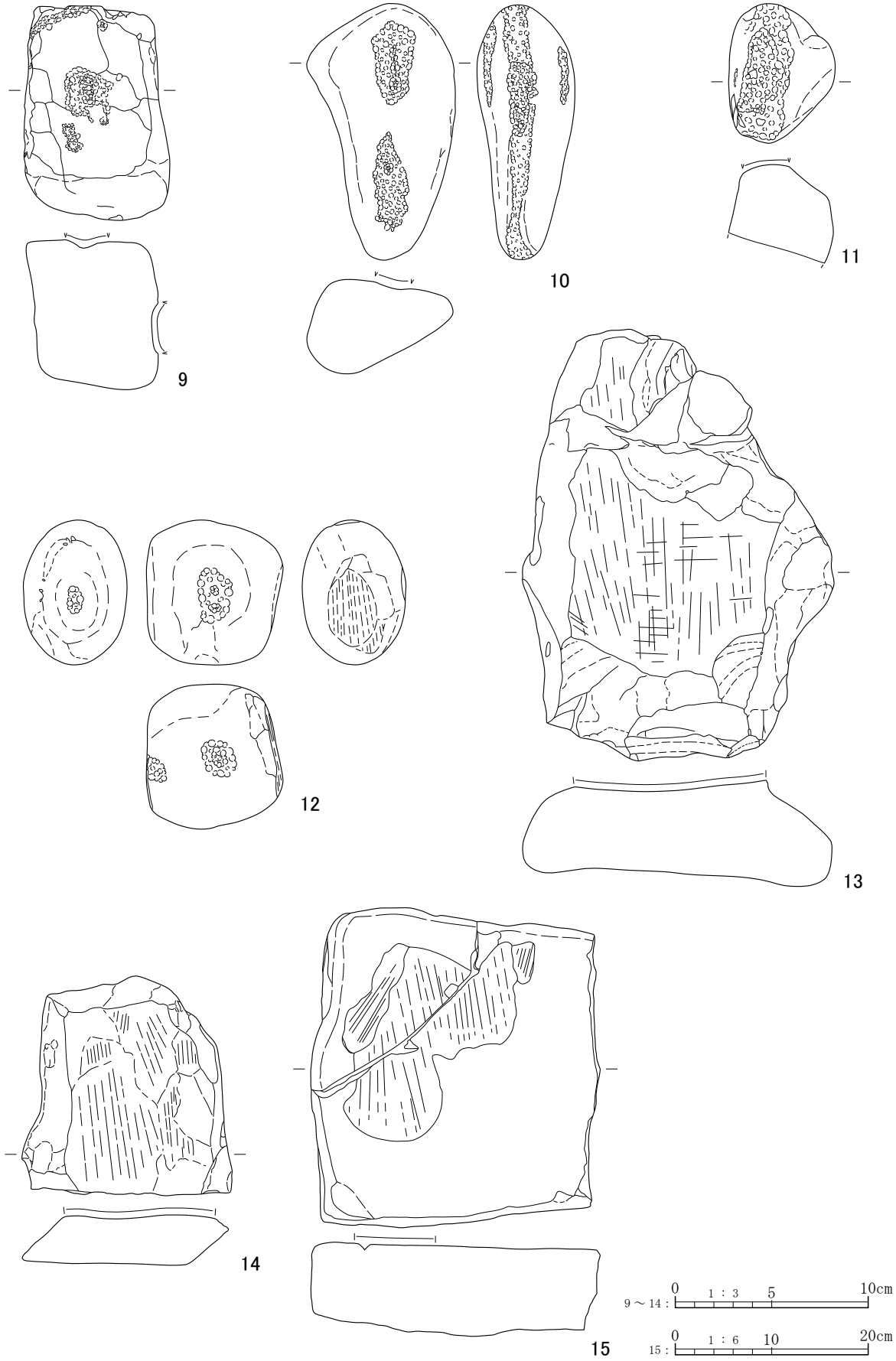
**石斧**（1～4）： 接合により 8 個体となった。未成品を除き、すべて磨製で A 類に属する。1 は小型な扁平礫を用い、両面に主に研磨を施している斜刃両刃である。2 は 2 点が接合したもので、被熱が認められる。全面に研磨を施した薄手の斜刃両刃で、円刃に近い。3 は打ち欠き成形後、両側縁には敲打による潰し、刃部には若干の研磨を施している。直刃片刃のもので、刃角度は 50°あり、通常の石斧に比べ鈍角である。4 は AT-15 グリッドから出土した、たたき石状の破片 2 点が接合したもので、さらに 5 点の剥片が接合した。石斧の材料に多く用いられる緑色泥岩の長い扁平礫を用いて表皮などの打ち欠き加工を施し、周縁部の細部加工中に中ほどから破断したと考えられる石斧未成品である。なお、本品には接合されなかったが、同グリッドからは同一剥片と思われるものがほかに 6 点出土している。

**たたき石**（5～12）： 5 はⅠ群 A1 類に属し、扁平礫の両面に敲打による浅い窪みと若干の敲打痕をもつものである。6 はⅠ群 B3 類に属し、AP-16 グリッドから出土した 2 点が接合したもので、比較的長い扁平礫を用いて 1 面には敲打による窪み、1 側縁には帯状の敲打痕を有している。本石器は使用中に破断しているが、使用痕のない比較的握り易い側は側縁を主体に敲打痕を有しており、再利用されている。7 はⅡ群 A2 類に属し、1 側縁の両稜に敲打痕をもつもので、使用痕のない側は比較的握り易い。8 はⅡ群 A3 類に属し、楕円形礫の両面中央及び側縁に敲打による窪み、側縁付近と側縁に擦り面を有している。9 はⅡ群 B1 類に属し、平・断面が 4 角形の礫の 2 面に敲打による窪みをもつものである。10 はⅡ群 B3 類に属し、断面三角形礫の 2 面に敲打による浅い窪みをもち、1 側縁にも若干の敲打痕をもつものである。11 はⅢ群Ｂ類に属する欠損品である。平面が楕円形、断面がカマボコ形を呈し、側縁に敲打を帯状に密に残している。12 はⅢ群Ｂ類に属し、楕円形礫の両面中央及び側縁に敲打による窪みもち、側縁付近と端部に擦り面をもっている。

**砥石**（13・14）： ともに使用面を 1 面もつもので、使用面は 13 が浅く窪み、14 はほぼ平坦である。

**石皿**（15）： 隅丸方形状の大型礫の 1 面の一部に滑らかな使用面を有している。　（工藤）

図Ⅲ-23　Ⅴ層包含層出土礫石器（1）




図Ⅲ-24　Ⅴ層包含層出土礫石器(2)

## 表Ⅲ-19　Ⅴ層包含層出土石器属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 個体名称 | 遺物番号 | 遺物名 | 分類 | グリッド | 層位 | 計測値(mm) | | | 重量(g) | 材質 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 長軸 | 短軸 | 厚さ | | | |
| Ⅲ-21-1 | 31-2-1 | － | 2556 | ポイント類 | A2 | AQ-15 | ⅤbL | (21.9) | 18.8 | 3.2 | 1.0 | Obs. | 先端部欠 |
| Ⅲ-21-2 | 31-2-2 | － | 3114 | ポイント類 | A3 | AS-17 | ⅤbU | (37.2) | 12.0 | 3.8 | 1.3 | Obs. | 先端部欠 |
| Ⅲ-21-3 | 31-2-3 | － | 2597 | ポイント類 | A3 | AP-15 | ⅤbU | (34.8) | 20.7 | 5.4 | 2.6 | Obs. | 先端部欠 |
| Ⅲ-21-4 | 31-2-4 | － | 2879 | ポイント類 | A4 | AS-17 | ⅤbU | 24.1 | 11.7 | 4.2 | 0.9 | Obs. | 完形 |
| Ⅲ-21-5 | 31-2-5 | － | 1889 | ポイント類 | A4 | AP-15 | Ⅴa | 34.2 | 19.2 | 3.7 | 2.0 | Obs. | 完形 |
| Ⅲ-21-6 | 31-2-6 | － | 2793 | ポイント類 | A4 | AN-15 | Ⅴc | 35.3 | 19.2 | 4.8 | 2.5 | Obs. | 完形 |
| Ⅲ-21-7 | 31-2-7 | － | 3338 | ポイント類 | B1a | AM-15 | ⅤbU | 44.2 | 21.1 | 5.8 | 3.8 | Obs. | 完形 |
| Ⅲ-21-8 | 31-2-8 | － | 774 | ポイント類 | B2 | AT-16 | Ⅴa | 44.9 | 20.2 | 6.5 | 4.8 | Obs. | 完形 |
| Ⅲ-21-9 | 31-2-9 | － | 736 | ポイント類 | B2 | AP-16 | Ⅴa | 47.1 | 19.0 | 6.5 | 5.1 | Obs. | 完形、被熱 |
| Ⅲ-21-10 | 31-2-10 | － | 2475 | ポイント類 | B2 | AS-17 | Ⅴa | 70.0 | 28.4 | 8.5 | 12.9 | Obs. | 完形 |
| Ⅲ-21-11 | 31-2-11 | － | 2577 | ナイフ・スクレイパー類 | A1 | AR-14 | ⅤbL | 67.5 | 21.7 | 8.8 | 11.6 | Sh. | 完形 |
| Ⅲ-21-12 | 31-2-12 | － | 1543 | ナイフ・スクレイパー類 | B1 | AS-14 | ⅤbU | 48.9 | 42.5 | 13.3 | 22.5 | Obs. | 原石面有 |
| Ⅲ-22-1 | 32-1 | － | 3399 | 石斧 | A | AO-18 | ⅤbU | 77.2 | 36.8 | 10.8 | 45.3 | Sch. | 完形 |
| Ⅲ-22-2 | 32-2 | ⅤST102 | 2563 | 石斧 | A | AQ-15 | ⅤbL | (122.3) | 43.4 | 11.8 | (112.5) | Gr-Mud. | 略完形、接(2844)、基部被熱 |
| Ⅲ-22-3 | 32-3 | － | 2258 | 石斧 | A | AT-15 | ⅤbL | 144.1 | 48.3 | 22.3 | 230.0 | Sa. | 完形 |
| Ⅲ-22-4 | 32-4 | ⅤST101 | 2250 | 石斧未成品 | D | AT-15 | ⅤbL | (139.6) | (49.8) | (23.5) | (220.0) | Gr-Mud. | 接(1560、1561、2260、2252-2、2286) |
| Ⅲ-22-5 | 32-5 | － | 1911 | たたき石 | ⅠA1 | AO-16 | ⅤbU | 132.7 | 69.6 | 24.4 | 295.0 | Sa. | 完形 |
| Ⅲ-22-6 | 32-6 | ⅤST103 | 735 | たたき石 | ⅠB3 | AP-16 | Ⅴa | 254.2 | 76.5 | 37.0 | 780.0 | Sa. | 完形、接(2125) |
| Ⅲ-22-7 | 32-7 | － | 2788 | たたき石 | ⅡA2 | AN-15 | ⅤbU | 199.2 | 83.9 | 31.3 | 592.0 | Sa. | 完形 |
| Ⅲ-23-8 | 32-8 | － | 2554 | たたき石 | ⅡA3 | AQ-15 | ⅤbL | 108.4 | 88.2 | 51.3 | 848.5 | And. | 完形 |
| Ⅲ-23-9 | 32-9 | － | 690 | たたき石 | ⅡB1 | AT-16 | Ⅴb | 103.1 | 64.9 | 71.9 | 785.0 | Sa. | 完形 |
| Ⅲ-22-10 | 33-10 | － | 2247 | たたき石 | ⅡB3 | AS-16 | ⅤbL | 131.0 | 69.1 | 50.3 | 460.0 | Sa. | 完形 |
| Ⅲ-23-11 | 33-11 | － | 1586 | たたき石 | ⅢB | AT-17 | KR | 72.0 | (51.0) | 53.3 | (300.0) | Gr-Mud. | 欠損 |
| Ⅲ-23-12 | 33-12 | － | 3226 | たたき石 | ⅢB | AQ-16 | ⅤbU | 71.6 | 68.8 | 50.5 | 460.0 | Amp. | 完形 |
| Ⅲ-23-13 | 33-13 | － | 2538 | 砥石 | － | AR-16 | ⅤbL | (224.9) | (162.2) | 52.7 | (1,910.0) | Sa. | 欠損 |
| Ⅲ-23-14 | 33-14 | － | 2126 | 砥石 | － | AP-17 | ⅤbU | (112.9) | (107.8) | 26.9 | (445.0) | Sa. | 欠損 |
| Ⅲ-24-15 | 33-15 | － | 1912 | 石皿 | － | AO-16 | ⅤbU | 325.0 | (316.0) | 86.3 | (16,600.0) | Sa. | 欠損 |

# 第Ⅳ章　自然科学的分析

## 第１節　ショロマ３遺跡から検出された植物種子

Project Seeds 考古植物研究会　椿坂　恭代

### １．遺跡の所在と性格

遺 跡 の 名 称：ショロマ3遺跡
所　　在　　地：北海道勇払郡厚真町字幌内96-1
発掘調査期間：平成25年5月14日～同年8月30日
発掘調査面積：1,350㎡
調 査 担 当 者：乾 哲也　　長谷川 徹
遺 構 の 年 代：縄文時代後期、続縄文文化期、擦文文化後期
遺 跡 の 立 地：遺跡はショロマ川下流域右岸に形成された標高約81ｍの河岸段丘上に立地する。
その他の検出遺構・遺物などの詳細については本編を参照していただきたい。

### ２．扱った資料

分析対象として扱った資料は平成 25 年度に発掘調査した遺跡からのものである。擦文時代後期と推定される焼土、礫集中の遺構から土壌を採取し、フローテーション処理を行い、第 1 次選別で炭化植物種子などを抽出し送付されてきたものである。これらの資料は実体顕微鏡で観察と撮影を行った。検出された植物種子は表 1 と図版 1 に示しておく。

### ３．検出された植物種子

**タデ科 POLYGONACEAE**　（図版 1-1：ⅢSB-01 から出土）

礫集中（ⅢSB-01）から酸化した状態で5粒出土。瘦果は広楕円状三稜形。タデ科種子は形態の類似した種類が多いため、詳細な分類は困難である。計測値はL2.20×W1.55（mm）

**ニワトコ属 *Sambucus* L.**　（図版 1-2a・b：ⅢSB-01 から出土）

礫集中（ⅢSB-01）から酸化した状態で1粒出土。種子は狭楕円形。背面は円みがあり、腹面は鈍稜をなす。種皮は皺状に隆起した模様があり粗面である。これらの特徴からニワトコ *Sambucus racemosa* L.と判断される。計測値はL2.10×W2.05×T0.90（mm）

**タラノキ属 *Aralia* L.**　（図版 1-3：ⅢSB-01 から出土）

礫集中（ⅢSB-01）から酸化した状態で11粒出土。種子は半円形。種子の上方には二本の横溝があり、種皮は凹凸で粗面である。このような特徴からタラノキ *Aralia elata*（Miq.）Seemann と判断される。計測値はL2.30×W1.45×T0.70（mm）

**サクラ属 *Prunus* L.**　（図版 1-4a・b：ⅢSB-01 から出土）

焼土（ⅢF-02）、礫集中（ⅢSB-01）から合わせて 8 片出土。核面は粗面で、側面に沿って溝が観察された。こうした特徴からサクラ属と分類される。破片のため詳細な分類は出来なかった。破片の計測値は L3.80×W3.30（mm）

**ブドウ科 VITIDACEAE**　（図版 1-5a・b：ⅢSB-01 から出土）

焼土（ⅢF-02）からは酸化した状態で７片出土。炭化物集中（ⅢSB-01）から炭化と酸化した種子が４粒、20 片出土。堅果は広倒卵形。背面は円みがあり、倒へら形の凹みがある。腹面の中央に稜をなし稜の両側に針形の凹みがある。これらの特徴からブドウ属に分類される。形態の類似した種子にヤマブドウ *Vitis coignetiae* Pulliat.、サンカクヅル *Vitis flexuosa* Thunb.、エビヅル *Vitis ficifolia* Bunge var. lobata, があるが、サンカクヅル、エビヅルの分布域は北海道の南部に限られているという。形態の特徴からヤマブドウ *Vitis coignetiae* Pulliat. であろう。計測値は L3.80×W3.10×T1.30（mm）

**キハダ属 *Phellodendron* Rupr.**　（図版 1-6・7：ⅢSB-01 から出土）

焼土（ⅢF-01）からと礫集中（ⅢSB-01）から果実の破片と種子が出土。果実は球形で中に5の小核があり、各1個の種子を含む。資料6の果実からは種子の剥離痕が観察できた。資料7の種子は半横広卵形で表皮に浅い凹みによる網目模様がある。これらの特徴からキハダ *Phellodendron amurense* Rupr. と判断される。6の計測値はL6.00（mm）、7：L3.80×W2.20×T1.40（mm）

**ミズキ属 *Cornus* L.**　（図版 1-8：ⅢSB-01 から出土）

礫集中（ⅢSB-01）から炭化と酸化した種子が２粒と２片出土。核は偏球形で浅い縦溝があり先に穴がある。この特徴からミズキ *Cornus controversa* Hemsley と判断される。計測値は L3.60×W3.40（mm）

**モクレン科 MAGNOLIACEAE**　（図版 1-9a・b：ⅢSB-01 から出土）

礫集中（ⅢSB-01）から１片出土。モクレン科特有の形態（腎臓状横楕円形）の一部分と滑らかな表皮構造が観察できた。これらの特徴からコブシ *Magnolia* kobus DC. と判断される。破片の計測値は L3.70×W6.10（mm）

**クルミ属 *Juglans* L.**　（図版 1-10：ⅢSB-01 から出土）

焼土（ⅢF-02）からと礫集中（ⅢSB-01）から出土。内果皮はすべて細片である。核表面には縦に浅い溝状の模様がある。これらの特徴からオニグルミ *Juglans sieboldiana* Maxim と判断される。破片のため計測はしていない。

**冬芽**　（図版 1-11：ⅢSB-01 から出土）

礫集中（ⅢSB-01）から２片出土。現生の比較資料がないので詳細な分類は出来ない。計測値は L2.20×W1.40（mm）

**コナラ属 *QUERCUS* L.**（図版 1-12a・b：ⅢSB-01 から出土）

礫集中（ⅢSB-01）から１片出土。資料の形態は深い杯型で、その表面にはウロコ状の鱗片が観察できた。こうした特徴からコナラ属の殻斗と判断される。計測値は L3.50×W3.30（mm）

**菌類？**（図版1-13a・b：ⅢSB-01から出土）

焼土（ⅢF-01,02）からと礫集中（ⅢSB-01）から出土。表面は乳頭状の突起があり、その大きさは個体によって異なる。種子や堅果類ではないようであるが、その実態は不明である。計測値は L1.6.60（mm）

## ４．若干のコメント

扱った資料は擦文文化後期と推定される焼土、礫集中の遺構から検出されたものである。検出できた植物遺体は野生植物の草本類と木本類のみで、栽培植物は確認されなかった。検出できた資料

は少量であったが、いずれも集落の周囲に一般的に認められるもので、可食性あるいは利用可能のものが多い。

今回、サンプリングを行った遺構の保存状態は悪かったという調査担当者の所見である。擦文文化の植物遺体は雑穀を中心とした栽培植物と野生植物の草本類・木本類の組成が一般的であるが、遺構の性質や保存状況により、栽培植物の欠落や出土量の多寡などの違いがあることが、これまでの検出例の集積からも示されている。

そうして、今回の植物遺体の出土状況から酸化した状態の種子が比較的多かった。各時代の遺構から炭化せず酸化（胚乳が分解されて種皮だけが残って出土する状態）を示すアカザ属、ニワトコ属、マタタビ属、タラノキ属などの種子が多数出土することから、後世の混入である可能性を考慮して札幌市埋蔵文化財センターが同層準から出土した酸化状態のタラノキ属の年代測定を行ったことがある（吉崎・椿坂 1998）。得られた測定値は、ほぼ同一であった。したがって、種子の性質によって炭化の過程を得ないで残存するものもあることが確認されている。栽培種子は炭化を示すものがほとんどである。おそらく当該植物の利用方法の差に関係するものと思われる。未炭化のものはフレッシュな状態を示すもので混入を意味する。

引用文献

吉崎昌一・椿坂恭代
1998「札幌市N30遺跡から出土した植物遺体」『N30遺跡』164-172，225-227　札幌市文化財調査報告書58　札幌市教育委員会

**表1　ショロマ3遺跡　植物遺存体出土一覧**

| 遺構名 | グリッド | 時期 | タデ科 | ニワトコ属 | タラノキ属 | サクラ属 | ブドウ科 | | キハダ属 | | | ミズキ属 | | モクレン科 | クルミ属 | 冬芽 | コナラ属 | 不明2 | 菌類？ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | (粒) | (粒) | (粒) | (片) | (粒) | (片) | 果実片 | 種子(粒) | (片) | (粒) | (片) | (片) | (g) | (片) | (片) | (片) | (片) |
| ⅢF-01 | AQ-20 | 擦文後期 | | | | | | | 2 | | | | | | | | | 3 | 1 |
| ⅢF-02 | AU-20･21 | 擦文後期 | | | | 1 | | 7 | | | | | | | 0.244 | | | 5 | 9 |
| ⅢSB-01 | AR-17 | 擦文後期 | 5 | 1 | 11 | 7 | 4 | 20 | 12 | 5 | 8 | 2 | 2 | 1 | 0.347 | 2 | 1 | 11 | 41 |

酸化状態の種子
炭化･酸化状態の種子混在

## 図版1

1
タデ科

2a
ニワトコ属背面

2b
腹面

3
タラノキ属

4a
サクラ属表面

4b
内面

5a
ブドウ科背面

5b
腹面

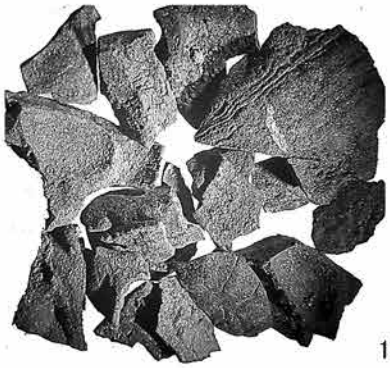
6
キハダ属果実片

7
キハダ属種子

8
ミズキ属

9a
モクレン科表面

9b
内面


10
クルミ属内果皮片

11
冬芽

12a
コナラ属殻斗表面

12b
内面

13a
菌類？表面

13b
内面

## 第 2 節　ショロマ3遺跡出土鉄器の金属考古学的調査結果

岩手県立博物館　赤沼　英男

### １．はじめに

北海道勇払郡厚真町ショロマ川下流域右岸に形成された標高約 80～83ｍの河岸段丘上に立地するショロマ 3 遺跡は、厚幌ダム建設に伴い平成 25（2013）年 5 月 14 日～8 月 30 日まで発掘調査された遺跡である。発掘調査の結果、上層黒色土Ⅲ層から擦文後期と推定される焼土や棒状礫を主体とする礫集中などが見出され、風倒木痕のくぼみから「甲冑製品」または「鎧武具」（以下、甲冑製品という）と推定される鉄器片および刀子が出土した[1)]。

甲冑製品はいずれも破片の状態で検出され、鋲で板を固定するという特異な器形を呈していた。ほぼ同形態の鉄器は千歳市で確認されているにすぎず、その検出例はきわめて少ないという[1)]。当該鉄器の素材となった地金の組成を解明するため、保存処理の過程で摘出された微小試料片を用い金属考古学的調査を実施した。以下に調査結果を報告する。

### ２．調査資料の概要

調査資料は表 1 に示す 8 資料である。No.1～6 は甲冑製品で、既述のとおりいずれも破片の状態で検出されている。No.1・2 および No.3～5 はそれぞれまとまったブロックから見出された資料、No.7 および No.8 はいずれも刀子の一部と推定される資料である。

### ３．調査試料の摘出

調査試料には、ダイヤモンドカッターを装着したハンドドリル（以下、ハンドドリルという）を使い、保存科学的処理の過程で摘出できた 0.2～0.5ｇの試料を用いた。8 資料からの試料摘出位置は図 1～3 に示すとおりである。No.2 については 2 箇所から分析用試料を摘出した（図 2)。No.1～3 については摘出した試料を 2 分し、大きい方を組織観察に、小さい方を化学成分分析に供した。他の 5 試料から摘出した試料については、化学成分分析のみを実施した。

### ４．調査方法

組織観察用試料はエポキシ樹脂に埋め込み、エメリー紙、ダイヤモンドペーストを使って研磨した。研磨面を金属顕微鏡で観察し、地金の組成および製造法を推定するうえで重要と判断された領域､および非金属介在物を構成する鉱物相を､エレクトロン･プローブ･マイクロアナライザー(EPMA)で分析した。化学成分分析用試料は表面に付着する土砂、錆をハンドドリルで丹念に削り落とし、エチルアルコール、アセトンで超音波洗浄した。試料を 130℃で 2 時間以上乾かし、ほぼメタルからなる No.7$Sa_1$については直接、他の 8 試料についてはメノー乳鉢で粉砕した後テフロン分解容器に秤量し、塩酸、硝酸、およびフッ化水素酸を使って溶解した。溶液を蒸留水で定溶とし、表 3 に示す 21 元素を高周波誘導結合プラズマ発光分光分析法（ICP-AES 法）で分析した。

### ５．調査結果

５－1　摘出した試料のマクロおよびミクロ組織

No.1$Sa_1$（図 1$a_1$）から摘出した試料はそのほぼ全域が錆化した組織によって構成されていた（図

$1b_1$)。マクロ組織領域（Reg.1）内部にはセメンタイト（$Fe_3C$）の欠落孔（Cm）によって構成されたと推定される島状領域が観察された（佐々木稔・村田朋美 1984)。錆化前の地金における島状領域はパーライトと推定されるがその分布は局所的であり、錆化前の地金の炭素量を推定することはできなかった。セメンタイトの欠落孔（Cm）によって形成されたとみることのできる組織は No.$2Sa_1$（図 2）から摘出した試料にも見出された。錆化による組織の膨張を無視し、島状領域の分布状況を加味すると、錆化前の地金の炭素量は No.$2Sa_1$ では 0.1～0.2mass%、No.$2Sa_2$ では 0.2～0.3mass%と判定された（東北大学金属材料研究所編 1953)（佐藤編 1968)。No.$3Sa_1$（図 $3a_1$）から摘出した試料には金属光沢を呈する微細結晶（Cm）が層状に重なり、島状領域を形成した組織が観察された（図 $3b_1$・$c_1$)。EPMA による含有元素濃度分布のカラーマップによると、結晶（Cm）は炭素（C）および鉄（Fe）を主成分としていた。結晶（Cm）はセメンタイト、島状領域はパーライトと判定され、No.2 と同様にして錆化前の地金は炭素量 0.2～0.3mass%の鋼と推定された。

No.$1Sa_1$ の錆中には、灰色を呈する領域（Tmag)、やや暗灰色を呈する柱状領域｛(Fa)｝が暗灰色を呈する領域（Ma）の中に混在する非金属介在物が見出された。EPMA による分析によって Tmag はチタノマグネタイト、(Fa）は鉄かんらん石と推定される鉱物相であることが分かった（図 $1d_1$、表 2)。No.$2Sa_2$ でもほぼ同様の鉱物組成からなる非金属介在物が見出された（図 2、表 2)。No.$2S_{21}$ および No.$3Sa_1$ の錆中にはそれぞれウスタイト（Wus)、鉄かんらん石、および微細な鉄チタン酸化物（Itc）からなる非金属介在物が（図 2、表 2)、Fe-Ti-Al-V-Mg-O 系の柱状を呈する鉄チタン酸化物とガラス化した領域（Gl）からなる非金属介在物が確認された（図 $3d_1$、表 2)。

５－２　摘出した試料の化学組成

No.$7Sa_1$ から摘出した試料はほぼメタルによって構成されていたが、他の 8 試料から摘出した試料の T.Fe は 38.66～78.54mass%で、錆化が進んだ試料が分析された。No.$1Sa_1$、No.$7Sa_1$、および No.$8Sa_1$ からは 0.007～0.008mass%の Cu、0.005～0.012mass%の Ni、0.023～0.046mass%の Co が、No.$2Sa_1$ および No.$4Sa_1$ からはそれぞれ 0.006mass%、0.005mass%の Cu、0.023mass%、0.019mass%の Co が、No.$2Sa_2$、No.$6Sa_1$ からは 0.014mass%、No.$5Sa_1$ からは 0.022mass%の Co が検出された。No.$3Sa_1$ からは 0.012mass%の Cu、0.17mass%の As、および 0.13mass%の S が、No.7 $a_1$ を除く 8 試料からは、0.17mass%以上もの P が分析された。

No.$7Sa_1$ はほぼメタルからなる試料が分析されているため、当該試料から検出された微量成分のほとんどは、錆化前の地金に含有されていた、とみなすことができる。他の 8 試料については錆化が進んでいるため、分析によって検出された化学成分がただちにそれぞれの鉄器の製作に使用された地金に含有されていた、とみなすことは危険である。このような場合、埋蔵環境下からの富化について吟味する必要がある。Cu、Ni、および Co についてはほぼメタルからなる試料が分析された No.$7Sa_1$ の含有量が他の 8 試料を概ね上回っていることから、埋蔵環境下からの富化はきわめて少ないと判断される。P については錆化が進んだ試料からの検出量が高い傾向がみられるため、錆化前の地金に高濃度の P が含有されていたことを指摘することは難しい。No.$3Sa_1$ からは 0.17mass%の As、0.13mass%の S が検出された。通常の土砂に高レベルに含有される可能性の低い化学成分である。No.$3Sa_1$ は相当に錆化が進んだ試料であるが、検出された As および S の相当量は錆化前の地金に含有されていた可能性が高い。

## ６．考察

No.1$Sa_1$～No.3$Sa_1$ にはいずれも炭素量 0.5mass%未満の亜共析鋼が配されていた。摘出した試料に焼き入れや焼き戻しといった熱処理が施されたことを示す組織は見出されなかった。錆中に観察された非金属介在物にはいずれもチタノマグネタイトまたは Fe-Ti-Al-V-Mg-O 系の鉄チタン酸化物が混在していた。鋼が製造されるまでの過程でチタン化合物を含む物質が用いられた、あるいは左記物質を素材とする設備もしくは道具が使用されたことを示している。

古代および中世には複数の鋼製造法があった可能性が高い（赤沼・佐々木・伊藤 2000）（赤沼・福田 1997）。いずれの方法が用いられたとしても、多段階の工程を経て目的とする鋼が製造されたことは確実である。出発物質として同一の製鉄原料が使用されたとしても、製造方法や製造条件に応じ、最終的に得られる鋼の組成にはばらつきが生じる。錆化が進んだ資料の場合、埋蔵環境からの富化の影響についても検討する必要がある。従って、金属考古学的調査結果、とりわけ摘出した試料の化学成分分析値を単純に比較するという解析方法では、実態を反映した資料の分類結果を得ることは難しい。製造法の如何に係わらず、地金を精度高く分類する方法を用いる必要がある。

銅（Cu）、ニッケル（Ni）、およびコバルト（Co）の三成分は鉄よりも錆びにくい金属であるため、鉄中に取り込まれた後は、そのほとんどが鉄中にとどまると推定される [2)]。従って、合金添加が行われていなかったとすると、その組成比は鋼製造法の如何に関わらず、製鉄原料の組成比に近似すると推定される。表２の分析結果から（mass%Co）/（mass%Ni）（本稿では Co*と記載）と（mass%Cu）/（mass%Ni）（本稿では Cu*と記載）、（mass%Ni）/（mass%Co）（本稿では Ni**と記載）と（mass%Cu）/（mass%Co）（本稿では Cu**と記載）を求めると、表２右欄のとおりとなる。それらの値をプロットしたものが図４$a_{1.2}$ である。なお、図では非金属介在物中に鉄チタン酸化物が見出された鋼製鉄器を黒丸（●）、非金属介在物組成が不明な鉄器を白三角（△）で示した。

図 4$a_1$ では No.3$Sa_1$ が左上の離れた位置に単独で、No.1$Sa_1$ と No.2$Sa_1$、No.7$Sa_1$ と No.8$Sa_1$ はそれぞれ近接した位置に、No.2 $Sa_2$、No.4$Sa_1$~No.6$Sa_1$ は右方にばらついて分布する。図 4$a_2$ では No.3$Sa_1$ が右上に単独で分布するが、No.1$Sa_1$、No.2$Sa_{1.2}$、No.4$Sa_1$~No.6 $Sa_1$ が左方にほぼまとまった領域 A にプロットされている。図４$b_{1.2}$ は図 4$a_{1.2}$ 領域 A に分布する 6 試料に含有される Ni と Co、Ni と Cu の相関関係を示した図である。Ni と Co、Ni と Cu の相関係数はそれぞれ 0.93、0.95 を上回っており、領域 A に分布する 6 試料はほぼ同じ化学組成の地金を用いて製作された、とみることができる。

甲冑製品から摘出した 7 試料のうち 6 試料の化学組成上の特徴として、Ni 含有量に比べ Co 含有量がきわめて高い、という点が挙げられる。同様の特徴を有する鉄器として、北海道枝幸郡枝幸町目梨泊遺跡出土曲手刀子（赤沼 2004;2009）や、最近分析を行った夕張郡長沼町幌内 D 遺跡出土錐（赤沼 2014）があるが、その数はきわめて少なく、東北地方以南においては確認されていない。地金の組成に加え、その特異な形態を考慮すると、甲冑製品は北方大陸からもたらされた可能性もある。甲冑製品から摘出した No.3$Sa_1$ の化学組成は Ni および Co 含有量比が他の 6 試料と大きく異なっていて、As および S の含有量がきわめて高い。この点については甲冑製品を製作した工房で組成の異なる地金を調達していた、あるいは甲冑製品が北海道にもたらされた後、北海道において別の地金を用い修復が施された、という 2 点を考えることができる。As および S 含有量の高い鉄器が北海道内で確認されていないこと、および甲冑製品の外観形状が大きく損なわれた状態で出土してい

ることをふまえると、筆者は前者の可能性が高いと考える。甲冑製品およびNo.7・8の刀子の出土状況は、遺跡内では外部から運び込まれた鉄器を素材として再利用していた可能性があることをも示している。生産工房が未確認であるためその断定はできないが、この点については甲冑製品の入手ルートと共に今後の研究課題としたい。

## ７．まとめ

ショロマ３遺跡出土鉄器の金属考古学的調査結果について述べてきた。これまでの調査結果を整理すると、以下の４点を指摘できる。

（１）　ショロマ３遺跡の擦文～中世アイヌ文化期に比定される遺構から出土した甲冑製品には炭素量が0.5mass%未満の亜共析鋼が配されていた。

（２）　甲冑製品から摘出された７試料のうち６試料はNi含有量が低くCo含有量がきわめて高いという点で特徴的であり、これまでに実施した出土鉄器の調査結果をふまえると、列島内に加え北方大陸からの搬入を考える必要がある。

（３）　甲冑製品から摘出した７試料のうち１試料はAsおよびS含有量が他の６試料に比べ高いという点で化学組成が異なっていた。甲冑製品を製作した地域で組成の異なる地金を調達し、製作活動が行われていた可能性がある。

（４）　金属考古学的調査を実施した甲冑製品および刀子はいずれも外観形状が大きく損なわれた状態で検出されている。ショロマ３遺跡内ではそれらを鉄素材として再利用していた可能性がある。

註

1)　厚真町教育委員会・奈良智法氏からのご教授による。

2)　早稲田大学理工学術院基礎理工学部応用数理学科　伊藤公久教授からのご教授による。

引用・参考文献

赤沼英男　2004『出土遺物の組成からみた物質文化交流』岩手県立博物館

赤沼英男　2009『東北地方北部および北海道出土刀剣類の形態と組成からみた日本刀成立過程』岩手県立博物館

赤沼英男　2014「幌内D遺跡出土遺物の文化財科学的調査」公益財団法人北海道埋蔵文化財センター、発掘調査報告書印刷中

赤沼英男、佐々木稔、伊藤薫　2000「出土遺物からみた中世の原料鉄とその流通」『製鉄史論文集』たたら研究会編、pp.553-576

赤沼英男・福田豊彦　1997「鉄の生産と流通からみた北方世界」国立歴史民俗博物館研究報告、72、pp.1-40

佐々木稔、村田朋美　1984「古墳出土鉄器の材質と地金の製法」季刊考古学、8、pp.27-33

佐藤知雄編　1968『鋼の顕微鏡写真と解説』丸善株式会社

東北大学金属材料研究所編　1953『金属顕微鏡組織』丸善株式会社

## 表1　分析資料一覧

| No. | 遺物名 | 遺物番号 | 時代 |
|---|---|---|---|
| 1 | 甲冑製品 | 1231 | 擦文文化期 |
| 2 | | 1318-1・2 | |
| 3 | 甲冑製品 | 1218 | 擦文文化期 |
| 4 | | 1301 | |
| 5 | | 1312 | |
| 6 | 甲冑製品 | 1225 | 擦文文化期 |
| 7 | 刀子 | 515 | 擦文文化期 |
| 8 | 刀子 | 1221 | 擦文文化期 |

*調査鉄器の考古学的情報は厚真町教育委員会・奈良智法氏による。

## 表2　鉄器に見出された非金属介在物の中に混在する鉱物相のEPMAによる定量分析結果

| No. | Sub.No. | 図 | 鉱物相 | 化学成分(mass%) | | | | | | | | | | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | $Na_2O$ | $P_2O_5$ | $SiO_2$ | CaO | $TiO_2$ | $V_2O_5$ | $SO_3$ | MgO | $Al_2O_3$ | $K_2O$ | FeO | MnO | |
| 1 | $Sa_1$ | $1d_1$ | Tmag(1) | <0.01 | 0.01 | 0.09 | <0.01 | 25.9 | 2.03 | <0.01 | 0.77 | 5.23 | <0.01 | 64.6 | 0.32 | 98.95 |
| | | − | Tmag(1) | <0.01 | 0.01 | 0.18 | <0.01 | 26.1 | 1.70 | <0.01 | 0.84 | 5.23 | <0.01 | 63.9 | 0.23 | 98.19 |
| | | − | (Fa(1)) | 0.10 | 3.78 | 23.3 | 0.25 | 1.96 | 0.02 | 0.02 | 1.52 | 3.40 | 0.01 | 60.5 | 0.44 | 95.30 |
| 2 | $Sa_1$ | 2 | Wus(1) | <0.01 | <0.01 | 0.22 | <0.01 | 2.7 | 0.27 | 0.04 | 0.11 | 0.85 | <0.01 | 96.6 | 0.12 | 100.91 |
| | | | Fa(1) | 0.08 | 2.07 | 26.2 | 0.50 | 0.7 | 0.06 | 0.08 | 1.43 | 1.27 | 0.16 | 68.2 | 0.23 | 100.98 |
| | $Sa_2$ | 2 | Tmag(1) | <0.01 | 0.42 | 1.74 | <0.01 | 12.9 | 0.08 | 0.03 | 0.09 | 8.22 | <0.01 | 69.9 | 0.07 | 93.45 |
| | | | Fa(1) | 0.06 | 0.76 | 27.5 | 0.20 | 0.22 | 0.05 | <0.01 | 1.23 | 0.23 | 0.01 | 67.1 | 0.36 | 97.72 |
| | | | Fa(2) | 0.01 | 0.92 | 25.7 | 0.12 | 0.18 | 0.02 | 0.06 | 1.33 | 0.30 | <0.01 | 60.8 | 0.27 | 89.71 |
| 3 | $Sa_1$ | $3d_1$ | Gl(1) | 0.82 | <0.01 | 56.0 | 6.93 | 6.16 | 0.21 | 0.02 | 2.11 | 13.3 | 4.27 | 4.64 | 0.80 | 95.26 |

*No.は表1に対応。Wus=ウスタイト、Tmag=チタノマグネタイト、Fa=鉄かんらん石、(Fa)＝鉄かんらん石と推定される鉱物相、Gl=ガラス質ケイ酸塩。

## 表3　鉄器の調査結果

| No. | Sub. No. | | 化 学 組 成(mass%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | T.Fe | Cu | Ni | Co | Mn | P | Sn | Sb | As | S | Mo | Pb | Ti | Si | Ca | Ba | Zr | Cr | Al | Mg | V |
| 1 | $Sa_1$ | 78.54 | 0.007 | 0.005 | 0.032 | 0.003 | 0.31 | <0.01 | <0.01 | <0.01 | 0.03 | 0.001 | <0.01 | 0.047 | 0.55 | 0.029 | <0.01 | <0.001 | 0.002 | 0.067 | 0.012 | 0.002 |
| 2 | $Sa_1$ | 54.24 | 0.006 | 0.004 | 0.023 | 0.003 | 0.21 | <0.01 | <0.01 | <0.01 | 0.04 | 0.001 | <0.01 | 0.025 | 0.68 | 0.011 | <0.01 | <0.001 | <0.01 | 0.129 | 0.012 | <0.01 |
| | $Sa_2$ | 72.90 | 0.004 | 0.001 | 0.014 | 0.002 | 0.36 | <0.01 | <0.01 | <0.01 | 0.03 | <0.01 | <0.01 | 0.012 | 0.58 | 0.037 | − | <0.001 | 0.001 | 0.055 | 0.022 | 0.001 |
| 3 | $Sa_1$ | 38.66 | 0.012 | 0.004 | 0.001 | 0.008 | 2.68 | <0.01 | <0.01 | 0.17 | 0.13 | 0.003 | <0.01 | 0.014 | 4.71 | 2.76 | 0.07 | <0.001 | <0.01 | 0.590 | 0.378 | 0.025 |
| 4 | $Sa_1$ | 60.78 | 0.005 | 0.002 | 0.019 | 0.001 | 0.51 | <0.01 | <0.01 | <0.01 | 0.02 | 0.003 | <0.01 | 0.023 | 0.54 | 0.010 | <0.01 | <0.001 | <0.01 | 0.075 | 0.011 | 0.001 |
| 5 | $Sa_1$ | 58.73 | 0.004 | 0.002 | 0.022 | <0.01 | 0.39 | <0.01 | <0.01 | <0.01 | 0.03 | 0.003 | <0.01 | 0.024 | 0.44 | 0.008 | <0.01 | <0.001 | <0.01 | 0.057 | 0.006 | 0.001 |
| 6 | $Sa_1$ | 61.11 | 0.003 | 0.001 | 0.014 | 0.007 | 0.25 | <0.01 | <0.01 | <0.01 | 0.02 | 0.003 | <0.01 | 0.013 | 0.75 | 0.020 | <0.01 | <0.001 | <0.01 | 0.159 | 0.018 | 0.002 |
| 7 | $Sa_1$ | Me | 0.008 | 0.012 | 0.046 | <0.01 | 0.02 | <0.01 | 0.001 | <0.01 | 0.01 | <0.001 | <0.01 | 0.004 | 0.09 | <0.01 | <0.01 | <0.001 | 0.002 | 0.003 | 0.002 | <0.01 |
| 8 | $Sa_1$ | 66.10 | 0.008 | 0.007 | 0.023 | <0.01 | 0.17 | <0.01 | 0.001 | <0.01 | 0.06 | 0.002 | <0.01 | 0.005 | 0.57 | 0.013 | <0.01 | <0.001 | 0.001 | 0.102 | 0.008 | <0.01 |

| No. | Sub. No. | ミクロ組織 | 非金属介在物組成. | Cu・Ni・Co三成分比 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | Co*(Co/Ni) | Cu*(Cu/Ni) | Ni**(Ni/Co) | Cu**(Cu/Co) |
| 1 | $Sa_1$ | Cm(不明) | Tmag、(Fa)、Ma | 6.40 | 1.40 | 0.16 | 0.22 |
| 2 | $Sa_1$ | Cm(0.1-0.2) | Tmag、Fa | 5.75 | 1.50 | 0.17 | 0.26 |
| | $Sa_2$ | Cm(0.2-0.3) | Wus,Fa、Itc | 14.00 | 4.00 | 0.07 | 0.29 |
| 3 | $Sa_1$ | Cm(0.2-0.3) | Itc、Gl | 0.25 | 3.00 | 4.00 | 12.00 |
| 4 | $Sa_1$ | − | − | 9.50 | 2.50 | 0.11 | 0.26 |
| 5 | $Sa_1$ | − | − | 11.00 | 2.00 | 0.09 | 0.18 |
| 6 | $Sa_1$ | − | − | 14.00 | 3.00 | 0.07 | 0.21 |
| 7 | $Sa_1$ | − | − | 3.83 | 0.67 | 0.26 | 0.17 |
| 8 | $Sa_1$ | − | − | 3.29 | 1.14 | 0.30 | 0.35 |

*No.は表1に対応。Cmはセメンタイトまたはその欠落孔。括弧内の数字はミクロ組織から推定される炭素量。Wus=ウスタイト、Tmag=チタノマグネタイト、Itc=鉄チタン酸化物、Fa=鉄かんらん石、(Fa)＝鉄かんらん石と推定される鉱物相、Gl=ガラス質ケイ酸塩、Ma=微細粒子が混在するガラス化した領域

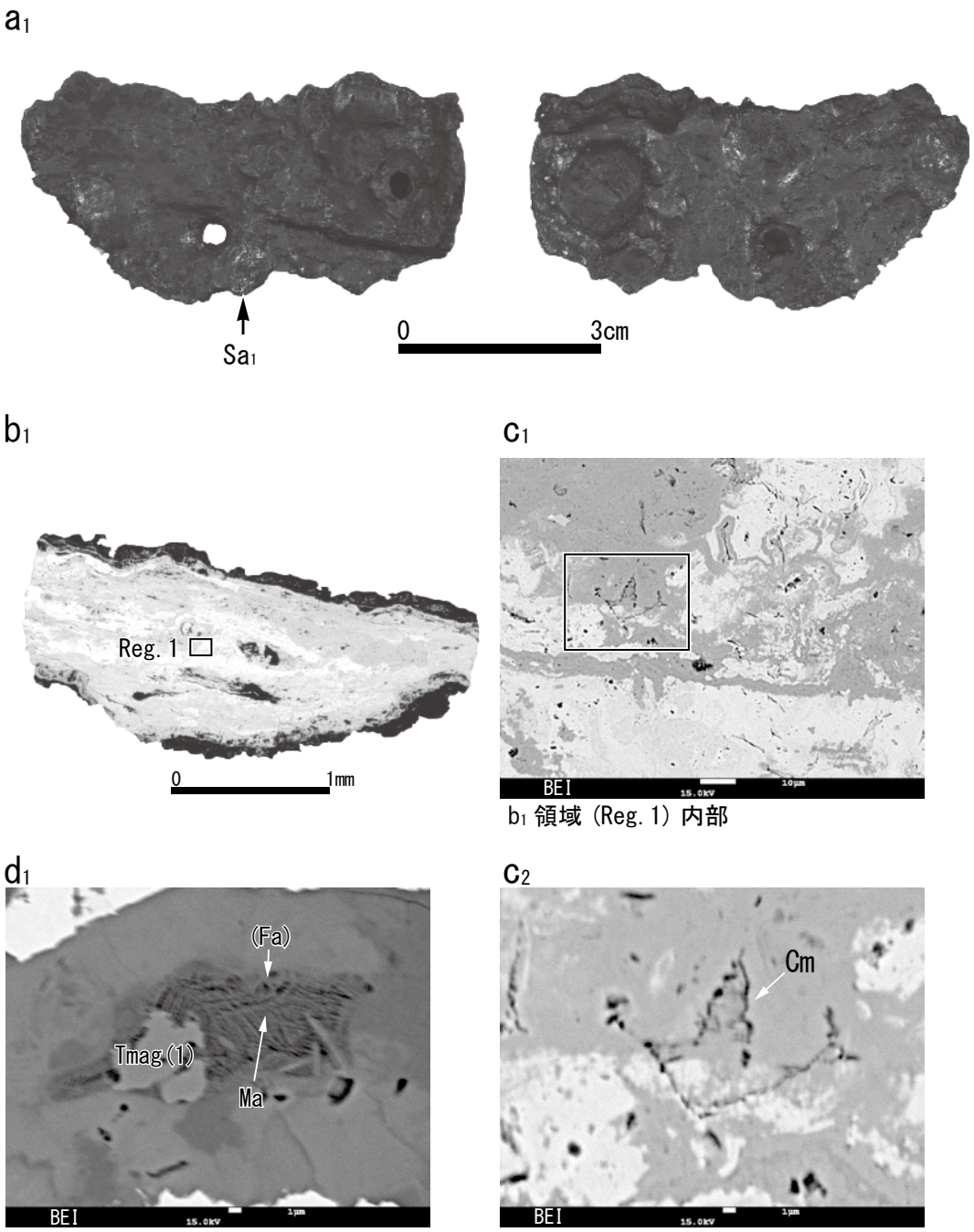



図 1　No.1 の組織観察結果

$a_1$: 外観。 矢印は試料摘出位置。 $b_1$: 摘出した試料のマクロ組織。 $c_{1\cdot 2}$:$b_1$ 領域 (Reg.1) 内部の EPMA 反射電子組成像 (BEI)。 Cm= セメンタイトの欠落孔。 $d_1$=$b_1$ に見出された非金属介在物の EPMA 反射電子組成像。 Tmag= チタノマグネタイト、 Ma= 微細粒子が混在するガラス化した領域。 (Fa)= 鉄かんらん石と思われる鉱物相。

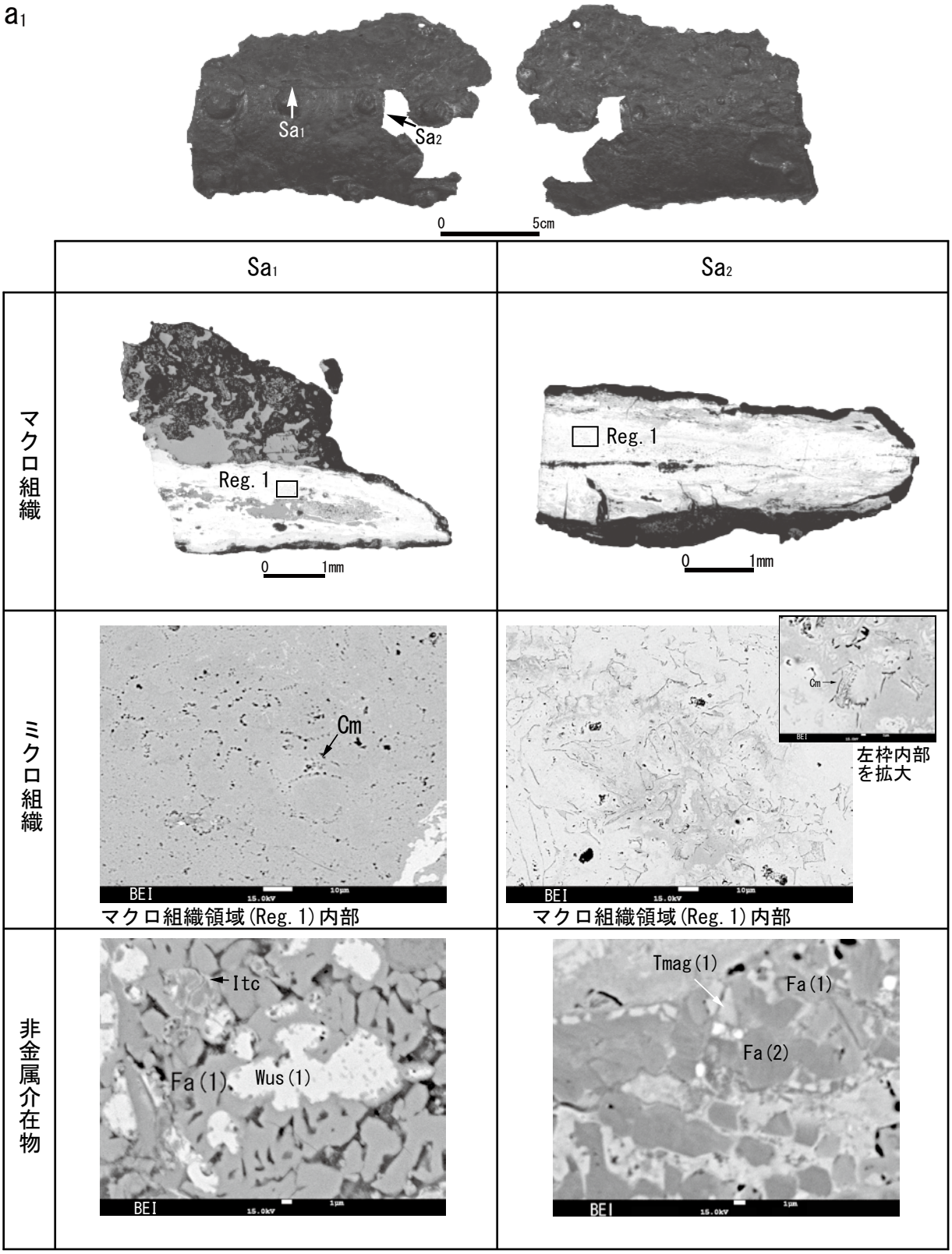



図2　No.2 の織観察結果

外観の印は試料摘出位置。 摘出した試料のマクロ組織。 ミクロ組織は EPMA 反射電子組成像(BEI)。 Cm= セメンタイトの欠落孔。 Tmag= チタノマグネタイト、 Itc= 鉄チタン酸化物、 Fa= 鉄かんらん石。

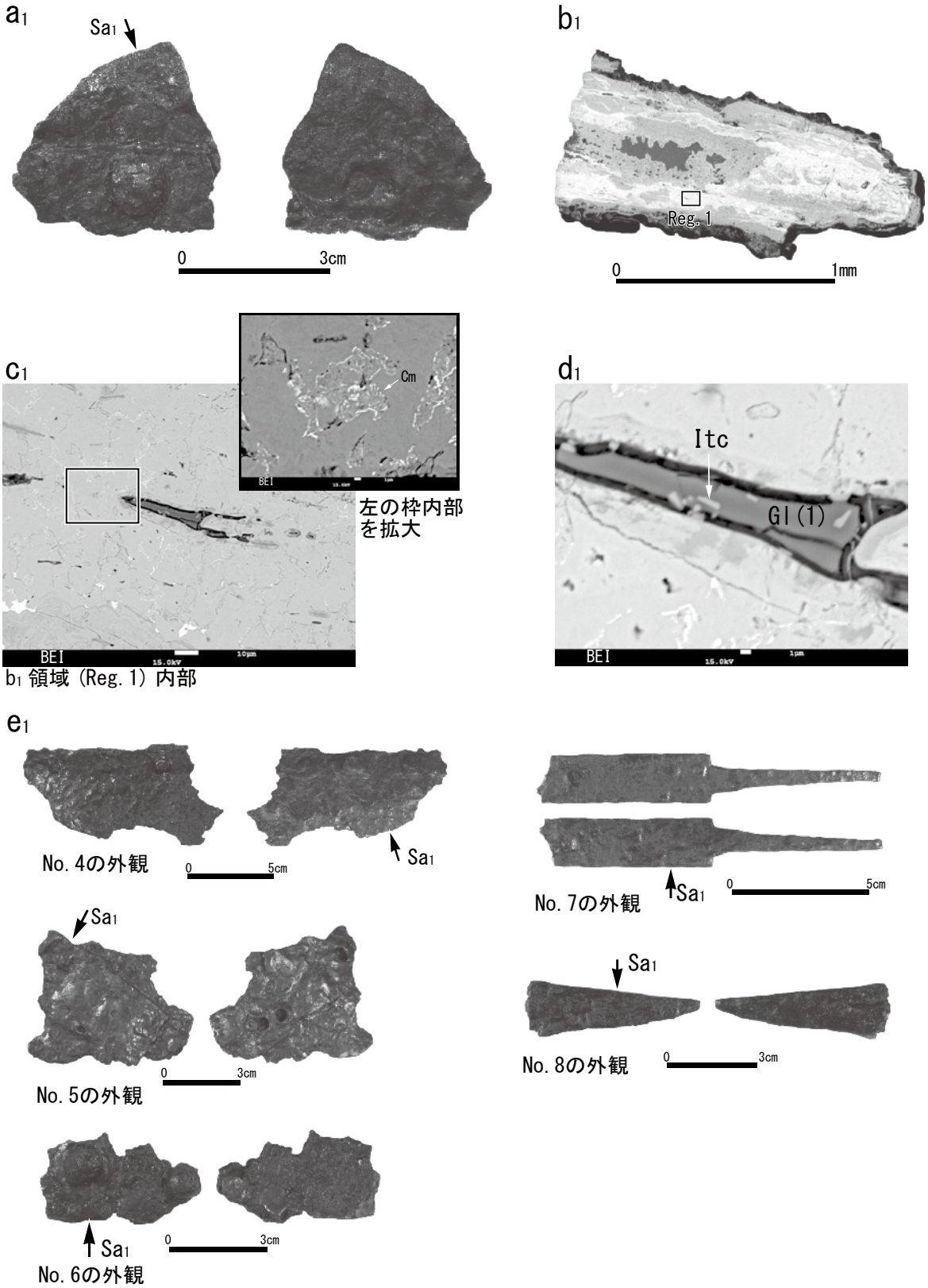



図３　No.3の組織観察結果

$a_1$:外観。矢印は試料摘出位置。$b_1$:摘出した試料のマクロ組織。$c_1$:$b_1$領域(Reg.1)内部のEPMA反射電子組成像(BEI)。Cm=セメンタイトまたはその欠落孔。$d_1$=$b_1$に見出された非金属介在物のEPMA反射電子組成像。Itc=Fe-Ti-Al-Mg-V-O系化合物、Gl=ガラス化した領域。$e_e$1:No.4～No.8の外観。矢印は試料摘出位置

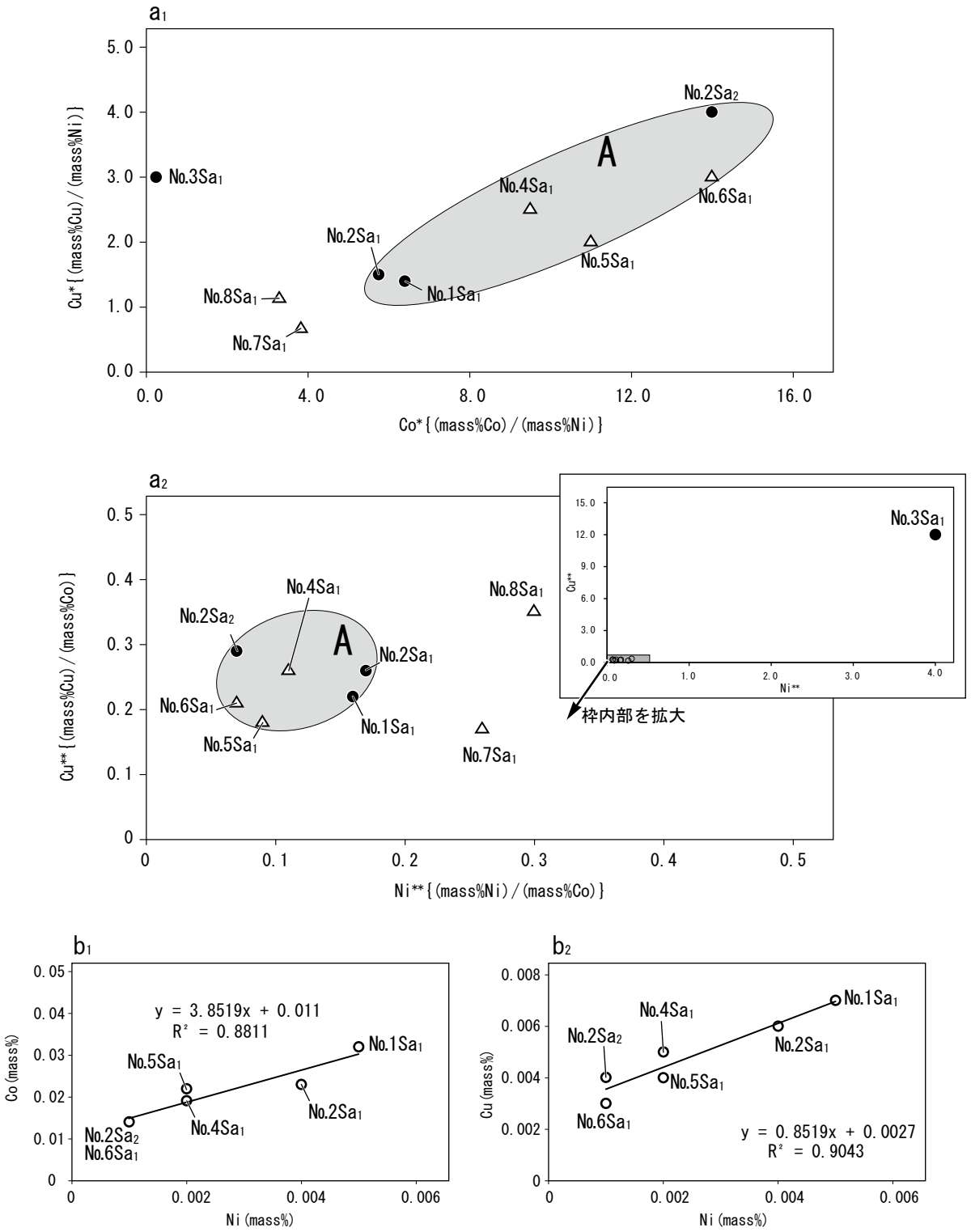



図4　摘出した試料に含有される Cu・Ni・Co 三成分比

$a_{1\cdot2}$:No. は表 1 に対応。 $b_{1\cdot2}$: 8 領域 A ～ E に分布する試料に含有される Cu・Ni・Co の相関。 黒丸（●）は非金属介在物中に鉄チタン酸化物が見出された試料、 白三角（△）は組織非金属介在物組成が不明な試料。

# 第Ⅴ章　まとめ

本遺跡は、ショロマ川と厚真川との合流点から約 420m遡ったショロマ川下流域右岸に形成された標高 80m前後の河岸段丘上に立地する。

発掘調査の結果、遺構・遺物を包含するⅢ層及びⅤ層の 2 枚の文化層を確認した。以下主なものについて述べることにする。

上層の文化層は 1667 年降下の樽前ｂテフラ下のⅢ層黒色腐植土で、擦文文化期後期と思われる焼土・土器集中・礫集中からなる集中区 1 や時期的には同期と推定される鉄器集中を倒木痕の窪地に検出した。

鉄器集中は分析・調査の結果から古墳時代 5 世紀以降～奈良時代の短甲または挂甲であり、矧板の湾曲や厚さからは鋲留板物甲であること、竪矧の短甲は珍しいことからも籠手または脛当の可能性もある。道内の類例は千歳市祝梅川上田遺跡（道埋文センター 2013）のほか、平取町ポロモイチャシ跡（道埋文センター 1986）の 2 カ所である。鋲留短甲またはそれに付随する籠手、脛当は古墳時代以降の所産であり、出土層位・周囲出土土器等の確認からは伝世したものと思われる。祝梅川上田遺跡やポロモイチャシ跡のものは伝世品であり、本遺跡出土品もその可能性が高い。年代については周囲の土器から擦文文化期後期、12 世紀代と思われる。

続縄文文化期においては後北Ａないし Ｂ式期と推定される仰臥屈葬の 3 体合葬の土坑墓 1 基を検出した。土坑墓は平面プラン円形、断面ビーカー状となり、坑底にはほぼ方形に配置した径 10cm に満たない打ち込み式の柱穴 4 穴を確認している。副葬品は片岩製粗製石鏃 71 点、黒曜石製石鏃等 37 点、ナイフ 4 点、石斧 1 点で、遺体層レベルから出土している。本遺跡の如く、坑底 4 隅に柱穴をもつ土坑墓が検出されている遺跡は、古くは江別市町村農場遺跡（後藤 1935）が知られ、時期的に近い遺跡としては江別市元江別１遺跡（江別市教委 1981）、苫小牧市タプコプ遺跡（苫小牧市教委 1984）、北見市常呂川河口遺跡（常呂町教委 2002）がある。時期的に古い遺跡としては縄文時代晩期末（幣舞式期）の土坑墓群が検出された釧路市幣舞遺跡（釧路市埋文センター 1999）がある。他方、時期的に新しい遺跡としては擦文文化期初頭（北大Ⅲ式）の千歳市烏柵舞遺跡Ａ地点（ウサクマイ遺跡研究会 1975）や恵庭市上島松遺跡（恵庭市教委 1974）が知られている。

下層の文化層は縄文時代晩期後葉降下の樽前ｃテフラ下のⅤ層黒色腐植土で、縄文時代早期末葉の東釧路Ⅳ式期から後期中葉の手稲式期の遺物、遺構が検出されている。主な遺構では住居跡 1 軒、Ｔピット 8 基、土器集中 14 ヵ所などがある。

住居跡は調査区中央の緩斜面で検出され、ほぼ中央に石組炉を配している。炉に伴い後期前葉のタプコプ式（新段階）の土器が一括出土している。Ｔピットは調査区の北東から南東の斜面にかけて検出されている。8 基のうち、1 基は溝状で杭穴がない A1 タイプに属し、ほかは平面プランが楕円形から円形に近く、坑底に杭穴を持つ C2 タイプである。検出したＴピットからは等高線に並行、直交に配列する可能性が考えられるものがある。タイプ別の時

間差は確認することができなかった。構築時期については、当地方の調査例から判断し、中期後葉から後期前葉と推定される。

包含層出土土器及び土器集中は住居跡の南東から南側の斜面に多く分布している。復元作業により 24 個体ほどが確認され、注目されることは後期前葉のタプコプ式（新段階）の土器群を主体とする遺跡であり、ほかには中期後葉の柏木川式や末葉の北筒式（トコロ 6 類）土器等がある。焼成粘土塊が 2 点出土している。所産時期としては縄文時代前期後葉の植苗式土器群あるいは並行する土器群に伴うもので、最近においては石狩低地帯における時期的に近い遺跡での報告例が増加している。（長谷川・工藤）

## 引用･参考文献


厚真町　1986　『厚真町史』

厚真町　1998　『増補　厚真町史』

厚真町教育委員会　2004　『厚幌1遺跡』

厚真町教育委員会　2006　『上幌内モイ遺跡(1)』

厚真町教育委員会　2007　『上幌内モイ遺跡(2)』

厚真町教育委員会　2009　『上幌内モイ遺跡(3)』

厚真町教育委員会　2011　『オニキシベ2遺跡』

厚真町教育委員会　2013　『オニキシベ5遺跡』

厚真町教育委員会　2013　『ヲチャラセナイチャシ跡･ヲチャラセナイ遺跡』

厚真村　1956　『厚真村史』

厚真村郷土研究会　1956　『厚真村古代史』

赤石慎三　2004　「苫小牧地方における縄文時代中期後半の土器について」『館報』第 3 号　苫小牧市博物館

出穂雅美　2006　「第Ⅲ章第 2 節　ジオアーケオロジー」『上幌内モイ遺跡(1)』厚真町教育委員会

ウサクマイ遺跡研究会　1975　『烏柵舞』

江別市教育委員会　1979　『江別太遺跡』

江別市教育委員会　1981　『元江別遺跡群』

江別市教育委員会　1982　『萩ヶ岡遺跡』

恵庭市教育委員会　1974　『上島松遺跡』

大沼忠春　1989　「北筒式土器様式」『縄文土器大観 1』小学館

大沼忠春　1989　「続縄文式土器様式」『縄文土器大観 4』小学館

釧路市埋蔵文化財センター　1999　『釧路市幣舞遺跡調査報告書Ⅵ』

工藤研治　2008　「北筒式土器」『総覧　縄文土器』同刊行委員会

工藤　肇　2004　「道内遺跡出土の焼成粘土類について」『館報』第３号　苫小牧市博物館

後藤寿一　1935　「石狩国江別町に於ける竪穴様墳墓について」『考古学雑誌』25-5

高倉新一郎　1973　『アイヌ絵集成』番町書房

千代　肇　1984　『続縄文文化』ニュー・サイエンス社

千代　肇　1984　『続縄文時代の生活様式』ニュー・サイエンス社

常呂町教育委員会 2002　『常呂川河口遺跡(3)』

日本考古学協会 1999 年度釧路大会実行委員会　1999　『シンポジウム　海峡と北の考古学』

野澤謙庵　1692　「蝦夷記」『續々群書類從』第九　國書図書刊行会

松浦武四郎(高倉新一郎校訂)　1985　『戊午東西蝦夷山川地理取調日誌』中　北海道出版企画センター

松田浩介　2007　「粗製石鏃小考-続縄文期における石器の仮器化-」『北海道考古学』43　北海道考古学会

蓑島栄紀　2005　「松浦武四郎の旅程からみた胆振東部・日高西部の古交通路」『前近代アイヌ民族における交通路の研究(胆振・日高Ⅰ)』
苫小牧駒澤大学環太平洋・アイヌ文化研究所

苫小牧市教育委員会　1984　『タプコプ』

苫小牧市教育委員会　1986　『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅰ』

苫小牧市教育委員会　1987　『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅱ』

苫小牧市教育委員会　1990　『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅲ』

苫小牧市教育委員会　1992　『静川 37 遺跡』

苫小牧市教育委員会　1998　『美沢東遺跡群』

苫小牧市教育委員会　2002　『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅶ』

北海道教育委員会　1979　『有珠川 2・植苗 3 遺跡』

(財)北海道埋蔵文化財センター　1986　『ユオイチャシ跡・ポロモイチャシ跡・二風谷遺跡』北埋調報 26

(財)北海道埋蔵文化財センター　1995　『千歳市オサツ 2 遺跡(1)・オサツ 14 遺跡』北埋調報 96

(財)北海道埋蔵文化財センター　2003　『厚真町浜厚真 3 遺跡』北埋調報 186

(公財)北海道埋蔵文化財センター　2013　『千歳市祝梅川上田遺跡(2)』北埋調報 300

(宗)元興寺　・　(財)元興寺文化財研究所　2009　『もの・ワザ・情報-古の匠に挑む-』

# ショロマ3遺跡

## 写真図版

図版１

1．Ⅲ層木根・火山灰除去　N→

2．Ⅲ層上面検出　NW→

3．拡張区Ⅲ層上面　SW→

4．Ⅴ層上面調査前　SW→

5．Ⅴ層完掘　SW→

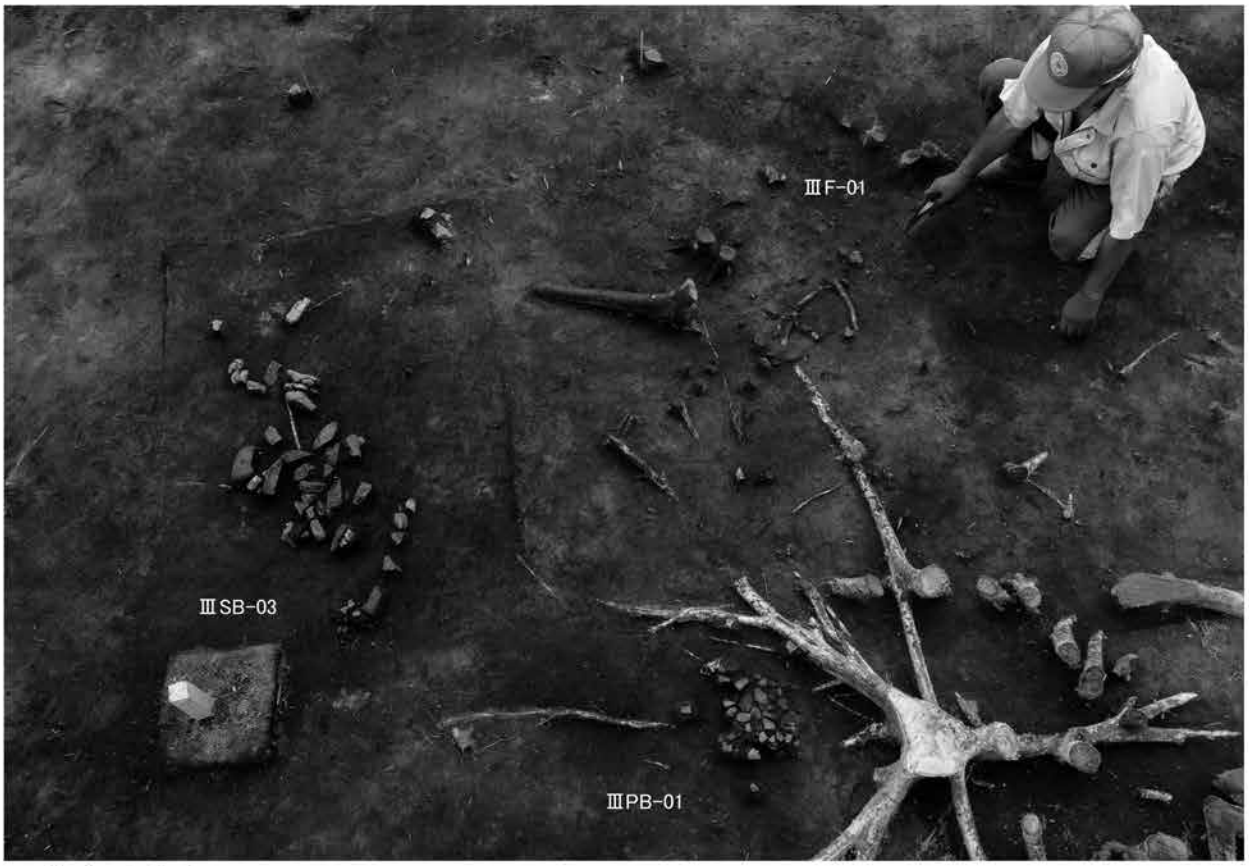
## 図版2

1. 基本土層　S→

2. ⅢF-01検出　NE→

3. ⅢPB-01検出　W→

4. ⅢSB-03検出　SE→




5. 集中区1検出　N→

図版3

1. ⅢF-02検出 SW→

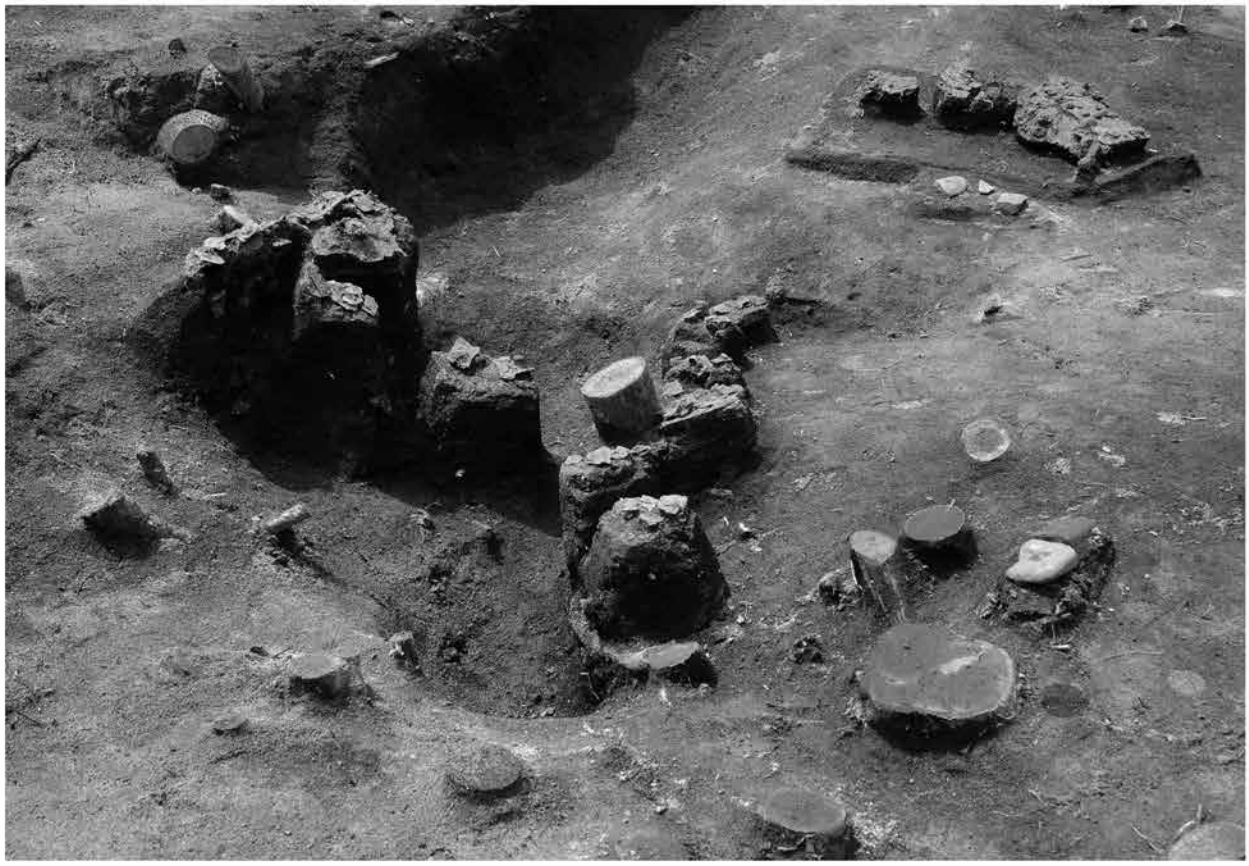
2. ⅢSB-01調査 S→

3. ⅢSB-01検出 S→

4. ⅢSB-02検出 E→

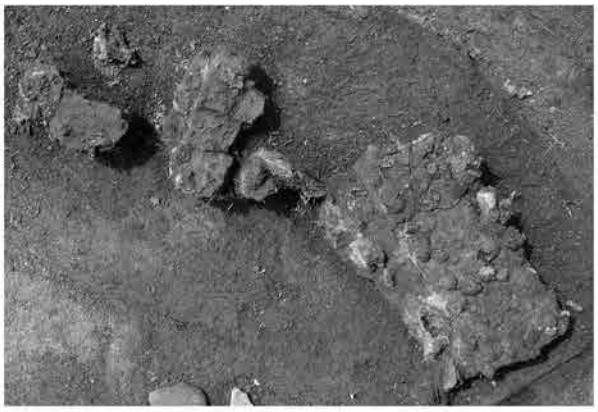
5. ⅢSB-02刀子出土 W→

# 図版4



1. IPB-01検出　E→

2. IPB-01検出(拡大)　NE→



3. IPB-01検出(ブロック1)　NE→

4. IPB-01検出(ブロック2)　NE→

5. IPB-01検出(ブロック3)　N→

図版５

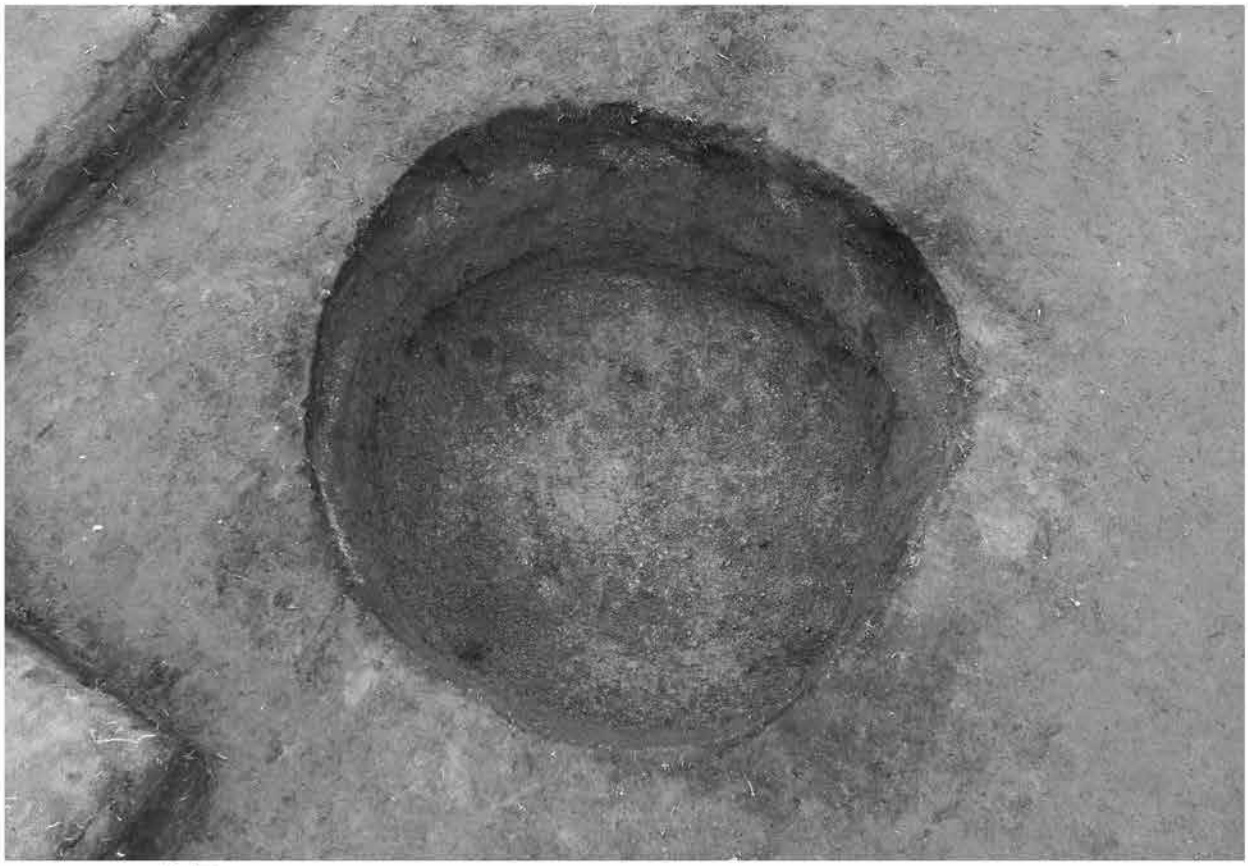
1．ⅢGP-01検出　S→

2．ⅢGP-01断面　S→

3．ⅢGP-01人骨検出　W→

## 図版6

1．ⅢGP-01副葬品検出　S→



2．ⅢGP-01完掘(1)　SW→

図版7

1．ⅢGP-01完掘(2)　SW→

2．ⅢGP-01.KP03断面　SE→

3．ⅢGP-01.KP03完掘　SE→

4．ⅢR-01東断面　SE→

5．ⅢR-01検出　SW→

## 図版8

1．VH-01完掘　E→

2．VH-01断面　E→

3．VH-01.HF01検出　NE→

4．VH-01調査　S→

図版９

1. TP-01完掘　W→

2. TP-01掘り上げ土断面　W→

3. TP-01断面　W→

4. TP-02完掘　NE→

5. TP-02掘り上げ土断面　NE→

6. TP-02断面　NE→

7. TP-02.KP01断面　W→

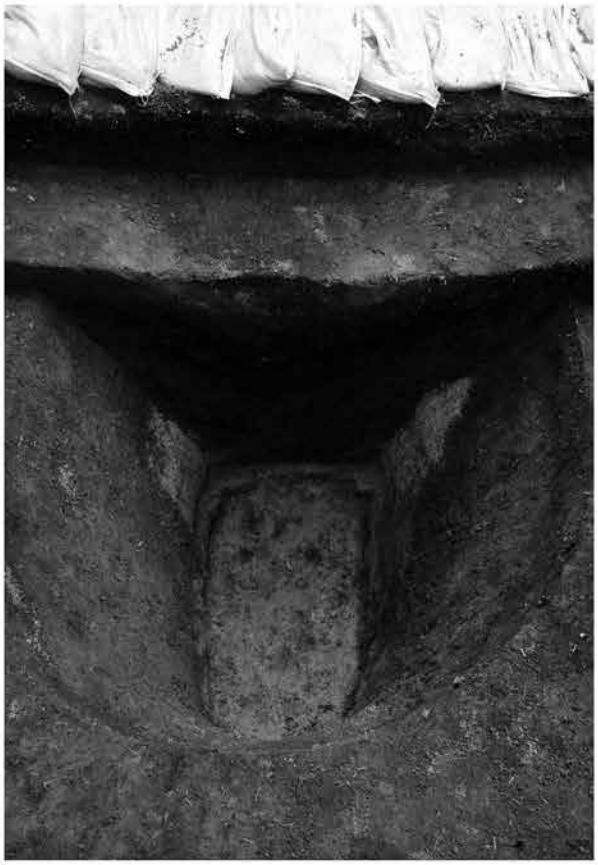
## 図版10

1. TP-03完掘　SE→

2. TP-03掘り上げ土断面　SE→

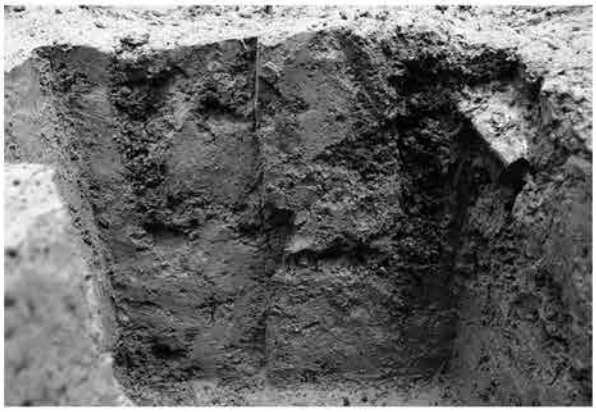
3. TP-03断面　SE→

4. TP-03.KP01断面　E→



5. TP-04完掘　NW→

6. TP-04断面 NW→



7. TP-04.KP02・03断面　NW→

図版11

1．TP-05完掘　N→

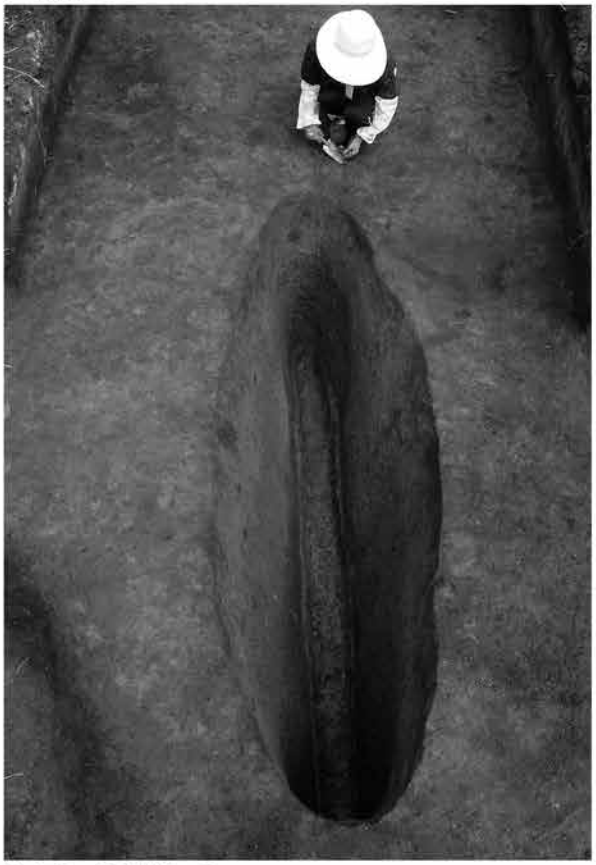
3．TP-06完掘　NE→

2．TP-05断面　N→

4．TP-06断面　NE→

5．TP-06掘り上げ土断面　NE→

## 図版12



1. TP-07完掘　S→

2. TP-07断面　S→

3. TP-08完掘　N→

4. TP-08断面　N→

5. TP-08.KP02･03断面　W→

図版13

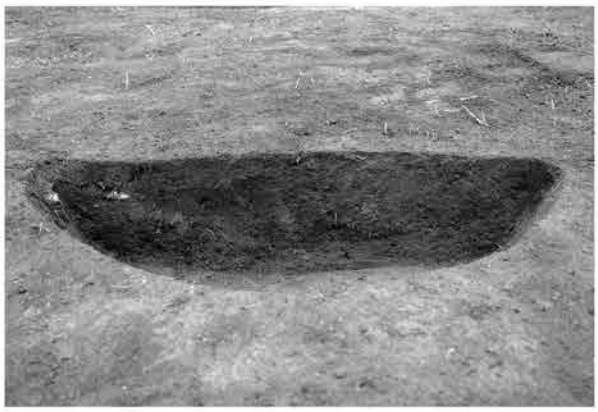
1．VP-01完掘　E→

2．VP-01断面　E→

3．VP-02完掘　E→

4．VP-02断面　E→

5．VP-03完掘　S→



6．VP-03断面　S→

7．VF-01検出　W→

8．VF-01断面　W→

## 図版14

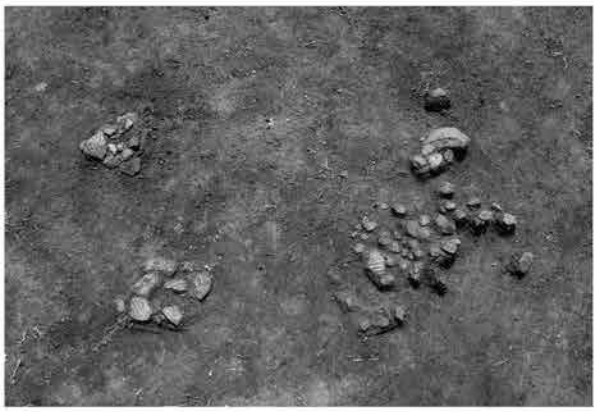
1．ⅤF-02検出　NW→

2．ⅤF-02断面　SE→

3．ⅤPB-01検出　NW→

4．ⅤPB-02検出　NW→

5．ⅤPB-03検出　NW→



6．ⅤPB-04検出　N→

7．ⅤPB-05検出　W→

8．ⅤPB-06検出　S→

図版15

1．ⅤPB-07検出　W→

2．ⅤPB-08検出　W→

3．ⅤPB-09検出　E→

4．ⅤPB-10検出　S→

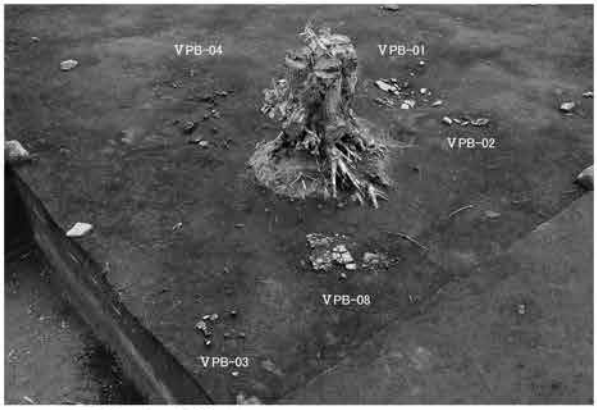
5．ⅤPB-11検出　S→

## 図版16

1．ⅤPB-12検出　S→

2．ⅤPB-13検出　E→

3．ⅤPB-14検出　NW→




4．土器集中群検出　NW→

5．ⅤSB-01検出　N→

図版17

1．旧石器調査地層断面(TR-NO.2)　W→

2．旧石器調査地層断面(TR-NO.3)　N→

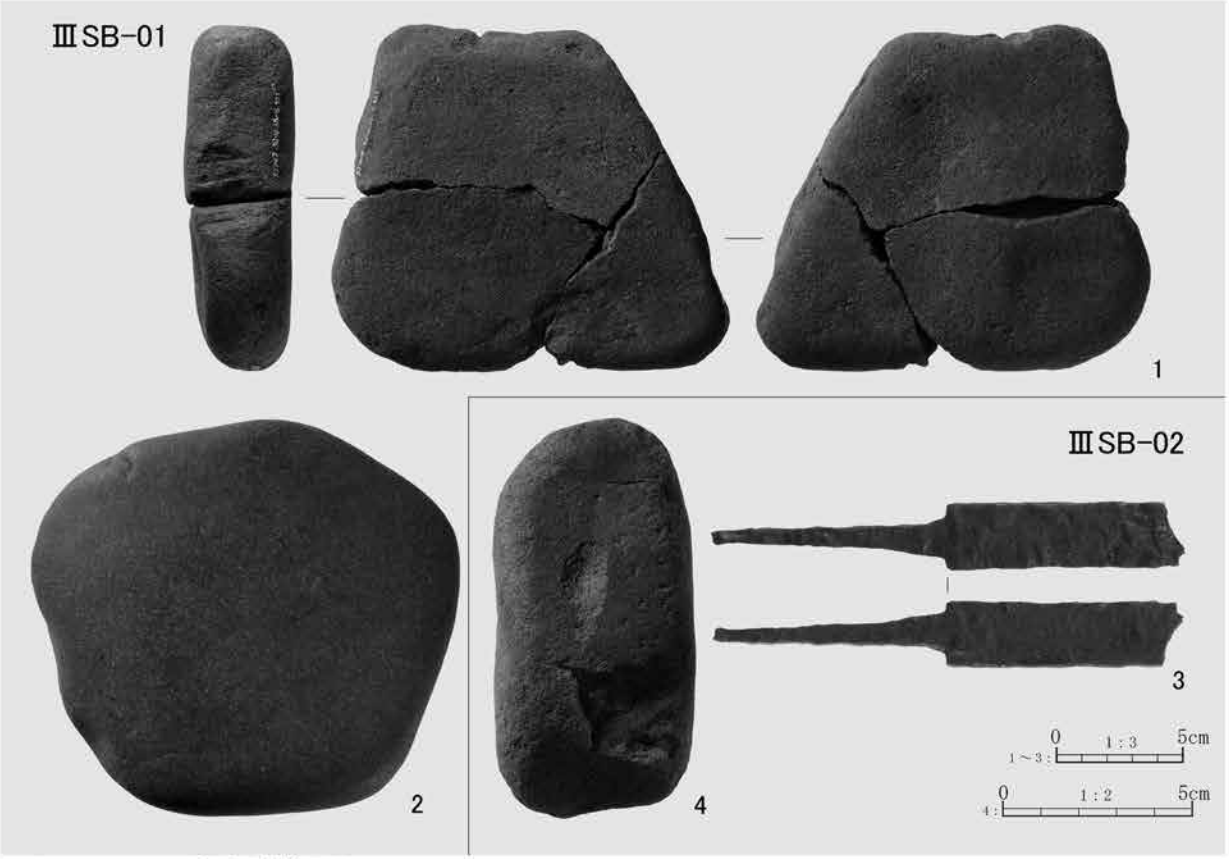
3．旧石器調査トレンチ完掘(TR-NO.1)　S→

4．旧石器調査トレンチ完掘(TR-NO.2)　S→

5．旧石器トレンチ掘開状況(TR-NO.2)　N→

## 図版18

1．集中区出土遺物




2．ⅢSB-01・02出土遺物(1)

図版19

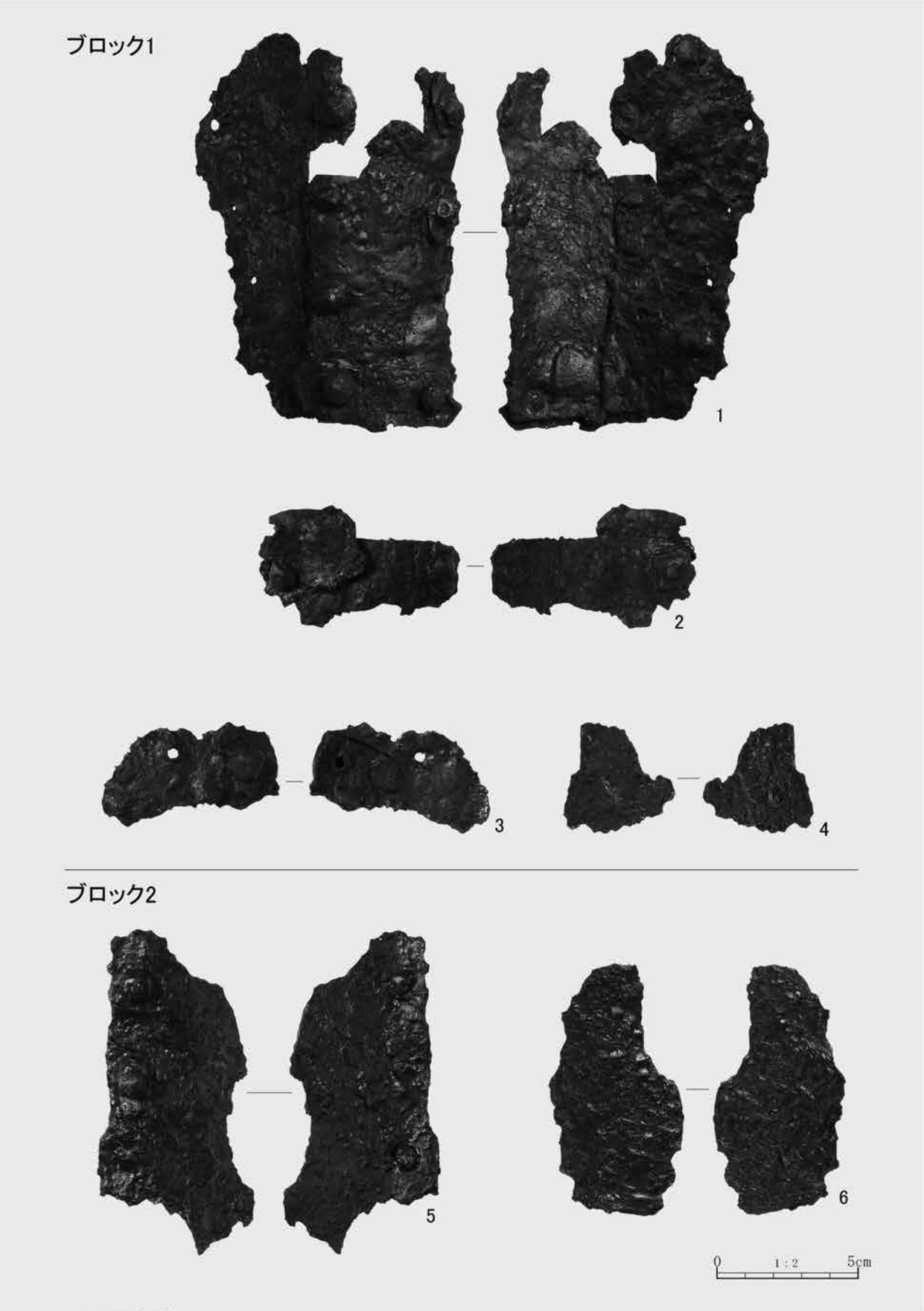
ⅢSB-01・02出土遺物(2)

## 図版20

1. IPB-01出土甲冑製品(1)

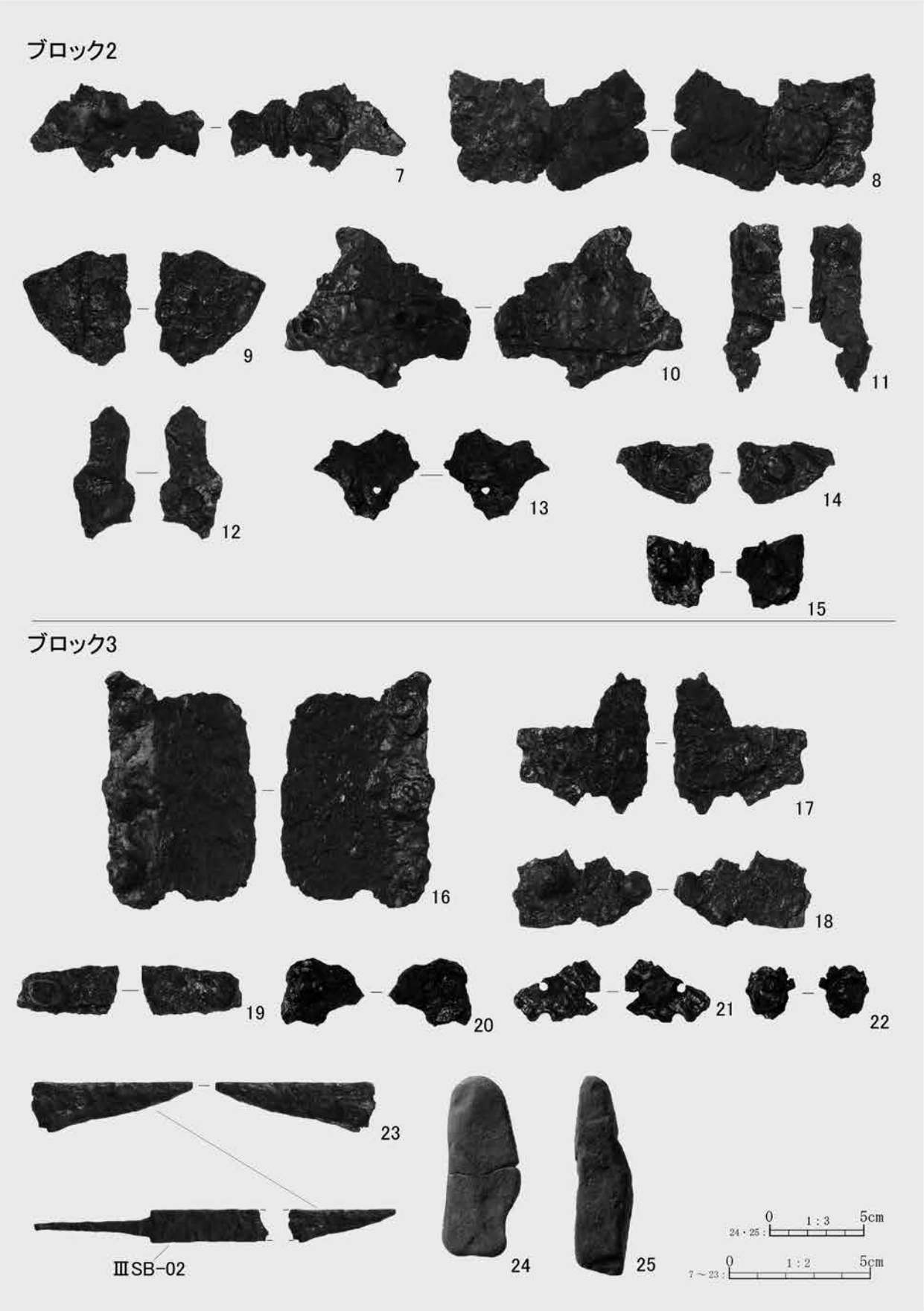
2. IPB-01出土甲冑製品(2)

図版21



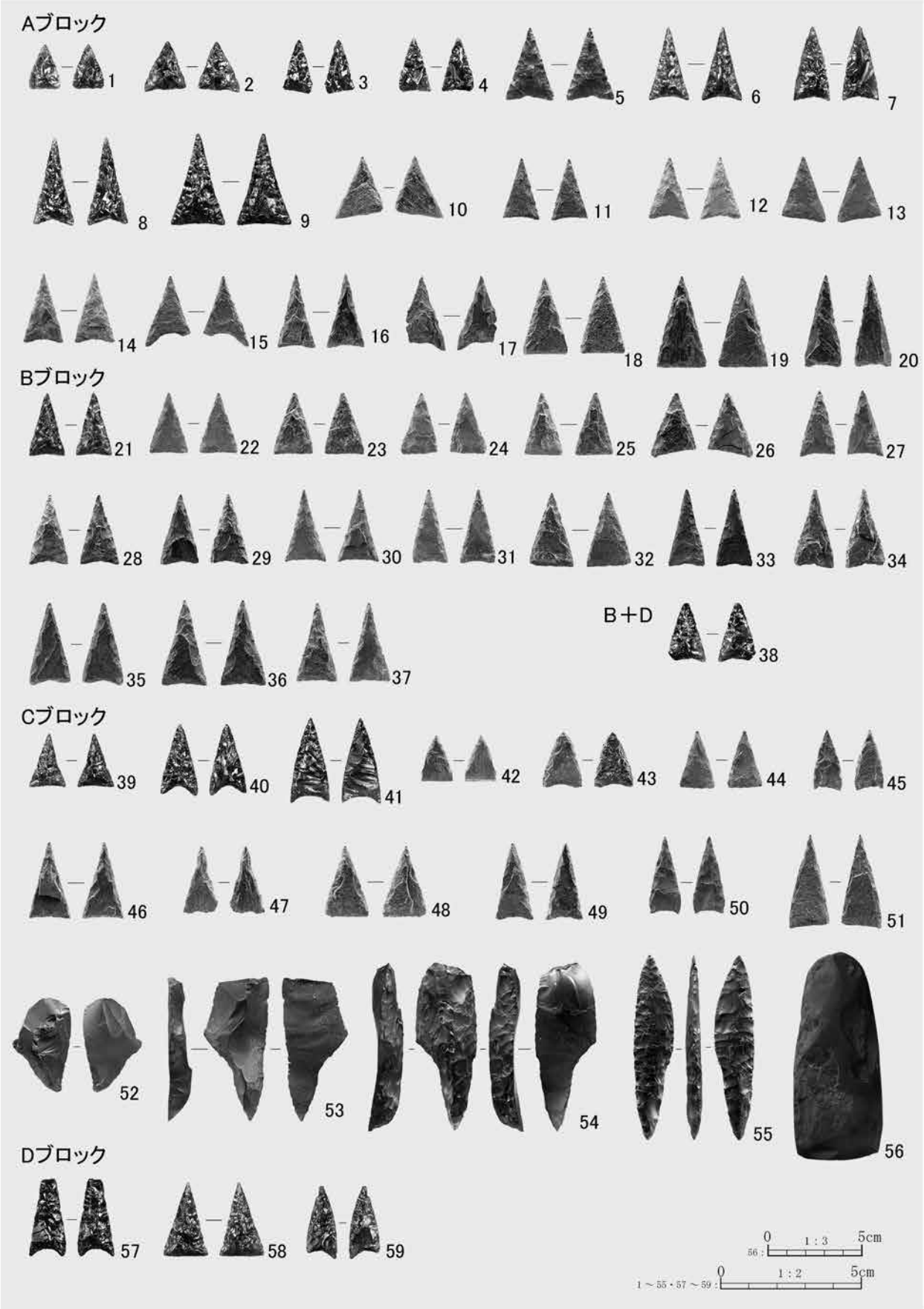

IPB-01出土甲冑製品(3)

## 図版22



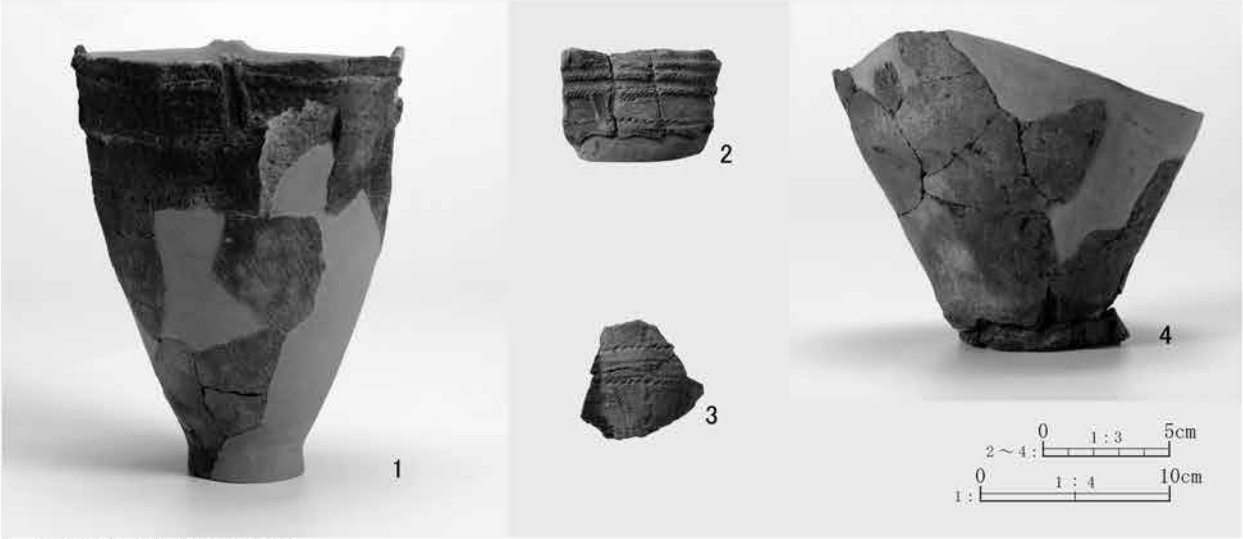

IPB-01出土甲冑製品(4)他

図版23

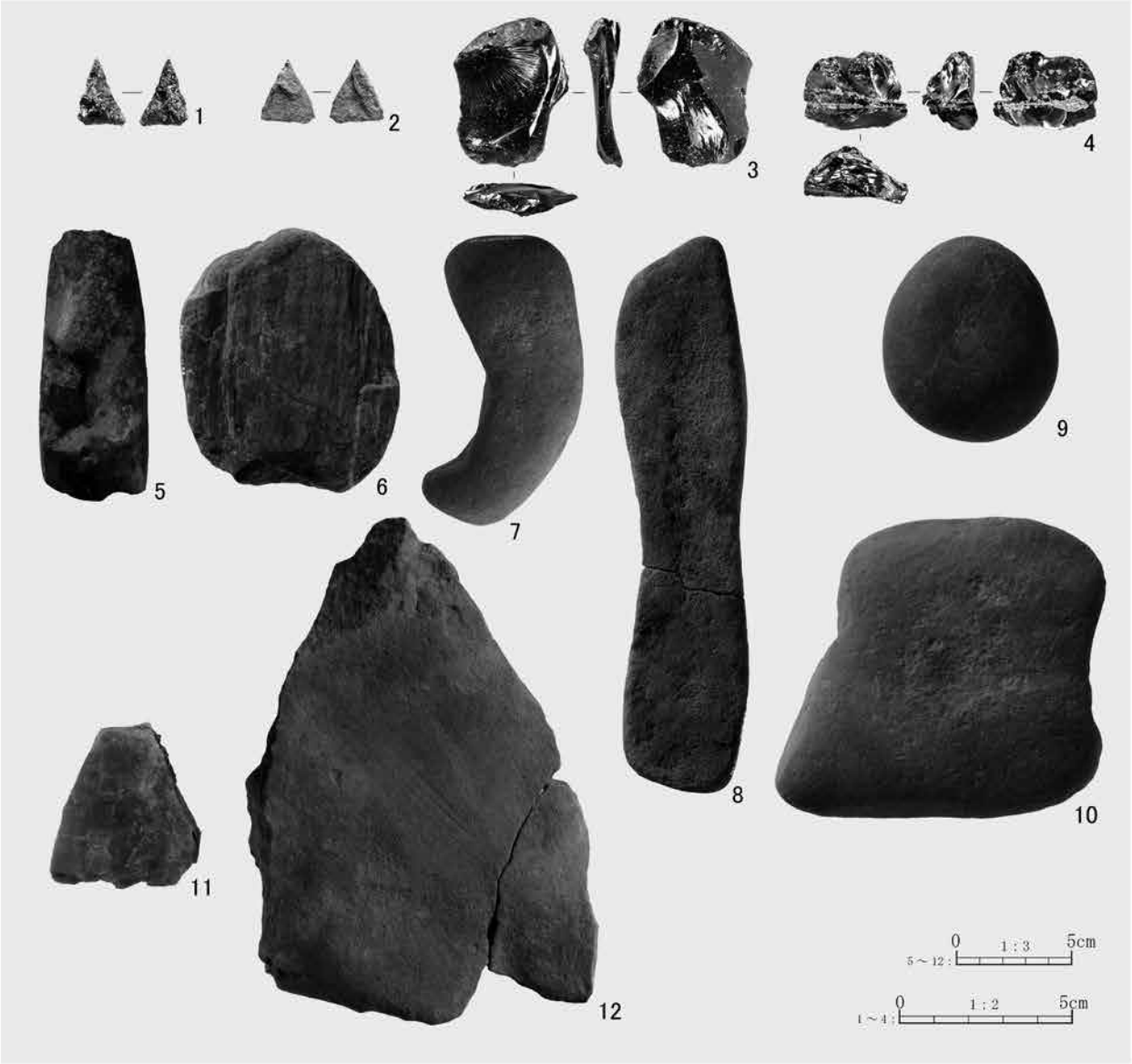



ⅢGP-01出土副葬品

## 図版24

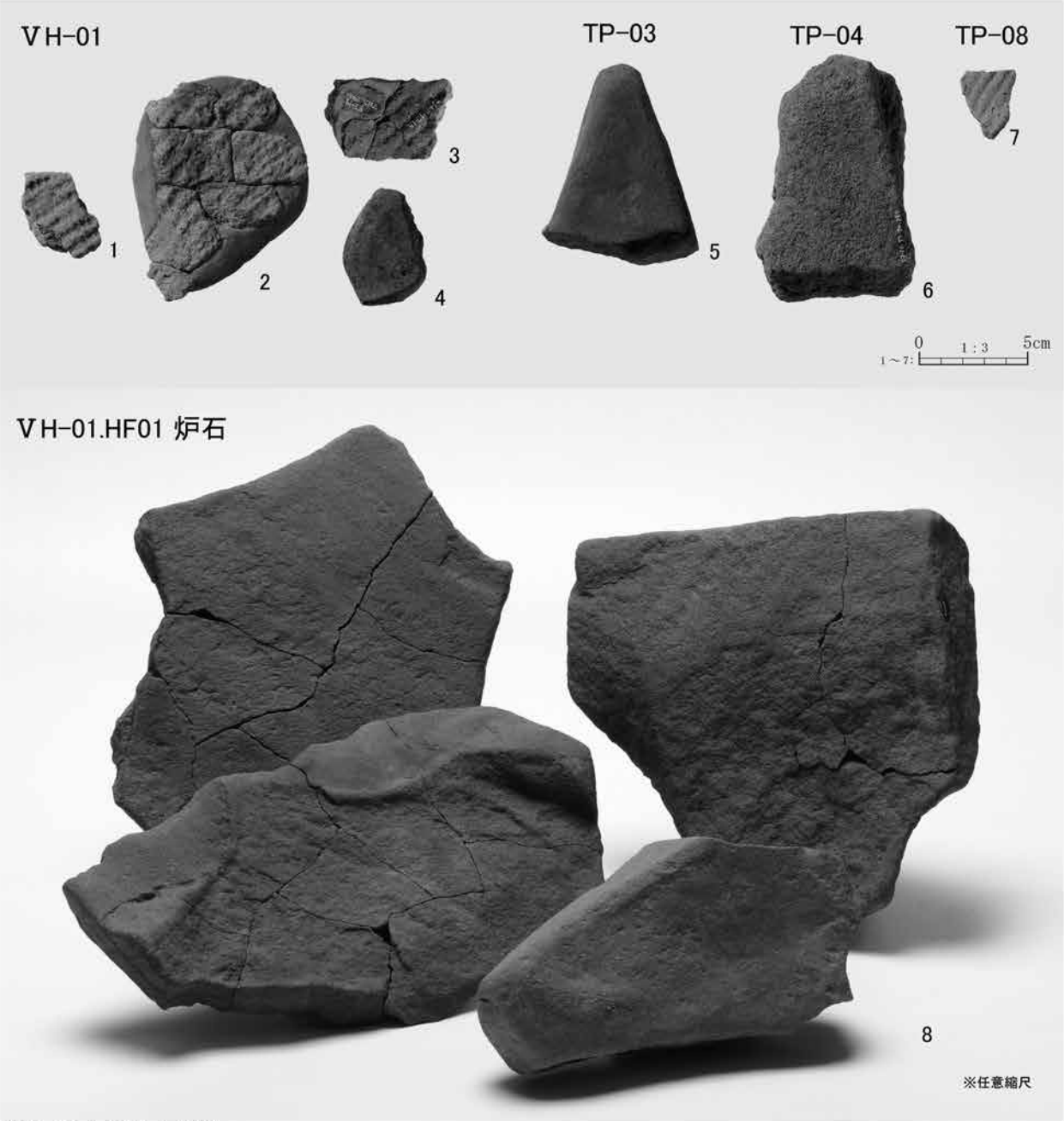



1. Ⅲ層包含層出土土器




2. Ⅲ層包含層出土石器

図版25

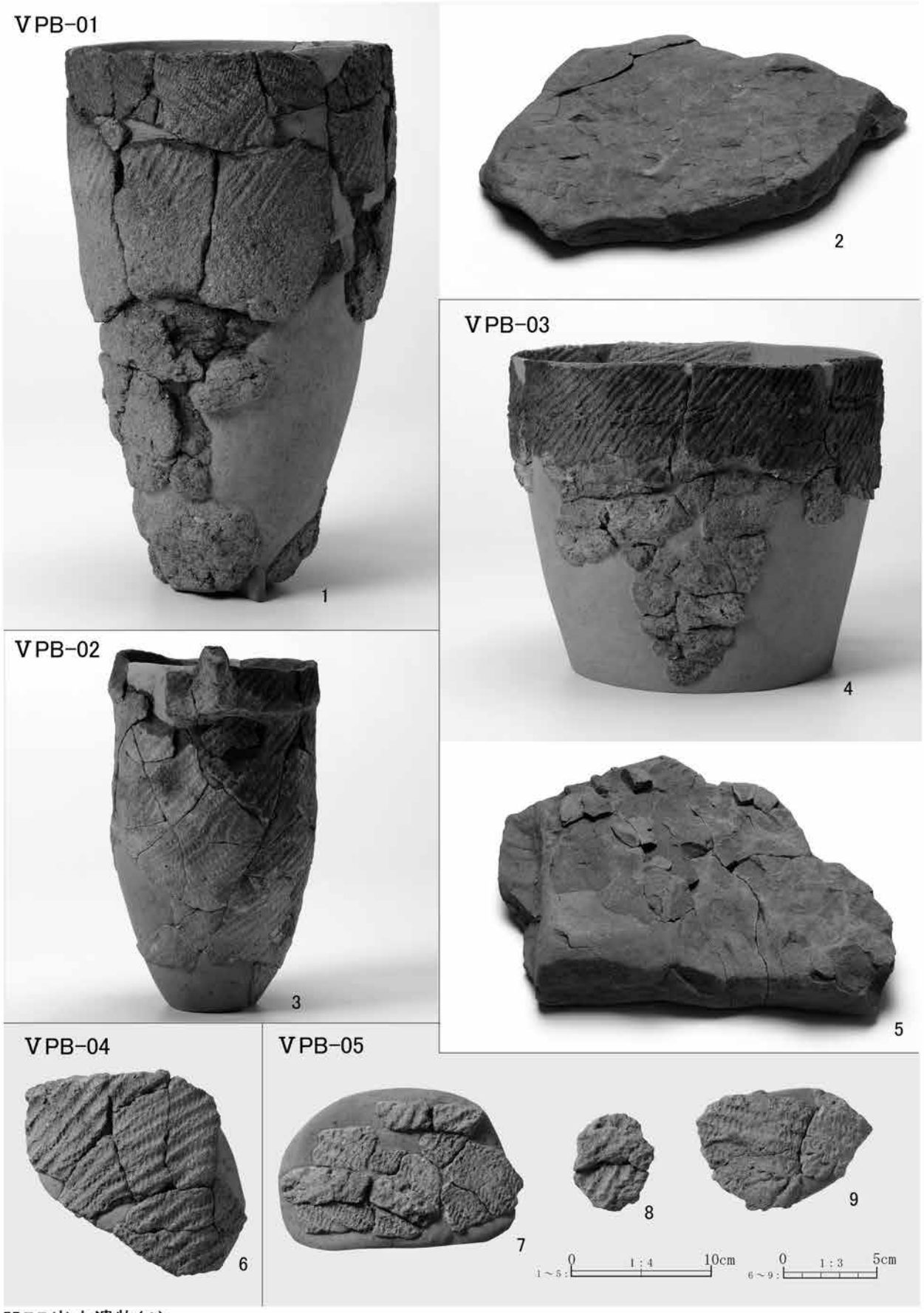



VH-01・TP出土遺物

## 図版26

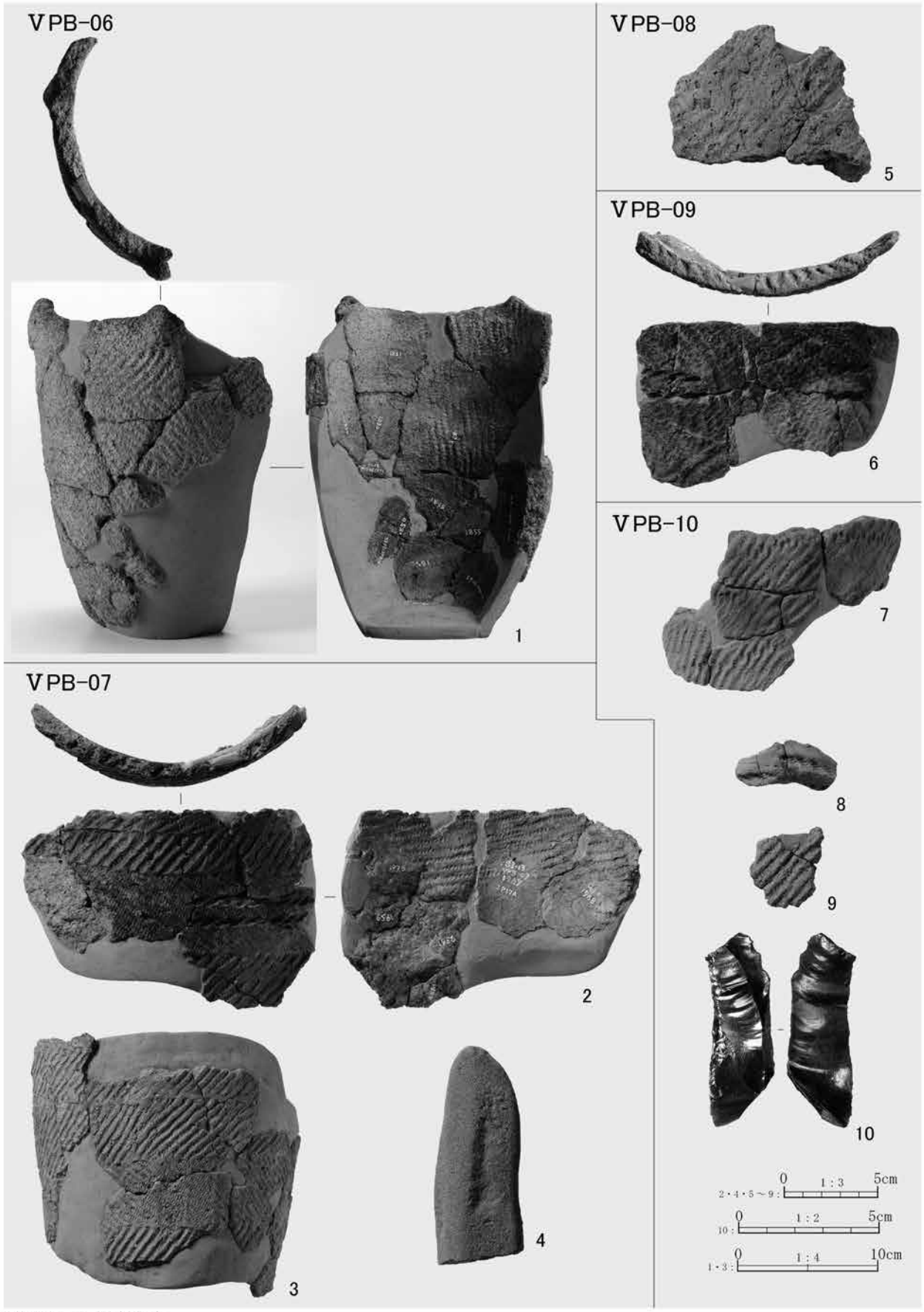
ＶF-01・02 石組炉 炉石

図版27




ⅤPB出土遺物(1)

## 図版28

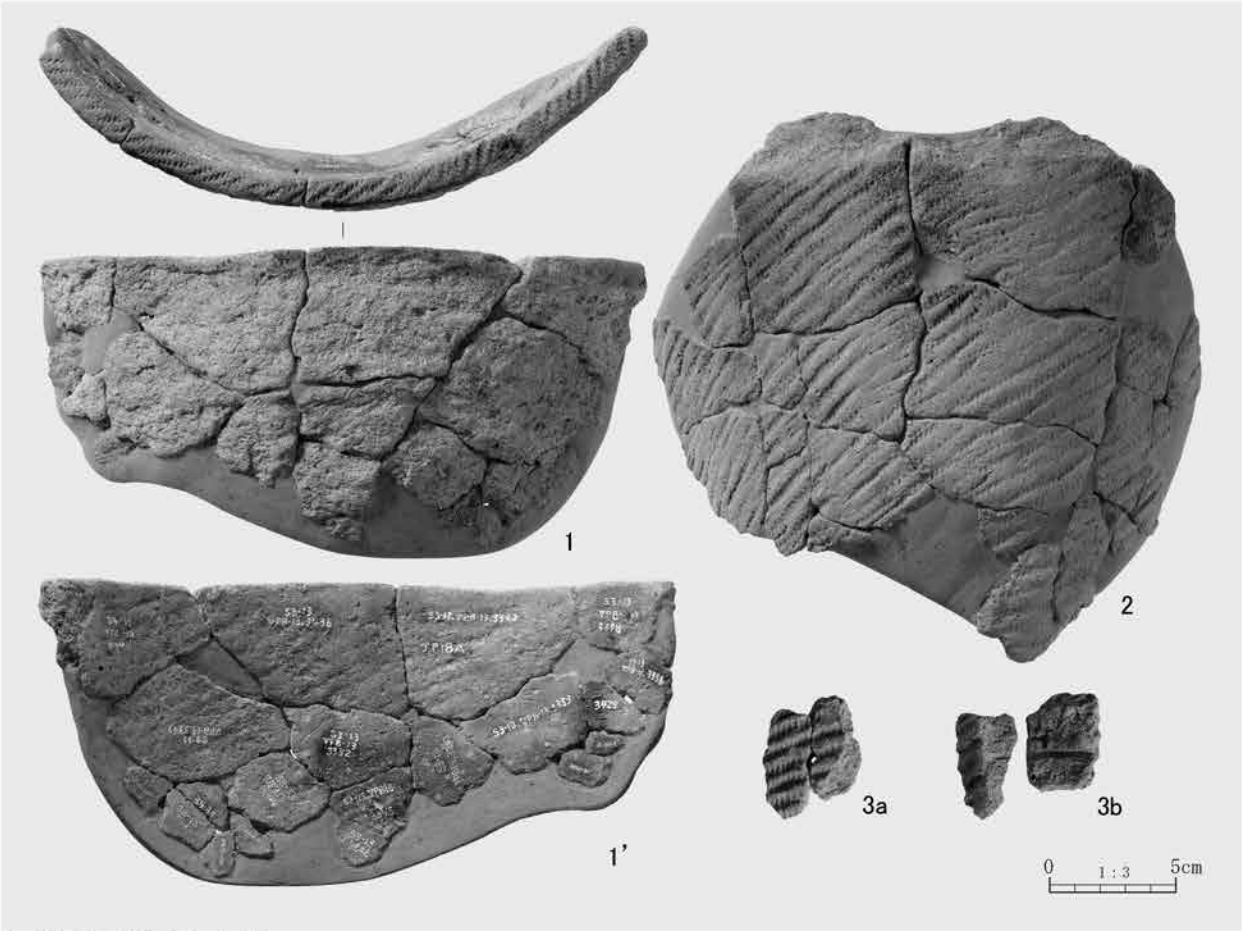



ⅤPB出土遺物(2)

# 図版29

ⅤPB-11出土土器

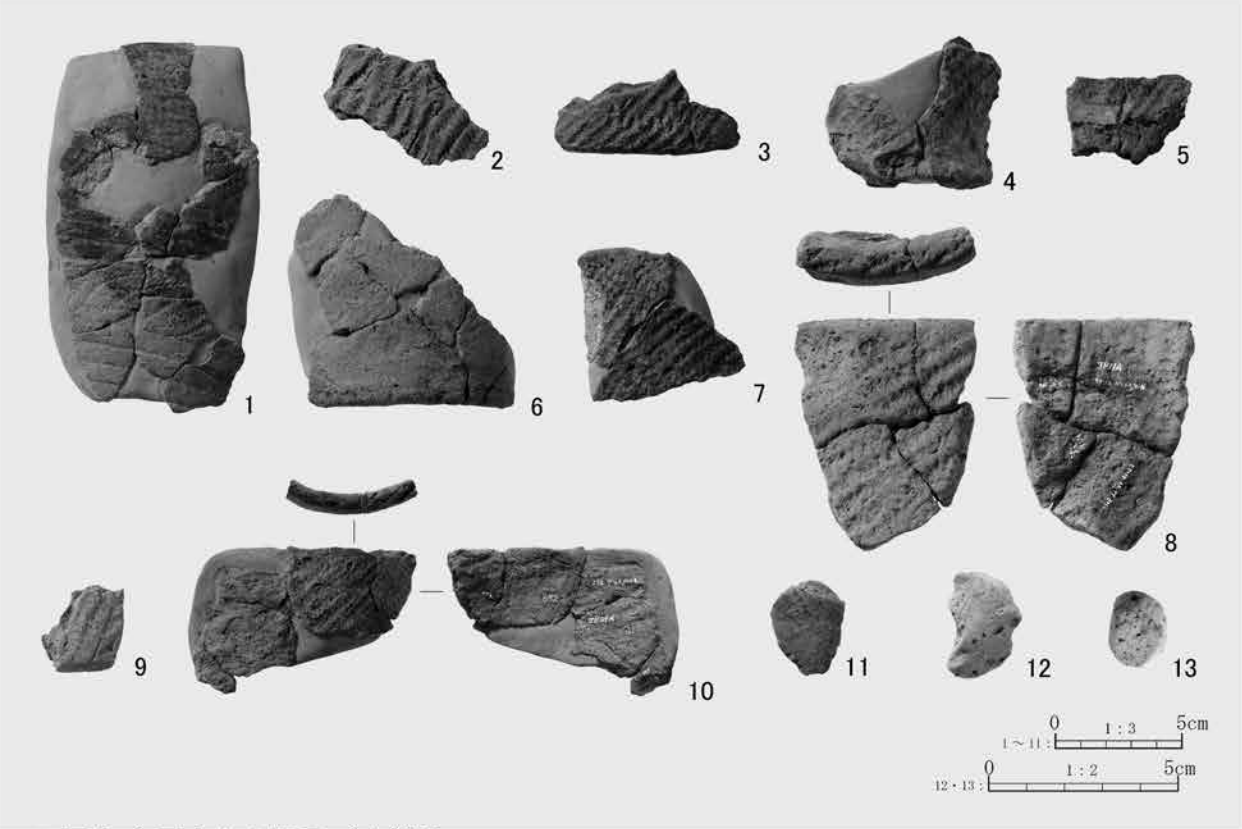
## 図版30



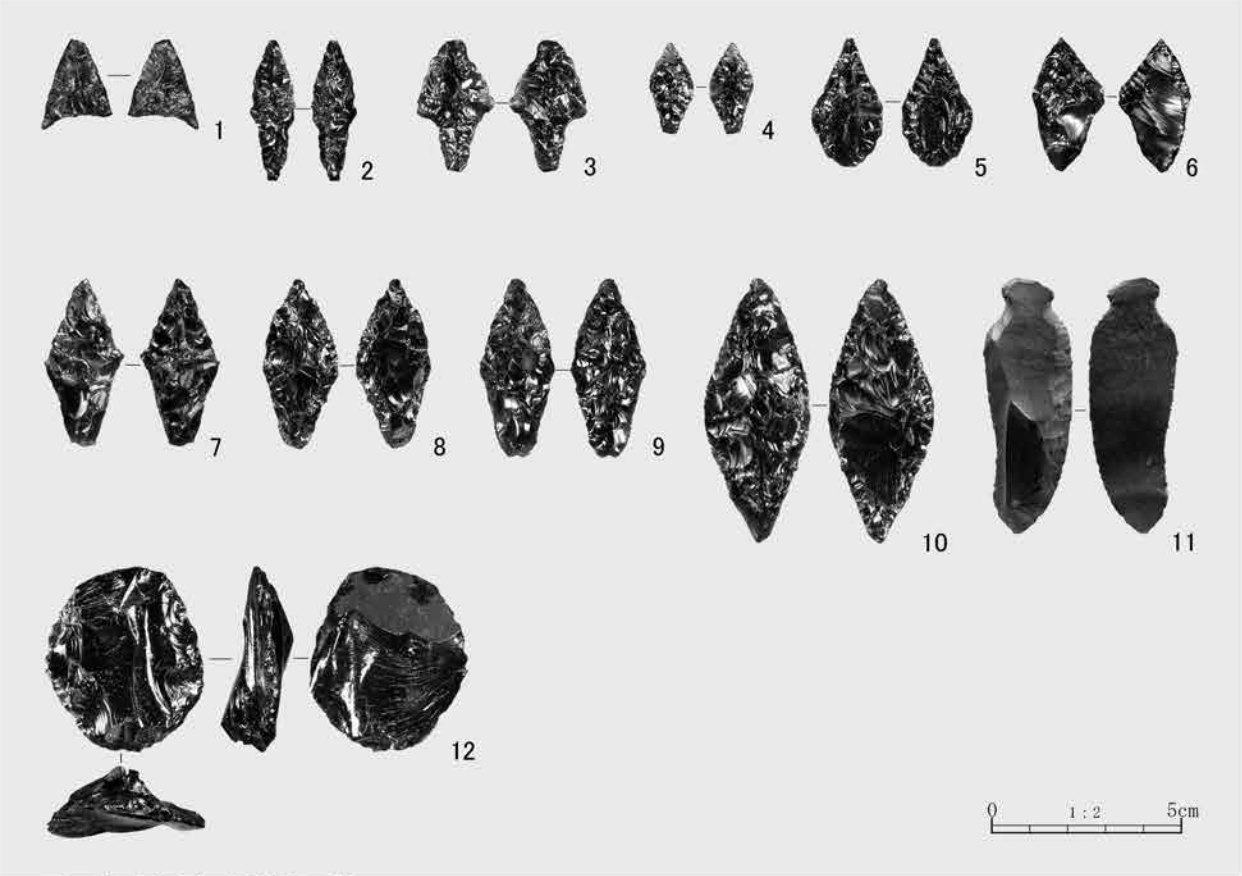

1．ＶPB-13出土土器

2．ＶSB-01出土礫

図版31

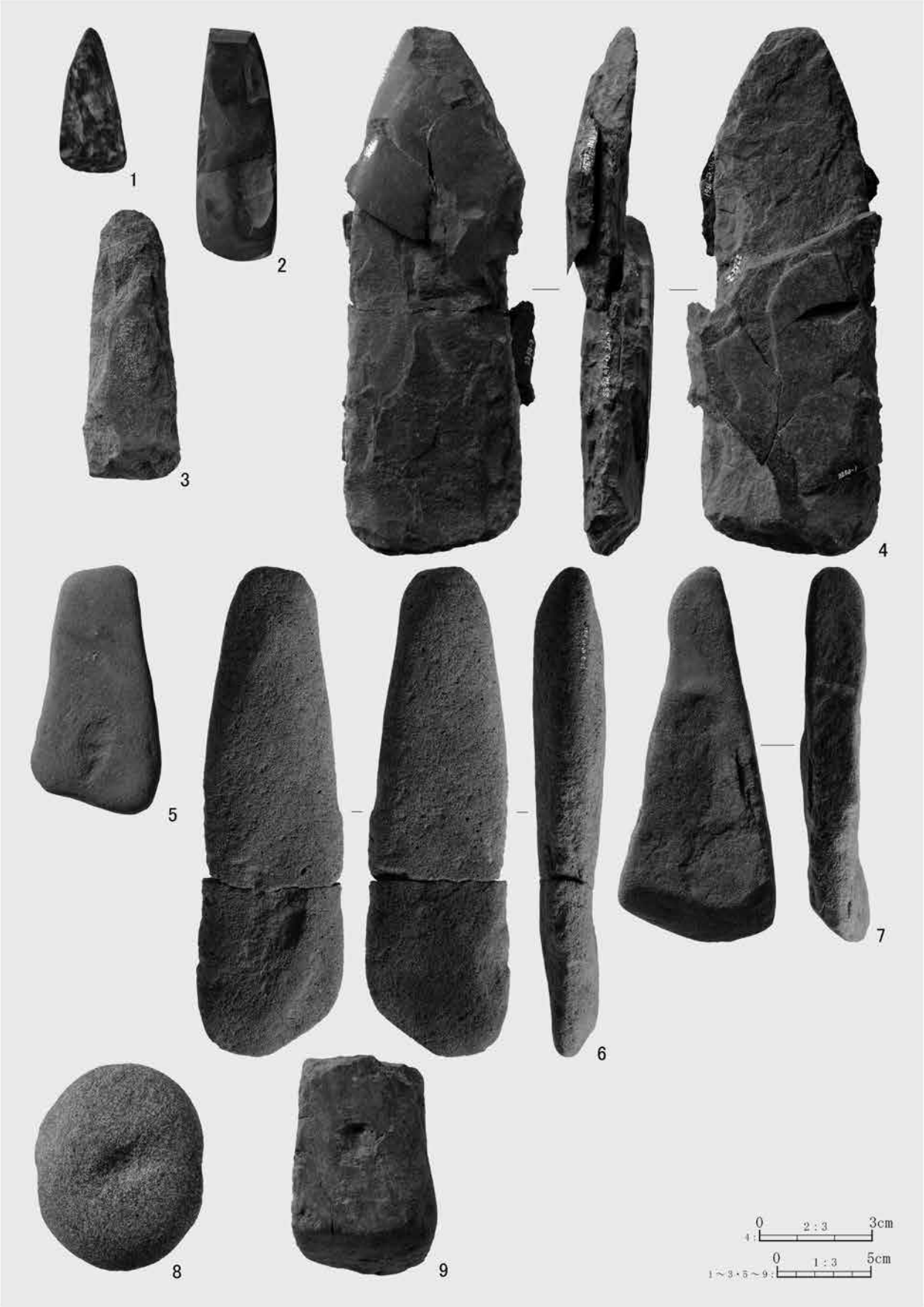



1．Ⅴ層包含層出土土器及び土製品



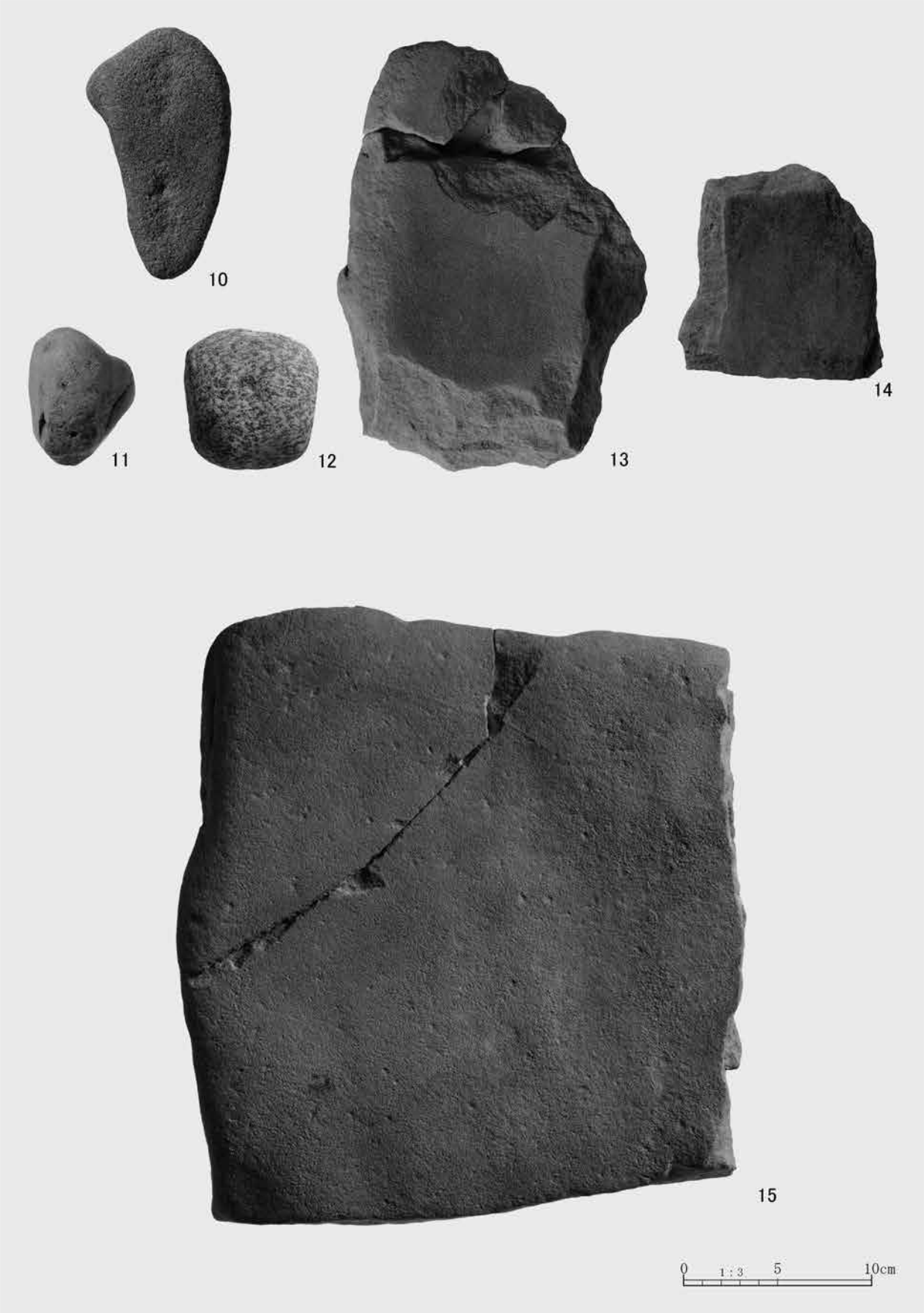

2．Ⅴ層包含層出土剥片石器

## 図版32




Ⅴ層包含層出土礫石器(1)

図版33




Ⅴ層包含層出土礫石器(2)

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | しょろま　さん　いせき |
| 書名 | ショロマ３遺跡 |
| 副書名 | 厚幌ダム建設事業に伴う発掘調査報告書 |
| 巻次 | 11 |
| シリーズ名 | 厚幌ダム建設事業に伴う発掘調査報告書 |
| シリーズ番号 | 11 |
| 編著者名 | 乾哲也・長谷川徹・工藤肇 |
| 編集機関 | 厚真町教育委員会・株式会社シン技術コンサル |
| 所在地 | 〒059-1605　北海道勇払郡厚真町京町165番地の１ |
| 発行機関 | 厚真町教育委員会 |
| 発行年月日 | 2014年3月19日 |
| ふりがな | しょろま　さん　いせき |
| 収録遺跡 | ショロマ３遺跡 |
| 所在地 | 勇払郡厚真町字幌内96-1 |
| 市町村コード | 1581 |
| 遺跡番号 | 121 |
| 北緯 | 42°　46′　39″ |
| 東経 | 142°　00′　02″ |
| 調査期間 | 2013年5月14日～8月30日 |
| 調査面積 | 1,350㎡ |
| 調査原因 | 厚幌ダム建設 |
| 種別 | 集落跡・墳墓 |
| 主な時代 | 縄文時代(後期タプコプ式期)・続縄文文化期(後北A式期)・擦文文化期(後期) |
| 主な遺構 | 縄文時代：住居跡・Ｔピット・土坑・屋外石組炉・土器集中・礫集中<br>続縄文文化期：土坑墓<br>擦文文化期：焼土・土器集中・鉄器集中・礫集中<br>縄文時代晩期～中世アイヌ文化期：道跡 |
| 主な遺物 | 縄文時代：柏木川式、北筒式(トコロ6類)、タプコプ式(新段階)、石器、剥片類<br>焼成粘土塊、礫<br>続縄文文化期：後北A・B式土器、石器、剥片類<br>擦文文化期：擦文土器(後期)、甲冑製品、刀子、石器、礫 |

要約

遺跡はショロマ川右岸の標高80m前後の東に突き出た舌状緩斜面に形成されている。文化層は樽前bテフラ降下以前のⅢ層と樽前c降下以前のⅤ層で、上下2層を調査した。

Ⅲ層からは擦文文化期後期の焼土、土器集中、礫集中各1ヵ所からなる集中区及び当該期の焼土1ヵ所、礫集中2ヵ所、鉄留板物甲の鉄器集中1ヵ所を検出した。さらにⅢ層下位からは続縄文文化期後北式期の副葬品113点を伴い坑底には4隅に柱穴を配置した仰臥屈葬の3体合葬土坑墓1基が検出されている。このほかに縄文時代晩期中葉以降～中世アイヌ文化期以前の道跡1条が検出されている。

Ⅴ層からは縄文時代後期前葉(タプコプ式新段階)の住居跡1軒、Tピット8基、土坑3基、屋外石組炉2ヵ所、土器集中14ヵ所、礫集中1ヵ所が検出された。

厚真町 ショロマ３遺跡

-厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 11-

発　行　日　　平成 26 年 3 月 19 日
編集・発行　　厚真町教育委員会
　　株式会社シン技術コンサル
　　〒059-1601 北海道勇払郡厚真町京町 165 番地の 1
電　　話　　(0145)－27－2321(代)
印　　刷　　北海印刷株式会社
　　北海道室蘭市中島町 4-12-15
　　(0143)－43－2121